

平成29年度
大和市男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

平成30年3月
大和市

目次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果の概要	5
III. 回答者の属性（フェイスシートから）	11
IV. 調査結果	19
1. 男女平等に関する意識について	21
(1) 各分野の平等感について（問1）	21
(2) 家庭生活で考えた場合の平等感（問1 ア）	22
(3) 職場で考えた場合の平等感（問1 イ）	24
(4) 教育の場で考えた場合の男女の平等感（問1 ウ）	27
(5) 社会参加の場で考えた場合の男女の平等感（問1 エ）	29
(6) 法律・制度上で考えた場合の男女の平等感（問1 オ）	31
(7) しきたりや習慣などで考えた場合の男女の平等感（問1 カ）	33
(8) 全体として考えた場合の男女の平等感（問1 キ）	35
(9) 「男は仕事、女は家庭」という考えについて（問2）	37
(10) 子どもの育て方について（問3）	39
(11) 男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて（問4）	41
2. 家庭生活について	42
(1) 家事・育児・介護の役割について（問5）	42
(2) 子どもを産み、育てやすくする環境を作るために必要なこと（問6）	48
3. 就労意識について	49
(1) 育児や介護の休暇・休業制度の認知と利用状況（問7-1）	49
(2) 育児や介護の休暇・休業制度を利用しなかった理由（問7-2）	57
(3) 現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由（就労経験あり）（問8-1）	57
(4) 現在、仕事をしていない人の希望する就労形態（就労経験あり）（問8-2）	59
(5) 現在、働いていない人の就労の動機（就労経験なし）（問9）	59
(6) 女性が社会で働くことについての考え方（問10）	60
(7) 男性が社会で働くことについての考え方（問11）	61
(8) 職場において男女で平等でないこと（問12）	62
(9) 女性が働き続けるために必要な取り組み・支援（問13）	63
4. ワーク・ライフ・バランスについて	64
(1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランス（問14-1、2）	64
(2) 一日のうち、家事・育児・介護にかける時間（問15）	66
(3) 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なことについて（問16）	72
(4) ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なことについて（問17）	73
5. 学校教育について	75
(1) 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なことについて（問18）	75
6. 社会参画について	76
(1) 女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職（問19-1）	76
(2) 役職への就任または立候補を依頼された場合の対応（問19-2）	77
(3) 役職への就任または立候補を依頼された場合に「承諾しない」と答えた理由（問19-3）	79
(4) パートナーが、役職への就任または立候補を依頼された場合の対応（問19-4）	80

(5) 女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと (問20)	81
7. 男女の人権について	83
(1) 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の経験(問21-1)	83
(2) 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談(問21-2)	87
(3) 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先(問21-3)	88
(4) 精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)を相談できなかった・しなかった理由(問22)	89
(5) 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(問23)	91
(6) 職場、地域、学校などでのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)の経験(問24)	92
8. 防災について	95
(1) 防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なことについて(問25)	95
(2) 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて(問26)	96
9. 男女共同参画施策について	97
(1) 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度について(問27)	97
(2) 男女共同参画社会の実現のためにできることについて(問28)	101
10. 男女共同参画についての意見・要望	102
(1) 男女共同参画についての意見・要望(問29)	102
巻末資料1 調査票	105
巻末資料2 自由意見等	119

I . 調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画についての意識や実態等を把握し、第2次やまと男女共同参画プランの改定に伴う基礎資料を得ることを目的とする。

(2)調査の内容

- ① 男女平等に関する意識について
- ② 家庭生活について
- ③ 就労意識について
- ④ ワーク・ライフ・バランスについて
- ⑤ 学校教育について
- ⑥ 社会参画について
- ⑦ 男女の人権について
- ⑧ 防災について
- ⑨ 男女共同参画施策について

(3)調査の方法

- ① 調査地域：大和市
- ② 調査対象：大和市に居住する満16歳以上の男女
- ③ 標本数：3,000人（日本国籍2,922人、外国籍78人）
- ④ 抽出方法：住民基本台帳による無作為抽出
- ⑤ 調査方法：郵送配布、郵送回収（礼状兼督促状1回送付）
- ⑥ 調査期間：平成29年11月8日～12月5日

(4)回収結果

- ① 配布数：3,000票（男性1,500票 女性1,500票）
- ② 回収数：1,173票
- ③ 無効票：13票
- ④ 有効回収数：1,160票（男性481票 女性653票、性別不明26票）
- ⑤ 有効回収率：38.7%

(5)報告書の見方

- ① 回答は各質問の有効回答者数（n）を基礎とした百分率で表示してある。
- ② グラフ内の（）の数値は有効回答者数を示す。
- ③ 百分率は小数第二位を四捨五入してあるため、比率の合計が100%にならない場合がある。
- ④ 複数回答の場合には、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- ⑤ 複数回答のグラフは、「全体」の割合の高い順に選択肢を並べ替えている。（ただし、「その他」と「不明・未記入」は最後尾に記載）
- ⑥ 全体には属性無回答を含むため、男女別等の属性別計の数と一致しない場合がある。
- ⑦ 調査票の意見欄（その他の主な意見等）は、主な意見を要約して表記している。
- ⑧ 「調査結果」の前回調査とは、平成25年6月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果を指す。（有効回答数：1,048票、うち男性434票 女性605票、性別不明9票）
- ⑨ 「調査結果」の全国調査とは、内閣府が平成28年9月に実施した「男女共同参画社会に関する

る世論調査」の結果を指す。(有効回答数：3,059票、うち男性1,404票 女性1,655票)

⑩ 「調査結果」内の「SA」「MA」「NA」「FA」は以下を指す。

SA：単一回答（ひとつに○）

MA：複数回答（いくつでも○）

NA：数値回答

FA：自由回答

(6) 標本誤差

本調査は、調査対象となる母集団（大和市に居住する満16歳以上の男女人口¹）から一部の標本（サンプル）を抽出し、標本の比率等から母集団の比率等を推測する「標本調査」である。

このため、調査によって得られた値は、母集団に対して標本誤差を生じる場合がある。

無作為抽出によって得られた標本の標本誤差は次式（a）で得られ、誤差は回答者数（n）と回答比率によって異なる。

（信頼度を95%とした場合）

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \dots (a)$$

※N：母集団数、n：回答者数、p：回答の比率（%）

本調査において信頼度を95%とした場合の標本誤差は下表のとおり。

例えば、ある設問の回答者数が1,160人で、その設問中のAという選択肢を選択した人の割合が30%である場合、標本誤差早見表における基数1,160の回答比率30%の誤差は「±2.63」であるため、母集団におけるAを選択する割合は、95%の確からしきで「30±2.63」つまり「27.37%～32.63%」の間にあると推測できる。

<標本誤差早見表>

基数 (回答者数)	回答比率				
	90%または 10%	80%または 20%	70%または 30%	60%または 20%	50%
1,160	±1.72	±2.30	±2.63	±2.81	±2.87
600	±2.40	±3.20	±3.66	±3.91	±3.99
500	±2.63	±3.50	±4.01	±4.29	±4.38
400	±2.94	±3.92	±4.49	±4.80	±4.90
300	±3.39	±4.52	±5.18	±5.54	±5.65
200	±4.16	±5.54	±6.35	±6.79	±6.93
100	±5.88	±7.84	±8.98	±9.60	±9.80
50	±8.31	±11.09	±12.70	±13.58	±13.86

※母集団数：204,221人、信頼度95%の場合

¹ 2017年12月1日現在204,221人（大和市の地区別、町丁別、年齢別人口（住民基本台帳人口）より満16歳以上の人口）

Ⅱ. 調査結果の概要

(1)男女平等に関する意識について

- ・ 「全体として考えると」では平等と感じる割合は約 2 割で、内閣府の全国調査の水準とも同程度。前回調査からは、全国が今回（平成 28 年度）21.1%、前回（平成 21 年度）23.2%、本市が今回（平成 29 年度）21.9%、前回（平成 25 年度）23.7%と、今回が前回はそれぞれ 2.1 ポイント、1.8 ポイント下回る。
- ・ 分野別には「教育」で平等と感じている割合が高く、約 6 割を占める。
- ・ この他の分野では”男性の優遇”（「男性の方が優遇～」＋「どちらかといえば男性が～」。以下同様）を感じている割合の方が高い結果となり、平等を感じている割合は 1 割強～3 割台半ば。
- ・ なお「しきたりや習慣」では、“男性の優遇”を感じている割合が 7 割強と他項目よりも高い傾向。
- ・ 分野別の値は前回調査と同様の傾向、各数値も前回からほぼ横ばい。（問 1）

[家庭生活]

- ・ “男性の優遇”が 5 割弱、“平等”は 3 割台半ば。前回から横ばい。

[職場]

- ・ “男性の優遇”が 5 割台半ば、“平等”は約 2 割。前回から横ばい。

[教育の場]

- ・ “平等”が約 6 割。前回から横ばい。

[社会参加の場]

- ・ “男性の優遇”が 4 割台半ば、“平等”は 3 割強。前回から横ばい。

[法律・制度上]

- ・ “男性の優遇”が約 4 割、“平等”は 3 割台半ば。前回から横ばい。
- ・ 性別には、男性で“平等”と感じる割合が 5 割弱と高く、女性で“男性の優遇”を感じる割合が 5 割弱と差異がみられる。

[しきたりや習慣など]

- ・ “男性の優遇”が 7 割強、“平等”は 1 割強。前回から横ばい。

[全体として考えると]

- ・ “男性の優遇”が 6 割強、“平等”は約 2 割。前回から 1.8 ポイント低下。
- ・ 「男は仕事、女は家庭」という社会通念への考え方については、“男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする意見が約 7 割で、前回から 6 ポイント増加。（問 2）
- ・ 「子どもの育て方」については、“「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい”とする意見が約 6 割で最多。（問 3）
- ・ 「男女がともに平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なこと」について、いずれの項目も 4 割弱～約 5 割で項目ごとの差異はあまり見られない。（問 4）

(2)家庭生活について

- ・ 家庭内での役割分担で、「家事」と「育児」については”男女が協力し合っている”と考える割合が高く、それぞれ全体の 8 割弱。しかし、“女性が主に担う”も 1 割台半ば～2 割程度みられる。
- ・ 「介護」については”男女が協力し合っている”は 6 割弱。“女性が主に担う”は 1 割未満で、代わりに”有償サービスを利用”の割合が 2 割台半ばとなっている。（問 5）

- ・ 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、“職場環境づくりが必要”とする意見が最も多く 6 割強。次いで“子育て世帯への経済的支援”、“安全なまちづくり”、“保育施設”、“育児に対する理解協力”、“長時間保育・病児保育”などが 5 割前後で続く。(問 6)。

(3) 就労意識について

- ・ 育児や介護の休業・休暇制度を利用した割合は、どの制度も 1 割未満で、各値も前回とほぼ同様。制度を知らない割合は、育児休業は 2 割弱だが、子の看護休暇、介護休業、介護休暇では 3 割を超える。(問 7-1)
- ・ 休業・休暇制度を知っていたが利用できなかった人の理由としては、“制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから”が過半数を占める。(問 7-2)
- ・ 現在無職の人が仕事を辞めた理由としては、全体では約 4 割が定年による退職。
- ・ 性別では回答傾向に差異があり、男性では約 8 割が定年で退職、女性では“結婚・出産などで退職するのが慣習だった”、“定年”、“子育てに専念”などが 2 割前後と理由が分散。(問 8-1)
- ・ 現在無職の人の今後適当な仕事があった場合にしたい働き方については、“働くつもりがない”が 4 割台半ば、“パートタイム・アルバイト”が 3 割強。(問 8-2)
- ・ 今まで働いたことのない人の就労の動機については、“働きたい仕事に出会えたら”が 5 割弱で最多。次いで“経済的に必要になったら”が 3 割強。(問 9)
- ・ 女性が社会で働くことについては、“子どもができれば仕事はやめ、大きくなったら再び働く”が最も多く 4 割弱。男女ともに同傾向。(問 10)
- ・ 男性が社会で働くことについては、“結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい”が 8 割強を占め、男女ともに同傾向。(問 11)
- ・ 職場で男女平等ではないと思うこととしては、“昇進・昇任の速さ”、“賃金の金額”、“結婚や出産時後の職場の対応”、“責任ある仕事の分担”、“育児休業・介護休業の取得しやすさ”が約 3 割～4 割弱とほぼ並ぶ。(問 12)
- ・ 女性が社会で働き続けるために必要なこととしては、“職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要”、“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気を形成することが必要”が 6～7 割強と多く、“保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要”との意見も 5 割強ある。(問 13)

(4) ワーク・ライフ・バランスについて

- ・ 理想として優先したいことについては、“家庭生活”および“仕事と家庭生活”が 2～3 割弱と中では高い。
- ・ 対して、実際に優先されていることで最も高いのは、男性では“仕事”、女性では“家庭生活”でいずれも 3 割を超える。(問 14-1、問 14-2)
- ・ 家事、育児、介護の時間において、育児と介護は、全体で見ると平日も休日も 7 割近くが 1 時間以下。
- ・ 男女別で見ると、平日・休日ともに、家事にかかる平均時間では 2 時間前後、育児にかかる時間では 1 時間前後、女性が男性を上回る。(問 15)
- ・ 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについては、“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図る”が 5 割台半ば、次いで“男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす”、“労働時間の短縮や休暇を取りやすくするこ

とで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする”が5割弱と高い。(問16)

- ・ ワーク・ライフ・バランスを進めるために必要だと思うことについて、半数以上が“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成”と回答。(問17)

(5)学校教育について

- ・ 男女平等意識の推進を図るための教育について、半数以上が“互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要”と回答。(問18)

(6)社会参画について

- ・ 女性がもっと就いた方がいい役職として、「市議会議員」「職場の管理職」「市の審議会等の委員」をあげる割合は5割前後。(問19-1)
- ・ 反面、自身が役職に就くことについて、女性は、いずれの役職も“承諾しない”が最も多く、その割合も「職場の管理職」以外の役職では過半数を占める。(問19-2)
- ・ 承諾しない理由としては、“自信がないから”が最も多く4割強(女性では5割弱)。(問19-3)
- ・ また、パートナーが役職に就くことを承諾するかについて、男性では、「職場の管理職」こそ“承諾する”が約4割を占めるが、それ以外の役職では、「わからない」が4割弱を占め、“承諾する”と“承諾しない”が2~3割弱と同程度になっている。(問19-4)
- ・ 女性が役職につくことに承諾するという意見を増やすために必要なことについては、“家族の支援や協力”が約5割で最多。(問20)

(7)男女の人権について

- ・ 精神的・身体的暴力(DV)について、被害・加害ともに多い暴力はどちらも、“大声でどなる”、“何を言っても無視し続ける”で、1~2割台半ばが経験あり。(問21-1)
- ・ 精神的・身体的暴力(DV)について、約6割が“相談しなかった”との回答。“相談した”は2割弱。
- ・ 性別には、女性で、“相談した”と“相談できなかった”割合のいずれもが男性を上回る。(問21-2)
- ・ “相談した”人の相談相手としては、“友人・知人”、“家族”が多く、6~7割弱。性別にみても、この傾向は同様。(問21-3)
- ・ 精神的・身体的暴力(DV)について“相談しなかった”理由としては、“相談するほどのことではないと思ったから”が過半数で最も多く、次いで“相談しても無駄だと思ったから”、“相談しても無駄だと思ったから”が3割前後。(問22)
- ・ 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていることとして割合が高かったものは、“被害者の相談窓口がある”、“被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる”、“加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる”で、5割弱~6割強。
- ・ 割合が少なかったものとしては、“一般の人が被害者を発見したときには、通報するよう努めなければならない”、“被害者が利用できる生活保護など制度の情報提供を受けられる”、“加害者の相談窓口がある”で1割未満~2割強。(問23)
- ・ セクシュアル・ハラスメントにおいては、“容姿について傷つくことを言われた”、“「女のくせに…」とか「男なのに…」と性差別的な言い方をされた”が2割弱と中では多い。(問24)

(8)防災について

- ・ 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なこととしては、“防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努める”と“避難生活施設（指定避難所）の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入る”が多く 6 割弱が回答。
- ・ 他方、“女性消防団員等の育成や役員への女性登用が必要”と“自治会等の自主防災組織に女性が増えるように努めることが必要”は 2 割前後にとどまる。（問 25）
- ・ 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なこととしては、“日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる”が最も多く 8 割強が回答。次いで“高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つことが必要”と“子どもを地域で育てるという意識を持つことが必要”で 5～6 割程度。（問 26）

(9)男女共同参画施策について

- ・ 男女共同参画に係る語句の認知について、「知っている（内容まで知っている＋名前を聞いたことがある）」割合が高いのは“男女雇用機会均等法”、“DV 防止法”で 8 割前後。
- ・ 逆に「知らない」割合が高いのは、“ポジティブ・アクション”、“第 2 次やまと男女共同参画プラン”、“リプロダクティブ・ヘルス/ライツ”、“イクボス宣言”、“第 2 次やまと男女共同参画プラン”、“男女共同参画情報誌「わくわく」”で同様に 8 割前後。
- ・ 前回比較では、“ジェンダー”、“ダイバーシティ”が 10 ポイント以上上昇。（問 27）

Ⅲ. 回答者の属性(フェイスシートから)

(1)性別

◎女性が56.3%。

回答者 1,160 人のうち、男性が 41.5%、女性が 56.3%で、女性が 14.8 ポイント上回る。
 前回も女性の方が男性よりも多く、ほぼ同様の傾向となっている。(図表 1)

■図表 1 性別

F1. あなたの性別はどちらですか。(SA)

性別	今回(平成 29 年度)		前回(平成 25 年度)	
	回答者	構成比	回答者	構成比
男性	481	41.5%	434	41.4%
女性	653	56.3%	605	57.7%
不明・未記入	26	2.2%	9	0.9%
計	1160	100.0%	1048	100.0%

(2)年代

◎回答者は60代、70代、40代の順に多い。

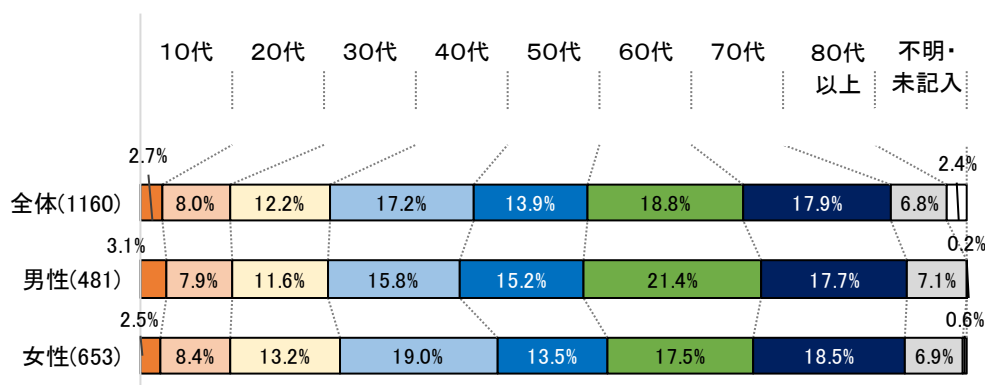
全体では、60代が最も多く 18.8%、次いで70代が 17.9%、40代が 17.2%となっている。

男女別に見ても年代別の構成比に大きな差異はなく、いずれも 60代、70代、40代が多い。(図表 2)

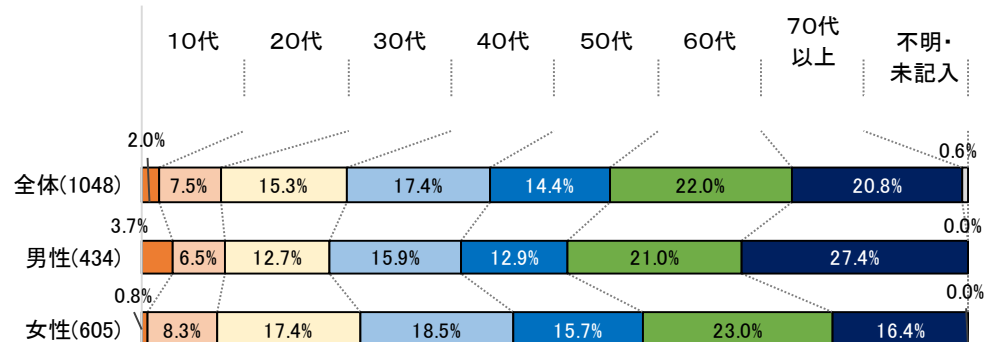
前回調査と比べると、男性の 70代、女性の 60代と 20代で前回の割合の方が若干高くなって
 いるがほぼ同様の構成と捉えられる。(図表 3)

■図表 2 年代

F2. あなたの年齢について当てはまるもの1つを選んでください。(SA)



<参考> ■図表 3 年代 前回(平成 25 年度)



※前回調査の選択肢は「70歳以上」であり、今回調査の「70～79歳+80歳以上」=前回調査の「70歳以上」として集計している。

(3) 職業

◎就業している人が54.7%。

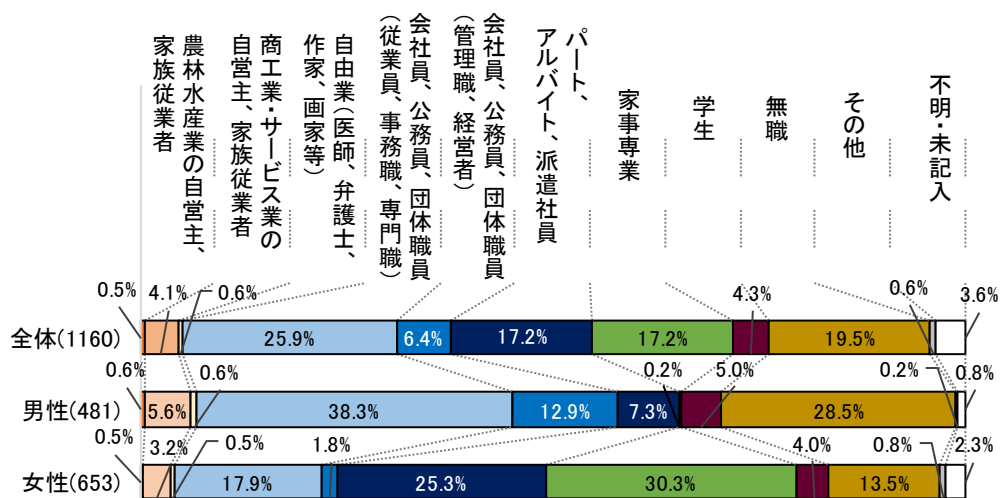
職業別の構成比は、全体でみると、“会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）”がもっとも多く25.9%。次いで“無職”が19.5%、“パート、アルバイト、派遣社員”が17.2%、“家事専業”が17.2%と続く。

性別にみると、男性では“会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）”の割合が高く（38.3%）、女性では“パート、アルバイト、派遣社員”の割合が高い（25.3%）。（図表4）

前回と比較すると、男性で“無職”の割合が減少しているが、概ね構成の傾向は変わらない。（図表5）

■図表4 職業

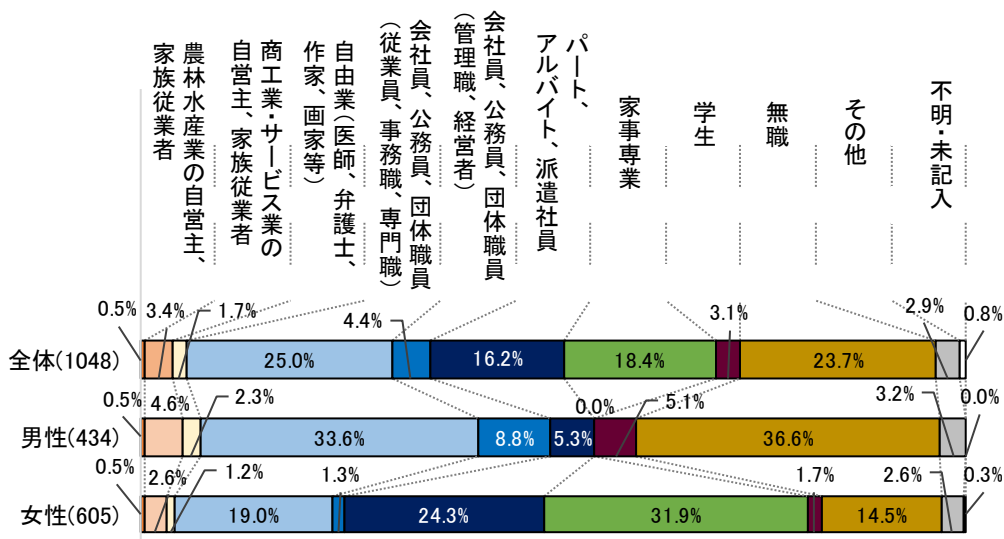
F3. あなたの職業について当てはまるものを1つ選んでください。（SA）



【主なその他回答】

・准社員／稀に手伝うことがある など

<参考> ■図表5 職業 前回(平成25年度)



(4) 結婚の状況

◎回答者の8割が既婚者。

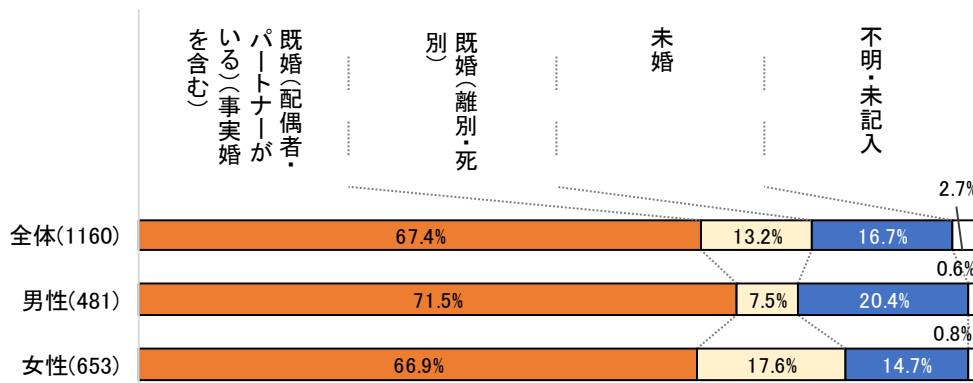
全体では、“既婚（配偶者・パートナーがいる）”が67.4%、“既婚（離別・死別）”が13.2%で、両者を合わせると80.6%が既婚者となっている。

男女別にみると、いずれも“既婚（配偶者・パートナーがいる）”の割合が最も高いが、女性では“既婚（離別・死別）”の割合が、男性よりも 10.1 ポイント高くなっている。（図表 6）

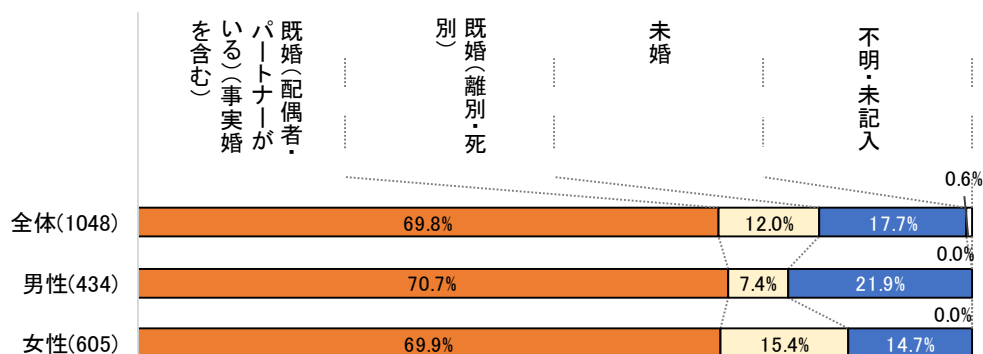
前回と比較すると、いずれも“既婚（配偶者・パートナーがいる）”の割合が高く、性別にみても同様の傾向となっている。（図表 7）

■図表 6 結婚の状況

F4-1. あなたの現在の状況について当てはまるものを1つ選んでください。（SA）



<参考> ■図表 7 結婚の状況 前回（平成 25 年度）



(5) 共働きの状況

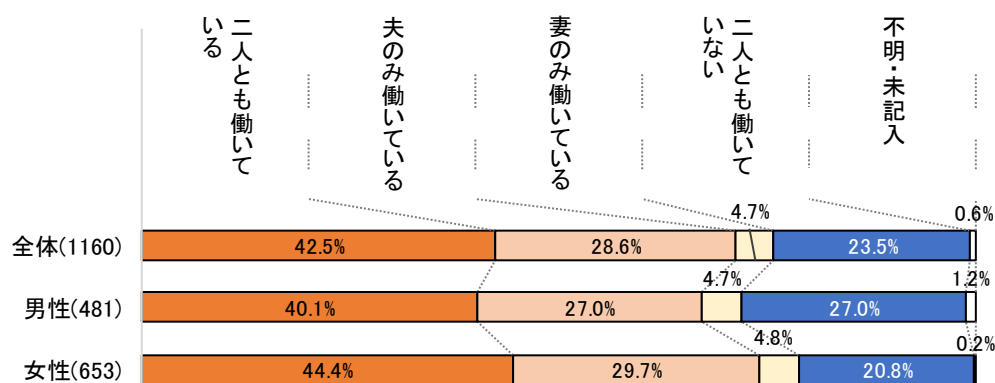
<全体>

◎全体では、共働きしている世帯は 42.5%。

全体で見ると、“二人とも働いている”割合がもっとも高く 42.5%、次いで“夫のみ働いている”が 28.6%となっている。男女別にみても、いずれも“二人とも働いている”割合が 40%以上と最も高く、大きな傾向の差異は見られない。（図表 8）

■図表 8 共働きの状況（全体）

F4-2. 前問で「1. 既婚（配偶者がいる）」と答えた方に伺います。あなたと配偶者・パートナーの働き方について、当てはまるものを1つ選んでください。※働くとは、常勤やパートタイム等も含まれます。（SA）



<就労人口<20~50代>>

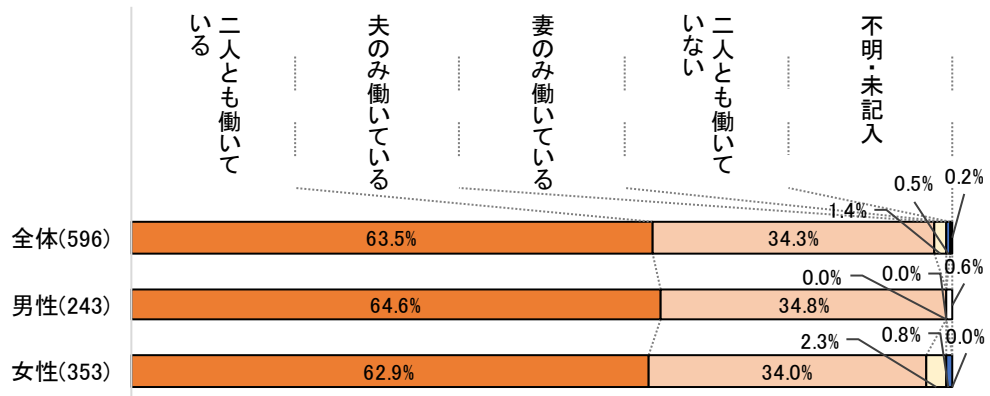
◎20~50代で共働きしている世帯は63.5%。

20~50代に限ってみると、“二人とも働いている”割合は63.5%、“夫のみ働いている”割合は34.3%で、共働き割合が夫のみ働いている割合の倍近くを占める。この傾向は、男女別に見ても同様である。(図表9)

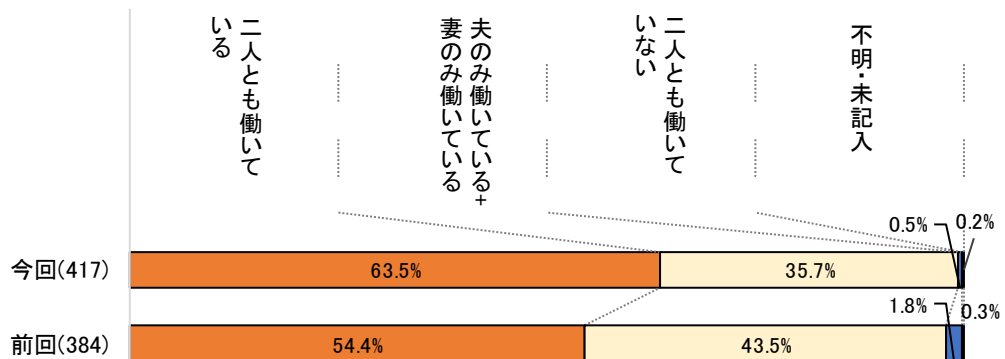
また前回と比べると、“二人とも働いている”割合は、今回(63.5%)が前回(54.4%)を9.1ポイント上回り、共働き世帯が増加している状況が伺える。(図表10)

■図表9 共働きの状況(20~50代)

F4—2. 前問で「1. 既婚(配偶者がいる)」と答えた方に伺います。あなたと配偶者・パートナーの働き方について、当てはまるものを1つ選んでください。※働くとは、常勤やパートタイム等も含まれます。(SA)



<参考> ■図表10 共働きの状況(20~50代)前回比較



※前回調査の選択肢は「二人とも働いている/共働きしていない/二人とも働いていない」であり、「共働きしていない」=今回調査の選択肢「夫のみ働いている+妻のみ働いている」として集計している。

(6)世帯の状況

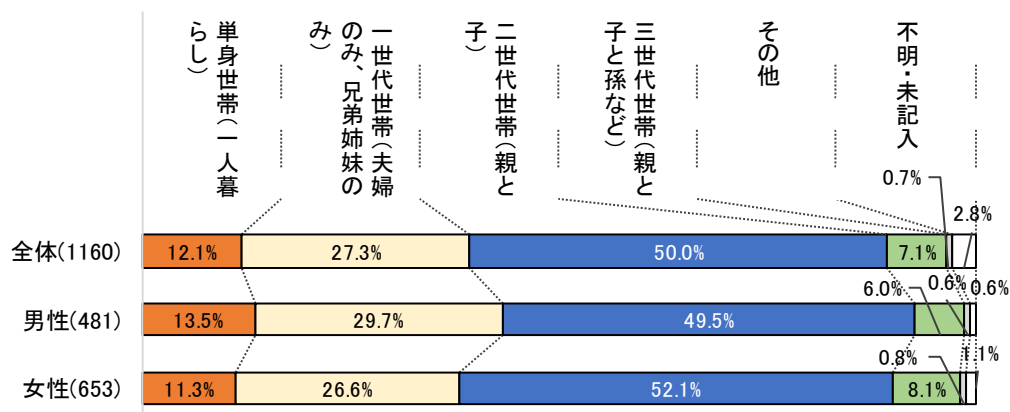
◎核家族が約8割を占める。

“二世帯世帯(親と子)”が最も多く50.0%と半数を占め、次いで“一世帯世帯(夫婦のみ、兄弟姉妹のみ)”が27.3%となっている。両者を合わせると77.3%となり、核家族が多数を占める状況にある。男女別でも大きな差異はなく、同様に核家族が多くなっている。(図表11)

全体を前回と比較しても、“二世帯世帯(親と子)”が約半数で“一世帯世帯”を足すと両者とも80%前後となり、今回と同様の傾向がみられる。(図表12)

■図表 11 世帯の状況

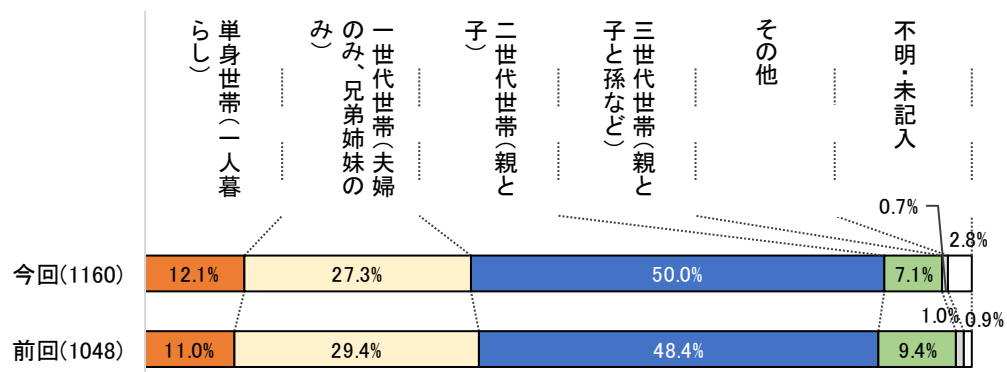
F5. 現在のあなたの世帯状況について、当てはまるものを1つ選んでください。(SA)



【主なその他回答】

- ・姉と姪夫婦/パートナーと同棲 など

<参考> ■図表 12 世帯の状況 前回比較



IV. 調査結果

1. 男女平等に関する意識について

(1) 各分野の平等感について(問1)

◎「教育の場」では“平等”と感じている割合がもっとも高く約 6 割を占めるが、他の分野ではいずれも”男性の優遇”を感じている割合が高く、“平等”と感じている割合は1割強～3割台半ばにとどまる。

<全体>

平等と感じている割合は「教育の場」で最も高く 59.3%と半数を超える。次いで高いのは「法律・制度上」の 36.0%、「家庭生活」の 34.2%、「社会参加の場」の 32.2%であるが、これらの分野では”男性の優遇”（「男性の方が優遇～」+「どちらかといえば男性が～」）。以下同様）を感じている割合が 40.1～48.5%と“平等”と感じている割合を上回る。

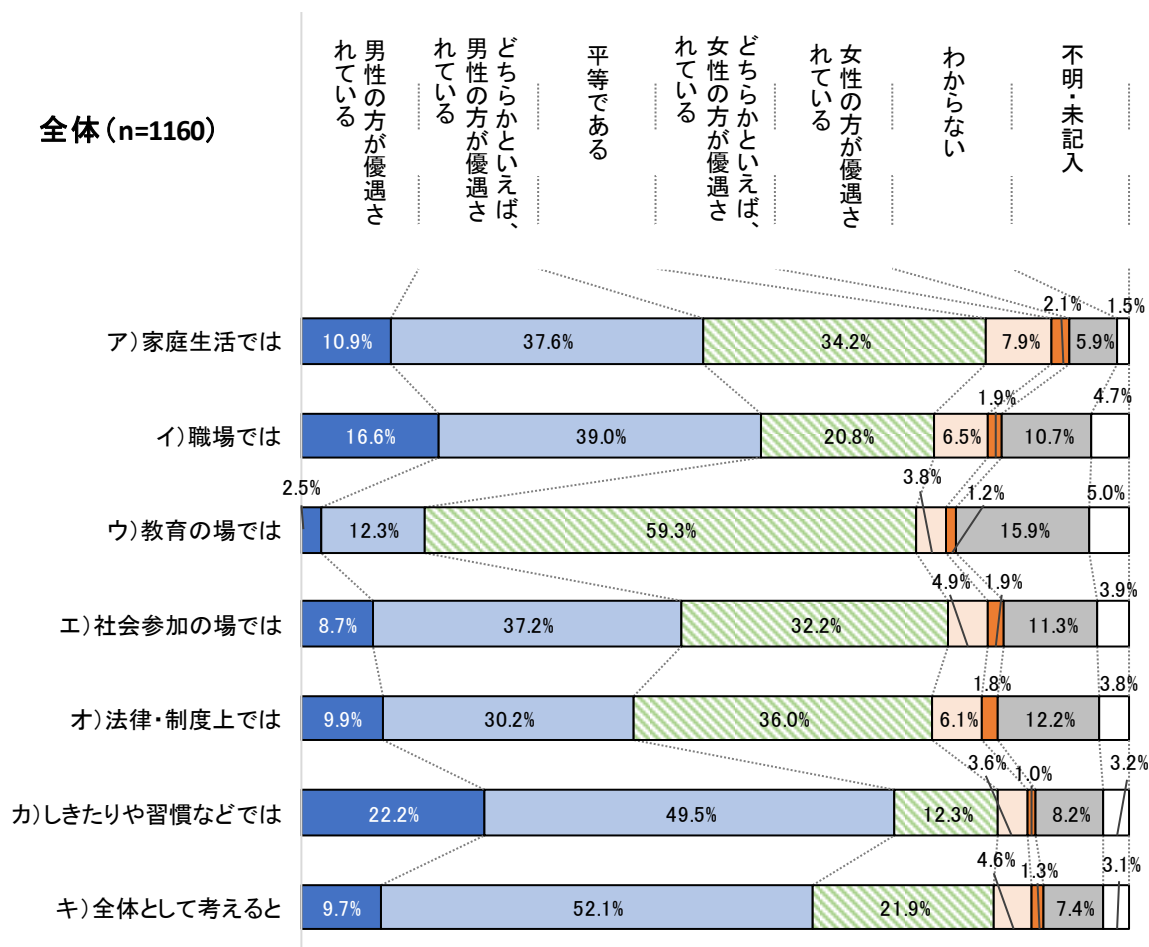
ほか「職場では」は“平等”と感じる割合が 20.8%、”男性の優遇”を感じている割合が 55.6%、また、最も平等”と感じる割合が低く”男性の優遇”を感じている割合が高いのは「しきたりや習慣など」で、それぞれ 12.3%、71.7%となっている。

「全体として考えると」では、“平等”と感じる割合は 21.9%、”男性の優遇”を感じている割合は 61.8%で、”男性の優遇”を感じている割合が“平等”の 3 倍近い値となっている。

なお”女性の優遇”（「女性の方が優遇～」+「どちらかといえば女性が～」）。以下同様）を感じている割合は、いずれの分野でも少なく 4.6～10.0%となっている。（図表 13）

■図表 13 各分野での平等感(全体)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)～キ)のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んでください。（各 SA）



(2) 家庭生活で考えた場合の平等感(問1 ア)

- ◎家庭生活では、“男性の優遇”を感じている女性の割合が5割台半ば。
- ◎性年代別には、30代以下で男女ともに“平等”と感じる割合が高く、いずれも4割弱～約6割。
- ◎婚姻の関係別には、既婚に比べると、未婚で“男性の優遇”を感じている割合が低い。
- ◎前回結果と比較すると、回答傾向は同様。“男性の優遇”割合は5割弱で、“平等”割合は3割台半ば。

<性別>

性別で比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は男性で40.4%、女性で54.8%、“平等”と感じる割合は男性で39.9%、女性で29.6%であり、いずれも10ポイント程度の差がみられる。(図表14)

<性・年代別>

性・年代別に比較すると、男性では40代以下で、“平等”と感じる割合が42.9～60.5%、“男性の優遇”を感じている割合は28.9%以下と、“平等”の方が上回っているが、50歳以上では“男性の優遇”を感じている割合の方が高く、特に60代以上では年代が上がるごとにその傾向が強まる。

他方、女性でも、30代以下の若年層では、“平等”と感じる割合が36.4～43.8%、“男性の優遇”を感じている割合が25.0～44.2%で、他の年代よりも平等感が高く男性優遇感は低い傾向がみられるが、40～60代では“男性の優遇”を感じている割合が最も高く59.1～67.8%に上る。“平等”と感じる割合も40代で最も低く16.9%となっている。

なお女性の70代以上では、“平等”と感じている割合は男性の70代以上と同様の約30%であるが、“男性の優遇”を感じている割合は男性の70代以上よりも低くなっている。(図表15)

<婚姻の状況別>

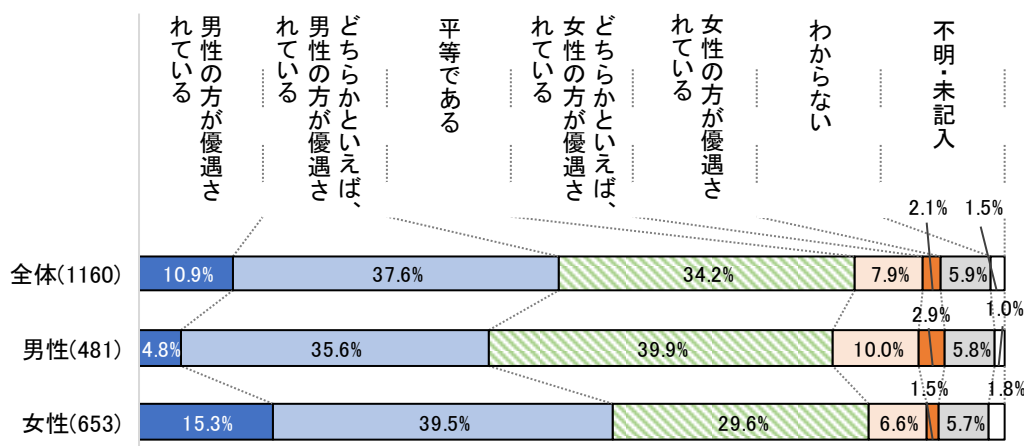
婚姻の状況別にみると、「既婚(配偶者・パートナーがいる)」と「既婚(離別・死別)」では“男性の優遇”を感じている割合が高く、それぞれ52.0%、50.4%と過半数で、“平等”と感じている割合を15ポイント以上上回るが、「未婚」では“男性の優遇”と“平等”の割合がそれぞれ34.1%、34.5%と拮抗している。(図表16)

<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で48.5%、前回調査で45.4%、“平等”と感じている割合は、今回調査で34.2%、前回調査で35.7%となっており、ほぼ同様の傾向がみられる。(図表17)

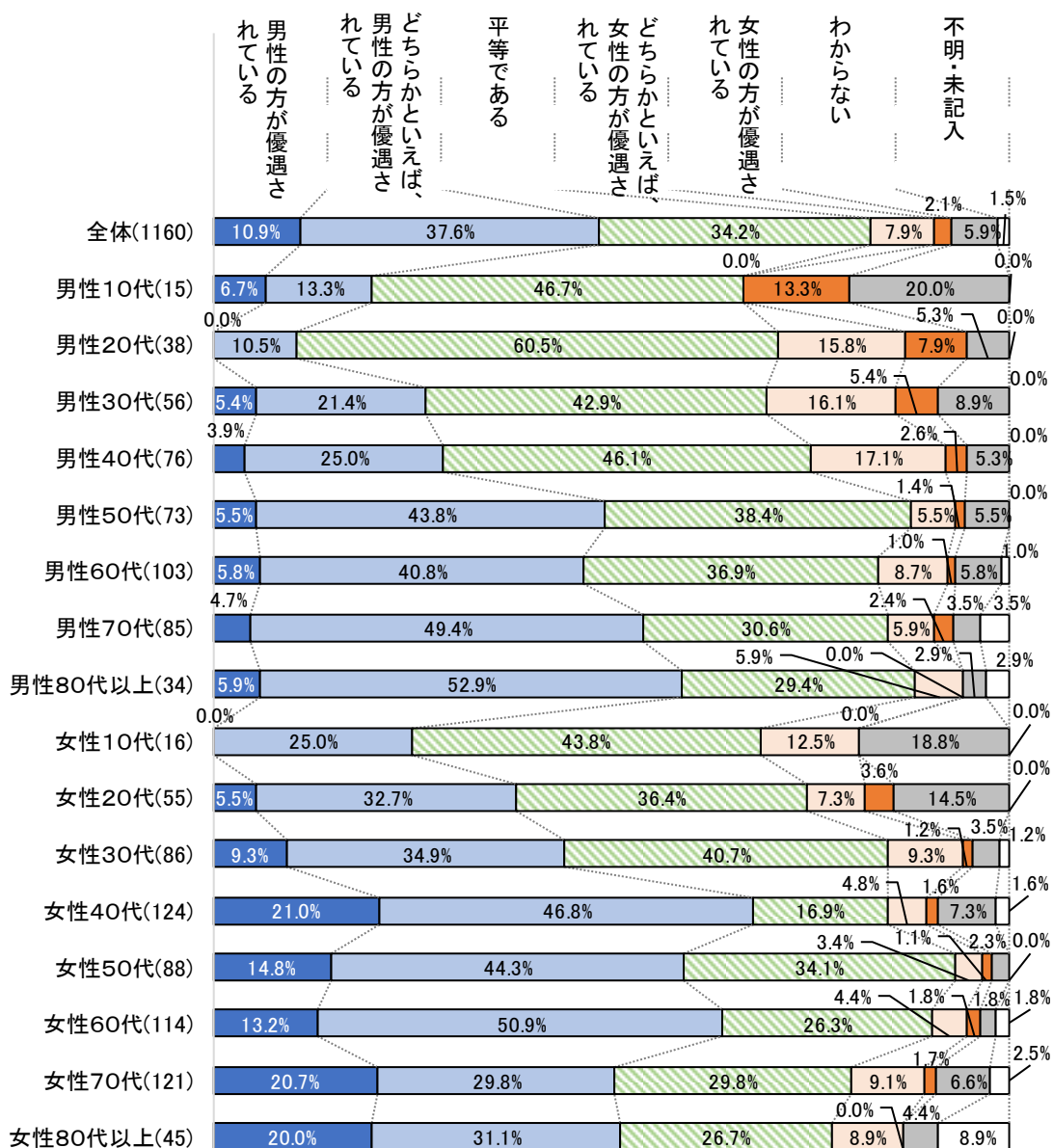
■図表14 家庭生活で考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)家庭生活では(SA)



■図表 15 家庭生活で考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

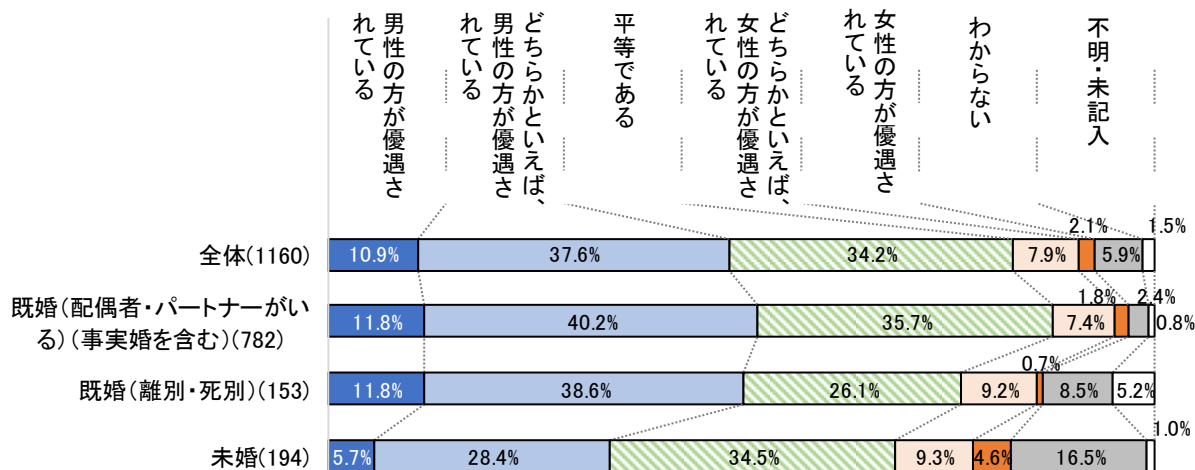
問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)家庭生活では(SA)



※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 16 家庭生活で考えた場合の男女の平等感(婚姻の状況別)

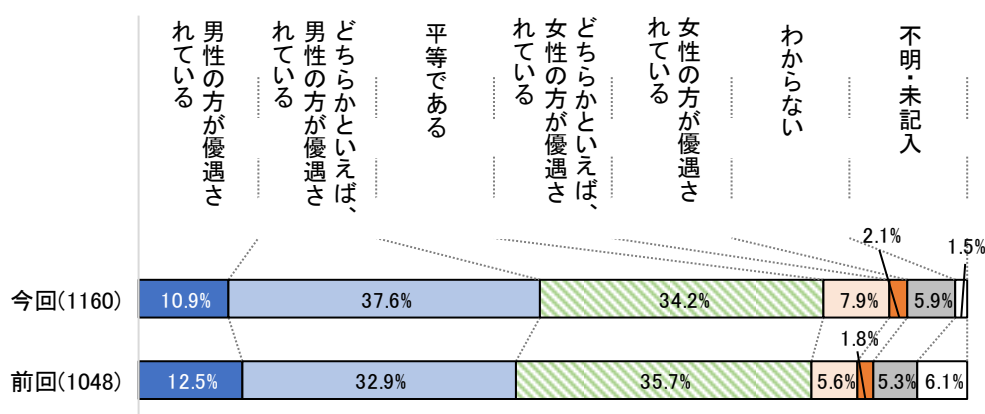
問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)家庭生活では(SA)



■図表 17 家庭生活で考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)家庭生活では(SA)

前回:問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ) ア)家庭生活では



(3)職場で考えた場合の平等感(問1イ)

- ◎職場では、“男性の優遇”を感じている女性の割合が約6割で、男性を約10ポイント上回る。
- ◎性・年代別では、“男性の優遇”を感じている割合は、男女ともに40代以上で過半数。特に40代女性で高い。一方、“平等”と感じる割合は、男性は10～70代で2～3割と一定、女性は40代で顕著に低い。
- ◎前回結果と比較すると、“男性の優遇”割合は5割強、“平等”割合は約2割で同様の傾向。

<性別>

性別で比較すると、“平等”と感じる割合は男性で24.5%、女性で18.2%と女性で低い。また“男性の優遇”を感じている割合は男性で49.5%、女性で59.9%であり、女性の方が男性よりも10ポイントほど高い状況にある。(図表 18)

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性では、“平等”と感じている割合は10～70代で20.0～30.1%と概ね一定しているが、“男性の優遇”を感じている割合は、概ね年代が高い方が割合も高い傾向が見られ、40代以上で半数を超える。また、男性の20～40代では“女性の優遇”を感じている割合が18.4～30.4%と一定の大きさを占める。特に30代では“女性の優遇”と“平等”と感じている割合が拮抗している。

他方、女性は年代ごとに傾向の違いが見られ、40代で“男性の優遇”割合が顕著に高く(71.7%)、“平等”割合も14.5%と顕著に低い。20代と50代では“男性の優遇”が50～60%程度で“平等”が30%程度、30代では“平等”は22.1%と20代と40代の間であるが、“女性の優遇”割合が14.0%と他の年代よりも高くなっている。(図表 19)

<職業別>

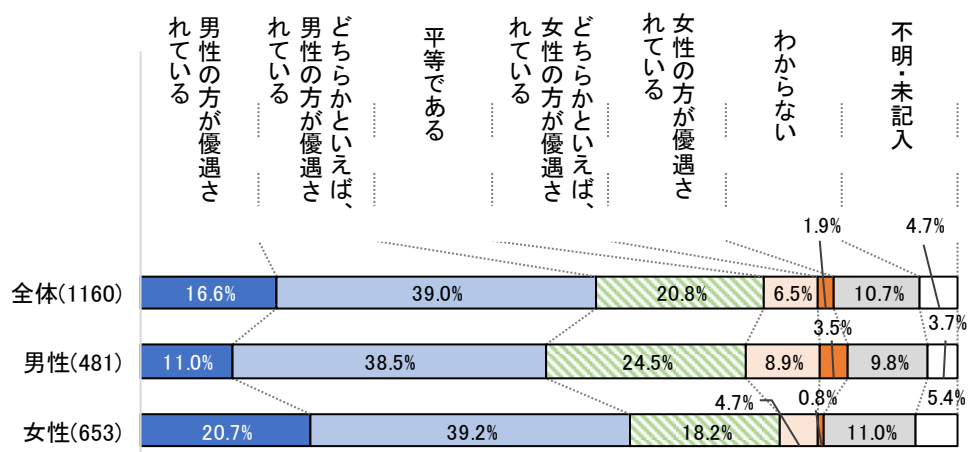
職業別にみると、いずれも“男性の優遇”を感じている割合が高いが、中でも「パート、アルバイト、派遣社員」62.5%や「家事専業」60.8%、「会社員、公務員、団体職員(管理職、経営者)」59.5%「無職」58.8%で高くなっている。一方、“平等”と感じている割合は「会社員、公務員、団体職員(従業員、事務職、専門職)」や「会社員、公務員、団体職員(管理職、経営者)」でそれぞれ32.6%、32.4%と他の職業よりも高く、「家事専業」6.5%や「無職」11.9%で低くなっている。(図表 20)

<前回調査結果との比較>

前回と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で55.6%、前回で51.6%、平等と感じている割合は、今回調査で20.8%、前回で22.2%であり、ほぼ同様の傾向となっている。(図表 21)

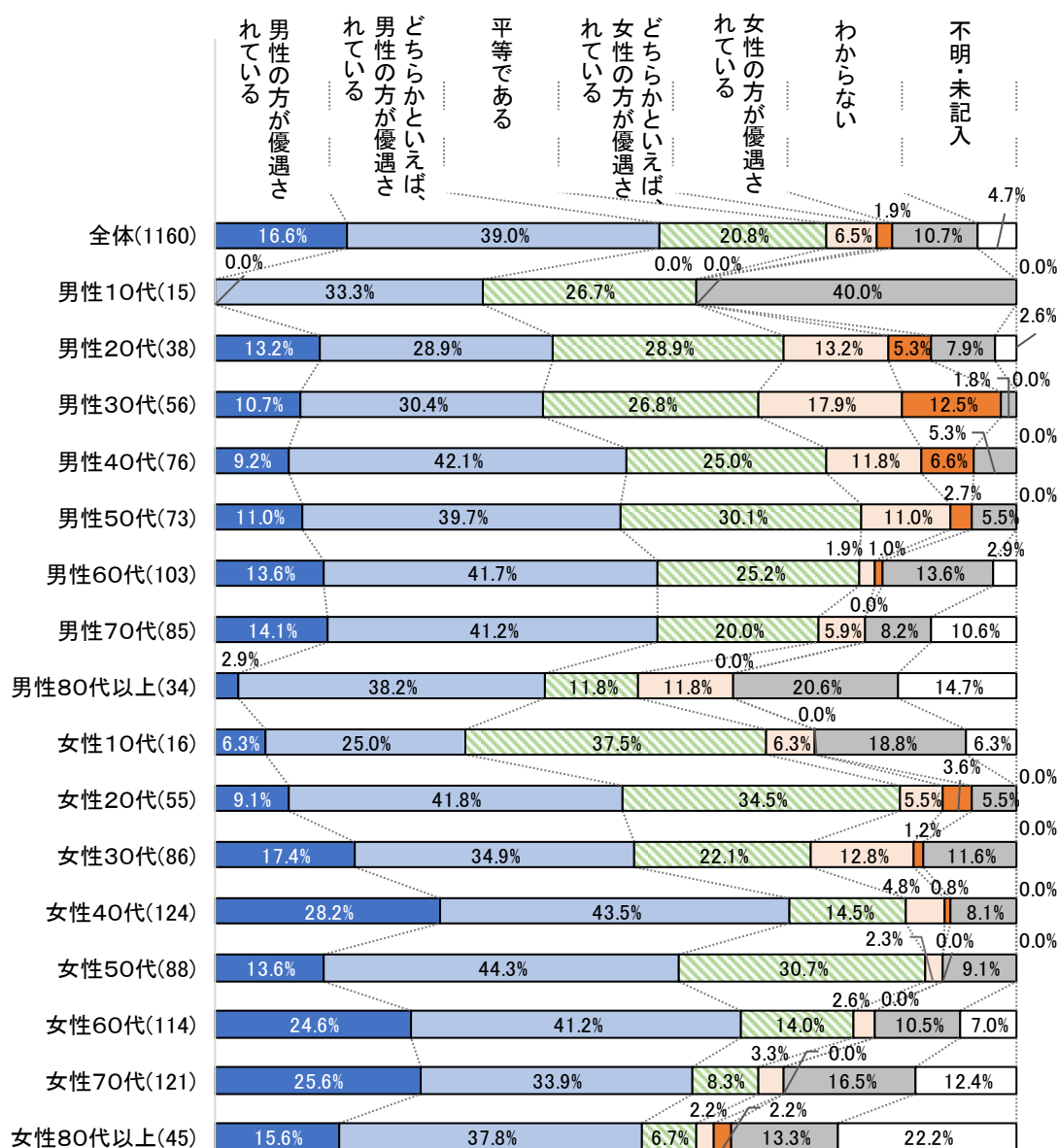
■図表 18 職場で考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。イ)職場では(SA)



■図表 19 職場で考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

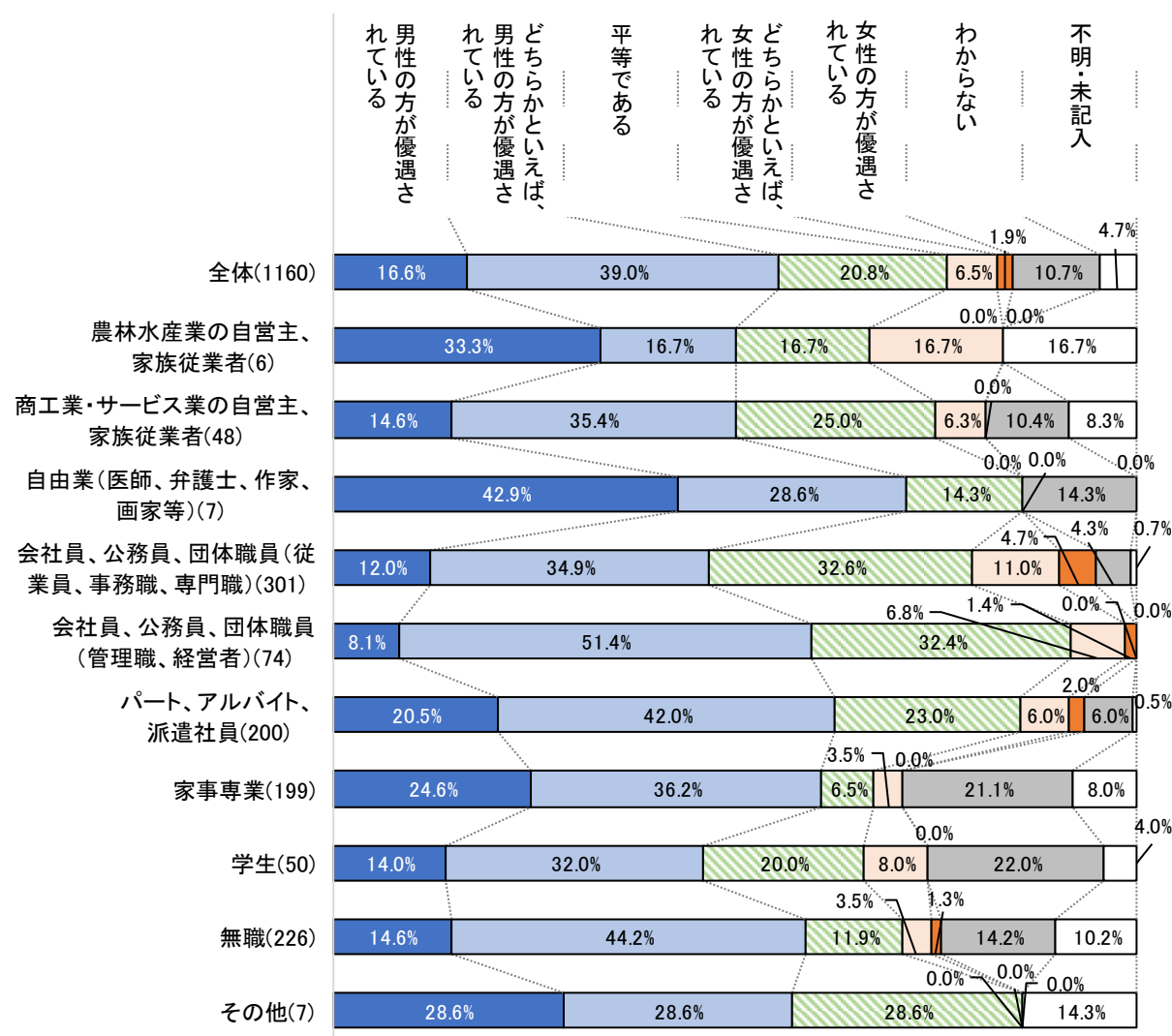
問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。イ)職場では(SA)



※男女ともに10代は、回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 20 職場で考えた場合の男女の平等感(職業別)

問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。イ)職場では(SA)

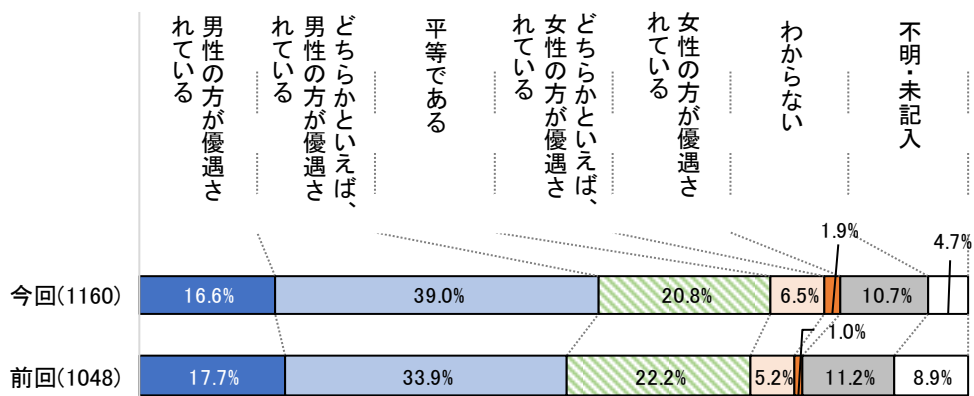


※「農林水産業の自営主、家族従業者」「自由業（医師、弁護士、作家、画家等）」「その他」は回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 21 職場で考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回:問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。イ)職場では(SA)

前回:問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ) イ)職場では



(4)教育の場で考えた場合の男女の平等感(問1 ウ)

- ◎男女ともに”平等“と感じている割合が6割前後と高い。
- ◎いずれの性・年代も、“平等”と感じている割合は概ね半数を超える。
- ◎前回結果と比較しても“平等”割合は約6割と同傾向。

<性別>

性別で比較すると、“平等”と感じている割合が、男性で62.8%、女性で57.1%といずれも高い。他の分野で男女の差異がみられる“男性の優遇”を感じている割合も、教育の場においては男性12.7%、女性15.8%といずれも低く、男女の意識差も見られない。(図表 22)

<性・年代別>

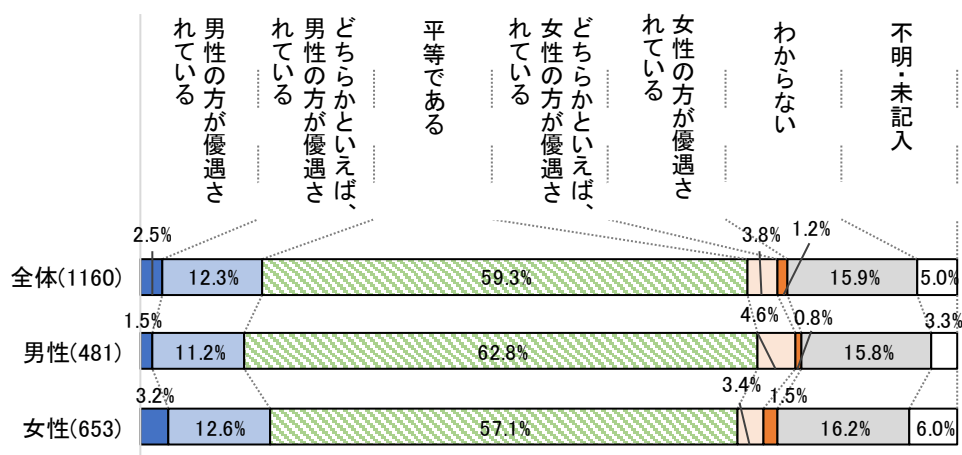
性・年代別で比較すると、男女ともにいずれの年代においても“平等”を感じている割合が高く、47.4~74.0%を占める。特徴のある年代に言及すれば、男性の20代では“女性の優遇”を感じている割合が“男性の優遇”割合を上回っている。また女性の60代では“男性の優遇”を感じる割合が25.5%と他の年代よりも高くなっている。(図表 23)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、回答の傾向としては前回と同様であり、平等と感じている割合は、今回調査では59.3%、前回調査では60.0%で、ともに約6割を占めている。(図表 24)

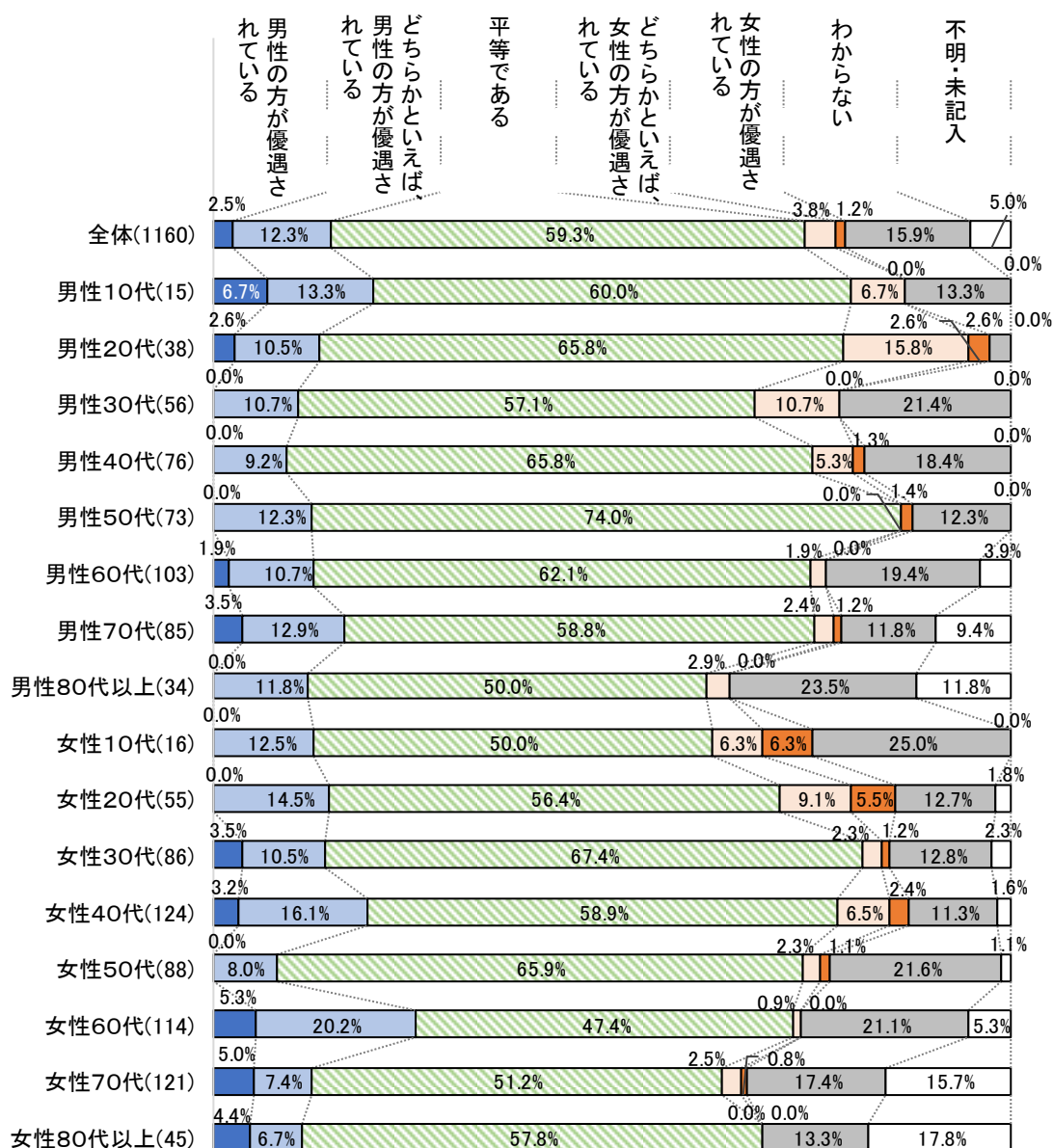
■図表 22 教育の場で考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ウ教育の場では(SA)



■図表 23 教育の場で考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ウ)教育の場では(SA)

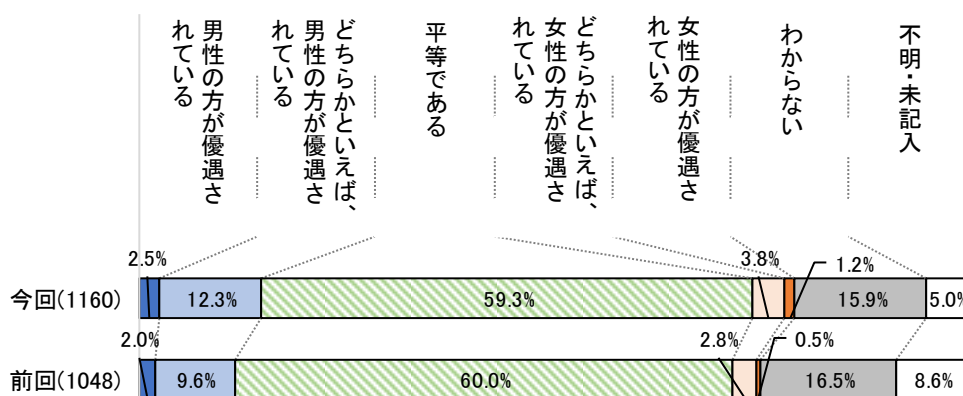


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 24 教育の場で考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回: 問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ウ)教育の場では(SA)

前回: 問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ) ウ)教育の場では



(5) 社会参加の場で考えた場合の男女の平等感(問 1 工)

- ◎社会参加の場では、“男性の優遇”を感じている女性が約半数で男性を 10 ポイントほど上回る。
- ◎男性では 50～70 代、女性では 30～60 代で “男性の優遇”を感じている割合が高い。
- ◎前回結果と比べると、“男性の優遇”割合は 5.5 ポイント上昇。“平等”割合は 3 割強で同様の傾向。

<性別>

性別で比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、男性で 40.3%、女性で 50.4%となっており、女性の方が 10.1 ポイント高くなっている。“平等”と感じている割合は、男性 35.6%、女性 29.2%で男性が高い。(図表 25)

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性では 50～70 代で“男性の優遇”を感じている割合が 44.7～47.6%と高くなっているが、40 代以下では、“男性の優遇”と“平等”の割合が同等または“平等”の割合の方が高くなっている。また 20～50 代では“女性の優遇”を感じている割合も 13.7～18.4%と一定の割合を占める。

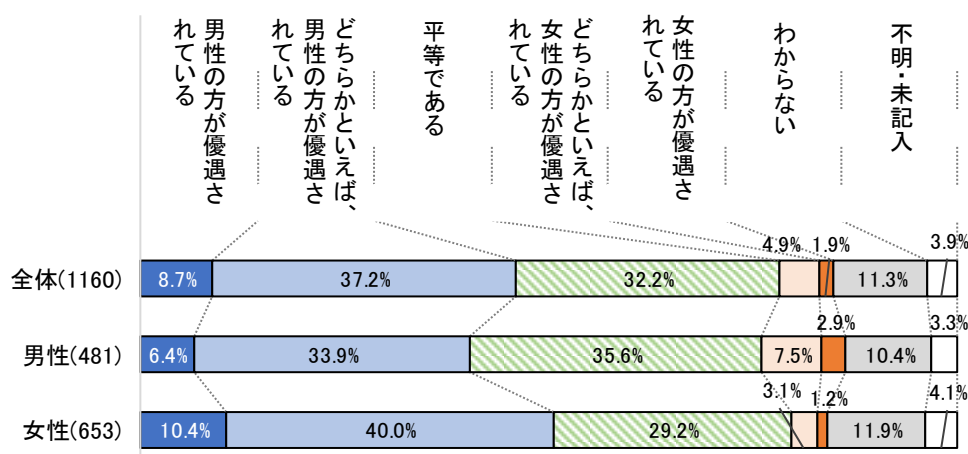
女性においては、30～60 代で“男性の優遇”を感じている割合が過半数を占め高くなっている。一方、“平等”と感じる割合は、20 代以上で 24.4～36.4%と“男性の優遇”を感じている割合を下回る。(図表 26)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査 45.9%、前回調査 40.4%で 5.5 ポイント上昇している。一方、“平等”と感じている割合は、今回調査で 32.2%、前回調査で 33.4%と、ほぼ横ばいとなっている。(図表 27)

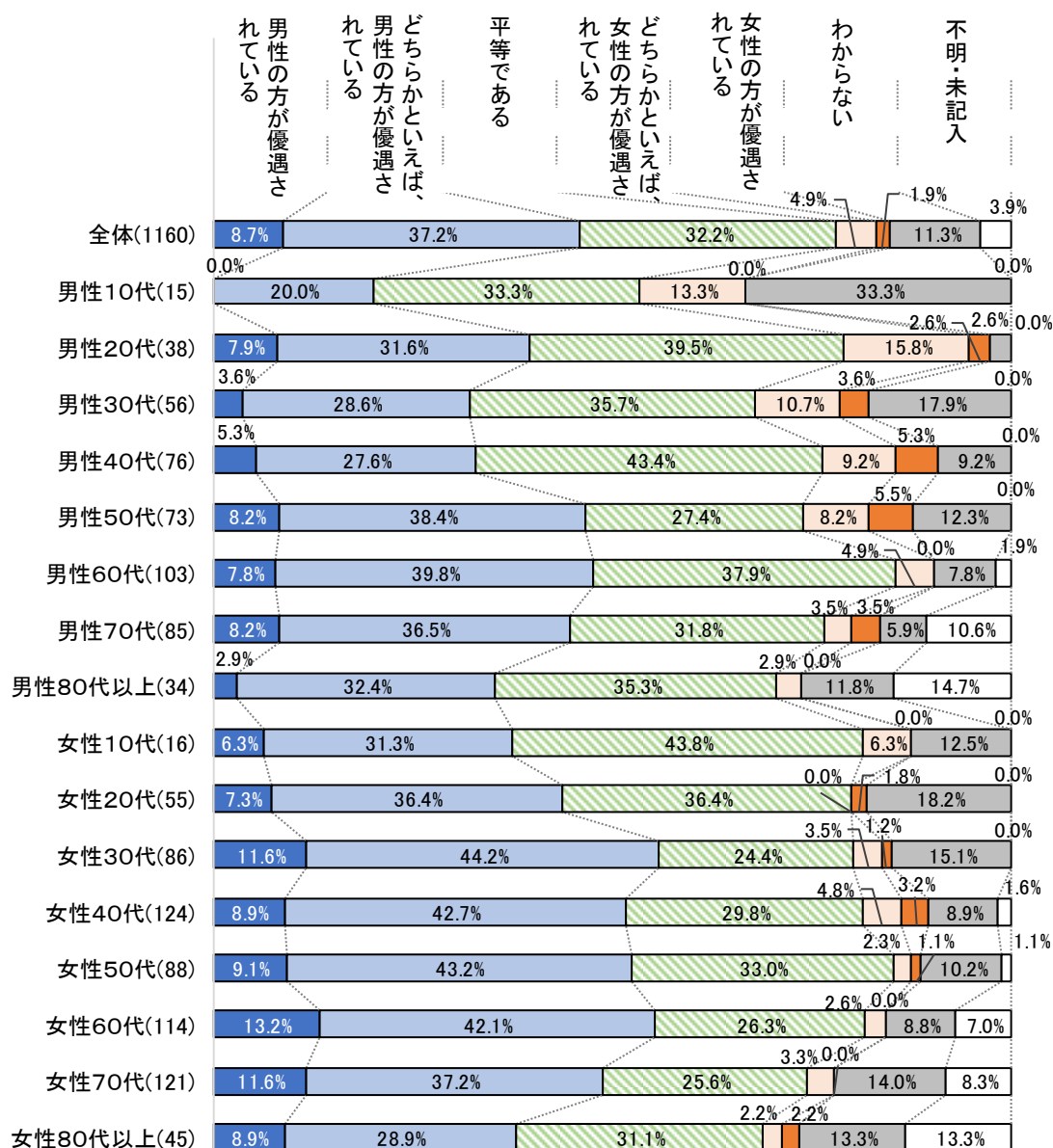
■図表 25 社会参加の場で考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。工)社会参加の場では(SA)



■図表 26 社会参加の場で考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。工)社会参加の場では(SA)

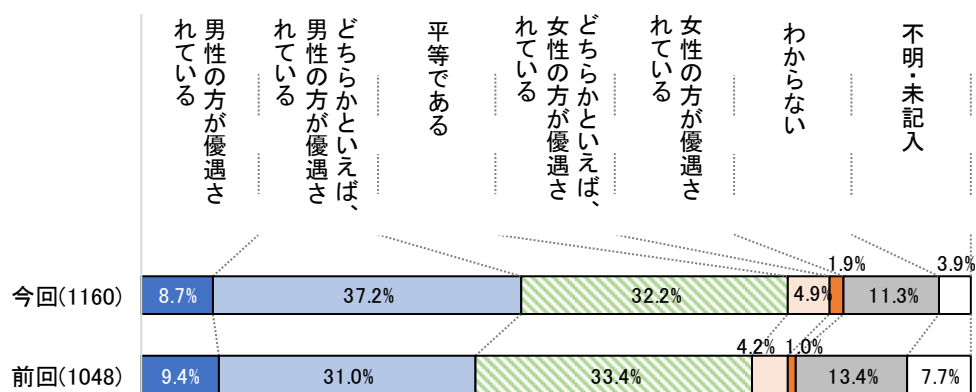


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 27 社会参加の場で考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回: 問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。工)社会参加の場では(SA)

前回: 問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ) 工)社会参加の場では



(6) 法律・制度上で考えた場合の男女の平等感(問 1 オ)

- ◎法律・制度上においては、男性で“平等”と感じている割合が5割弱であるのに対し、女性では“男性の優遇”を感じている割合が5割弱と意識差が大きい。
- ◎性・年代別でみると、女性の30～70代で“男性の優遇”を感じている割合が高く、5割弱～6割弱。
- ◎前回結果と比べると、“男性の優遇”割合が4割前後、“平等”割合が4割弱で同様の傾向。

<性別>

性別で比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は男性で29.1%、女性で47.8%であり、女性の方が18.7ポイント上回る。逆に“平等”と感じている割合は、男性が47.6%、女性が27.6%で女性が20ポイント下回り、男女での意識の差が大きい状況にある。(図表 28)

<性・年代別>

性・年代別でみると、男性では“平等”の割合が、50代こそ37.0%と4割に満たないものの、他の年代では43.4～55.3%といずれも高い状況にある。ほか男性の20代では、“女性の優遇”を感じる割合が23.7%と“男性の優遇”を感じている割合よりも高くなっている。

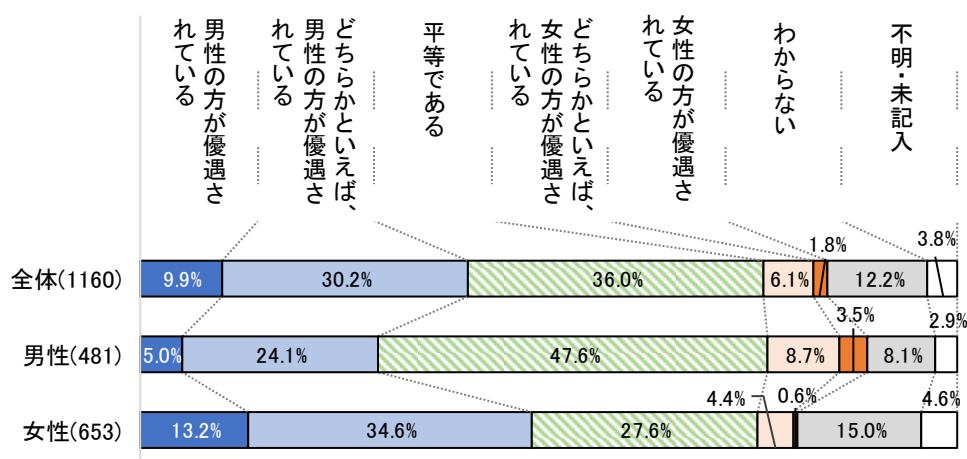
女性では20代以下と80代で“平等”と感じている割合が“男性の優遇”を感じている割合を上回る。しかし30～70代では“平等”と感じている割合は21.9～30.7%に留まり、“男性の優遇”割合の方が高くなっている。特に40代で“男性の優遇”を感じている割合が58.8%と高い。(図表 29)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で40.1%、前回調査で35.8%、“平等”と感じている割合は、今回調査で36.0%、前回調査で38.1%となっており、ほぼ同様の傾向がみられる。(図表 30)

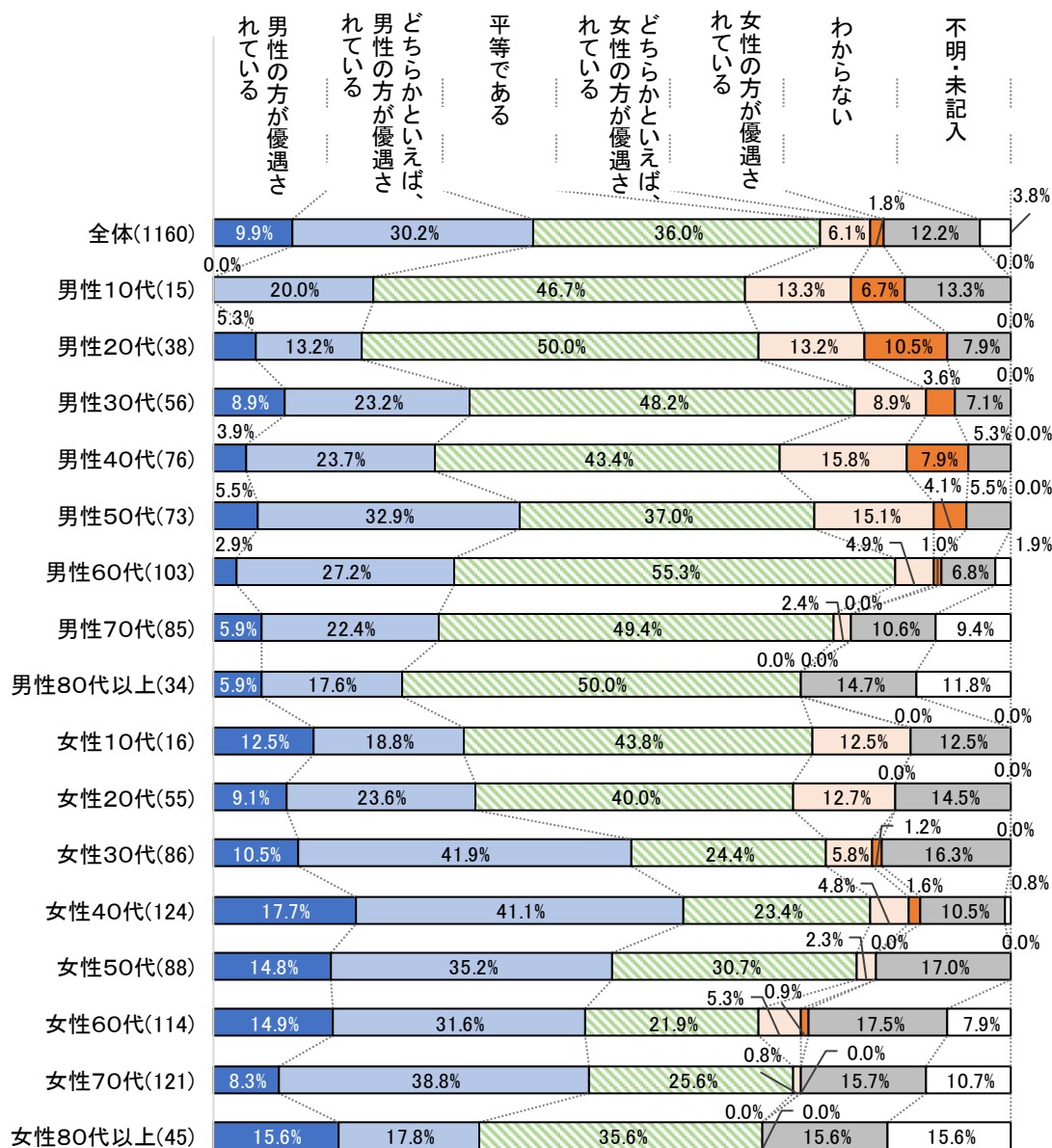
■図表 28 法律・制度上で考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。オ)法律・制度上では(SA)



■図表 29 法律・制度上で考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。オ)法律・制度上では(SA)

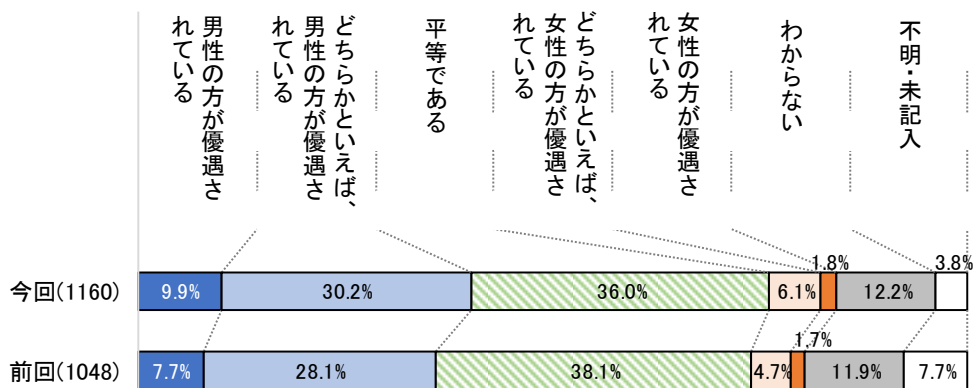


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 30 法律・制度上で考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回：問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。オ)法律・制度上では(SA)

前回：問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ) オ)法律・制度上では



(7)しきたりや習慣などで考えた場合の男女の平等感(問 1 カ)

- ◎しきたりや習慣などでは、男女ともに“男性の優遇”を感じている割合が顕著に高く、“平等”と感じている割合は顕著に低い。
- ◎30代以上では、男女ともに”男性の優遇“を感じている割合が6割以上。
- ◎前回結果と同様に“男性の優遇”を感じている割合が約7割と高い。

<性別>

性別で比較すると、男性で”男性の優遇“を感じている割合が68.4%、”平等“と感じている割合は16.0%、女性ではそれぞれ74.2%、10.0%と、男女ともに”男性の優遇“を感じている割合が顕著に高く、”平等“と感じている割合が顕著に低くなっている。(図表 31)

<性・年代別>

性・年代別で比較すると、男性でも30代以上で”男性の優遇“を感じている割合は65.8~79.4%と高く、”平等“と感じている割合は10.5~18.4%と低くなっている。

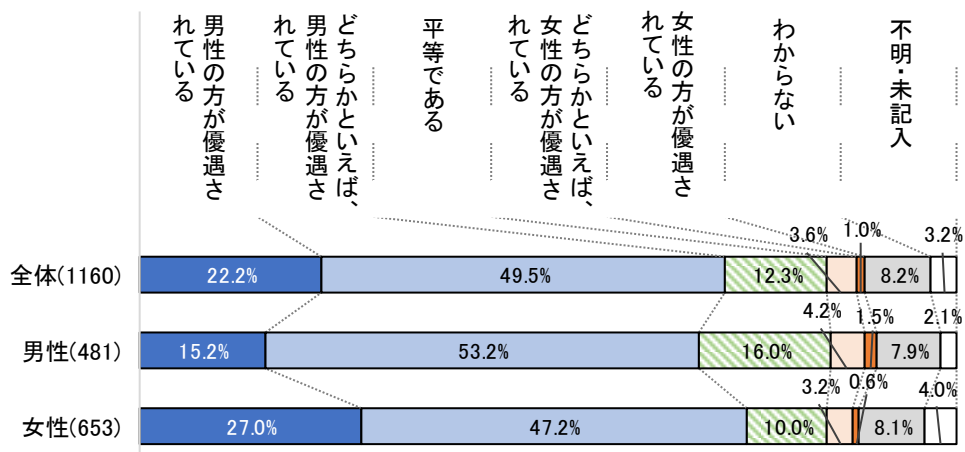
女性では、いずれの年代でも”男性の優遇“を感じている割合が60%以上と高いが、中でも40代と50代では”男性の優遇“を感じている割合がそれぞれ83.0%、86.4%と顕著に高く、”平等“と感じている割合は8.9%、4.5%と顕著に低くなっている。(図表 32)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、今回前回ともに“男性の優遇”を感じている割合が顕著に高く、今回調査で71.7%、前回調査で68.1%、”平等“と感じている割合は、ともに12%台となっている。(図表 33)

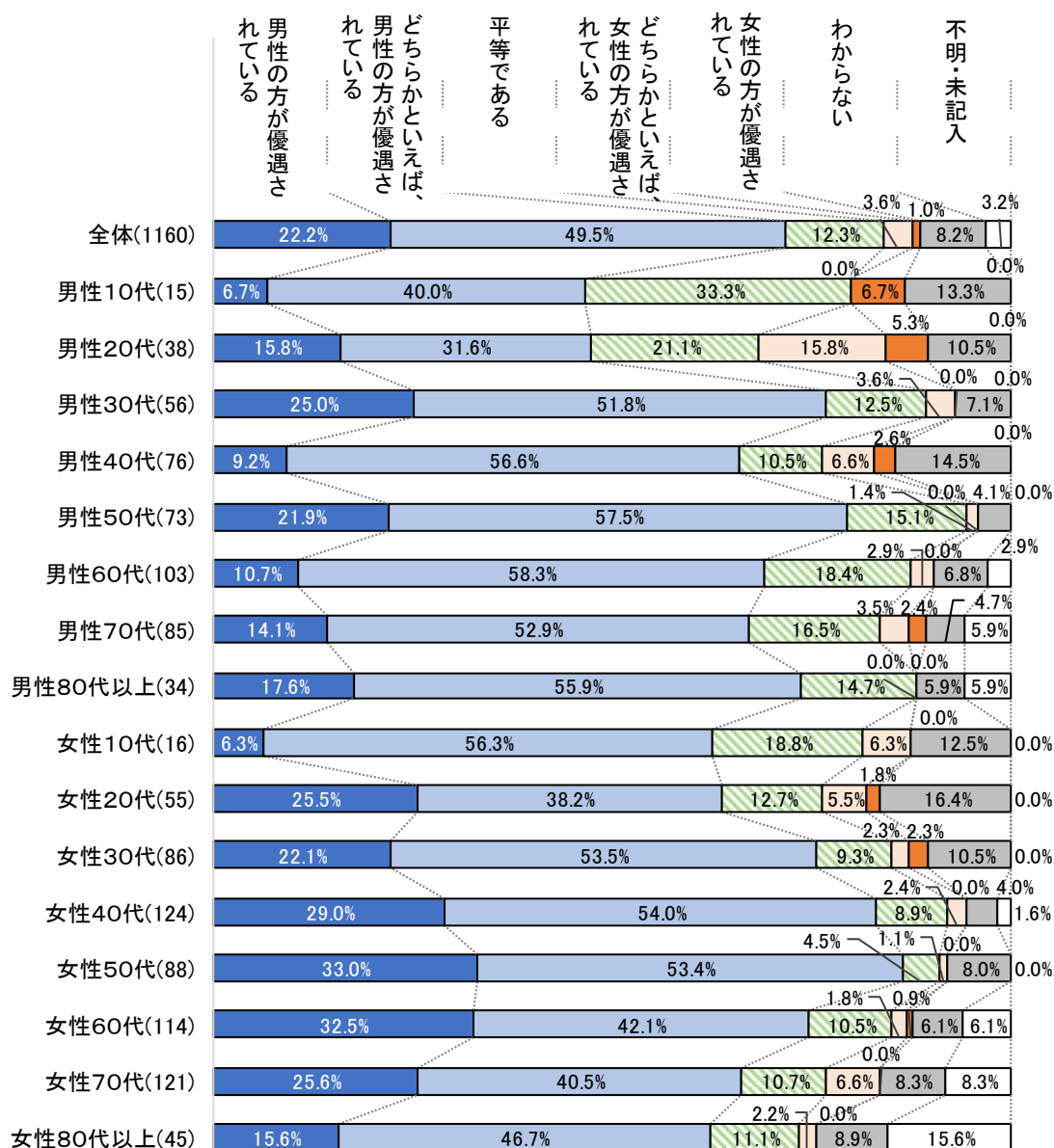
■図表 31 しきたりや習慣などで考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。カ)しきたりや習慣などでは(SA)



■図表 32 しきたりや習慣などで考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。カ)しきたりや習慣などでは(SA)

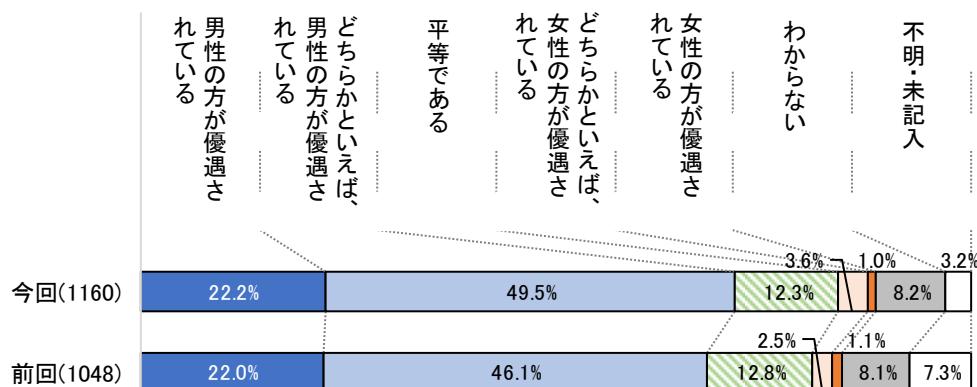


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 33 しきたりや習慣などで考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回: 問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。カ)しきたりや習慣などでは(SA)

前回: 問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ) カ)しきたりや習慣などでは



(8)全体として考えた場合の男女の平等感(問1 キ)

- ◎男女ともに”平等“よりも”男性の優遇“を感じている割合が高く、女性でより顕著。
- ◎性・年代別には、特に女性の 30～60 代で”男性の優遇“を感じている割合が高く、”平等“と感じている割合が低い。
- ◎前回と比較すると、今回が前回は 1.8 ポイント下回る。
- ◎全国との比較では、全国、大和市とも”平等“と感じている割合は約 2 割でほぼ同水準。

<性別>

性別で比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は男性で 55.1%、女性で 66.7%と女性の方が 11.6 ポイント高い。“平等”と感じている割合も、男性 28.3%に対し女性 17.2%となっており、女性の方が 11.1 ポイント下回る。(図表 34)

<性・年代別>

性・年代別に比較すると、男性では 20～40 代と 50～80 代以上で意識に差異がみられる。20～40 代では“男性の優遇”を感じている割合が 46.0～48.2%であるが、50～80 代では 57.7～64.4%と高くなっている。“平等”と感じる割合はいずれも 20～30%前後で大きな差異はないが、“女性の優遇”を感じている割合は、50～80 代以上では数%であるのに対し、20～40 代では 20%前後と一定の割合を占める。

女性では、20 代以下は“平等”と感じている割合が 30%以上と、同年代の男性と比べても高くなっているが、30～60 代では 8.9～15.1%と 10～20 代の半分以下となっている。また 30～60 代では“男性の優遇”を感じている割合も高く、40 代では”男性の優遇“割合が 79.8%を占める。(図表 35)

<前回調査結果との比較>

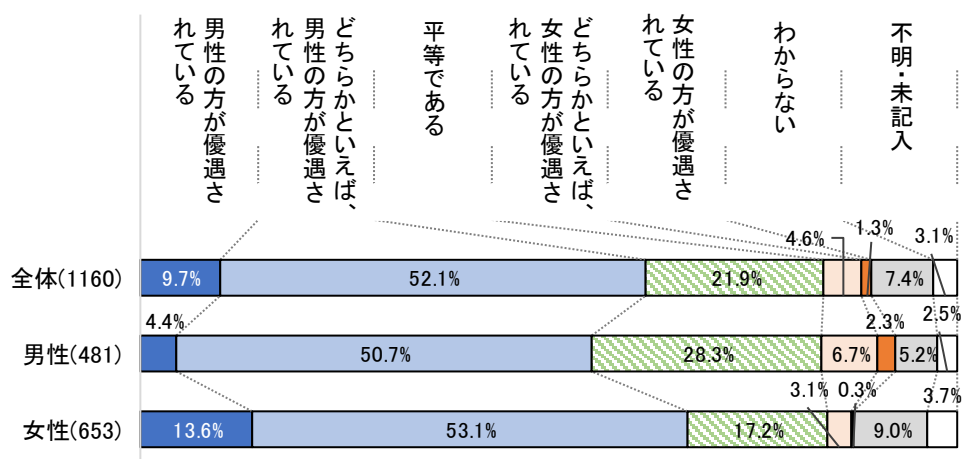
前回調査結果と比較すると、“男性の優遇”を感じている割合は、今回調査で 61.8%、前回調査で 59.7%、“平等”と感じている割合は、今回調査で 21.9%、前回調査で 23.7%と、1.8 ポイント低下している。(図表 36)

<全国調査結果との比較>

内閣府の全国調査と比較すると、平等と感じている割合は大和市(平成 29 年度)で 21.9%、全国調査(平成 28 年度)で 21.1%であり、全国調査の水準と同程度となっている。(図表 37)

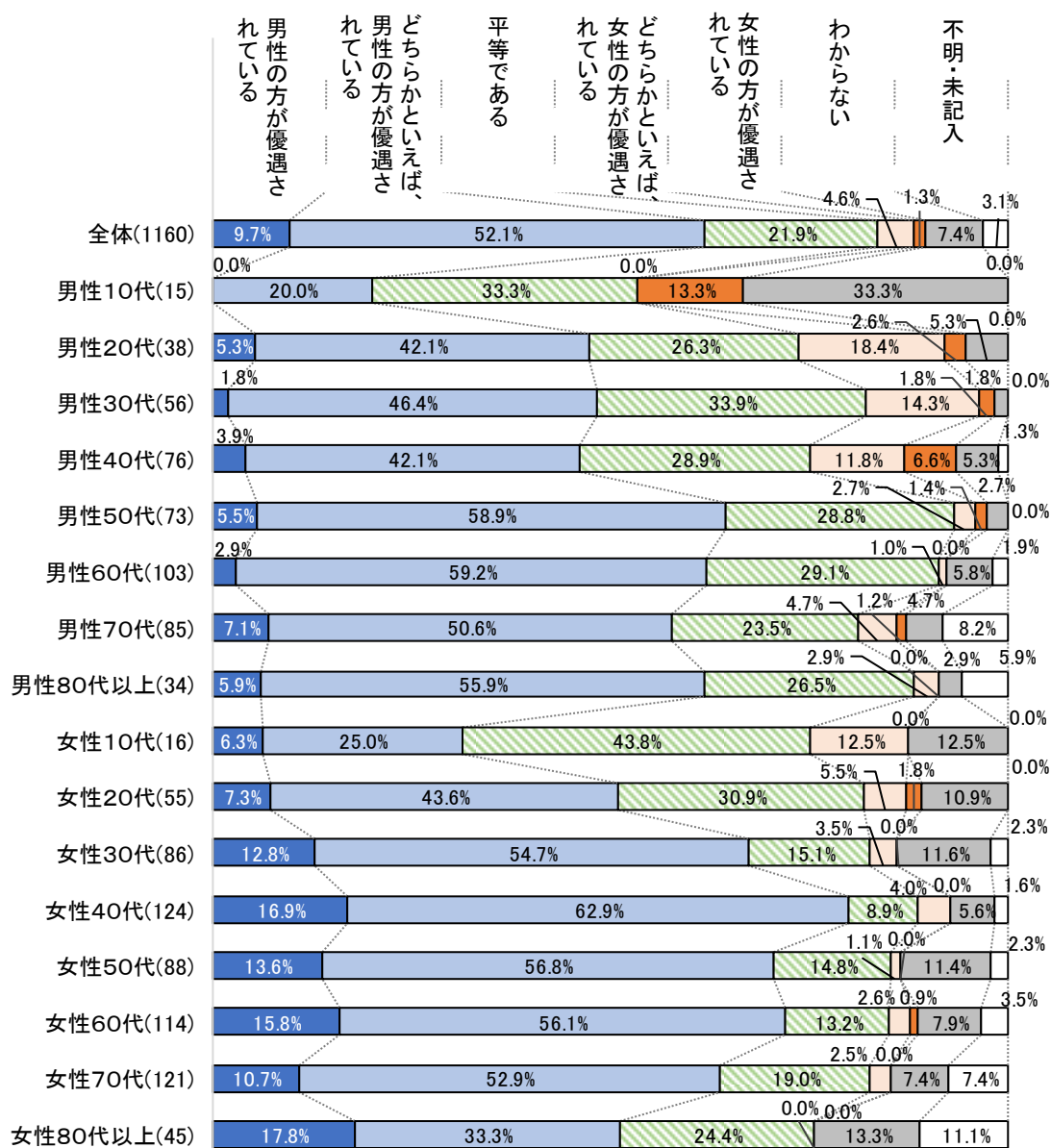
■図表 34 全体として考えた場合の男女の平等感(性別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。キ)全体として考えると(SA)



■図表 35 全体として考えた場合の男女の平等感(性・年代別)

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。キ)全体として考えると(SA)

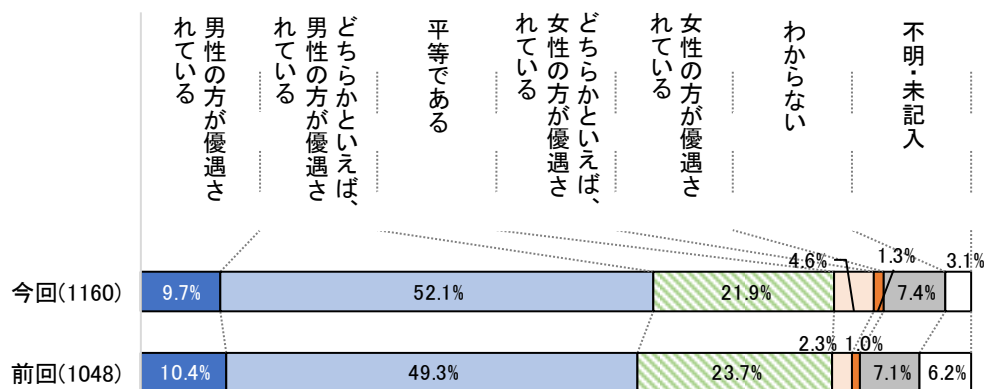


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 36 全体として考えた場合の男女の平等感(前回比較)

今回: 問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。キ)全体として考えると(SA)

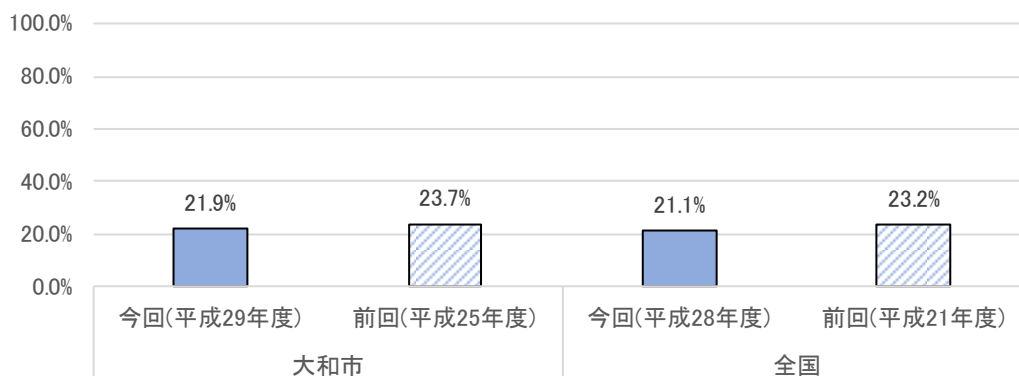
前回: 問1. あなたは、次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ) キ)全体として考えると



■図表 37 全体として考えた場合の男女の平等感(全国比較)

大和市：問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。(キ)全体として考えると(SA)

全 国：Q2[回答票2] では、あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか(SA)



※全国調査は選択肢が「男性の方が非常に優遇されている/どちらかといえば男性の方が優遇されている/平等/どちらかといえば女性の方が優遇されている/女性の方が非常に優遇されている」であり、そのうちの「平等」と大和市の今回調査の「平等である」の回答割合を比較している。

※構成比には不明未記入含む。なお全国調査は聞き取り調査のため不明未記入となる回答はない。

(9)「男は仕事、女は家庭」という考えについて(問2)

- ◎”男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする意見がもっとも多く約 7 割。この考えは女性で多く、男性を 16 ポイント上回る。
- ◎性・年代別では、”男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする割合は、男性では若年ほど高い傾向、女性ではいずれの年代でも約 7 割以上と高い。
- ◎前回結果との比較では、”男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする割合が 6 ポイント増加。

<全体・性別>

全体で見ると、”男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする意見がもっとも多く 70.4%を占める。ほか“「男は仕事、女は家庭」が望ましい”は 14.5%、“男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ”も 14.2%で同等、“「女は仕事、男は家庭」が望ましい”は 0.3%に留まる。

性別で見ると、“男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”と答えた割合は、男性 60.9%、女性 77.3%で女性が 16.4 ポイント高い。また、男性では“「男は仕事、女は家庭」が望ましい”が 19.3%、“男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ”が 18.5%と、いずれも 2 割弱を占めている。これらの項目は、女性でもそれぞれ約 1 割を占める。(図表 38)

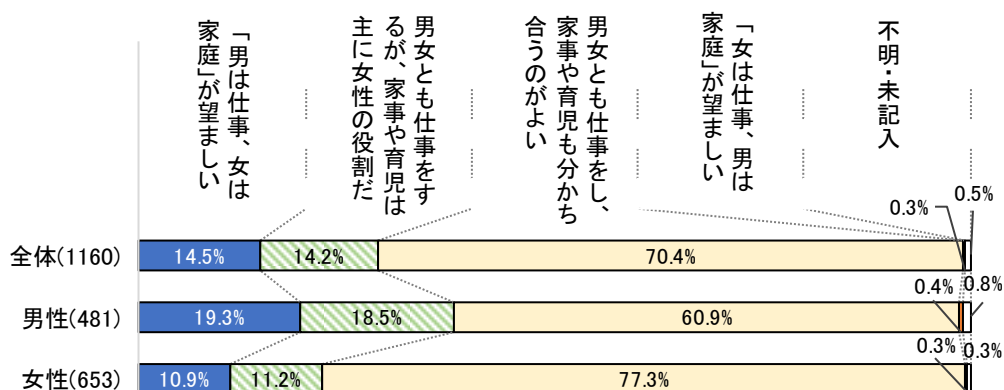
<性・年代別>

性・年代別で見ると、いずれの性年代でも“男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”と答えた割合が最も高いが、男性では概ね年代が上がるに従ってその割合が低くなる傾向が見られ、20 代以下では 80%以上、30、40 代では 60~70%台、50、60 代では 50%台、70 代以上では 40%台となっている。また“「男は仕事、女は家庭」が望ましい”とする割合は、男性では 70 代で 34.1%と最も高く、次いで 60 代 22.3%、30 代 21.4%となっている。“男女ともに仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ”とする意見も、男性では割合が高い順に 80 代以上、50 代、40 代で 20%以上を占める。

また女性では“男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする割合が 20 代以下と 60 代で 85%以上、その他の年代でも 68.9~78.2%と高いが、“男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ”とする割合も、30 代で 17.4%など一定の割合を有する。(図表 39)

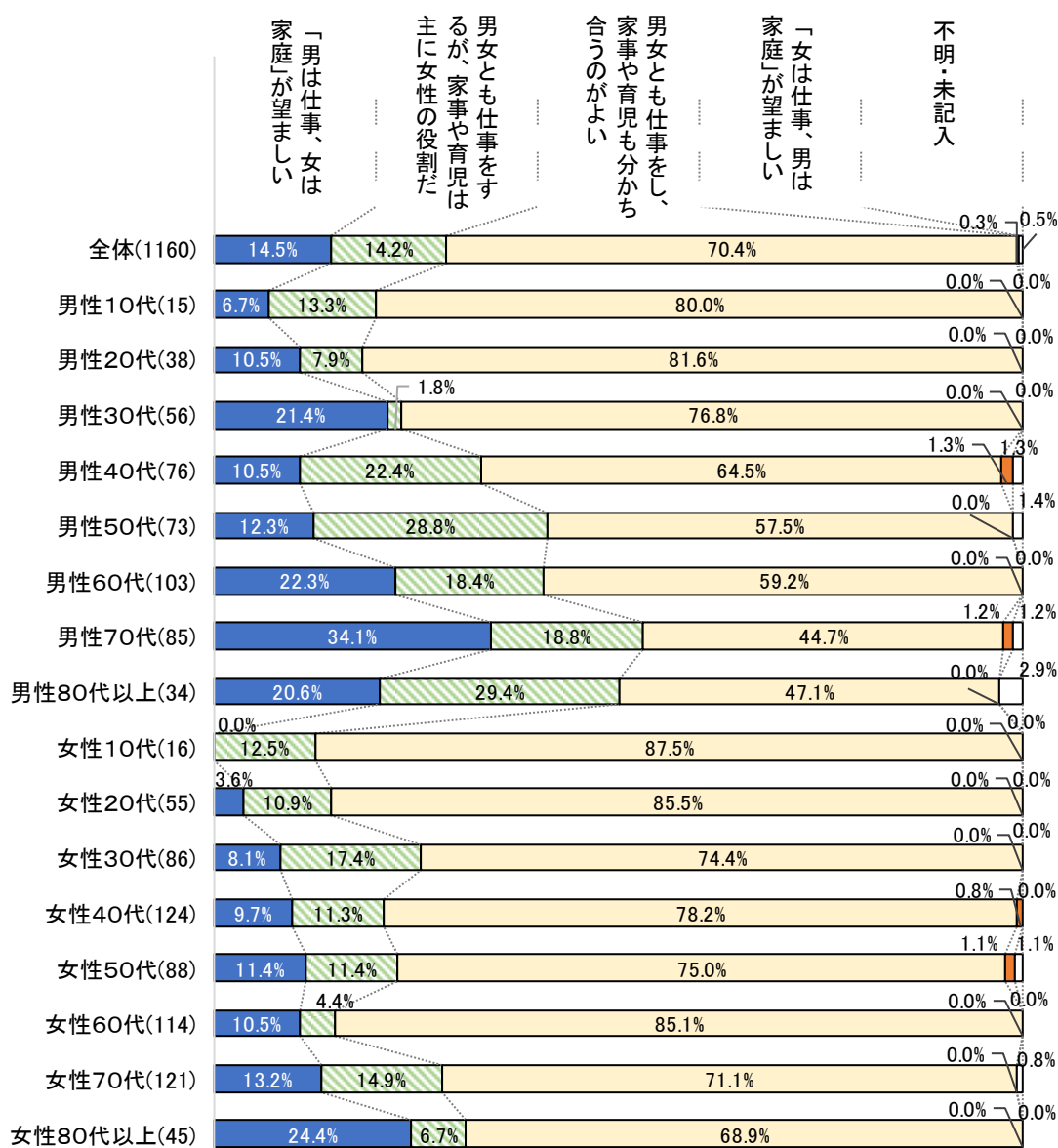
■図表 38 「男は仕事、女は家庭」という考えについて(全体・性別)

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)



■図表 39 「男は仕事、女は家庭」という考えについて(性・年代別)

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)



※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

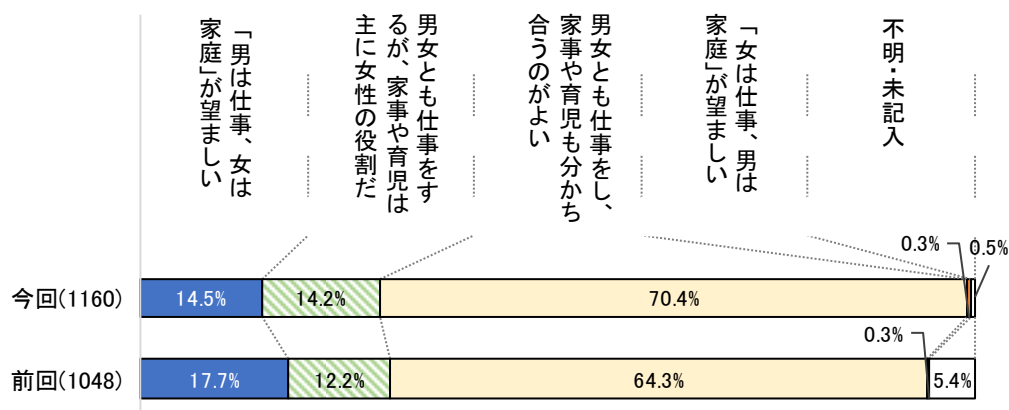
<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、“男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい”とする割合は、今回調査が 70.4%、前回調査は 64.3%であり、今回が前回は 6.1 ポイント上回る。(図表 40)

■図表 40 「男は仕事、女は家庭」という考えについて(前回比較)

今回:問2.「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)

前回:問2. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考えについて、どう思いますか。(〇は1つ)



(10)子どもの育て方について(問3)

◎男女ともに“「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい”とする意見が最も多く約 6 割。いずれの性年代でも当該意見が最も多い傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、“「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい”の割合が最も高く 57.6%。ほか“「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい”が 25.1%、“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい”が 16.1%となっている。

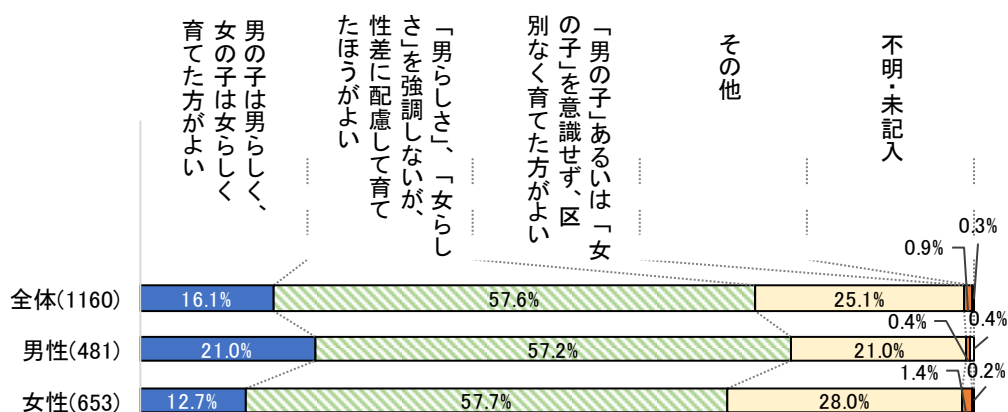
性別では、“「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい”の割合は男性 57.2%、女性 57.7%でほぼ同様であるが、“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい”の割合は男性で高く、“「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい”の割合は女性で高い傾向がみられる。(図表 41)

<性・年代別>

性・年代別で見ると、いずれも“「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい”の割合が最も高くなっているが、男性では、70代、60代、10代で“「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい”の割合が 26.7~35.3%を占める一方、“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい”も 30代以上で 17.1~31.5%と一定の割合を占めている。女性では、20代、30代、80代以上で“「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい”の割合が 30%を超える。“男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい”の割合は概ねどの年代も男性より低い、80代以上で 26.7%のほか、40代、70代、60代でも 10%を超えている。(図表 42)

■図表 41 子どもの育て方(全体・性別)

問3. 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)

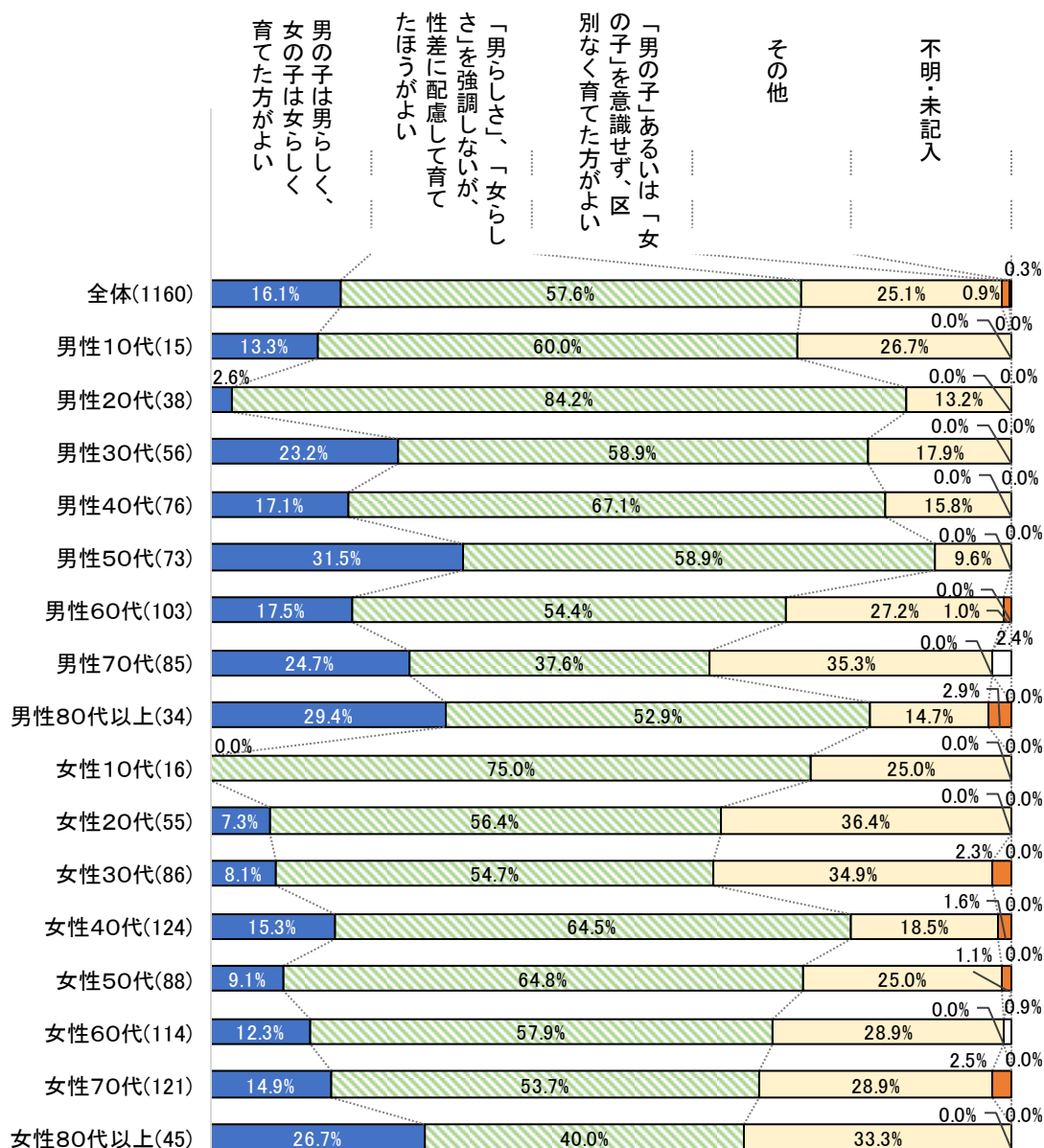


【主なその他回答】

- ・子供の価値観にあわせる／個性に合った教育をする など

■図表 42 子どもの育て方(性・年代別)

問3. 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)



※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

(11)男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて(問4)

- ◎全体では、いずれの項目も4割弱～約5割で顕著な差異はみられない。
 ◎“家族の固定観念の意識改革が必要”の割合は、女性が男性を13ポイント上回る。

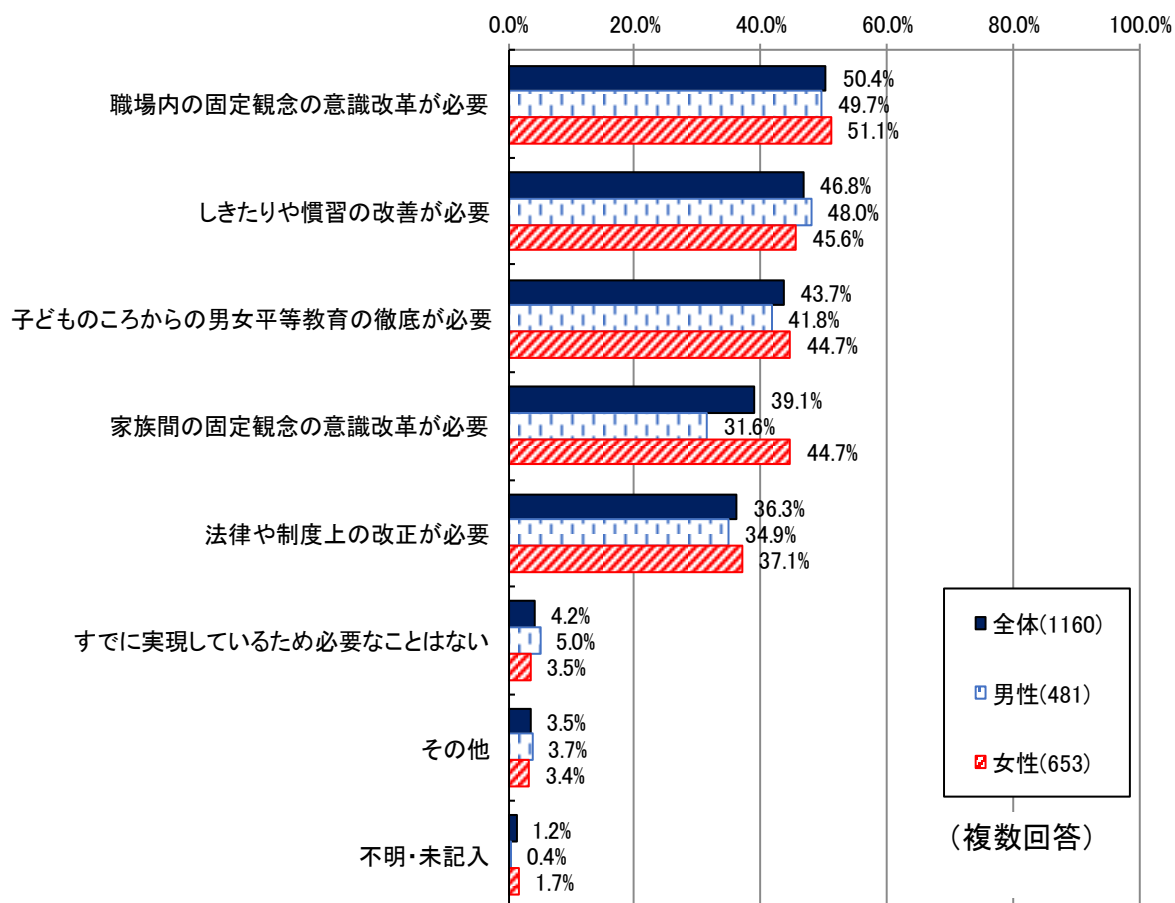
<全体・性別>

全体で見ると、“職場内の固定観念の意識改革が必要”とする割合が50.4%、“しきたりや慣習の改善が必要”が46.8%、“子どものころからの男女平等教育の徹底が必要”が43.7%と中では高いが、次いで“家族間の固定観念の意識改革が必要”が39.1%、“法律や制度上の改正が必要”が36.3%といずれの項目も4割弱～約5割と大きな差異はない状況にある。

性別にみても上位の3項目は変わらず、その割合も男女間で大きな差異は見られないが、“家族の固定観念の意識改革が必要”では、男性31.6%に対し女性44.7%と開きがあり、女性が13.1ポイント高くなっている。(図表 43)

■図表 43 男女が平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なこと(全体・性別)

問4. 男女がともに平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて、あなたの考え方に近いものを、全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・性別に関係なく個性を尊重する／平等にこだわらずに男女で役割分担する など

2. 家庭生活について

(1) 家事・育児・介護の役割について(問5)

① 家事の役割

- ◎家事は“男女が協力し合っている”とする意見が最も多く8割弱。“女性が主に担う”は約2割。
- ◎性・年代別に見ても“男女が協力し合っている”意見が最も多いが、男女ともに60代以上でそれ以下の年代よりも“女性が主に担う”とする意見が多い傾向。
- ◎前回比較でも全体としては“男女が協力し合っている”とする意見が最も多く、同傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、家事は“男女が協力し合っている”割合が最も多く76.2%、次いで“女性が主に担う”が20.4%、“男性が主に担う”と“有償外部サービスを利用する”はともに1%未満と極めて少ない。

性別でみても、回答の傾向に大きな差異は見られない。(図表 44)

<性・年代別>

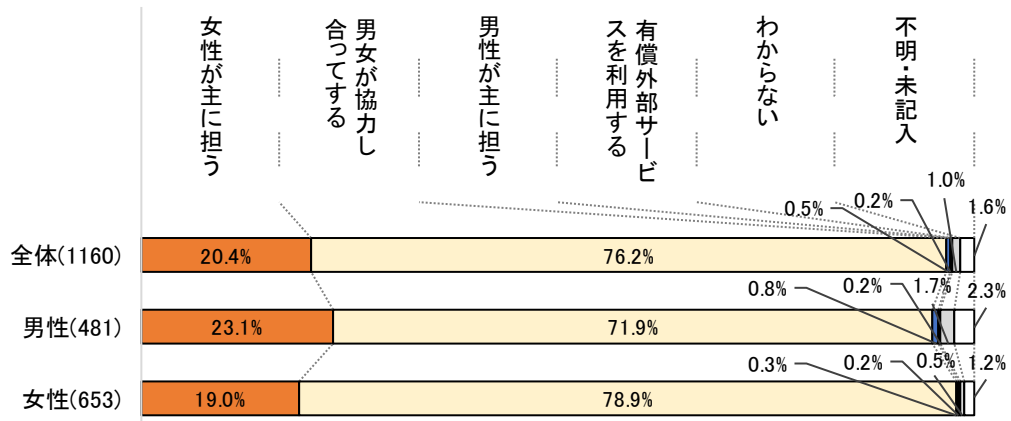
性・年代別で見ると、いずれの性年代においても“男女が協力し合っている”とする割合が最も高く60.0~92.7%となっているが、男女とも60代以上では“女性が主に担う”の割合が若い年代よりも高い傾向がみられる。“男性が主に担う”および“有償外部サービスを利用する”割合はいずれの性年代でも0~数%と極めて少ない状況にある。(図表 45)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも“男女が協力し合っている”割合が最も高く今回調査76.2%、前回調査74.0%、次いで“女性が担う”割合は、今回20.4%、前回20.6%となっており、同様の傾向がみられる。(図表 46)

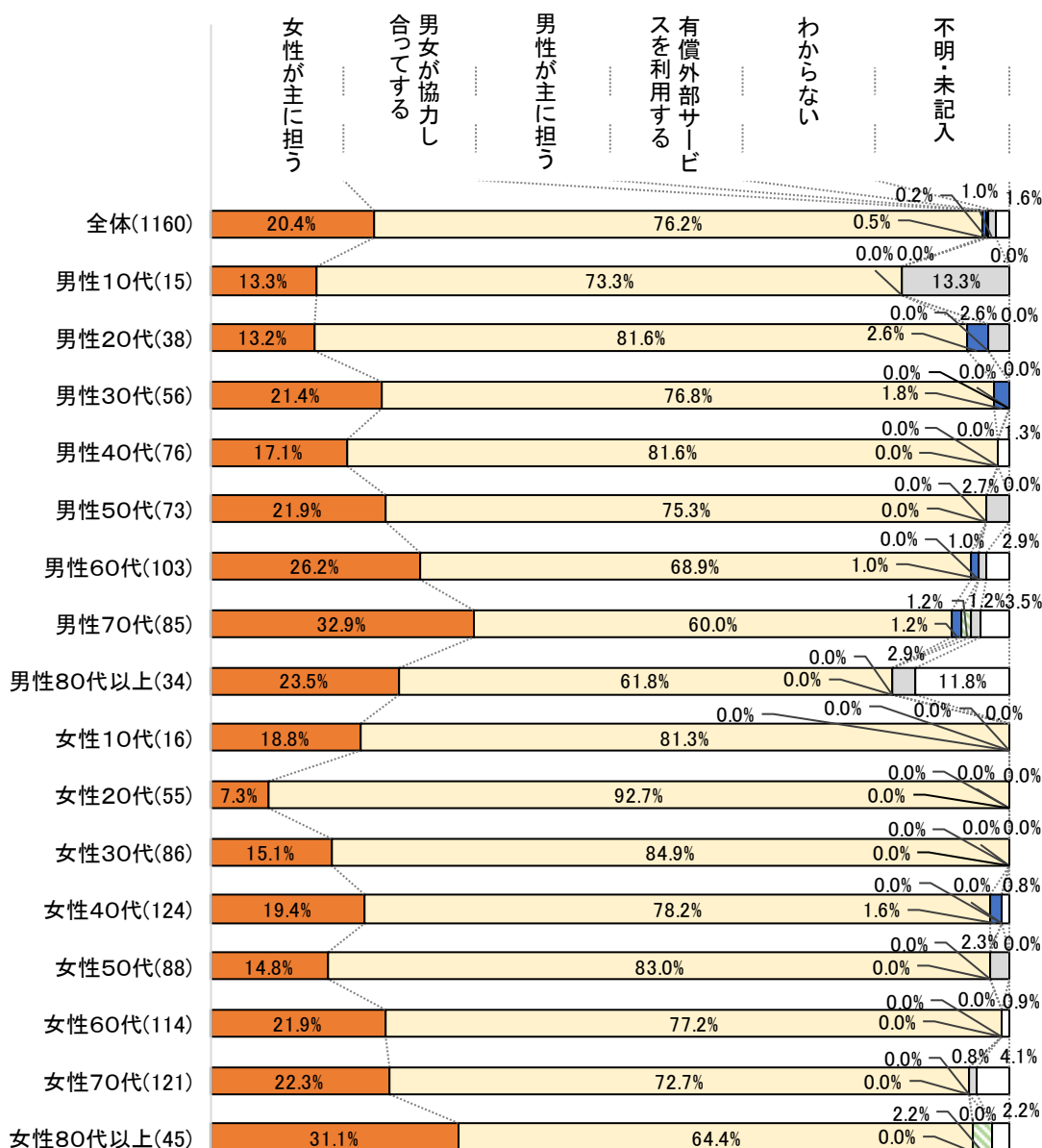
■図表 44 家事の役割(全体・性別)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。ア)家事(SA)



■図表 45 家事の役割(性・年代別)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。ア) 家事(SA)

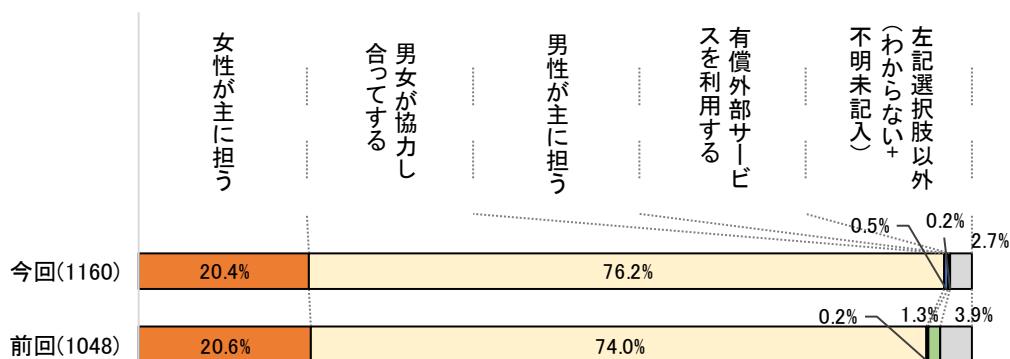


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 46 家事の役割(前回比較)

今回: 問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。ア) 家事(SA)

前回: 問5. あなたは、家事、育児、介護の役割について、どのように考えていますか。(〇はそれぞれ1つ)ア) 家事



※今回調査の「わからない+不明未記入」=前回調査の「その他+不明・未記入」を「左記選択肢以外」として集計している。

② 育児の役割

- ◎育児は“男女が協力し合っている”意見が最も多く8割弱。次いで“女性が主に担う”が1割半ば。性別にみてもほぼ同傾向だが、“女性が主に担う”とする割合は男性が女性を6ポイント上回る。
- ◎性・年代別に見ても“男女が協力し合っている”意見が最も多いが、“女性が主に担う”とする割合は、概ねどの年代でも男性が女性を上回る。
- ◎前回比較は全体としてほぼ同傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、“男女が協力し合っている”割合が最も高く 77.5%。次いで“女性が主に担う”が 15.9%。“男性が主に担う”と“有償外部サービスを利用する”はともに 1%未満と極めて少ない。

性別にみても男女ともに“男女が協力し合っている”割合が最も高いが、男性は女性より“男女が協力し合っている”割合は 8.3ポイント低く“女性が主に担う”割合が 5.7ポイント高くなっている。(図表 47)

<性・年代別>

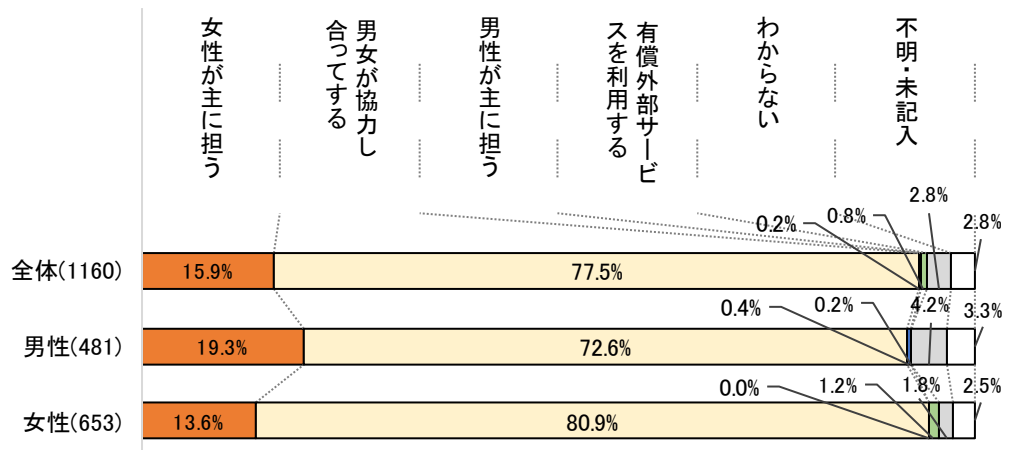
性・年代別で見ると、男女ともいずれの年代でも“男女が協力し合っている”割合が最も高くなっているが、10代を除いて、概ね女性よりも男性で“男女が協力し合っている”割合が低く、“女性が担う”とする割合が高い傾向がみられる。(図表 48)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、“男女が協力し合っている”割合が、今回調査 77.5%、前回調査 78.6%でいずれも高く、次いで“女性が主に担う”が今回調査 15.9%、前回調査 13.1%であり、全体として同傾向となっている。(図表 49)

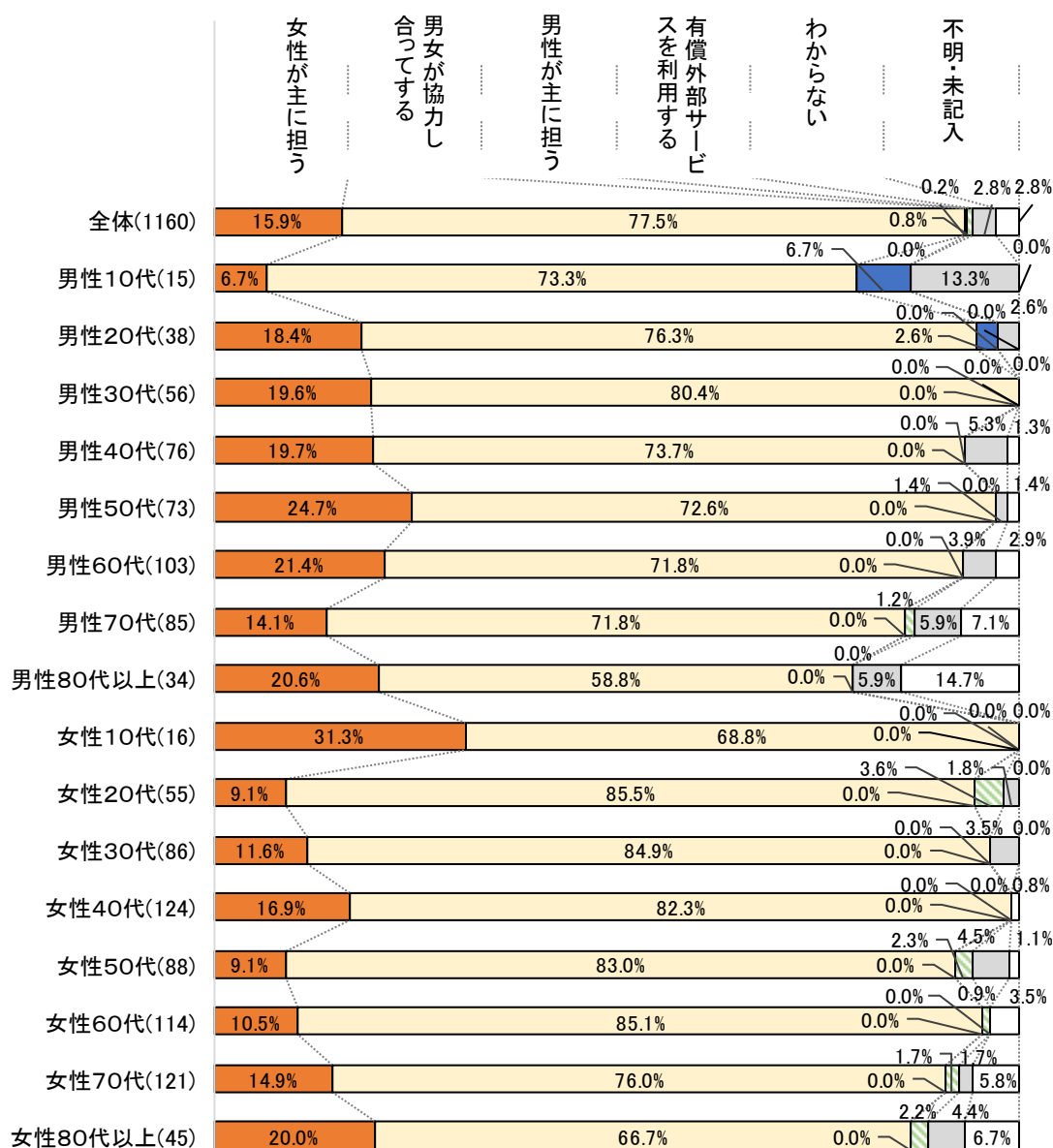
■図表 47 育児の役割(全体・性別)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。イ) 育児 (SA)



■図表 48 育児の役割(性・年代別)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。イ) 育児 (SA)

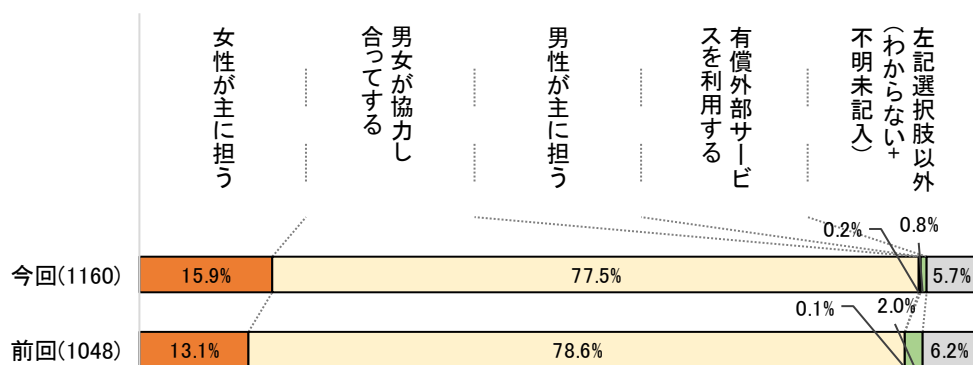


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため（nが30以下）参考値。

■図表 49 育児の役割(前回比較)

今回: 問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。イ) 育児 (SA)

前回: 問5. あなたは、家事、育児、介護の役割について、どのように考えていますか。(○はそれぞれ1つ)イ) 育児



※今回調査の「わからない+不明未記入」=前回調査の「その他+不明・未記入」を「左記選択肢以外」として集計している。

③ 介護の役割

- ◎介護では“男女が協力し合っている”意見が最も多く 6 割弱。次いで“有償外部サービスを利用する”が 2 割台半ば。女性は男性より“有償外部サービスを利用する”と答えた割合が高い傾向。
- ◎いずれの性年代でも“男女が協力し合っている”意見が最も多い。
- ◎前回と比較すると、“有償外部サービスを利用する”とする割合が減少。

<全体・性別>

全体で見ると、“男女が協力し合っている”割合が最も高く 57.7%。次いで“有償外部サービスを利用する”が 25.3%。“女性が主に担う”は 5.4%で“男性が主に担う”は 1%に満たない。

性別に見ると、男女ともに“男女が協力し合っている”割合が最も高く、次いで“有償外部サービスを利用する”が続くが、“有償外部サービスを利用する”の割合は男性 21.8%、女性 27.3%と女性で 5.5 ポイント高くなっている。(図表 50)

<性・年代別>

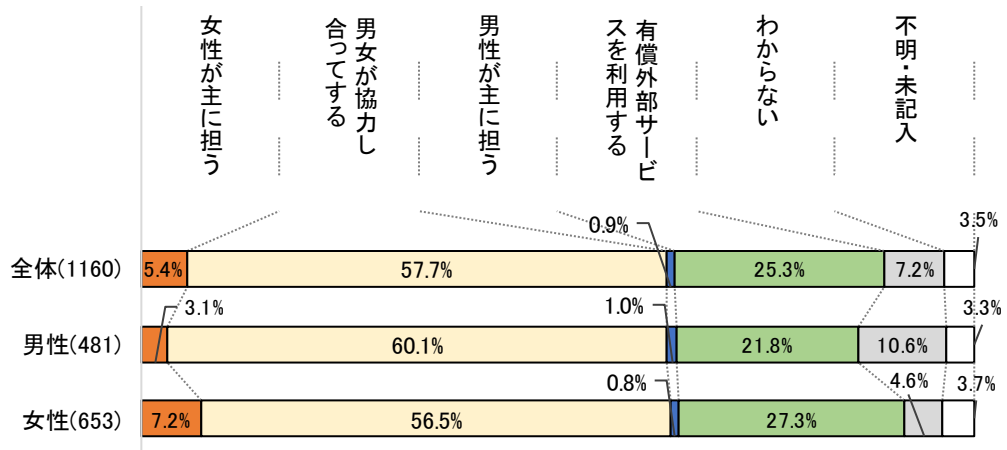
性・年代別で見ると、いずれも“男女が協力し合っている”割合が 40.0~68.8%と最も高いが、男性では“わからない”の割合が、女性に比べて概して高い傾向がみられ、女性では“女性が主に担う”の割合が高い傾向がみられる。(図表 51)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、いずれも“男女が協力し合っている”の割合が高く今回前回で値に大きな差異はないが(今回 57.7%、前回 56.0%)、“有償外部サービスを利用する”と答えた割合は、今回調査 25.3%、前回調査 34.4%と、前回より 9.1 ポイント減少している。(図表 52)

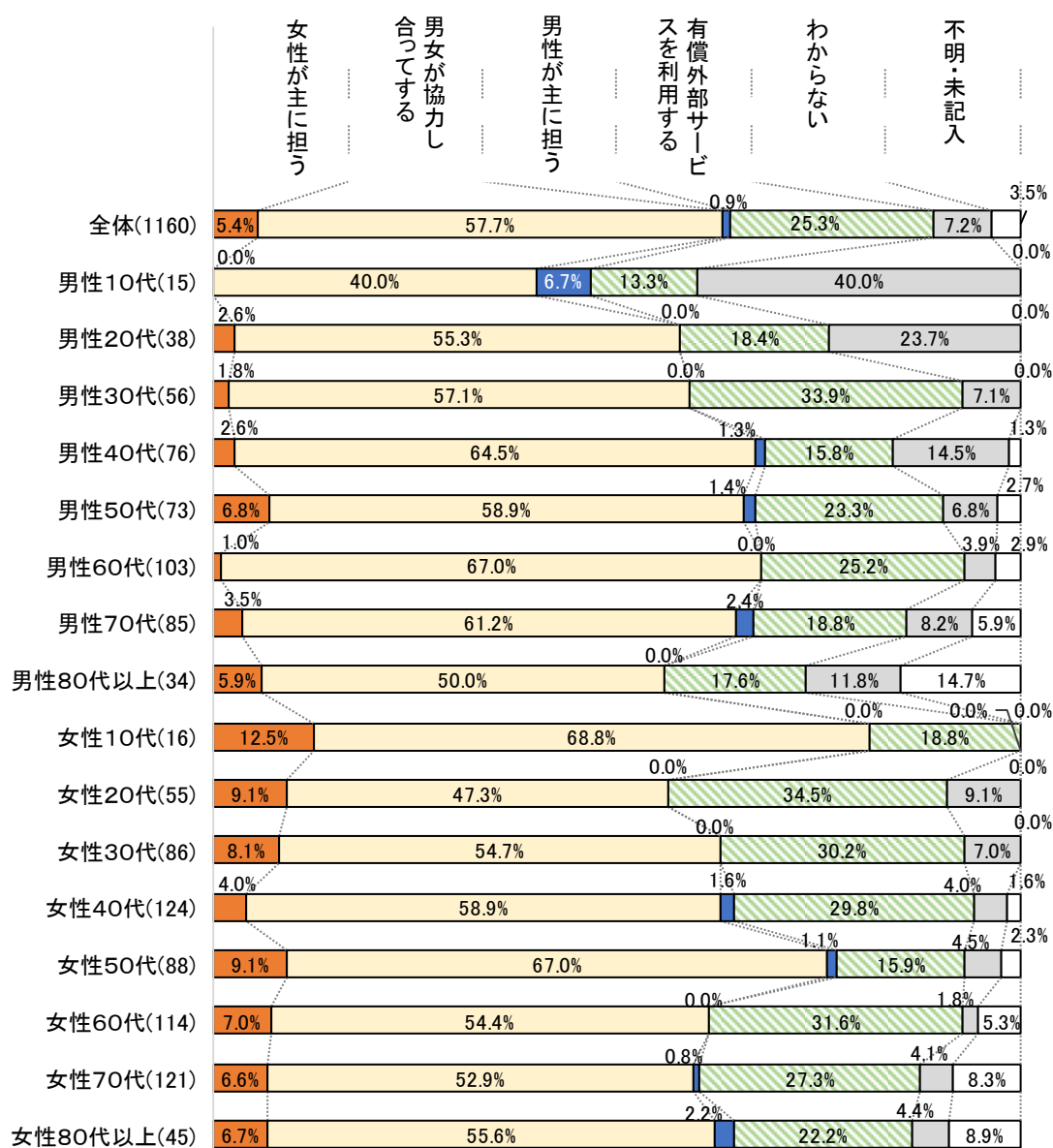
■図表 50 介護の役割(全体・性別)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。ウ)介護(SA)



■図表 51 介護の役割(性・年代別)

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。ウ)介護(SA)

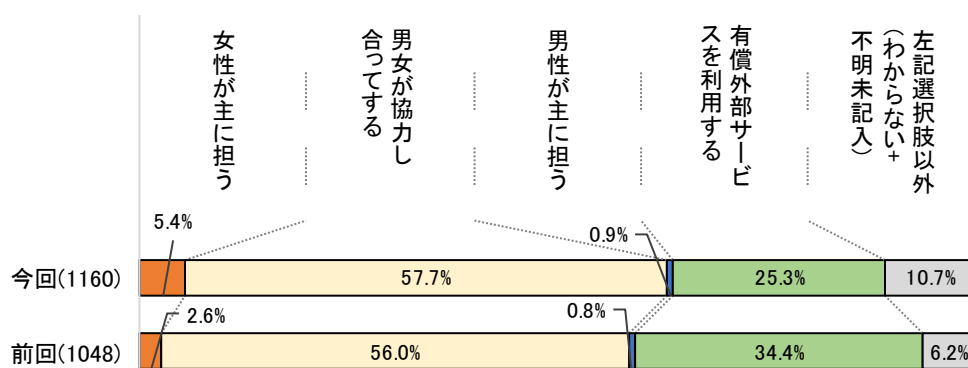


※男女ともに10代は、回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

■図表 52 介護の役割(前回比較)

今回:問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。ウ)介護(SA)

前回:問5. あなたは、家事、育児、介護の役割について、どのように考えていますか。(○はそれぞれ1つ)ウ)介護



※今回調査の「わからない+不明未記入」=前回調査の「その他+不明・未記入」を「左記選択肢以外」として集計している。

(2)子どもを産み、育てやすくする環境を作るために必要なこと(問6)

◎“職場環境づくりが必要”とする意見が最も多く6割強。次いで“子育て世帯への経済的支援”、“安全なまちづくり”、“保育施設の拡充”、“育児に対する理解協力”、“長時間保育・病児保育”などが5割前後で続く。

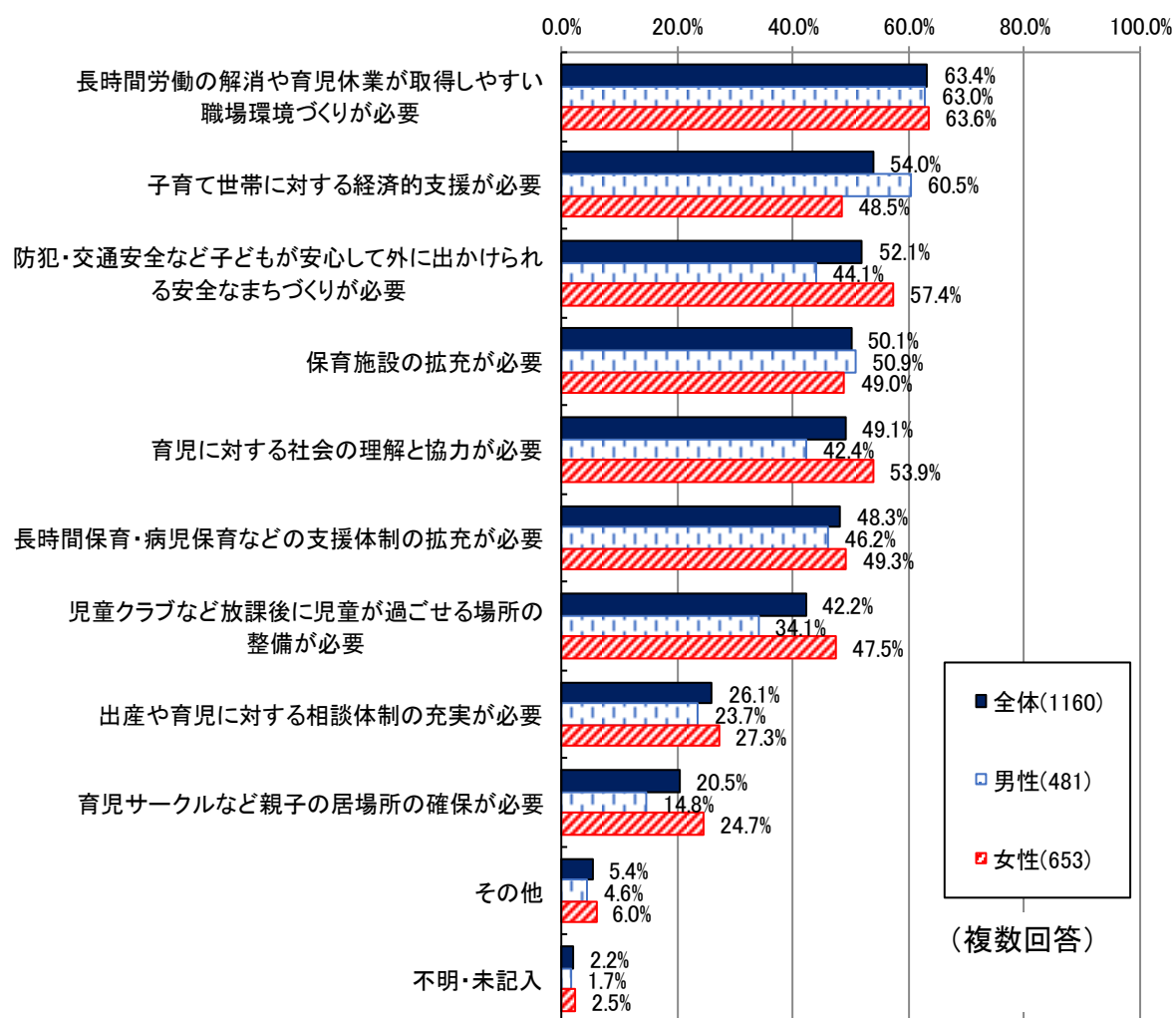
<全体・性別>

全体で見ると、“長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要”の割合が最も高く63.4%。次いで“子育て世帯に対する経済的支援が必要”で54.0%、“防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要”が52.1%、“保育施設の拡充が必要”が50.1%、“育児に対する社会の理解と協力が必要”が49.1%、“長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要”が48.3%と続く。

性別にみると、男女ともに“長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要”の割合が最も高いが、男性では“子育て世帯に対する経済的支援”の割合が次に高く、女性の値を12ポイント上回る。他方、女性で割合が高いのは“防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要”で57.4%、次いで“育児に対する社会の理解と協力が必要”が53.9%と、それぞれ男性を13.3ポイント、11.5ポイント上回る。(図表 53)

■図表 53 子どもを産み、育てやすくする環境を作るために必要なこと(全体・性別)

問6. 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

・ 出産にかかる費用の経済的支援／保育士の労働環境の見直し など

3. 就労意識について

(1) 育児や介護の休暇・休業制度の認知と利用状況(問7-1)

① 育児休業の認知と利用状況

- ◎育児休業では“制度を知っていたが不必要だったので利用していない”割合が最も高く 4 割強。“制度を知っていて利用した”割合は 1 割未満。
- ◎男性で“制度を知っていて必要だったが利用していない”と“制度を知らない”の割合が女性より高い傾向。
- ◎職業別で、制度を利用した割合が低いのは、商工業・サービス業の自営主等と、パートなどの非正規職員。

<全体・性別>

全体で見ると、“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合が最も高く 44.9%。次いで“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”が 17.5%、“制度を知らない”が 16.1%であり、“制度を知っていて利用した”割合が最も低く 6.9%となっている。

性別にみると、男女ともに“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合が最も高く 45%前後となっているが、男性では女性よりも“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”と“制度を知らない”の割合が、それぞれ 7.4 ポイント、5.4 ポイント高くなっている。ほか“制度を知っていて利用した”と回答した割合は、女性 10.1%に対し男性 2.5%で、7.6 ポイントの差がみられる。(図表 54)

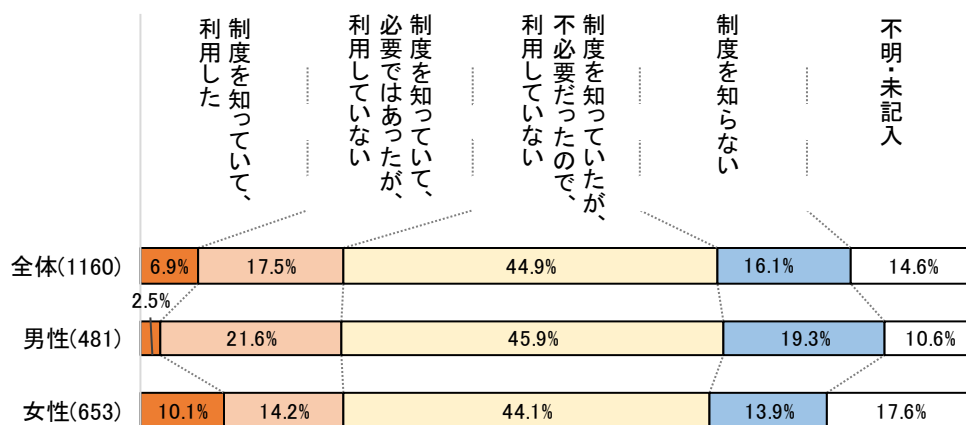
<職業別>

職業別にみると、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」や「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」、「パート、アルバイト、派遣社員」「家事専業」「学生」では“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合が最も高く約半数前後となっている。他方、「商工業・サービス業の自営主、家族従業者」では“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”と“制度を知らない”が同率である。

また“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”割合は、いずれの職業でも 10~20%前後、“制度を知っていて、利用した”割合は、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」11.6%、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」で 6.8%、「パート、アルバイト、派遣社員」で 5.0%、「商工業・サービス業の自営主・家族従業者」で 4.2%という状況にある。(図表 55)

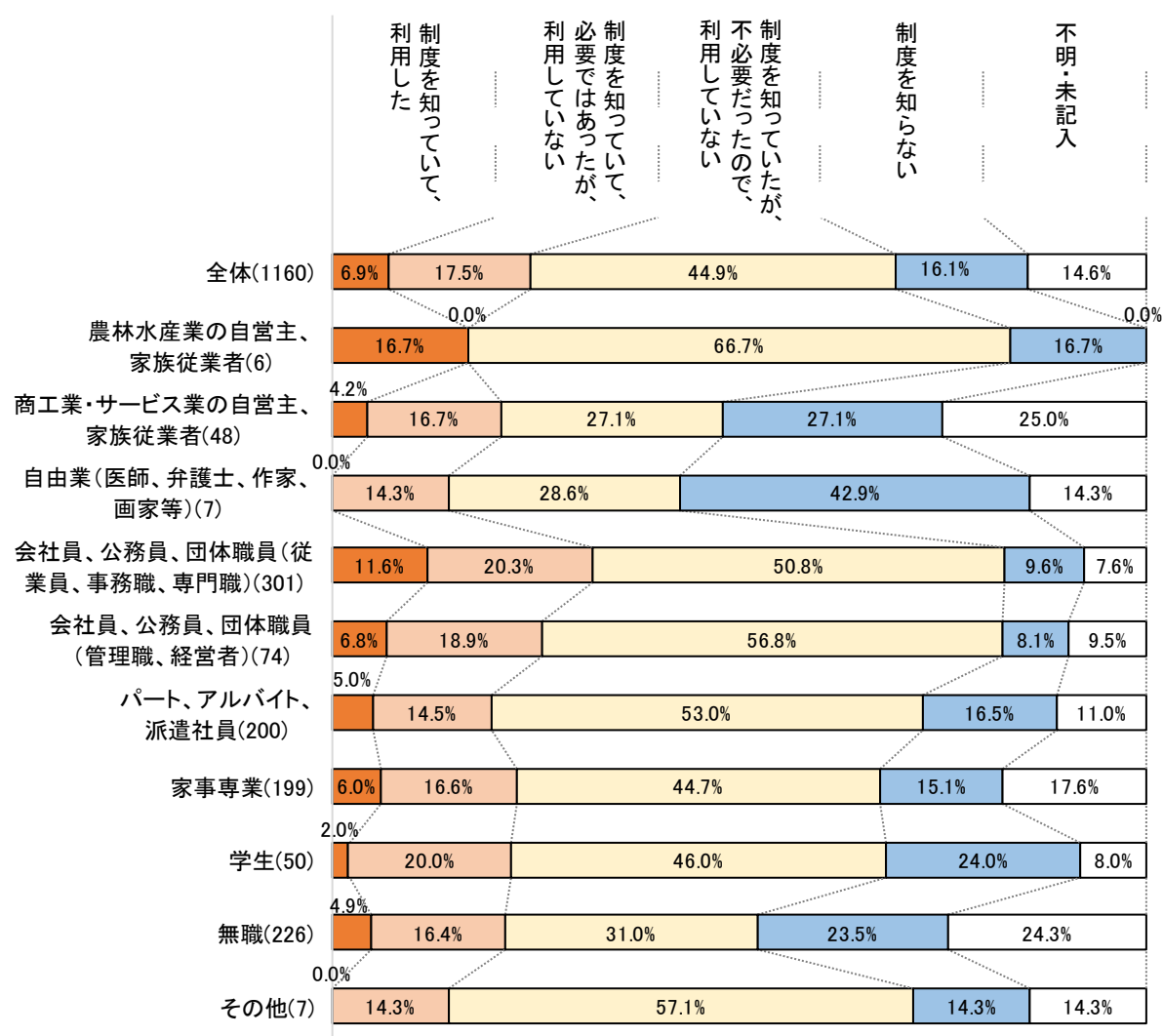
■図表 54 育児休業の認知と利用状況(全体・性別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ア) 育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)(SA)



■図表 55 育児休業の認知と利用状況(職業別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ア)育児休業(育児のために一定期間休業できる制度)(SA)



※「農林水産業の自営主、家族従業者」「自由業(医師、弁護士、作家、画家等)」「その他」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

② 子の看護休暇の認知と利用状況

- ◎子の看護休暇では、“制度を知っていたが不必要だったので利用していない”と、“制度を知らない”の割合が3割以上を占める。この傾向は男女ともに同様。
- ◎職業別では、商工業・サービス業の自営主等と、パートなどの非正規雇用者で“制度を知らない”割合が高く“制度を利用した”割合が低い傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、“制度を知っていたが、不必要だったので、利用していない”が35.0%。ついで“制度を知らない”が31.0%、“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”が15.4%、“制度を知っていて利用した”が2.9%となっている。

性別にみても、男女ともに“制度を知っていたが、不必要だったので、利用していない”と“制度を知らない”の割合が高く、概ね全体と同様の傾向となっている。(図表 56)

<職業別>

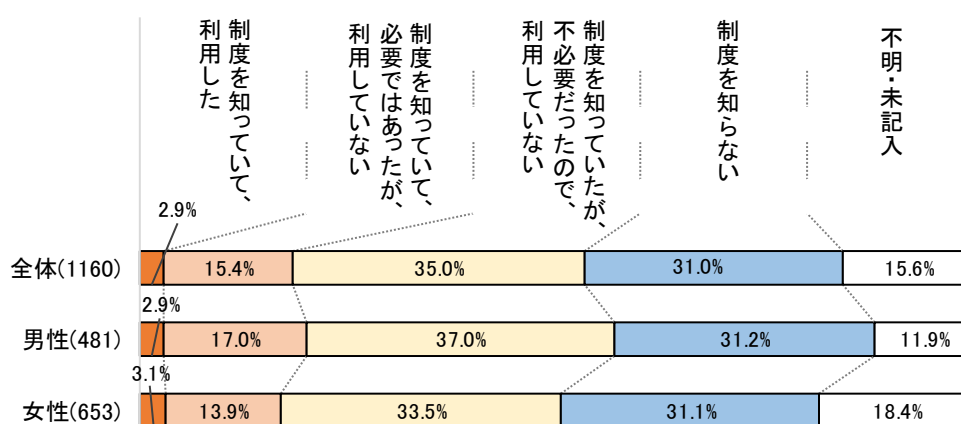
職業別にみると、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」や「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」では“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合が最も高くそれぞれ48.6%、40.9%で、“制度を知らない”割合は24.3%、23.9%であるが、同じく企業等で働く「パート、アルバイト、派遣社員」では“制度を知らない”と“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”がそれぞれ39.0%、39.5%と高い傾向にある。

“制度を知っていて、利用した”割合は、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」7.0%、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」で5.4%、「パート、アルバイト、派遣社員」で1.0%であり、“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”割合は、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」20.3%、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」で12.2%、「パート、アルバイト、派遣社員」で10.0%と、いずれも非正規雇用者での割合が低くなっている。

他方、「商工業・サービス業の自営主、家族従業者」では“制度を知らない”と“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合がそれぞれ33.3%、27.1%と拮抗しており、“制度を知っていて、利用した”は0.0%、“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”割合は16.7%という状況にある。(図表 57)

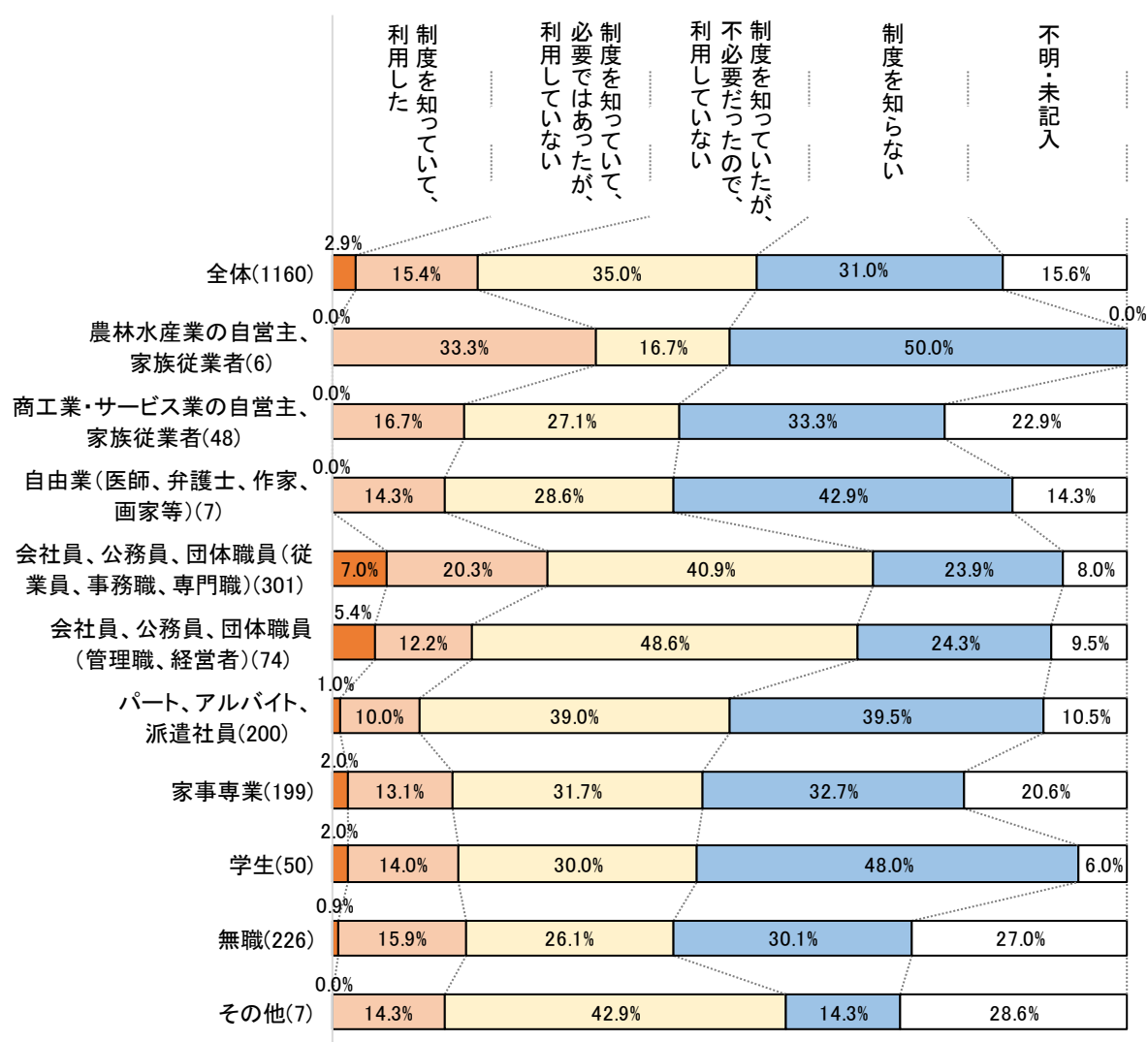
■図表 56 子の看護休暇の認知と利用状況(全体・性別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。イ)子の看護休暇(病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)(SA)



■図表 57 子の看護休暇の認知と利用状況(職業別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。イ)子の看護休暇(病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇)(SA)



※「農林水産業の自営主、家族従業者」「自由業(医師、弁護士、作家、画家等)」「その他」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

③ 介護休業の認知と利用状況

- ◎介護休業では、“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合が最も高く約 4 割を占めるが、“制度を知らない”も 3 割に上る。
- ◎男性で“制度を知らない”割合が女性より高い傾向。
- ◎商工業の自営主等で“制度を知らない”が 4 割を超える。

<全体・性別>

全体で見ると、“制度を知っていたが、不必要だったので、利用していない”の割合が最も高く 39.1%。次に“制度を知らない”割合が高く 30.2%。“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”が、14.6%。“制度を知っていて利用した”は 0.9%となっている。

性別にみても、男女ともに“制度を知っていたが、不必要だったので、利用していない”の割合が全体と同様に最も高いが、“制度を知らない”の割合は、男性 33.1%、女性 27.7%と男性の方が 5.4 ポイント高くなっている。(図表 58)

<職業別>

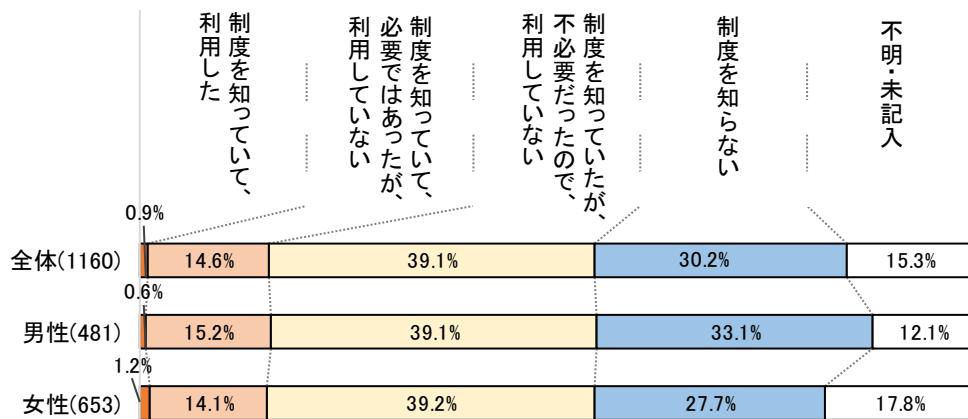
職業別にみると、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」や「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」では“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合が最も高く過半数で、“制度を知らない”割合は 20%前後、「パート、アルバイト、派遣社員」や「家事専業」でも“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合は最も高いが、“制度を知らない”割合も、それぞれ 34.5%、30.2%と高くなっている。

一方、“制度を知っていて、利用した”割合は、「パート、アルバイト、派遣社員」で 2.0%、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」で 1.4%、「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」で 0.7%といずれも著しく低く、“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”は「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」で 17.3%、「パート、アルバイト、派遣社員」で 13.5%、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」で 9.5%という状況にある。

他方、「商工業・サービス業の自営主、家族従業者」では、会社員等と比べて“制度を知らない”割合が高く 41.7%、“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”割合は低くて 22.9%という状況にある。また“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”割合は 16.7%となっている。(図表 59)

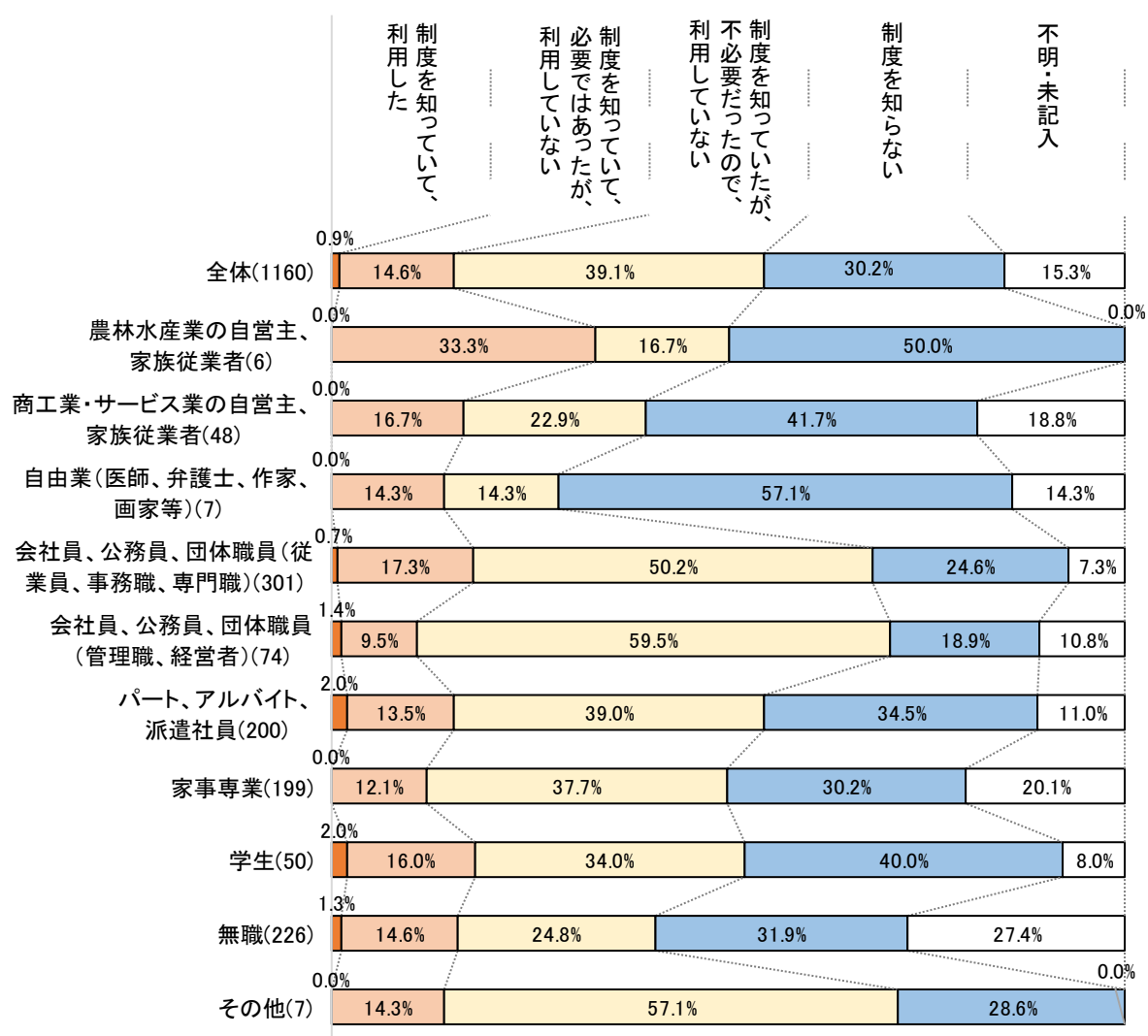
■図表 58 介護休業の認知と利用状況(全体・性別)

問7ー1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ウ)介護休業(介護のために一定期間休業できる制度)(SA)



■図表 59 介護休業の認知と利用状況(職業別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ウ)介護休業(介護のために一定期間休業できる制度)(SA)



※「農林水産業の自営主、家族従業者」「自由業(医師、弁護士、作家、画家等)」「その他」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

④ 介護休暇の認知と利用状況

- ◎介護休暇では、“制度を知っていたが不必要だったので利用していない”と、“制度を知らない”の割合が3割以上と高い。この傾向は男女ともに同様。
- ◎商工業の自営主等で“制度を知らない”が4割を超える。

<全体・性別>

全体で見ると、“制度を知っていたが、不必要だったので、利用していない”が36.0%、“制度を知らない”が33.5%と3割台で、“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”が14.0%。“制度を知っていて利用した”は1.1%となっている。

男女における回答の傾向も、全体とほぼ同様の傾向になっている。(図表 60)

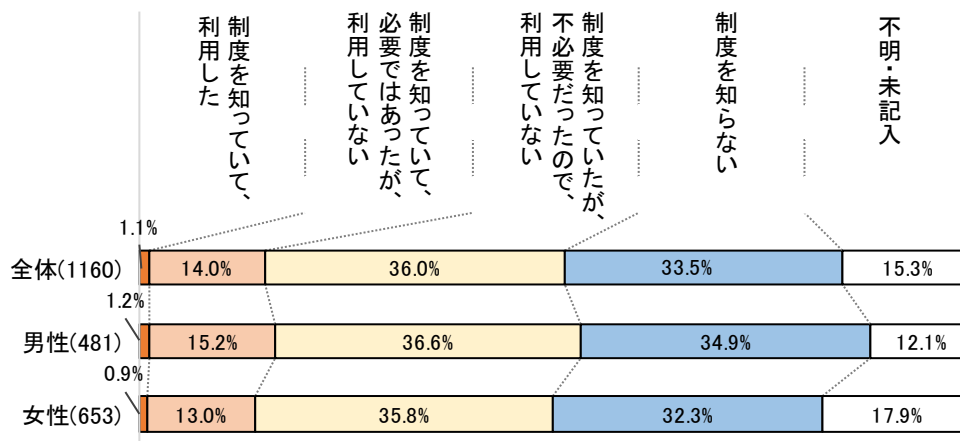
<職業別>

職業別にみると、「会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者）」や「会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職）」では、“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”が最も高く、それぞれ52.7%、46.5%だが、「パート、アルバイト、派遣社員」や「家事専業」では、“制度を知っていたが、不必要だったので利用していない”と“制度を知らない”の割合が34.7～40.0%とほぼ同割合となっている。また「商工業・サービス業の自営主、家族従業者」では“制度を知らない”割合が41.7%と最も高い。

なお、いずれの職業でも“制度を知っていて、利用した”割合は2.0%以下と極めて低いが、“制度を知っていて、必要ではあったが利用していない”割合は10.8～17.3%と一定の割合を占める。(図表 61)

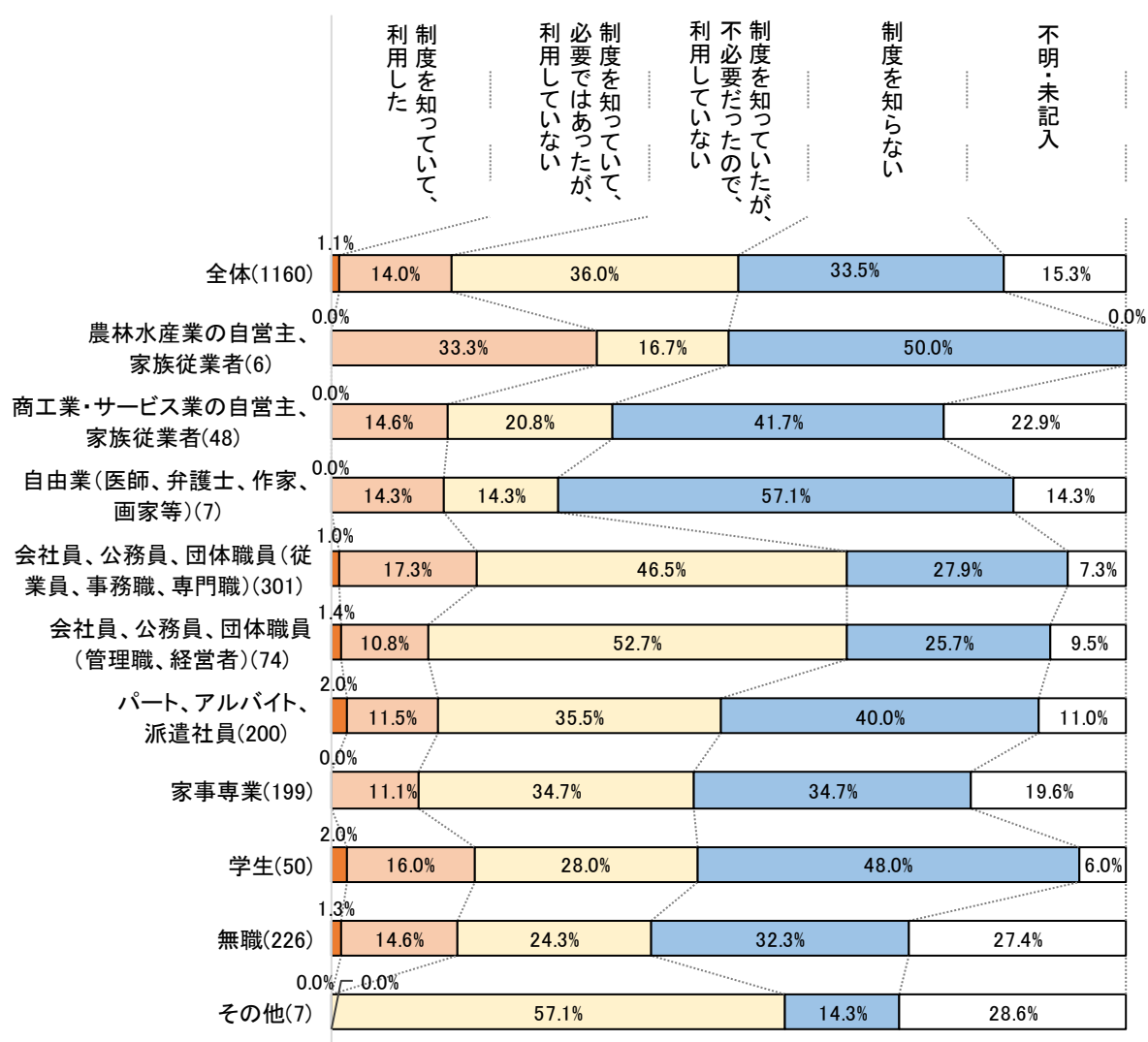
■図表 60 介護休暇の認知と利用状況(全体・性別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。工)介護休暇(短期の介護のための年5日程度の休暇)(SA)



■図表 61 介護休暇の認知と利用状況(職業別)

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度(社内規定)を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。工)介護休暇(短期の介護のための年5日程度の休暇)(SA)



※「農林水産業の自営主、家族従業者」「自由業(医師、弁護士、作家、画家等)」「その他」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

(2) 育児や介護の休暇・休業制度を利用しなかった理由(問7-2)

◎“制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから”が最も多く過半数を占める。

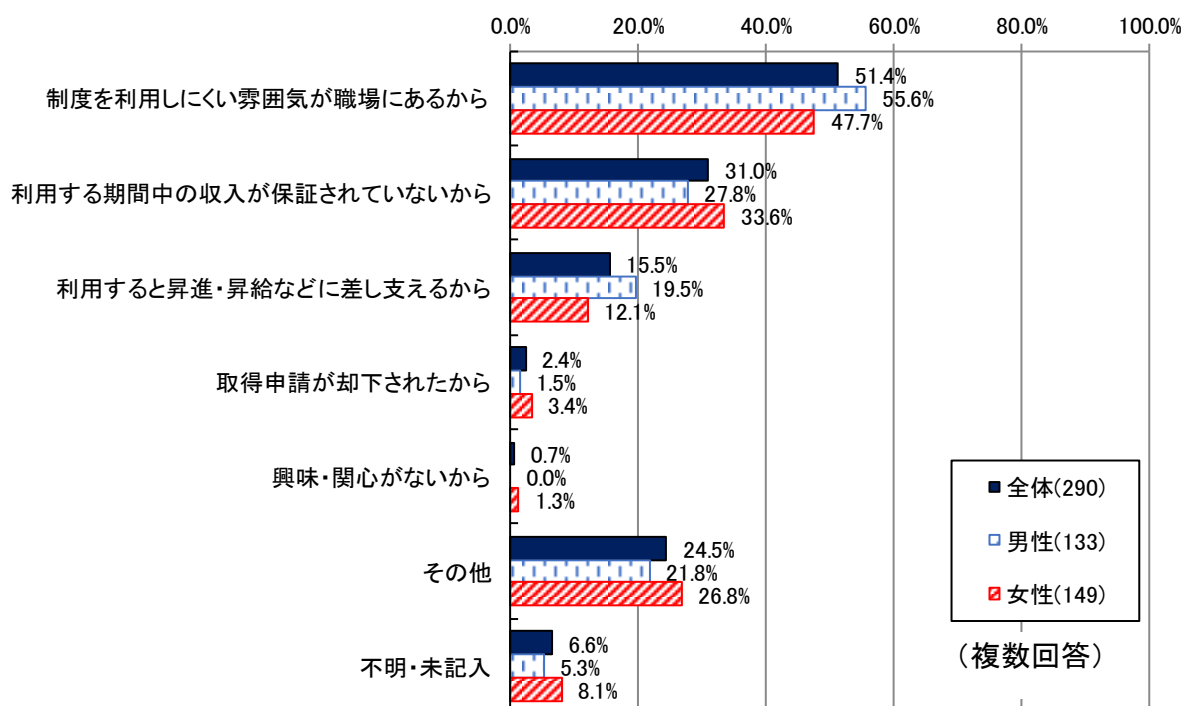
<全体・性別>

全体で見ると、“制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから”の割合が最も高く 51.4%、次に割合が高いのは“利用する期間中の収入が保証されていないから”で 31.0%、“その他”が 24.5%、“利用すると昇進・昇給などに差し支えるから”が 15.5%と続く。なお“その他”の主な内訳としては「制度ができる前だった」「仕事が忙しいから」「有給で休みをとる」等が挙げられている。

性別にみると、男女ともに多い順は同じで値も同様の項目が多いが、“制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから”と“利用すると昇進・昇給などに差し支えるから”では、男性の方が女性よりそれぞれ 7.9 ポイント、7.4 ポイント高くなっている。(図表 62)

■図表 62 育児や介護の休暇・休業制度を利用しなかった理由(全体・性別)

問7-2. 前問で2を1つでも選んだ方に伺います。その主な理由に当てはまるものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

・制度ができる前だった／仕事が忙しいから／有給で休みをとる など

(3) 現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(就労経験あり)(問8-1)

◎現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由は“定年”が最も多く約 4 割。

◎男性では“定年”を理由とする人が最も多く約 8 割を占めるが、女性では“結婚・出産などで退職するのが慣習だった”、“定年”、“子育てに専念したかった”などで 2 割前後と理由が多様な状況にある。

<全体・性別>

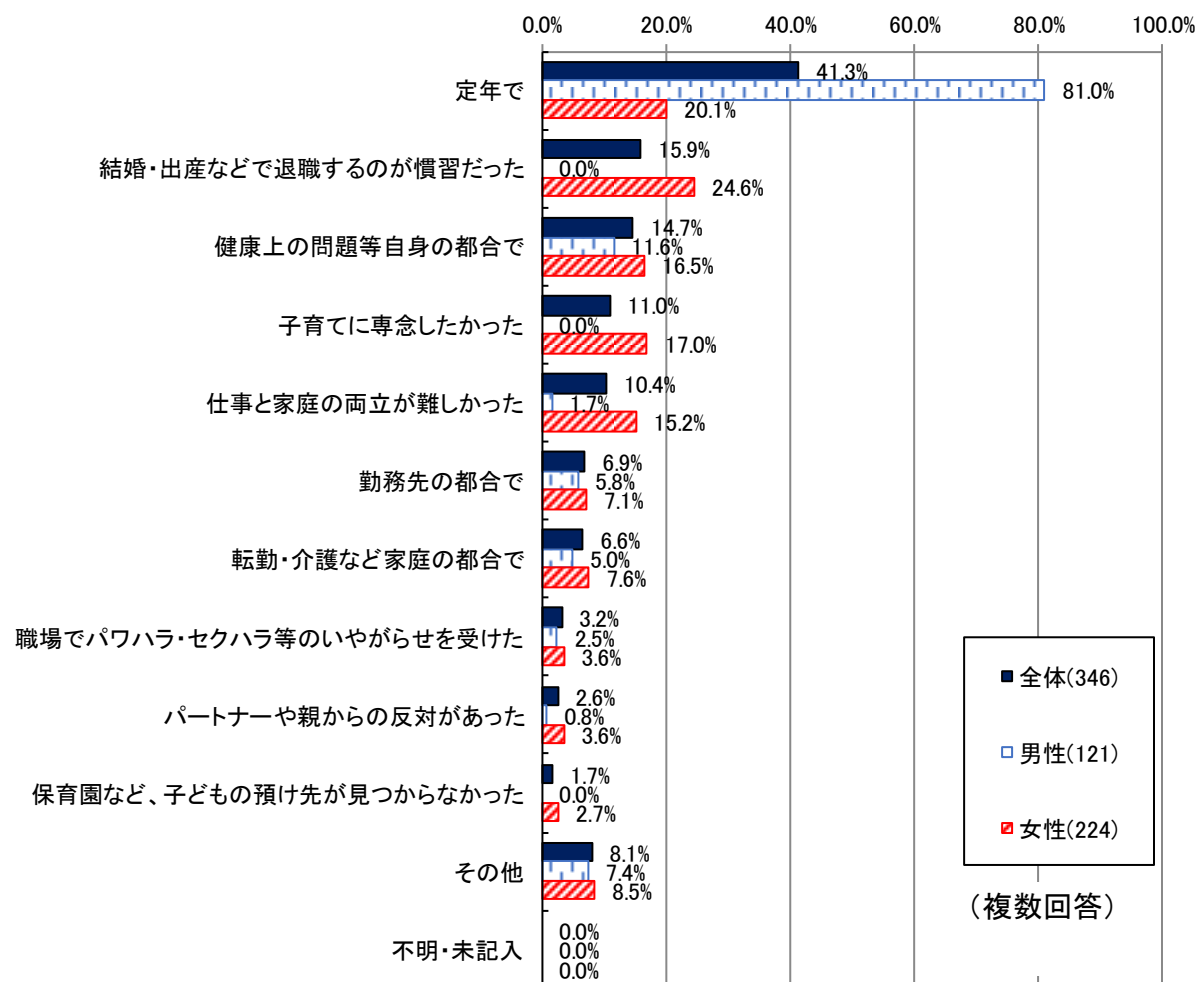
全体で見ると、もっとも多かった理由は“定年”で、41.3%。次いで“結婚・出産などで退職するのが慣習だった”が 15.9%、“健康上の問題等自身の都合”が 14.7%と続く。

性別にみると、男性では“定年”の割合が最も高く 81.0% 占め、他の項目は約 1 割程度と少ないが、女性では、“結婚・出産などで退職するのが慣習だった”が 24.6%、“定年”が 20.1%、“子育てに専念したかった”が 17.0%、“健康上の問題等自身の都合”が 16.5%、“仕事と家庭の両立が難しかった”が 15.2%と並んでおり、離職の理由が多様な状況にある。

また、“結婚・出産などで退職するのが慣習だった”、“子育てに専念したかった”、“仕事と家庭の両立が難しかった”の男性の割合は0.0～1.7%と極めて低く、女性特有の理由であると捉えられる。(図表 63)

■図表 63 現在、仕事をしていない人の仕事を辞めた理由(全体・性別)

問8-1. 以前働いたことがあるが、現在無職の方に伺います。仕事を辞めた理由について当てはまるものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・職場の人間関係／主婦業に専念したかった など

(4) 現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(就労経験あり)(問8-2)

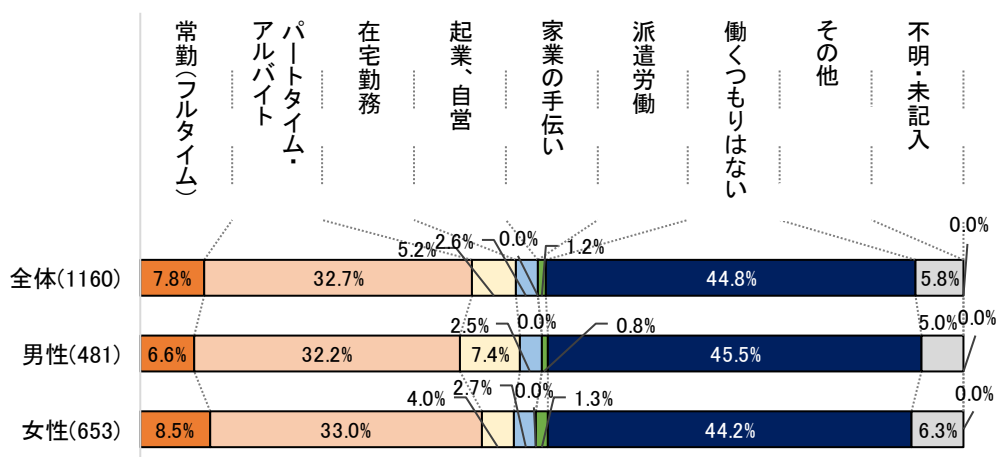
◎現在、仕事をしていない人の希望する就労形態は“働くつもりはない”が最も多く 4 割台半ば。次いで“パートタイム・アルバイト”が 3 割強。この傾向は、男女でみても同様。

<全体・性別>

全体で見ると、“働くつもりはない”の割合が最も高く 44.8%、次いで“パートタイム・アルバイト”が 32.7%と続く。ほか“常勤(フルタイム)”は 7.8%、“在宅勤務”が 5.2%、そのほかの項目は“その他”を除き 0~3%程度となっている。なおこの傾向は、性別にみても変わらない。(図表 64)

■図表 64 現在、仕事をしていない人の希望する就労形態(全体・性別)

問8-2. 今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいと考えていますか。当てはまるものを1つ選んでください。(SA)



【主なその他回答】

- ・ボランティア/高齢であるため働けない など

(5) 現在、働いていない人の就労の動機(就労経験なし)(問9)

◎現在、働いていない人の就労の動機で最も多かったのは“働きたい仕事に出会えたら”で 5 割弱。次いで“経済的に必要になったら”が 3 割強。

◎男性では女性より“経済的に必要になったら”の割合が高い。

<全体・性別>

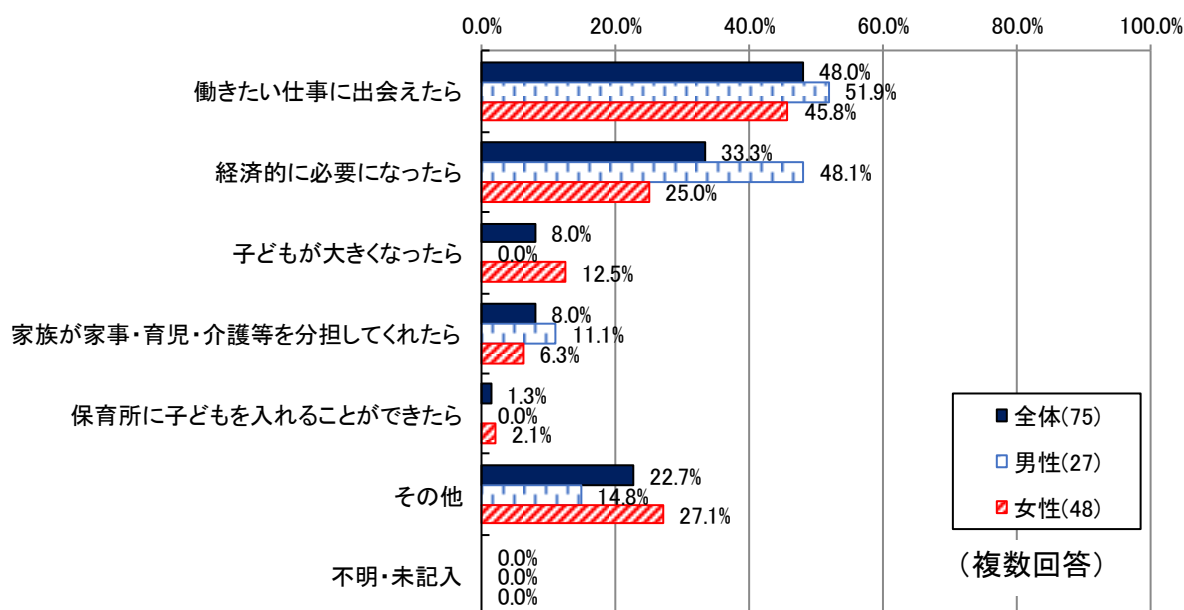
全体で見ると、“働きたい仕事に出会えたら”の割合が最も高く 48.0%。次いで“経済的に必要になったら”が 33.3%、“その他”が 22.7%と続く。

性別にみると、男女ともに最も多いのは“働きたい仕事に出会えたら”であるが、男性では“経済的に必要になったら”の割合も高く 48.1%で約半数を占め、女性は“その他”が 27.1%、“経済的に必要になったら”が 25.0%、“子どもが大きくなったら”が 12.5%と分散している。

なお“その他”の主な内訳としては「学校を卒業したら」「年齢的に無理」「働くつもりはない」等となっている。(図表 65)

■図表 65 現在、働いていない人の就労の動機(全体・性別)

問9. 今まで働いたことのない方に伺います。どのようなきっかけがあれば働いてみたいと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

・学校を卒業したら／年齢的に無理／働くつもりはない など

(6) 女性が社会で働くことについての考え方(問10)

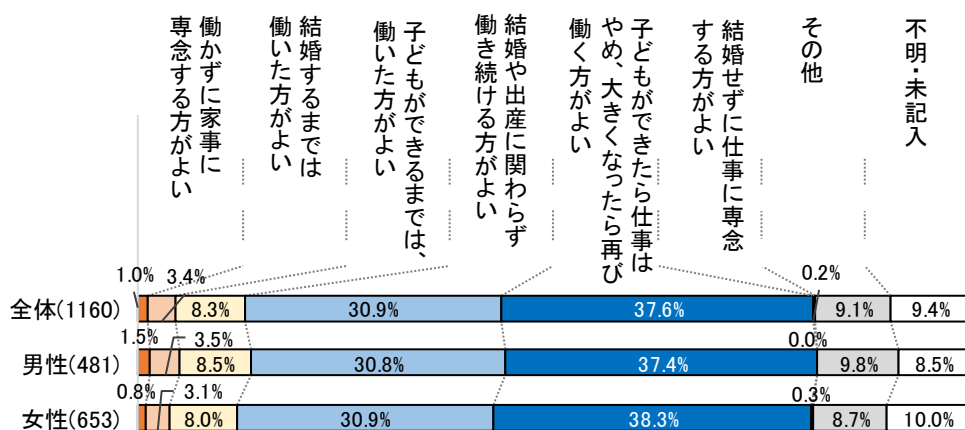
◎“子どもができれば仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい”が最も多く4割弱。
◎性別にみても同傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、“子どもができれば仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい”の割合が最も高く37.6%。次いで“結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい”で30.9%が続く。ほか“子どもができるまでは働いたほうがよい”は8.3%、“結婚するまでは働いた方がよい”と“働かずに家事に専念する方がよい”はそれぞれ3.4%、1.0%で5%以下となっている。これらの傾向は男女でも同様で差異は見られない。(図表 66)

■図表 66 女性が社会で働くことについての考え方(全体・性別)

問10. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(SA)



【主なその他回答】

・個人の自由／働きたいときに働けばよい／家事に専念したいが経済的に困難 など

(7) 男性が社会で働くことについての考え方(問11)

- ◎“結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい”が最も多く8割強。
- ◎性別にみても同傾向。

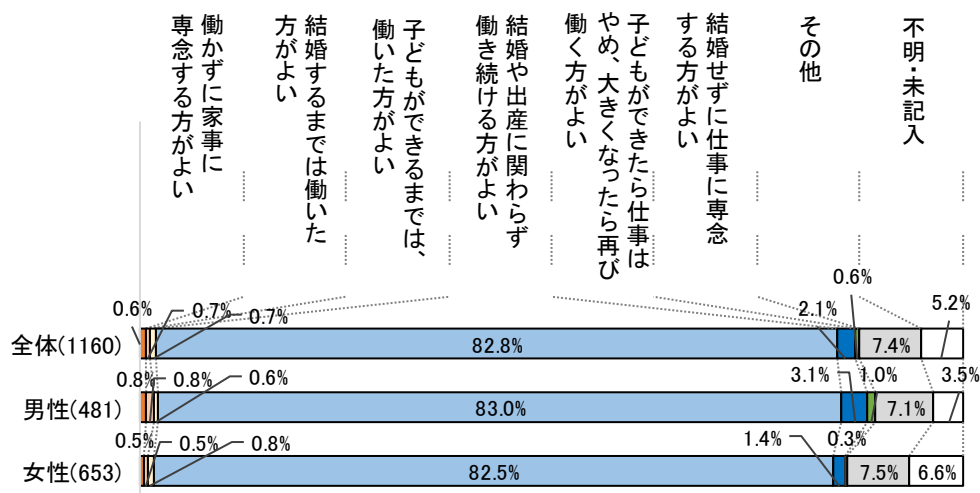
<全体・性別>

全体で見ると、“結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい”の割合が最も高く82.8%であり、“その他”を除いた他の項目では数%と極めて低い値となっている。

性別にみても、回答の傾向は同様である。(図表 67)

■図表 67 男性が社会で働くことについての考え方(全体・性別)

問11. 男性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(SA)



【主なその他回答】

- ・個人の自由／個々の事情による／パートナーと話し合う など

◆社会で働くことにおける男女の違い

社会で働くことについて、男性に対する考えと女性に対する考えの違いを見てみると、男性に対しては“結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい”とする意見が8割以上を占めるのに対し、女性に対しては3割程度にとどまる。なお女性に対しては“子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい”とする意見が最も多く4割弱を占める。

こうした傾向は男女ともに変わらず、「育児は女性が仕事をやめて行うもの」という社会通念が根強いことを伺わせる結果となっている。

(8) 職場において男女で平等でないこと(問12)

- ◎ “昇進・昇任の速さ”、“賃金の金額”、“結婚や出産時後の職場の対応”、“責任ある仕事の分担”、“育児休業・介護休業の取得しやすさ”が約3割～4割弱でほぼ並ぶ。
 ◎ 性別には、“責任ある仕事の分担”で平等感に差異がみられ、男性が女性を10ポイント上回る。

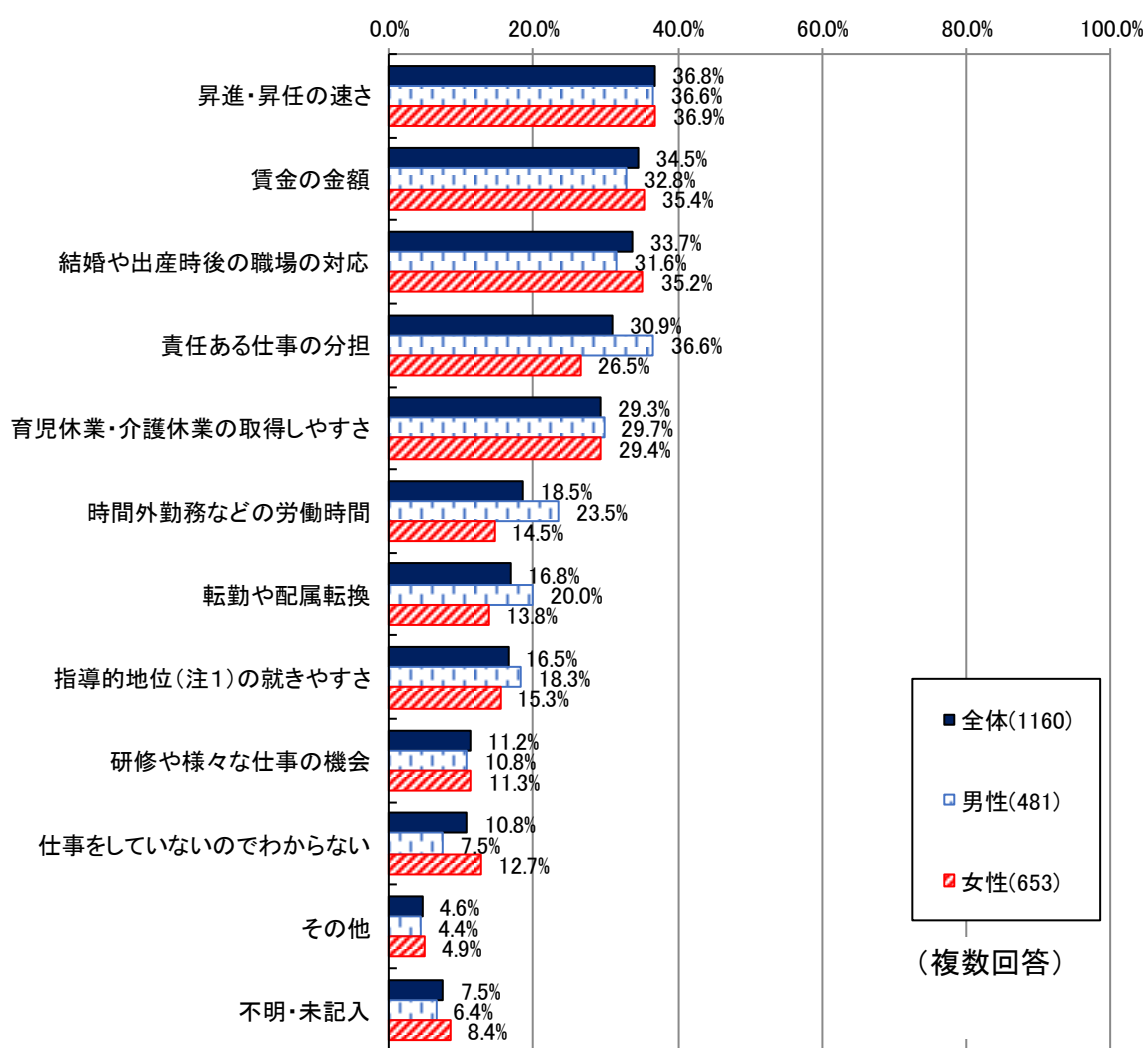
<全体・性別>

全体で見ると、“昇進・昇任の速さ”が36.8%、“賃金の金額”が34.5%、“結婚や出産時後の職場の対応”が33.7%、“責任ある仕事の分担”が30.9%、“育児休業・介護休業の取得しやすさ”が29.3%と約3～4割弱でほぼ並ぶ。

性別に見ても、ほとんどの項目の割合は男女で同様であるが、“責任ある仕事の分担”、“時間外勤務などの労働時間”、“転勤や配属転換”では、女性よりも男性で6.2～10.1ポイント高くなっている。(図表68)

■図表68 職場において男女で平等でないこと(全体・性別)

問12. 職場で男女平等ではないと思うこととして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



(注1) (1) 議会議員、(2) 法人・団体等における課長相当職以上の者、(3) 専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者。

【主なその他回答】

- ・お茶くみ、そうじなどの雑務/トイレが少ない等の環境/今の職場では感じない など

(9) 女性が働き続けるために必要な取り組み・支援(問13)

- ◎“職場の上司・同僚の理解”、“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気”といった職場での取り組みを必要とする回答が 6～7 割強が多い。次いで“保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充”が 5 割強。
- ◎性別には、“家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要”で女性が男性を約 14 ポイント上回る。

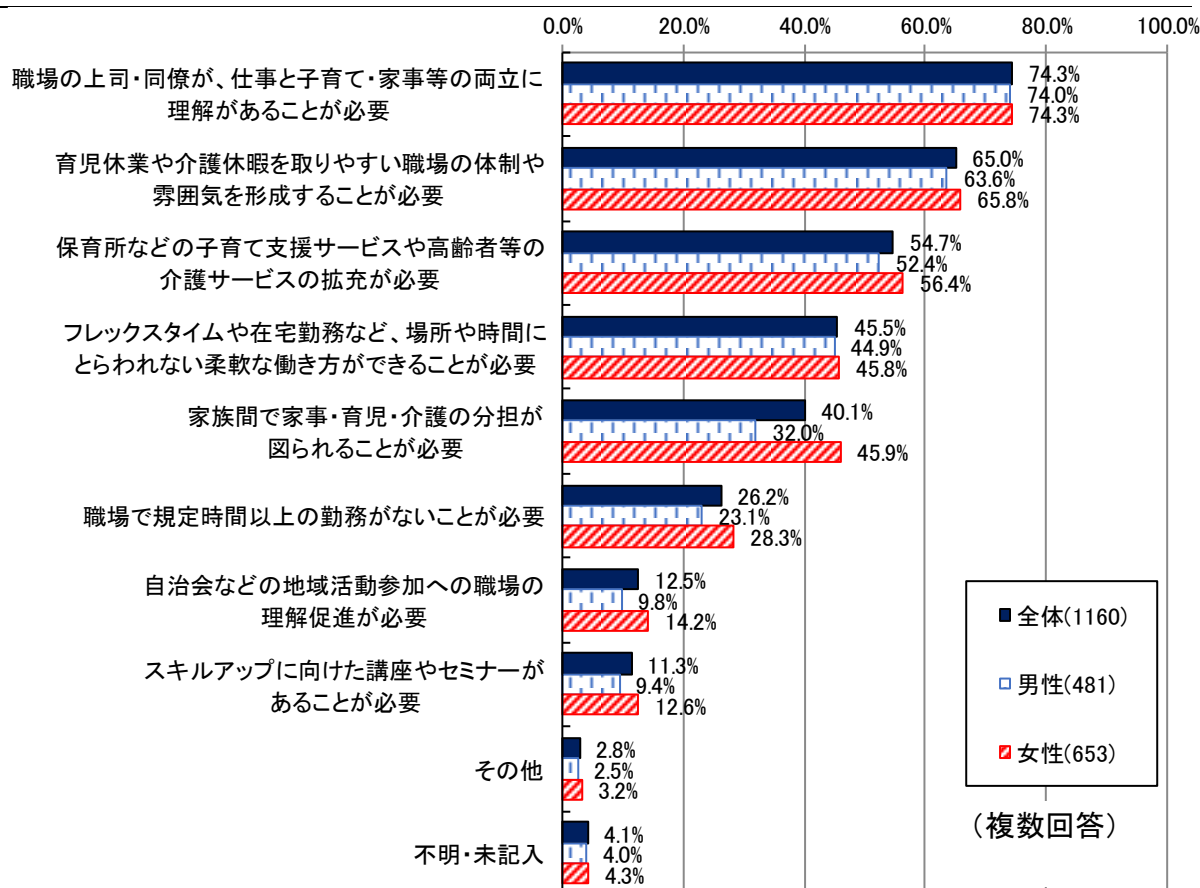
<全体・性別>

全体で見ると、“職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要”の割合が最も高く 74.3%、次いで“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気を形成することが必要”が 65.0%、“保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要”が 54.7%、“フレックスタイムや在宅勤務など、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができることが必要”が 45.5%、“家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要”が 40.1%と続く。

性別でみると、ほとんどの項目は同傾向だが、“家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要”では男性 32.0%に対し女性 45.9%と、13.9 ポイントの差がみられる。(図表 69)

■図表 69 女性が働き続けるために必要な取り組み・支援(全体・性別)

問13. 女性が働き続けるためには職場や社会、家庭等においてどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・キャリア、年齢によらずあらゆる人に教育の機会が得られること／私は育児に専念したい／短時間勤務でも可である職場の拡充 など

4. ワーク・ライフ・バランスについて

(1)「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」のバランス(問14-1、2)

① 理想のバランス

- ◎全体では、“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”と“「家庭生活」を優先したい”が 2～3 割弱で高い。
- ◎性別には、男性は“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”が最も高く 3 割であるが、女性は“「家庭生活」を優先したい”と“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”が 2 割台半ばで拮抗している。

<全体・性別>

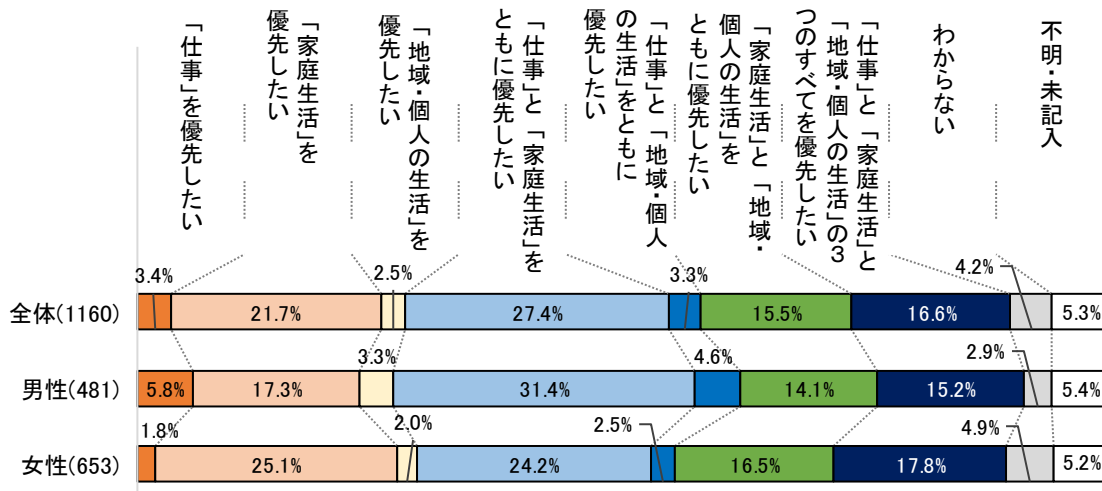
全体で見ると、“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”とする割合が最も高く 27.4%、次いで“「家庭生活」を優先したい”が 21.7%、“「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい”が 16.6%、“「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい”が 15.5%と続く。

性別にみると、男性では“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”割合が最も高く 31.4%、次いで“「家庭生活」を優先したい”が 17.3%となっているが、女性では“「家庭生活」を優先したい”と“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”がそれぞれ 25.1%、24.2%と拮抗している。

なお、“「家庭生活」を優先したい”割合は、女性が男性を 7.8 ポイント上回る。(図表 70)

■図表 70 理想のバランス(全体・性別)

問14-1. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」のバランスについて伺います。無職の方は、「家庭生活」「地域・個人の生活」の関係についてお答えください。まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つ選んでください。(SA)



② 現状のバランス

- ◎全体では“「家庭生活」を優先している”とする割合が最も高く 3 割弱。次いで“「仕事」を優先している”と“「仕事」と「家庭生活」をともに優先している”が約 2 割。
- ◎性別には、男性は“「仕事」を優先している”が、女性は“「家庭生活」を優先している”が最も高く、いずれも 3 割を超える。

<全体・性別>

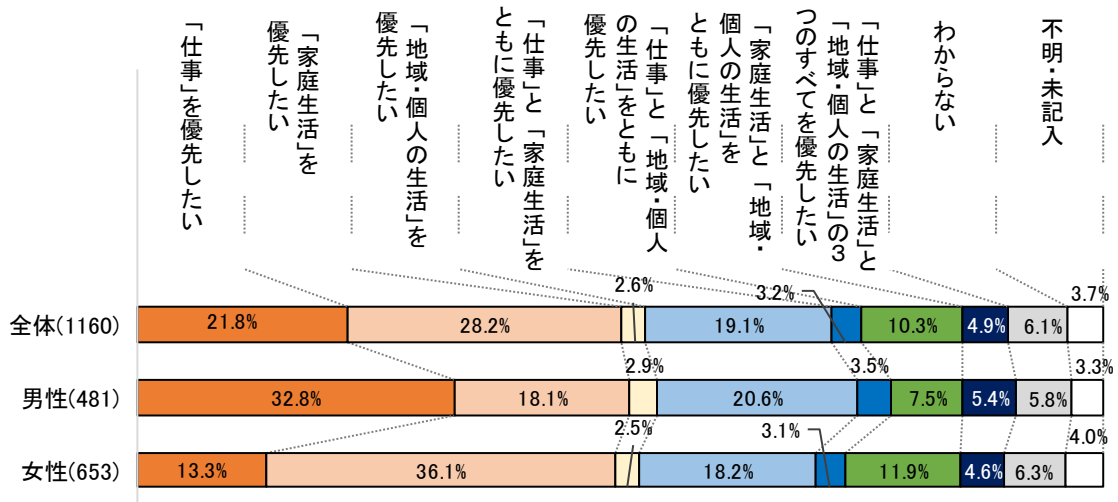
全体で見ると、“「家庭生活」を優先している”割合が最も高く 28.2%、次いで“「仕事」を優先している”が 21.8%、“「仕事」と「家庭生活」をともに優先している”が 19.1%と続く。

性別に見ると、男性では“「仕事」を優先している”割合が 32.8%で最も高く、次いで“「仕事」と「家庭生活」をともに優先している”が 20.6%、女性では“「家庭生活」を優先している”が 36.1%で最も高く、次いで“「仕事」と「家庭生活」をともに優先している”が 18.2%となっている。(図

表 71)

■図表 71 現状のバランス(全体・性別)

問14-2. それでは、あなたの現状に最も近いものをこの中から1つ選んでください。(SA)



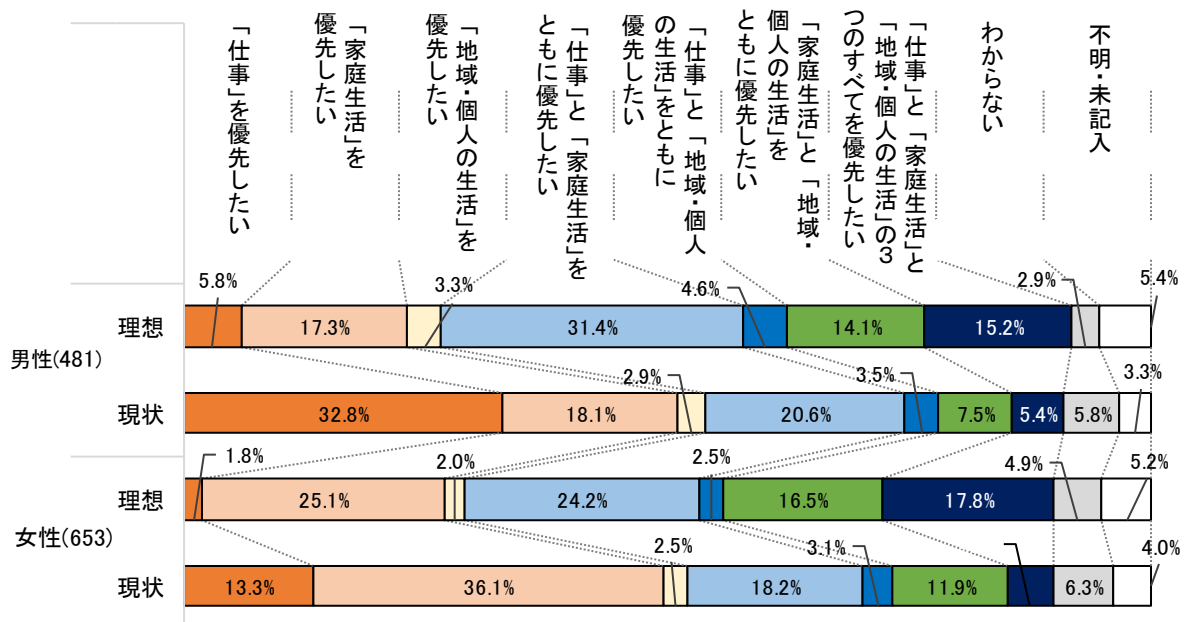
◆理想と現実のギャップについて

男性は理想では“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”割合が高いが、現実には“「仕事」を優先している”割合が高く、理想と現実乖離がみられる。また女性は、理想として“「家庭生活」を優先したい”と“「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい”割合が同様に高いが、現状では“「家庭生活」を優先している”割合が高くなっている。男性では「仕事優先」が理想5.8%に対し現状32.8%で、その差分の27.0%が仕事の優先を余儀なくされ、女性では「家庭生活優先」が理想で25.1%、現状で36.1%となり、その差分の11.0%が家庭優先を余儀なくされている状況にあると考えられる。(図表 72)

■図表 72 理想と現実のギャップ(性別)

問14-1. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」のバランスについて伺います。無職の方は、「家庭生活」「地域・個人の生活」の関係についてお答えください。まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つ選んでください。(SA)

問14-2. それでは、あなたの現状に最も近いものをこの中から1つ選んでください。(SA)



(2)一日のうち、家事・育児・介護にかかる時間(問15)

① 平日の家事にかかる時間

- ◎平日の家事の平均時間は、全体で 2.77 時間。
- ◎性別で差異が大きく、女性が男性を平均時間で 2.11 時間上回る。
- ◎性年代別には、30 代で最も男女の乖離が大きく、平均時間で女性が男性の約 7 倍。

<全体・性別>

全体で見ると、平日の家事時間は 0～3 時間が 11.9～20.0%であり、平均時間は 2.77 時間。

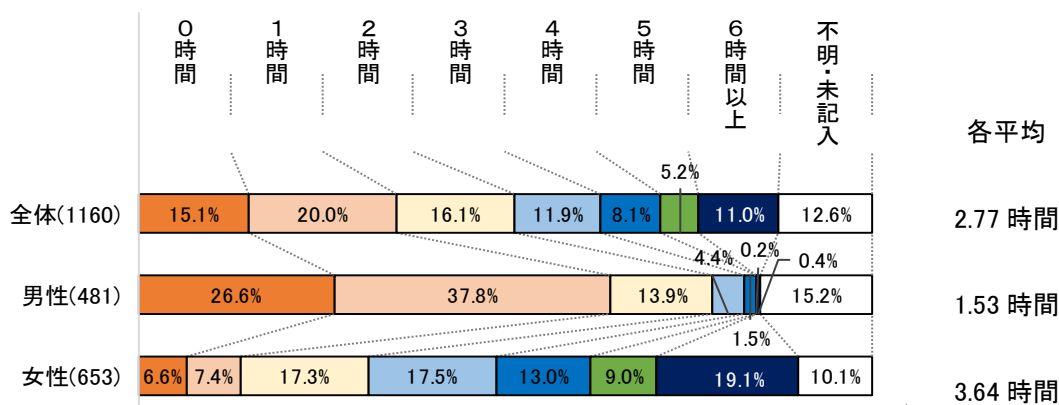
性別では、男性では 1 時間が 37.8%、0 時間が 26.6%であり、合わせると 6 割強が 1 時間以下となっているが、女性では 0 時間 6.6%、1 時間 7.4%、2 時間 17.3%、3 時間 17.5%と男性よりも長い時間の割合が高くなっている。平均時間も男性 1.53 時間に対し女性 3.64 時間で、女性の方が 2.11 時間上回る。(図表 73)

<性・年代別>

性・年代別に平均時間をみると、男性はいずれの年代も 1.5 時間以下であるが、女性では 20 代以上でいずれも 2.5 時間以上であり、20 代以上では女性が男性の平均時間を 2 倍以上上回る状況にある。特に差が大きいのは 30 代で、女性 5.33 時間に対し男性 0.78 時間と、女性が男性の 6.8 倍となっている。(図表 74)

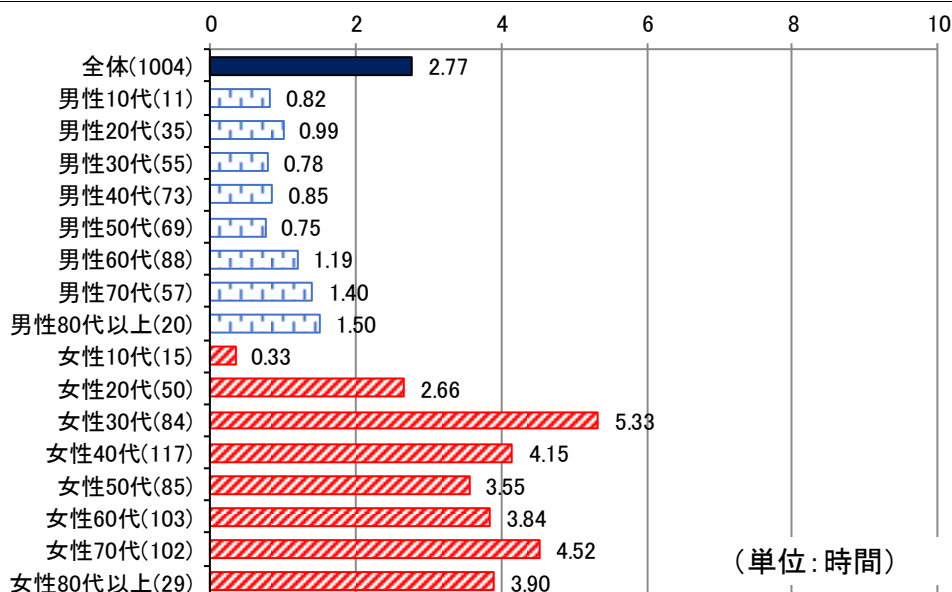
■図表 73 平日の家事にかかる時間(全体・性別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1 時間単位で数字をご記入ください。平日×家事(NA)



■図表 74 平日の家事にかかる時間(平均時間、性・年代別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1 時間単位で数字をご記入ください。平日×家事(NA)



※男女ともに 10 代と 80 代は、回答者数が少ないため (n が 30 以下) 参考値。

② 平日の育児にかかる時間

- ◎全体では、0時間が過半数で、平均時間は1.58時間。
- ◎性別でも男女ともに0時間が最も多いが、平均時間は女性が1.3時間上回る。
- ◎性年代別には、女性の20～40代で長く、平均時間は男性の同年代の約5～11倍の長さ。

<全体・性別>

全体で見ると、0時間の割合が最も高く過半数であり、平均時間は1.58時間となっている。

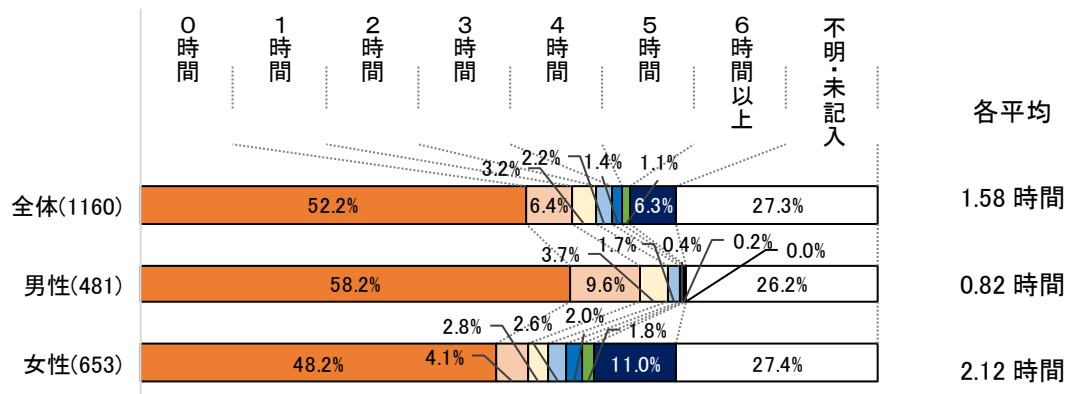
性別でも、男女ともに0時間の割合が最も高いが、平均時間は男性0.82時間、女性2.12時間と女性の方が1.30時間長くなっている。(図表 75)

<性・年代別>

性・年代別に平均時間をみると、女性の20代、30代、40代で、それぞれ4.40時間、8.09時間、2.65時間と突出して長い。他方、男性の20～40代はいずれも1時間未満となっており、20代では女性が男性の10.5倍、30代では11.4倍、40代では5.4倍という状況にある。(図表 76)

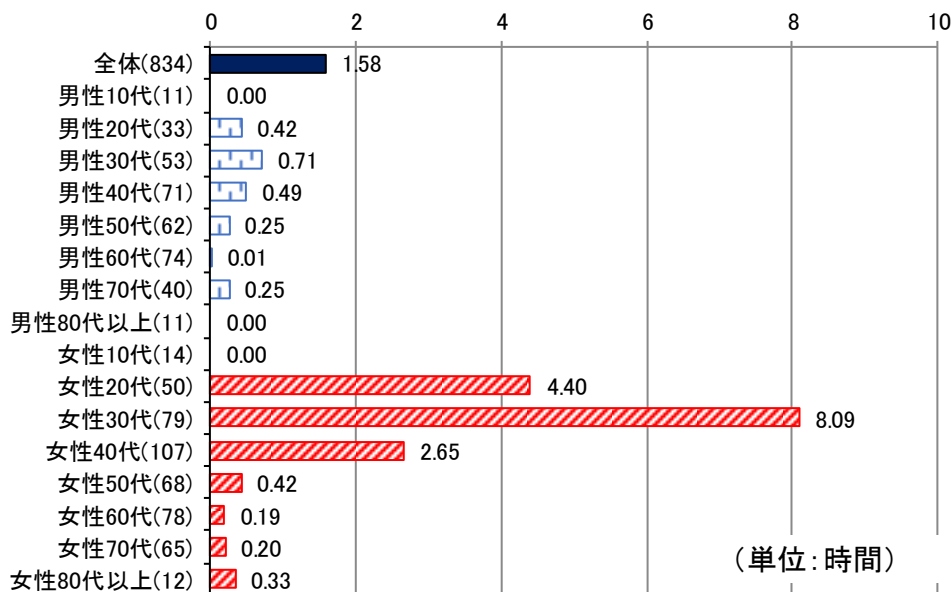
■図表 75 平日の育児にかかる時間(全体・性別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。平日×育児(NA)



■図表 76 平日の育児にかかる時間(平均時間、性・年代別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。平日×育児(NA)



※男女ともに10代と80代は、回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

③ 平日の介護にかかる時間

◎全体では0時間が約7割を占め、平均時間は0.24時間。性別にみても0時間が多く同様の傾向。
 ◎性年代別でも、時間はいずれも短い、しいて言えば、男性では概ね年代が上がるごとに平均時間が長くなる傾向。女性は40代と70代で長い。

<全体・性別>

全体で見ると、0時間の割合が最も高く68.4%、平均時間は0.24時間と短い状況にある。

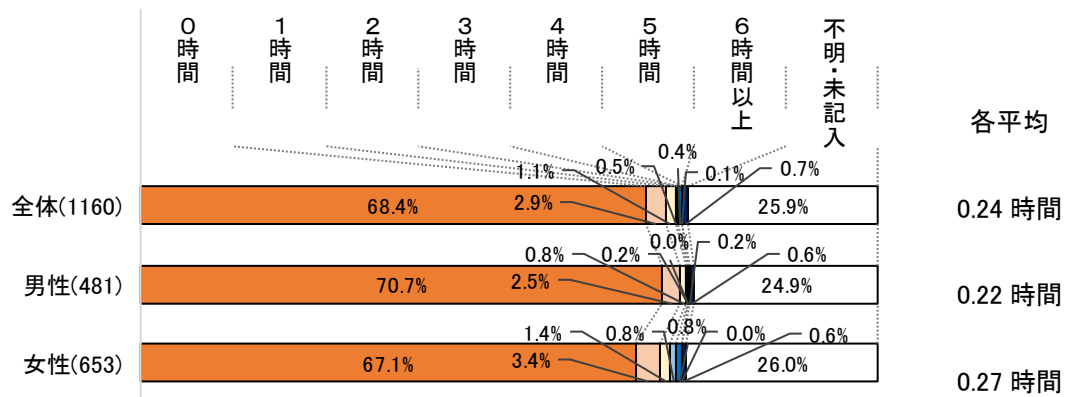
性別でも、男女ともに0時間の割合が最も高く、平均時間も男性0.22時間、女性0.27時間といずれも短い。(図表77)

<性・年代別>

性・年代別にみると、平均時間はいずれの年代も1時間以下と短い、男性では概ね年代が高い方が時間は長くなり、70代では0.33時間となっている。女性では40代と70代で0.41時間、60代で0.36時間と他の年代に比べて長くなっている。(図表78)

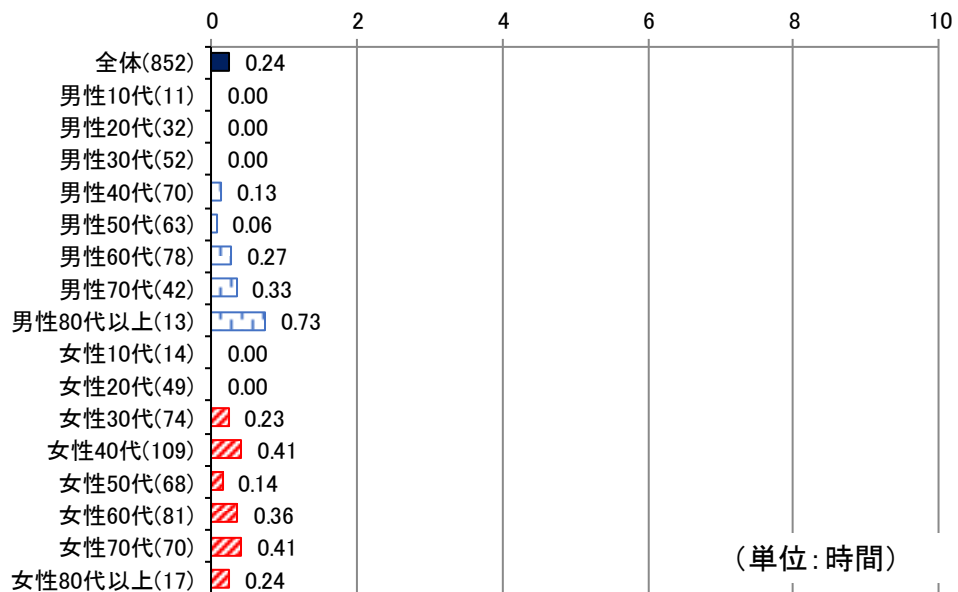
■図表77 平日の介護にかかる時間(全体・性別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。平日×介護(NA)



■図表78 平日の介護にかかる時間(平均時間、性・年代別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。平日×介護(NA)



※男女ともに10代と80代は、回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

④ 休日の家事にかかる時間

- ◎ 休日の家事の平均時間は、全体で 3.23 時間と平日より長い。
- ◎ 平日と同様に、性別で差異が大きく、女性が男性を平均時間で 1.88 時間上回る。
- ◎ 性年代別には、30 代で最も男女の乖離が大きく、平均時間で女性が男性の約 3 倍。

<全体・性別>

全体で見ると、休日の家事時間は 1 時間と 2 時間がそれぞれ 16.8%、18.1% でほぼ並び、平均時間は 3.23 時間と、平日よりも 0.46 時間長くなっている。

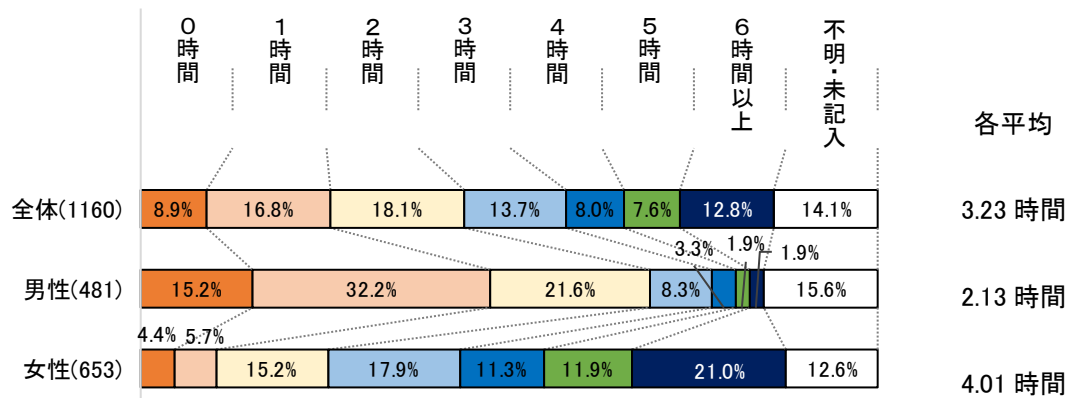
性別では、男性では 0 時間が 15.2%、1 時間が 32.2%、2 時間が 21.6% であり、平日よりも 0 時間の割合が減り、2 時間の割合が増えている。平均時間も休日は 2.13 時間で平日より 0.6 時間長い。他方、女性では、各時間の構成比は平日とほぼ同様。平均時間は 4.01 時間と男性同様に増加しているが、平日と比べるとその差は 0.37 時間と男性よりも小さい。なお休日の家事の平均時間も、女性の方が男性より 1.88 時間長くなっている。(図表 79)

<性・年代別>

性・年代別で平均時間を比較すると、20 代以上では平日と同様に、いずれの年代も女性の方が長く、男性の 2 倍以上となっている。なお男性の 30~50 代では、平日と比べると 2 倍以上長くなっているが、同年代の女性と比べれば 1/3 程度の時間に留まる。(図表 80)

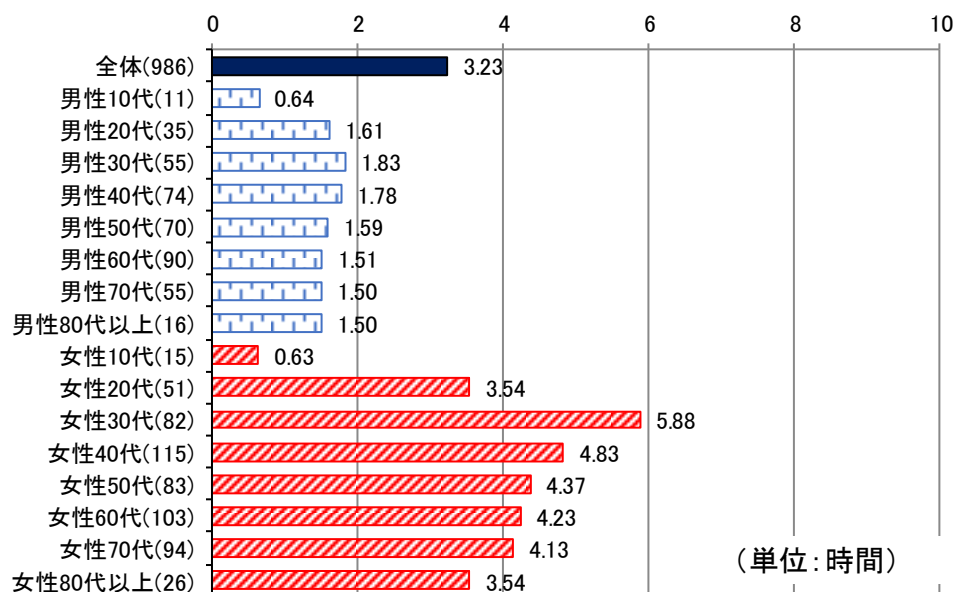
■ 図表 79 休日の家事にかかる時間(全体・性別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1 時間単位で数字をご記入ください。休日×家事(NA)



■ 図表 80 休日の家事にかかる時間(平均時間、性・年代別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1 時間単位で数字をご記入ください。休日×家事(NA)



※男女ともに 10 代と 80 代は、回答者数が少ないため (n が 30 以下) 参考値。

⑤ 休日の育児にかかる時間

- ◎全体では、0時間が過半数で、平均時間は2.29時間と平日より長い。
- ◎性別でも男女ともに0時間が最も多いが、平均時間は女性が男性を約1時間上回る。
- ◎性年代別には、女性の20～40代で長く、平均時間は男性の同年代の約2～6倍の長さ。

<全体・性別>

全体で見ると、平日と同様に0時間の割合が最も高く過半数であり、平均時間は2.29時間となっている。

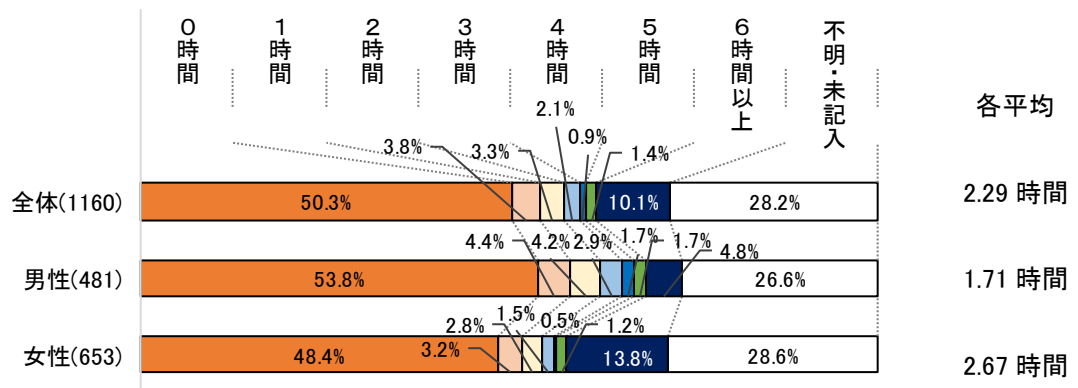
性別でも、男女ともに0時間の割合が最も高いが、平均時間は男性1.71時間、女性2.67時間と女性の方が約1時間長い。なお平日に比べるとその差は小さくなっている。(図表 81)

<性・年代別>

性・年代別に平均時間をみると、女性の20～40代で長いのは平日とほぼ同様だが、男性では平日はいずれの年代も1時間に満たなかった平均時間が、30代、40代ではそれぞれ3.20時間、1.99時間と長くなっている。しかし女性と比べれば、20代の女性は同年代の男性の5.6倍、30代では3倍、40代では2.1倍と女性の方が大幅に長い。(図表 82)

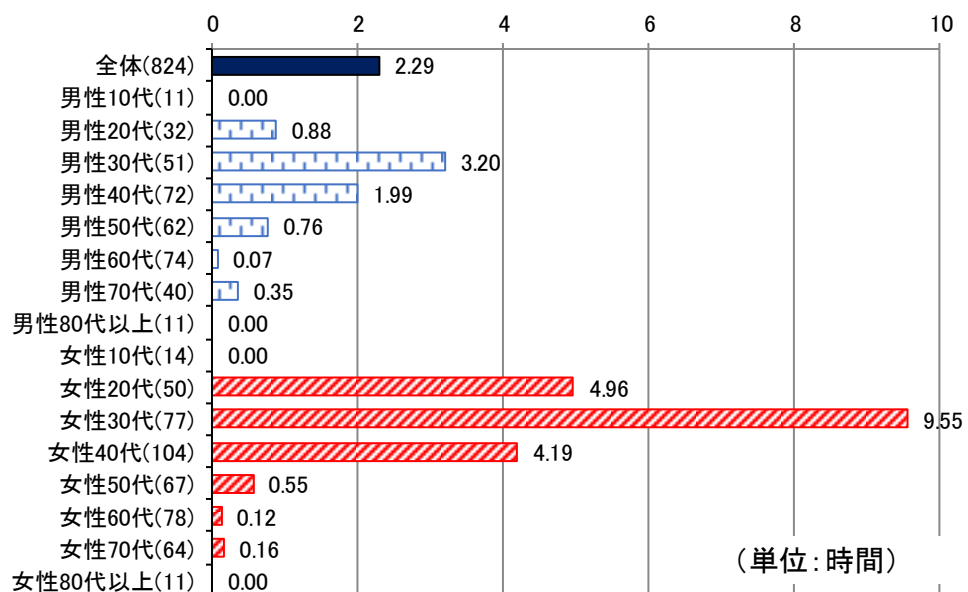
■図表 81 休日の育児にかかる時間(全体・性別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。休日×育児(NA)



■図表 82 休日の育児にかかる時間(平均時間、性・年代別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。休日×育児(NA)



※男女ともに10代と80代は、回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

⑥ 休日の介護にかかる時間

- ◎全体では 0 時間がほとんどを占め、平均時間は平日よりは長いが 0.36 時間。性別にみても 0 時間が多く傾向に差異はない。
- ◎性年代別では、男性は平日と同様に年代が高い方が平均時間は長くなる傾向。女性は 40～70 代がほぼ並ぶ。

<全体・性別>

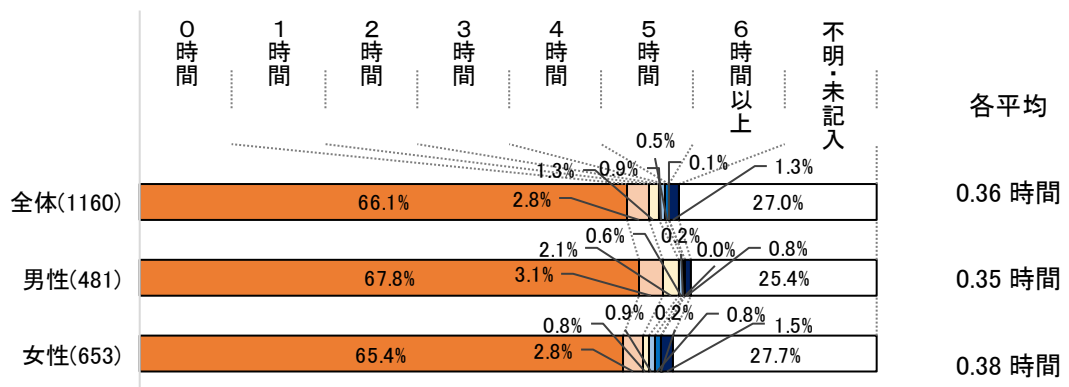
全体でみると、0 時間の割合が最も高く 66.1%、平均時間は 0.36 時間と、平日よりは長いが育児や家事に比べれば短い状況にある。性別でも、男女ともに 0 時間の割合が最も高く、平均時間も男性 0.35 時間、女性 0.38 時間と、顕著な差異はみられない。(図表 83)

<性・年代別>

性年代別にみると、平日と同様に平均時間はいずれの年代も 1 時間以下と短い。男性では年代が高い方が時間は長くなり、70 代では 0.61 時間となっている。女性は 40～70 代が中では高く 0.47～0.58 時間となっている。なお、男性の 40～70 代および女性の 30～70 代では、平日よりも休日の方が平均時間は長い。(図表 84)

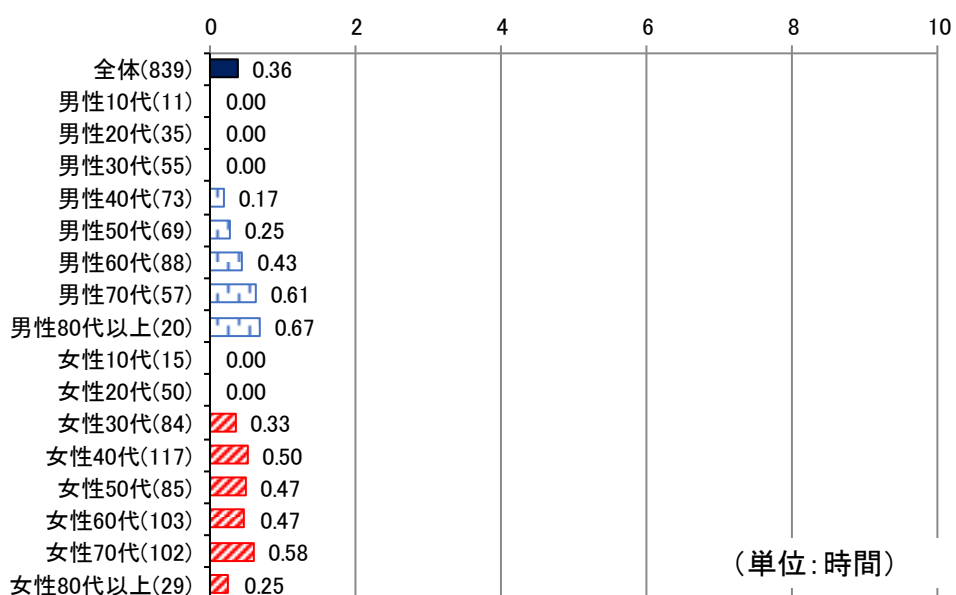
■図表 83 休日の介護にかかる時間(全体・性別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1 時間単位で数字をご記入ください。休日×介護 (NA)



■図表 84 休日の介護にかかる時間(平均時間、性・年代別)

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1 時間単位で数字をご記入ください。休日×介護 (NA)



※男女ともに 10 代と 80 代は、回答者数が少ないため (n が 30 以下) 参考値。

(3) 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なことについて(問16)

◎全体では、“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション”の割合が最も高く 5 割台半ば。次いで“男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくす”と“労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする”が 5 割弱と続く。
 ◎女性では“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション”と“男性自身の抵抗感をなくす”が、男性は“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーション”と“労働時間の短縮や休暇をとりやすく”が高い傾向。

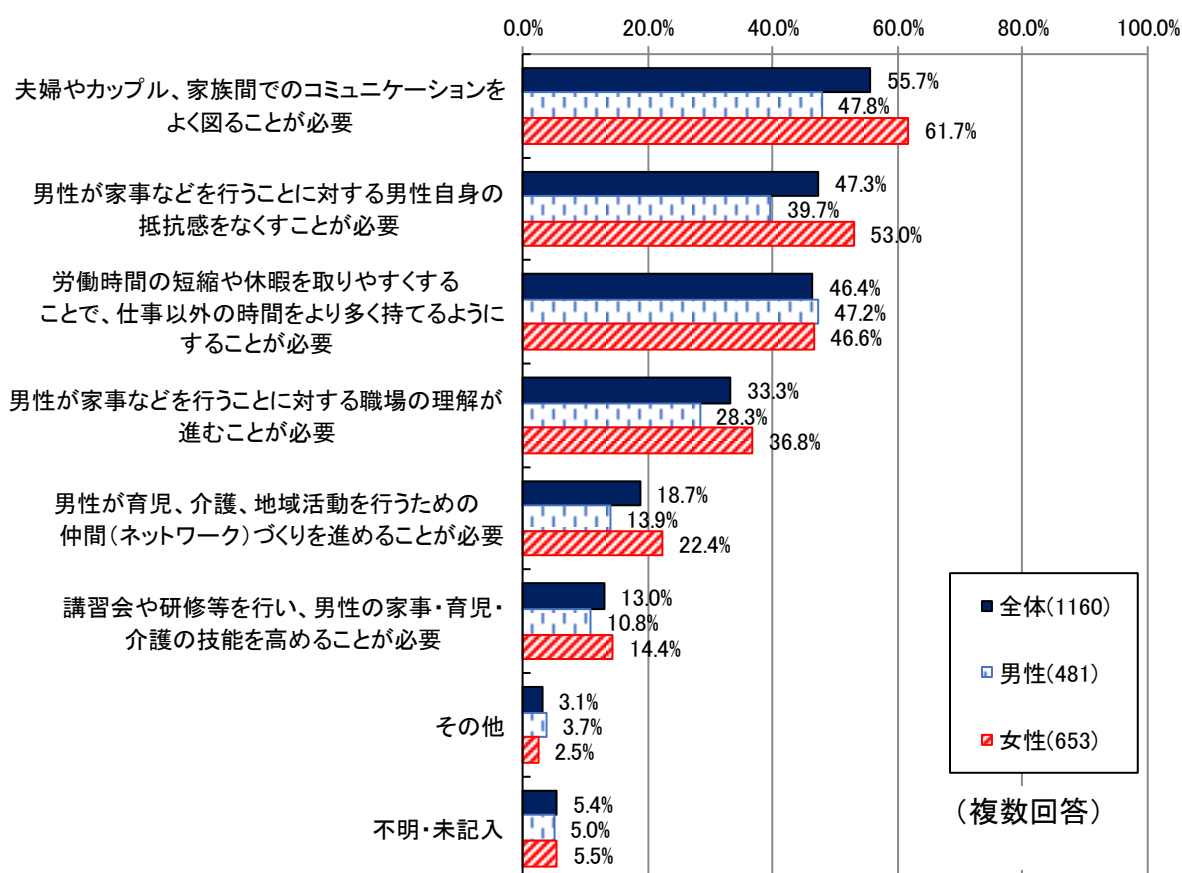
<全体・性別>

全体で見ると、“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要”とする割合が最も高く 55.7%。次いで“男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要”で 47.3%、“労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要”46.4%と続く。

性別に見ると、女性では“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要”の割合が 61.7%と最も高く、次いで“男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要”が 53.0%と高いが、男性では“夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要”と“労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要”がそれぞれ 47.8%、47.2%と高くなっている。(図表 85)

■図表 85 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要なこと(全体・性別)

問16. 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

・一人一人の考え方による／本人の強い意志／性別にかかわらず、できる人ができることをすればよい など

(4)ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なことについて(問17)

- ◎全体では“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成”の割合が最も高く半数を超える。
 ◎男女ともに“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気”の割合が最も高いが、“退職者の再雇用”、“家族や周囲の理解と協力”は女性、“仕事中心社会の改め”は男性で高い。
 ◎働く年代の20～50代でも、傾向は全年代と同様。

<全体・性別>

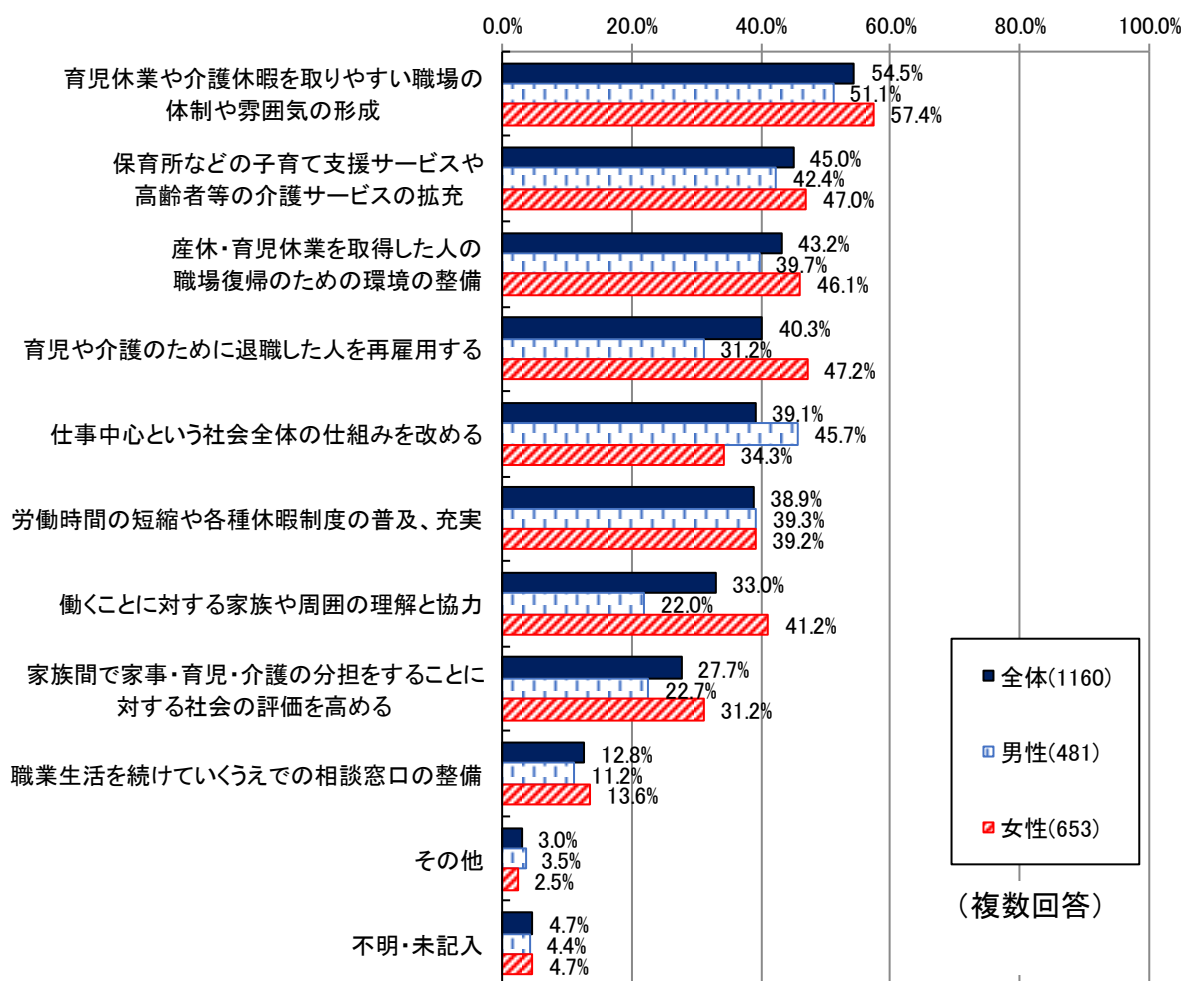
全体で見ると、“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成”とする意見の割合が最も高く 54.5%、次いで“保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充”が 45.0%、“産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備”が 43.2%、“育児や介護のために退職した人を再雇用する”が 40.3%、“仕事中心という社会全体の仕組みを改める”が 39.1%、“労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実”が 38.9%と 4 割程度で並ぶ。

性別にみると、男女ともに“育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成”や“保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充”、“産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備”の割合は高いが、項目によって男女の差異が大きいものがある。

男女で差異が大きいのは、“働くことに対する家族や周囲の理解と協力”で女性の方が 19.2 ポイント、“育児や介護のために退職した人を再雇用する”も女性で 16.0 ポイント高い。また“仕事中心という社会全体の仕組みを改める”は男性が 11.4 ポイント高くなっている。(図表 86)

■図表 86 ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(全体・性別)

問17. ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・子育て世代への経済的支援/仕事の評価方法の変更/わからない など

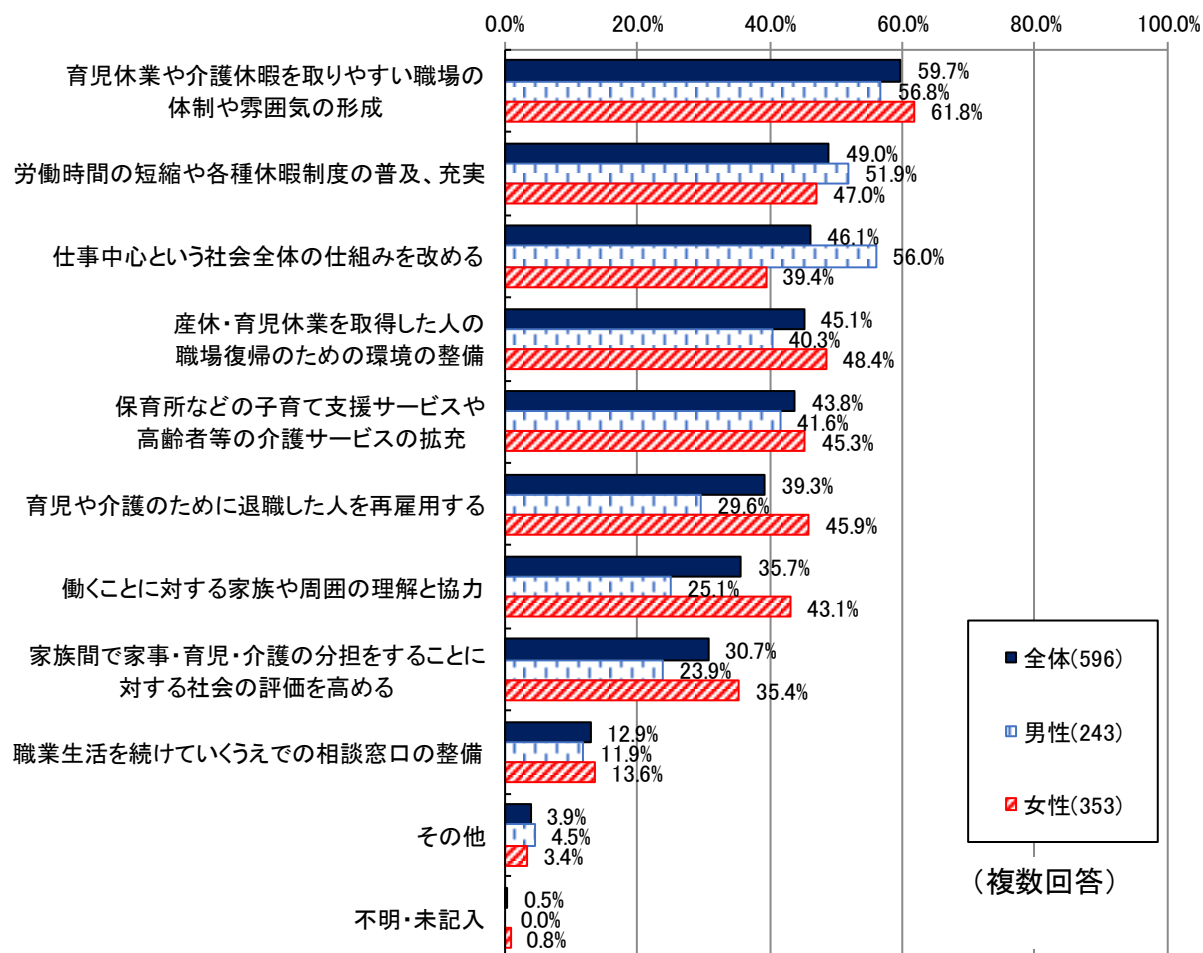
<20～50 代のみ・性別>

働く年代の 20～50 代に限ってみても、上位の項目は全年代と変わらない。

また 20～50 代を性別にみても、全世代の結果とほぼ同様となっている。(図表 87)

■図表 87 ワーク・ライフ・バランスを進めるために重要なこと(20～50 代・性別)

問17. ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



5. 学校教育について

(1) 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なことについて(問18)

- ◎最も多い意見は“互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要”で過半数を超える。
- ◎性別にみても、回答の傾向に男女の差異は見られない。

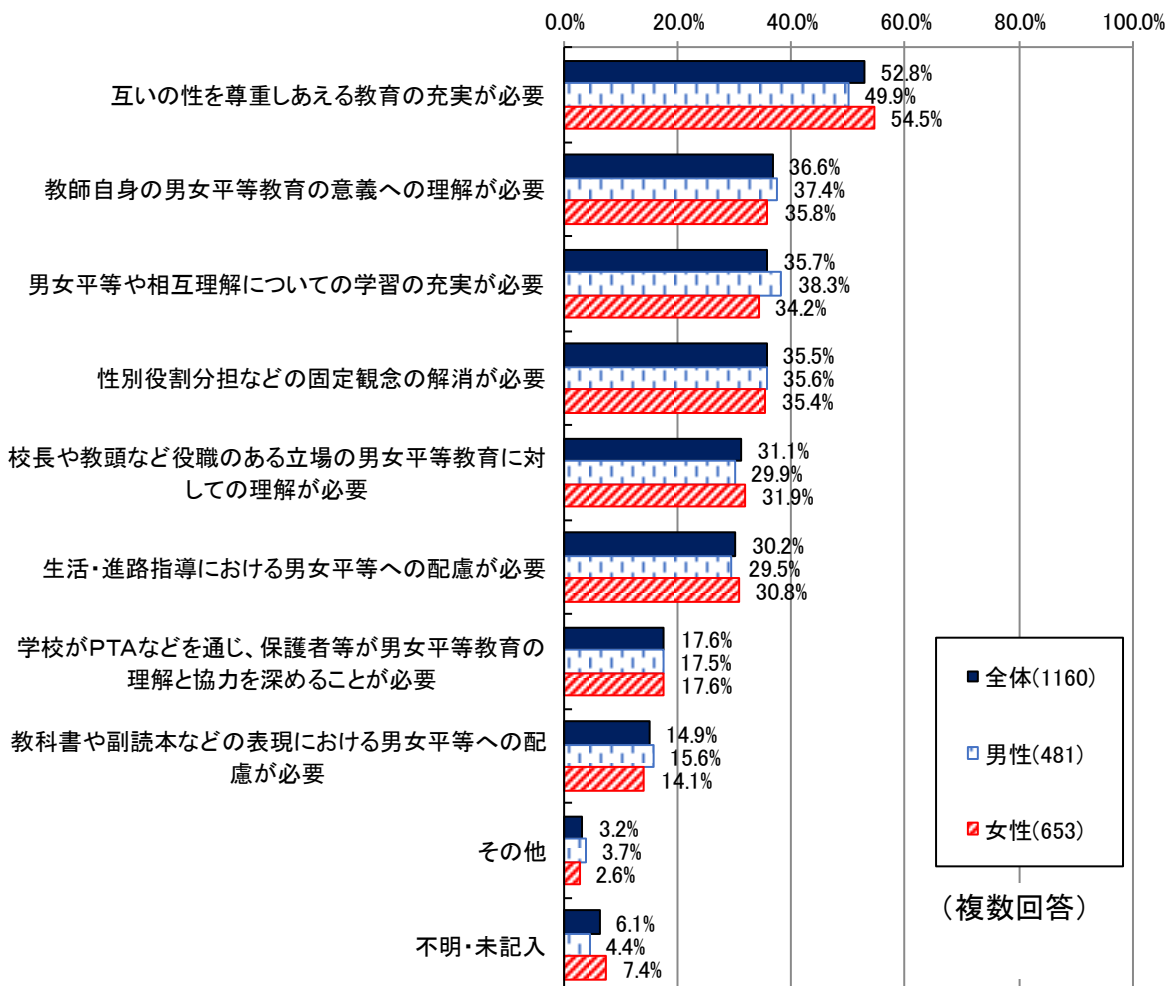
<全体・性別>

全体で見ると、“互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要”の割合が最も高く 52.8%、次いで“教師自身の男女平等教育の意義への理解が必要”、“男女平等や相互理解についての学習の充実が必要”、“性別役割分担などの固定観念の解消が必要”がそれぞれ 36.6%、35.7%、35.5%とほぼ同率で続く。

性別にみても、どの項目も男女で同様の値となっており、回答の傾向に差異はみられない。(図表 88)

■図表 88 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るために重要なこと(全体・性別)

問18. 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・ 本当の意味での男女同権を教育する／性差があるのは当然という考えを踏まえての教育 など

6. 社会参画について

(1) 女性をもっと就いた方がよいと思う役職や公職(問19-1)

◎女性をもっと就いた方がよい職業として「市議会議員」、「職場の管理職」、「市の審議会等の委員」をあげる割合は5割前後。「PTA会長」や「自治会長」は3割強にとどまり「わからない」と同程度。
◎性別でも男女ともに「市議会議員」、「職場の管理職」、「市の審議会等の委員」への賛同割合が高い。

<全体>

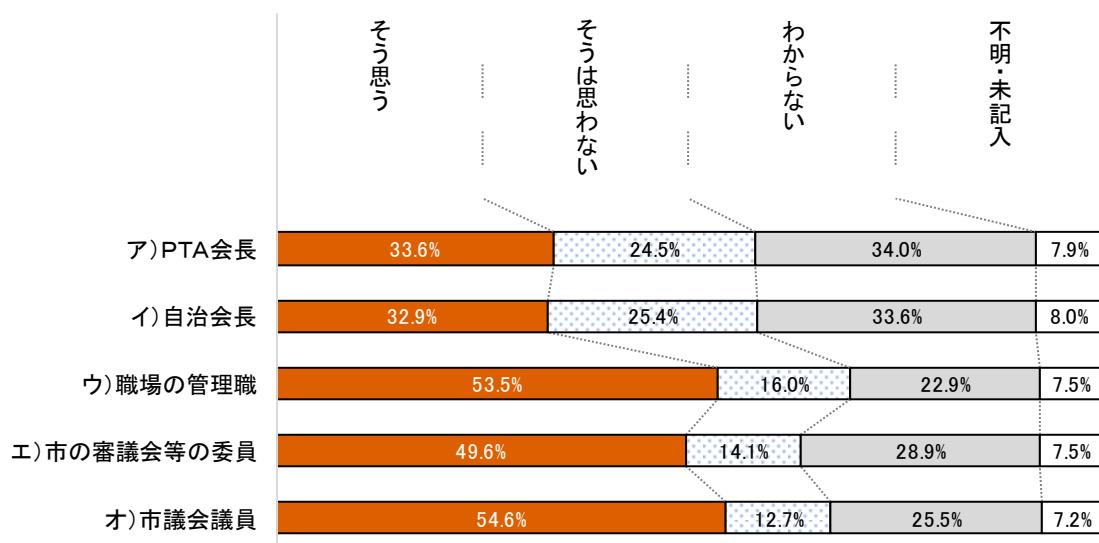
全体で見ると、最も“そう思う”割合が高かったのは「市議会議員」で、54.6%、次いで「職場の管理職」で53.5%、「市の審議会等の委員」で49.6%と続く。ほか「PTA会長」は33.6%、「自治会長」は32.9%と3割強であり、「わからない」と同程度の割合となっている。(図表 89)

<性別>

“そう思う”の割合を性別にみると、男女ともに全体と同様に「市議会議員」、「職場の管理職」、「市の審議会等の委員」の割合が50%前後で高くなっているが、「自治会長」と「PTA会長」では男女で差異がみられ、「自治会長」では16.2ポイント、「PTA会長」では14.6ポイント、男性の方が“そう思う”の割合は高くなっている。(図表 90)

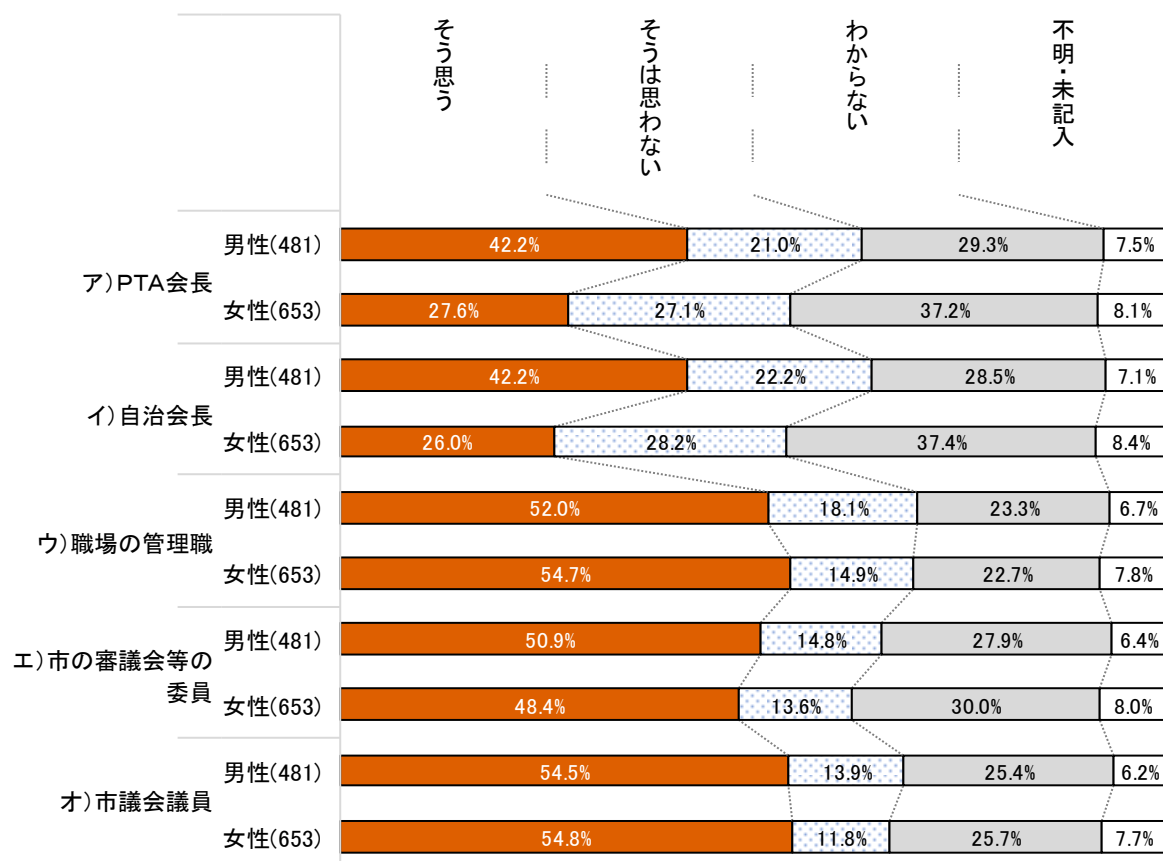
■図表 89 女性をもっと就いた方がよいと思う役職や公職(全体)

問19-1. あなたがア～オ)にあげる役職や公職に「女性をもっと就いた方がよい」と思いますか。あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。(SA)



■図表 90 女性ももっと就いた方がよいと思う役職や公職(性別)

問19-1. あなたがア～オ)にあげる役職や公職に「女性ももっと就いた方がよい」と思いますか。あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。(SA)



(2) 役職への就任または立候補を依頼された場合の対応(問19-2)

- ◎全体では、「職場の管理職」を除いて、“承諾しない”割合が5割前後と高い。
- ◎性別には、いずれの役職でも男性より女性の“承諾する”割合が低い傾向。

<全体>

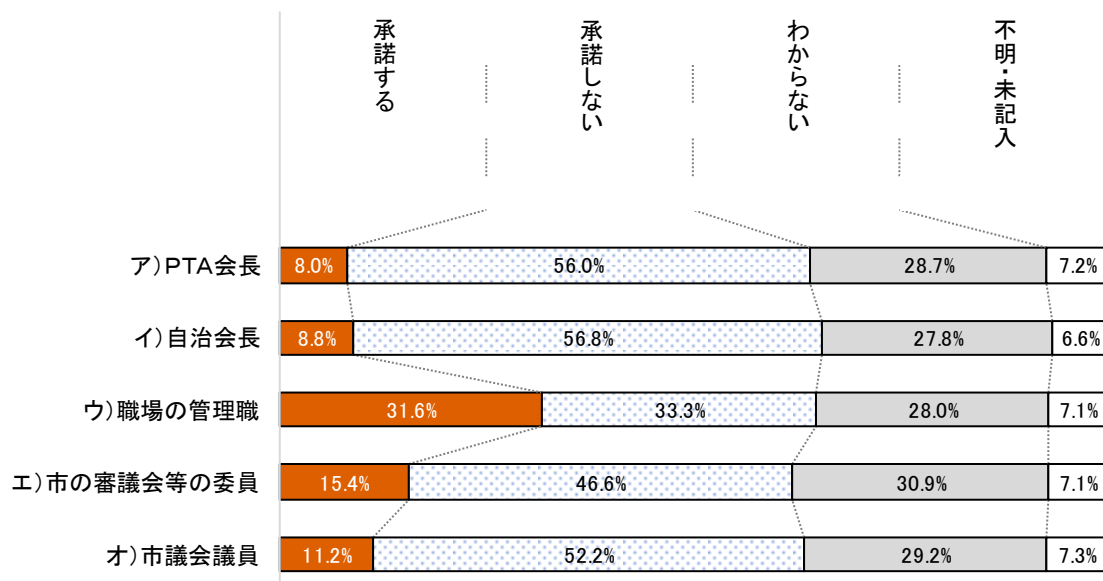
全体で見ると、「職場の管理職」では“承諾する”と“承諾しない”がそれぞれ31.6%、33.3%と同程度だが、そのほかの役職では“承諾しない”が46.6～56.8%と約半数を占め、“承諾する”は8.0～15.4%に留まる。特に「PTA会長」や「自治会長」は“承諾する”割合が1割にも満たず低くなっている。(図表 91)

<性別>

性別にみても、男女ともに“承諾する”の割合は、「職場の管理職」が最も高く、次いで「市の審議会等の委員」、「市議会議員」と続き、「PTA会長」や「自治会長」で低い状況にあるが、いずれの役職でも女性の方が男性より“承諾する”割合が低い。特にポイント差が大きいのは「職場の管理職」で、男性よりも女性の方が19.8ポイント低くなっている。(図表 92)

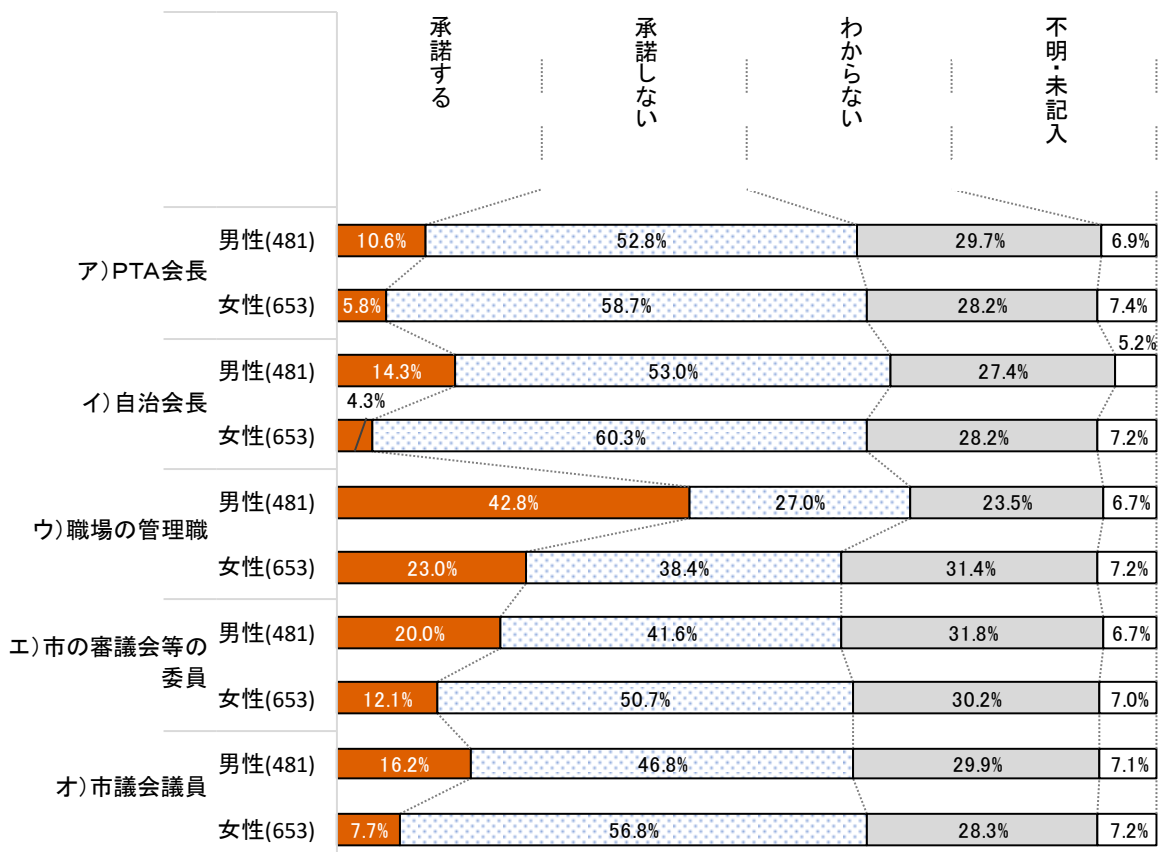
■図表 91 役職への就任または立候補を依頼された場合の対応(全体)

問19-2. あなたがア)～オ)の役職等への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。それぞれ1つを選んでください。(SA)



■図表 92 役職への就任または立候補を依頼された場合の対応(性別)

問19-2. あなたがア)～オ)の役職等への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。それぞれ1つを選んでください。(SA)



◆社会参画に関する女性の意識について

「女性がもっと就いた方がよいと思う役職」と「自身が役職を依頼された場合の対応」を女性において比較すると、「就いた方がよい」とする割合と「承諾する」割合の差は、いずれの役職でも

20%以上と大きく乖離している。特に差が大きかったのは「市議会議員」で、“就いた方が良い”とする割合 54.8%に対し“承諾する”は 7.7%で 47.1 ポイント低い。ほか「市の審議会等の委員」が 36.3 ポイント、「職場の管理職」が 31.7 ポイント“承諾する”割合の方が低くなっている。

(3) 役職への就任または立候補を依頼された場合に「承諾しない」と答えた理由(問19-3)

- ◎最も多い理由は“自信がないから”で約 4 割。
- ◎男性で最も多い理由は“仕事をしているから”で 4 割、女性で最も多い理由は“自信がないから”で 5 割弱。

<全体・性別>

全体で見ると、最も多い理由は“自信がないから”で 41.2%、次いで“リーダーシップがないから”が 33.8%、“仕事をしているから”が 28.3%と続く。

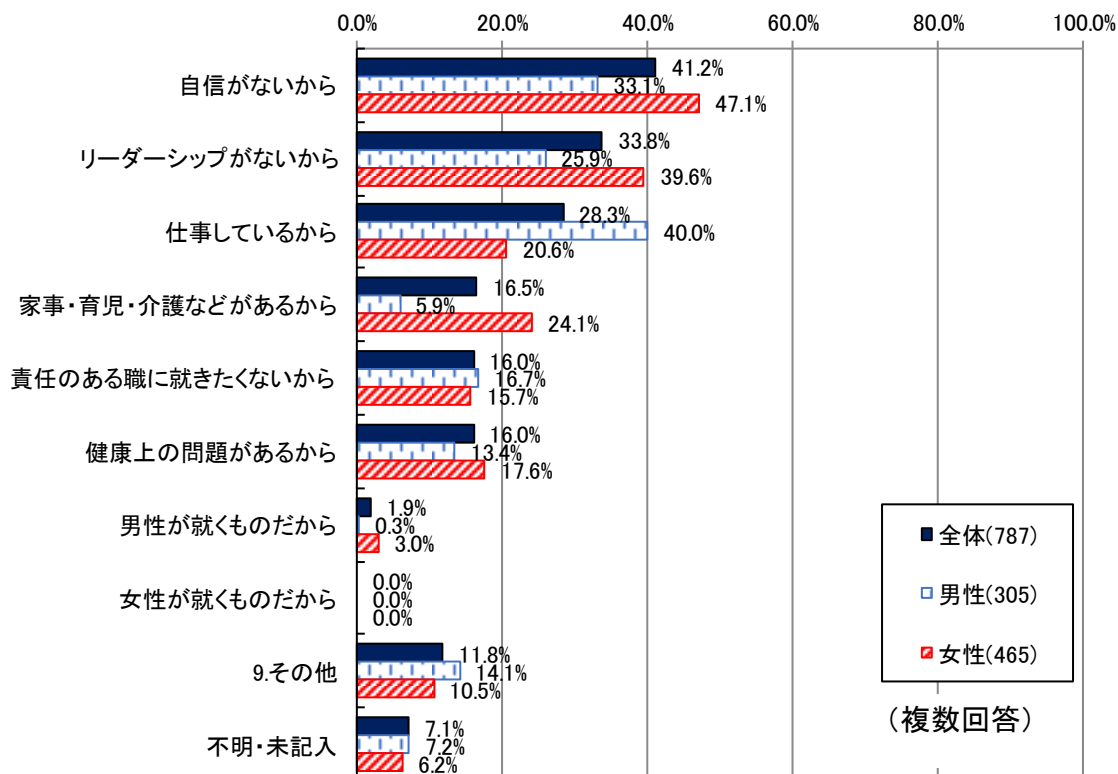
性別にみると、男性で最も多い理由は“仕事をしているから”で 40.0%、次いで“自信がないから”が 33.1%、“リーダーシップがないから”が 25.9%となっている。

他方、女性で最も多い理由は“自信がないから”で 47.1%、次いで“リーダーシップがないから”が 39.6%、“家事・育児・介護などがあるから”が 24.1%となっており、男女で理由に傾向の差異がみられる。

また男女において、同じ“自信がないから”、“リーダーシップがないから”との理由でも、男性よりも女性の方が、いずれも 14 ポイント程度高くなっている。(図表 93)

■図表 93 役職への就任または立候補を依頼された場合に「承諾しない」と答えた理由(全体・性別)

問19-3. 問19-2で、役職等への就任や立候補を依頼されたときに、「承諾しない」を選んだ方にお伺いします。その理由についてあなたの考えで近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・自分自身の生活を優先したい／興味がない／年齢的に無理 など

(4) パートナーが、役職への就任または立候補を依頼された場合の対応(問19-4)

◎全体では「職場の管理職」で最も“承諾する”割合が高く4割強。
 ◎性別では、「職場の管理職」は男性より女性で“承諾”割合が高く、「市議会議員」や「市の審議会等の委員」は女性より男性の“承諾”割合が高い。

<全体>

全体で見ると、「職場の管理職」では“承諾する”の割合が高く42.7%、“承諾しない”割合は15.5%と“承諾する”の半分以下になっている。その他の役職においては、“わからない”の割合が37.1～39.1%と高く、“承諾する”と“承諾しない”割合はそれぞれ22.3～29.8%とほぼ同程度である。(図表 94)

<性別>

性別にみても、男女ともに“承諾する”の割合は「職場の管理職」が最も高く40%以上、他の役職は30%以下となっているが、役職によって男女で傾向に差異がみられる。「職場の管理職」では女性の方が“承諾する”の割合が高いが、「市の審議会等の委員」や「市議会議員」では男性の方が高くなっている。(図表 95)

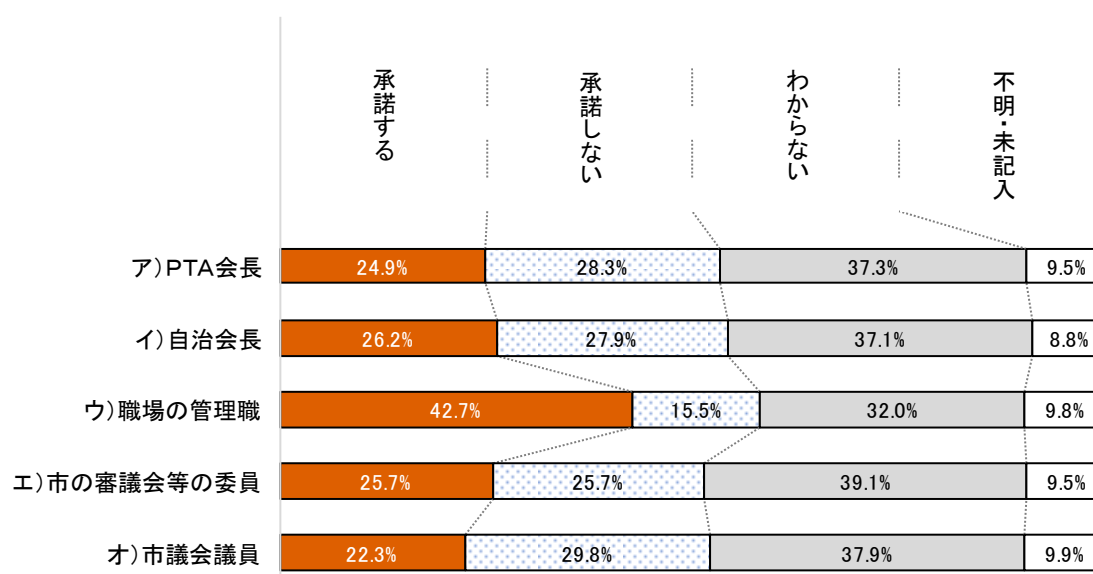
◆社会参画に関する男性の意識について

「女性がかつと就いた方がよいと思う役職」と「パートナーが役職を依頼された場合の対応」を男性において比較してみると、“就いた方がよい”とする割合と“承諾する”割合はいずれの役職も“就いた方がよい”割合の方が高く、10ポイント以上の乖離がみられる。しかしその乖離の大きさは、前述の女性が“就いた方がよい”と思う割合と“自分が引き受ける”とする割合のポイント差よりは小さい。

なお、男性において“就いた方がよい”とする割合と“パートナーの就任を承諾する”割合に開きが見られたのは、「市議会議員」で27.7ポイント、次いで「市の審議会等の委員」21.2ポイント、「PTA会長」、「自治会長」はそれぞれ15.8ポイント、15.0ポイント、「職場の管理職」が最も乖離が小さく11.9ポイントとなっている。

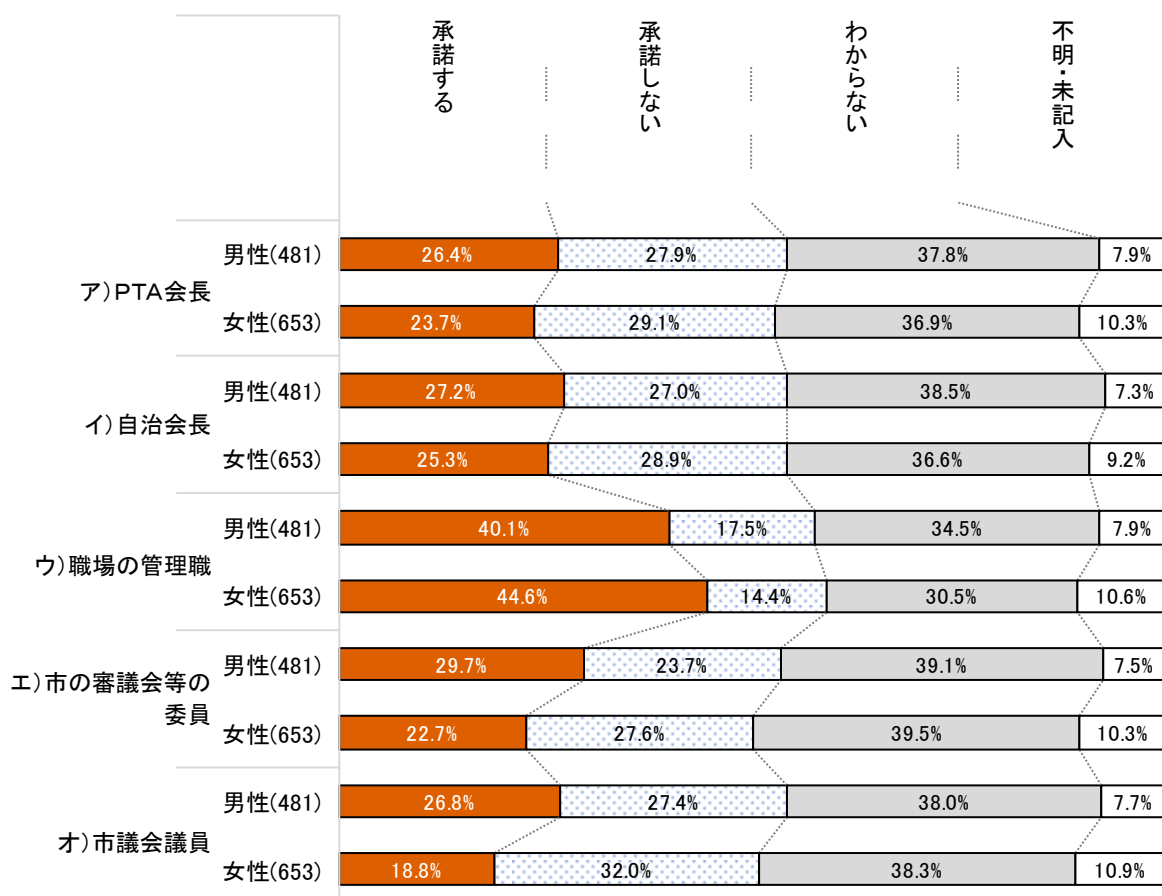
■図表 94 パートナーが、役職への就任または立候補を依頼された場合の対応(全体)

問19-4. では、あなたのパートナーがア～オの役職等への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。それぞれ1つ選んでください。(SA)



■図表 95 パートナーが、役職への就任または立候補を依頼された場合の対応(性別)

問19-4. では、あなたのパートナーがア～オ)の役職等への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。それぞれ1つ選んでください。(SA)



(5) 女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと(問20)

◎全体として最も多い回答は“家族の支援や協力”で約5割。

◎性別には、男性では“女性の役職等就任への意識改革”と“家族の支援や協力”が、女性では“家族の支援や協力”が多い。

<全体・性別>

全体で見ると、“家族の支援や協力”の割合が最も高く48.5%。次いで“女性の役職等就任への意識改革”が39.4%、“組織の運営体制の改善”が34.8%と続く。

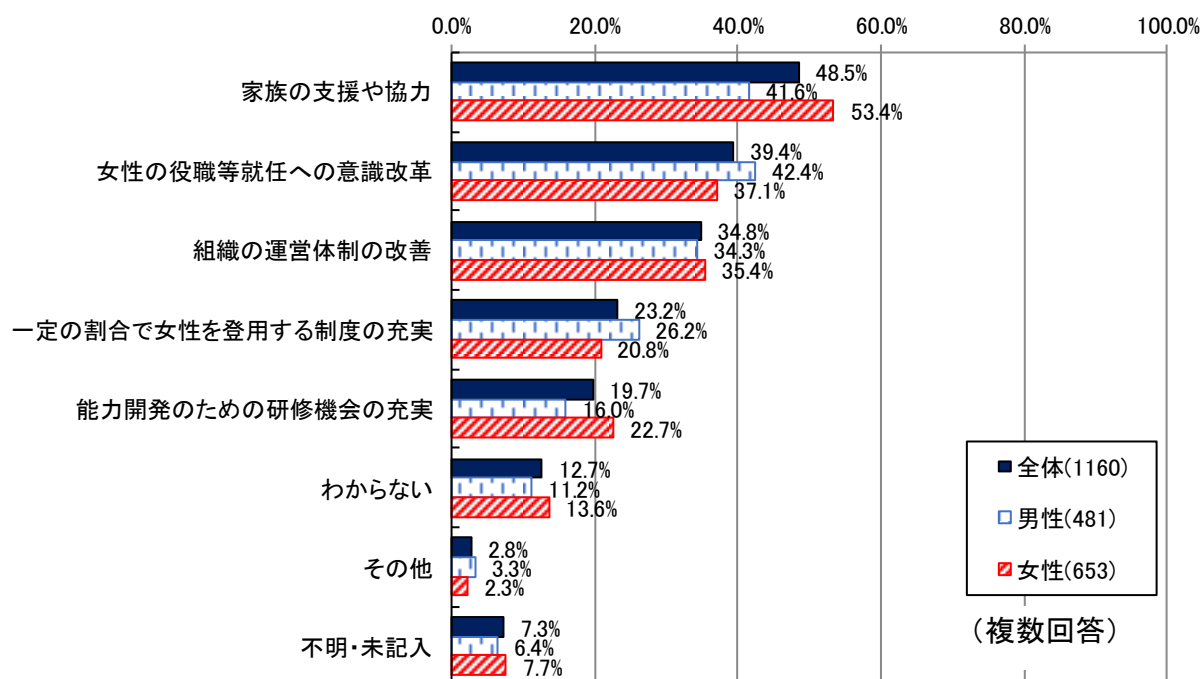
性別で見ると、男性では“女性の役職等就任への意識改革”と“家族の支援や協力”がそれぞれ42.4%、41.6%で高く、次いで“組織の運営体制の改善”が34.3%と続く。

他方、女性では“家族の支援や協力”が53.4%と最も高く、次いで、“女性の役職等就任への意識改革”と“組織の運営体制の改善”がそれぞれ37.1%、35.4%でほぼ並ぶ。

なお、男女の乖離がみられるのは“家族の支援や協力”で、女性の方が男性よりも11.8ポイント高くなっている。(図表96)

■図表 96 女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なこと(全体・性別)

問20. 役職等への就任や立候補を依頼された際に「承諾する」という女性が増えるなど、女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・何故女性が必要かの説明／能力主義の徹底 など

7. 男女の人権について

(1) 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の経験(問21-1)

①被害の状況

◎全体において、被害の経験割合は、多くの項目で1割未満だが、「大声でどなる」は2割強、「何を言っても無視し続ける」は1割強が被害の経験あり。
 ◎性別では、「大声でどなる」、「誰のおかげで生活できるのだ」と言う、「生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力」で、女性の方が被害の経験割合が高い傾向。

<全体>

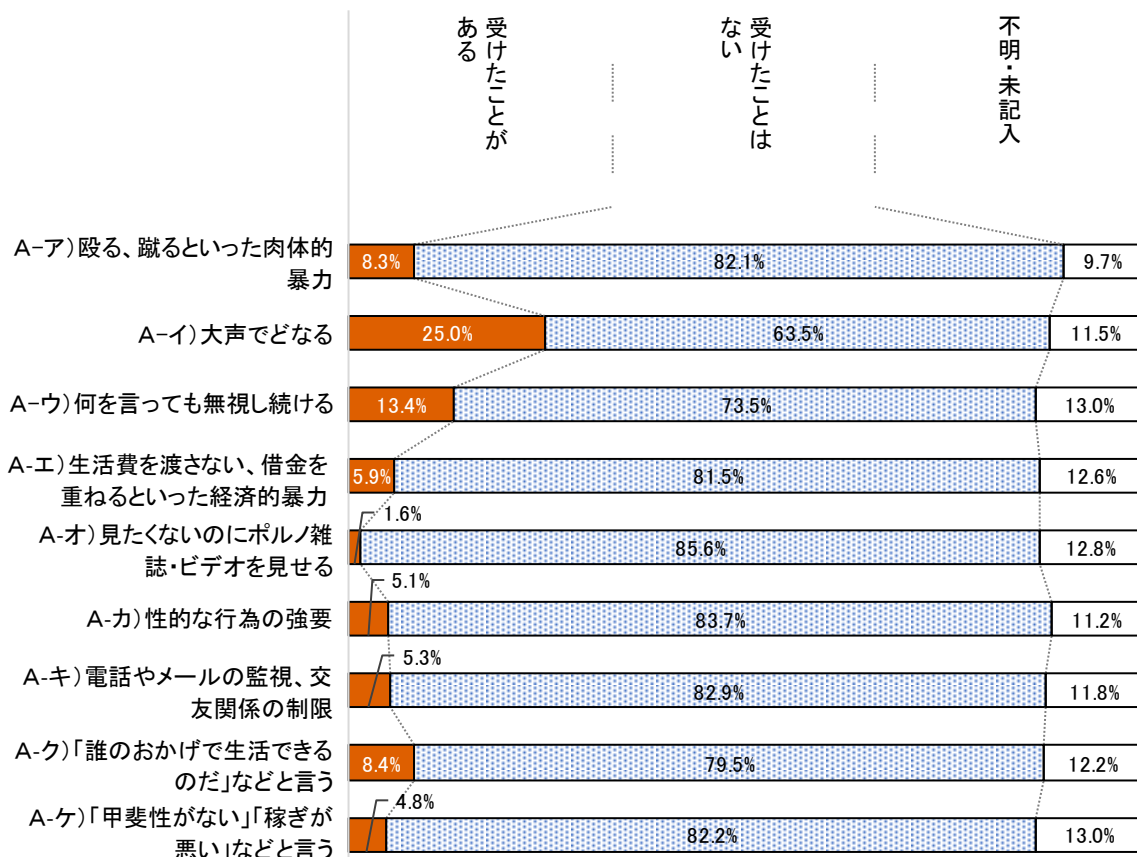
全体でみると、“受けたことはない”割合がいずれの項目でも高く63.5～85.6%を占めるが、“受けたことがある”割合が比較的高いのは、「大声でどなる」25.0%、「何を言っても無視し続ける」13.4%、「誰のおかげで生活できるのだ」と言う」8.4%、「殴る、蹴るといった肉体的暴力」8.3%などとなっている。また、その他“受けたことがある”行為として、「外出の規制」「従っていればよいと言われた」などが挙げられている。(図表 97)

<性別>

性別でみても、“受けたことはない”の割合がいずれでも高いが、“受けたことがある”中では、「大声でどなる」、「何を言っても無視し続ける」などの割合が比較的高くなっている。男女の差異としては、「大声でどなる」や「生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力」、「性的な行為の強要」、「誰のおかげで生活できるのだ」と言う」で、女性の“受けたことがある”割合が男性を5ポイント以上上回る。(図表 98)

■図表 97 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・被害(全体)

問21-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)～コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。(SA)

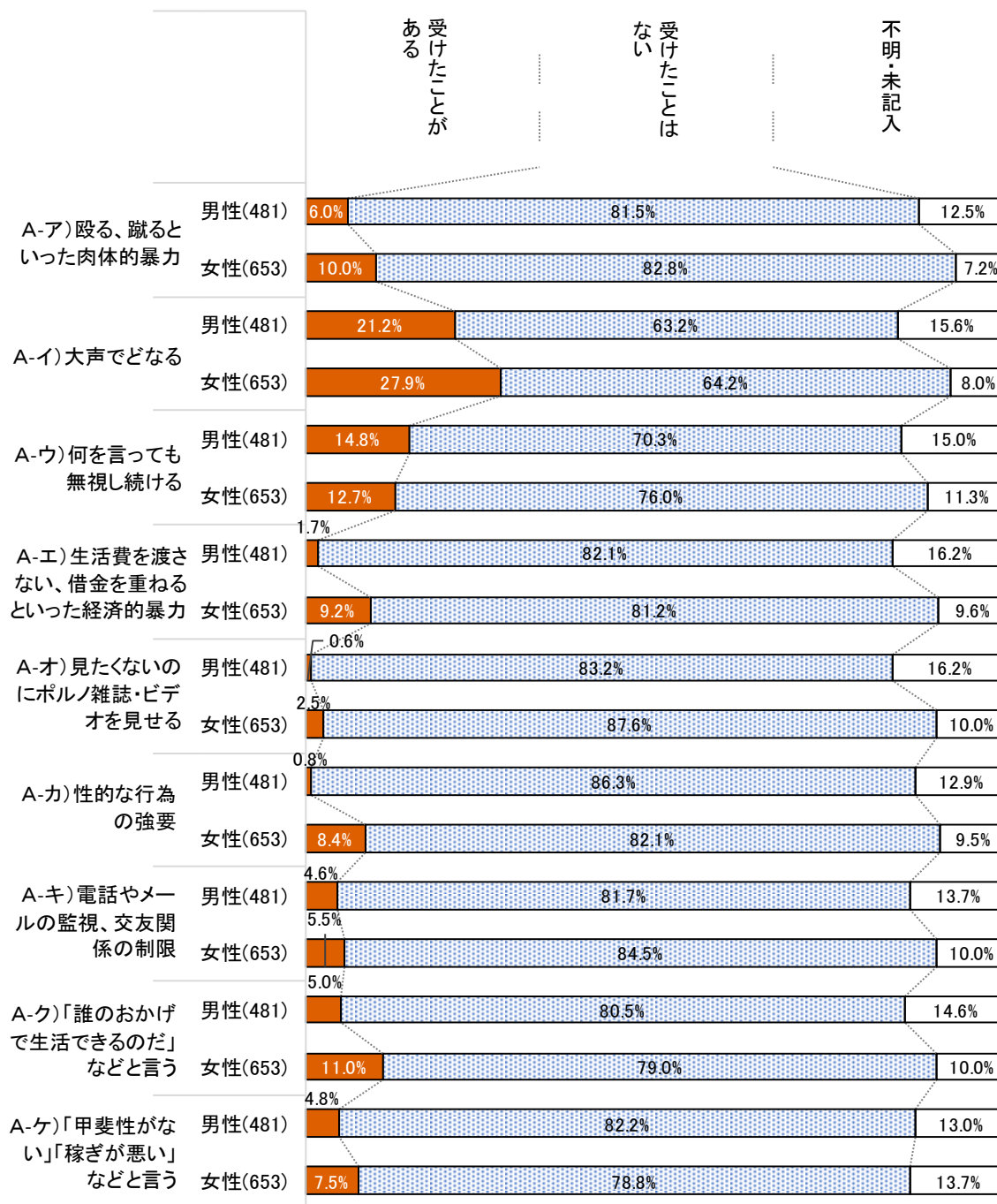


【その他に「受けたことがある」主なこと】

・外出の規制／従っていれば良いと言われた／態度が気に入らないと出ていけと言われた など

■図表 98 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・被害(性別)

問21-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)～コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。(SA)



② 加害の状況

- ◎加害においても比較的多いのは、「大声でどなる」と「何を言っても無視し続ける」。
- ◎性別では、女性より男性で「大声でどなる」の加害経験割合が高い。

<全体>

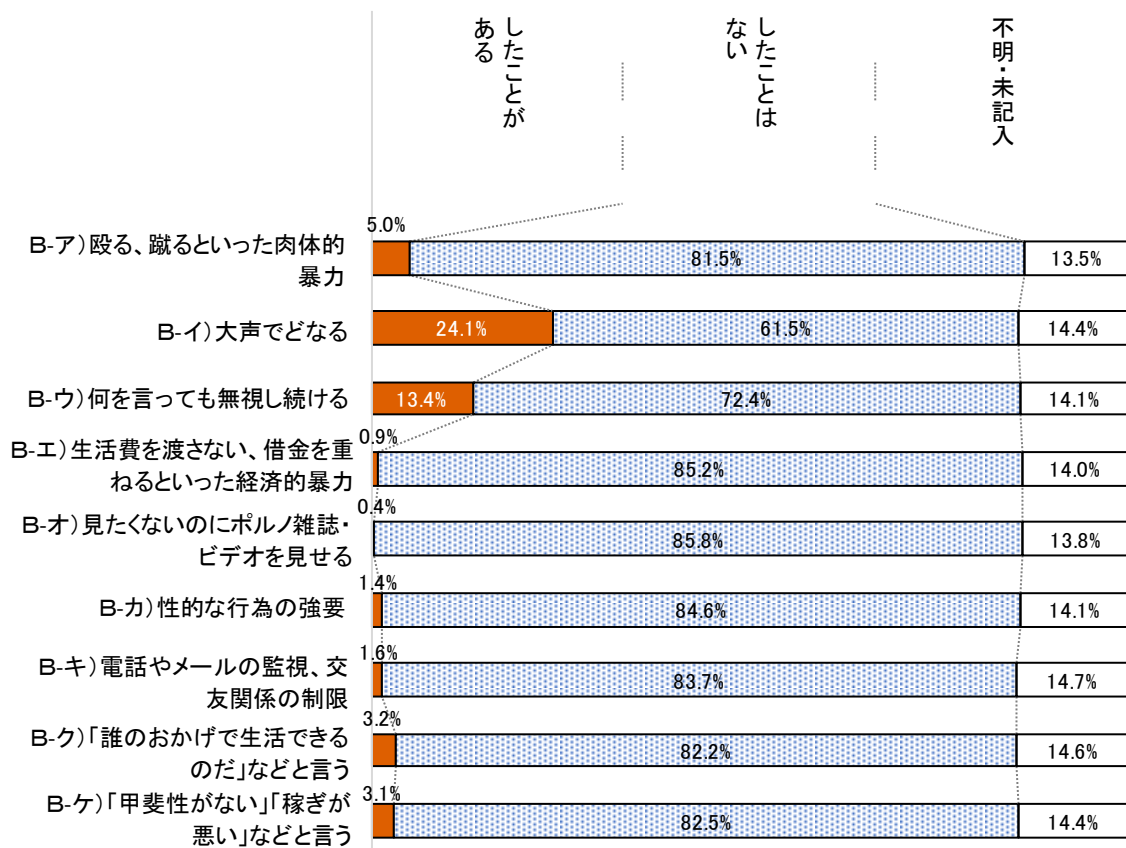
全体で見ると、いずれの項目においても“したことはない”割合が高く6割を超えるが、“したことがある”割合が比較的高いのは、被害の状況と同じく「大声でどなる」で24.1%。次いで「何を言っても無視し続ける」が13.4%となっている。また、その他に“したことがある”行為としては「嫌がる事を強制する」などがあげられている。(図表 99)

<性別>

性別にみても全体と同様に“したことはない”割合がいずれも高いが、“したことがある”ものの中では、被害の状況と同じく「大声でどなる」や「何を言っても無視し続ける」の割合が比較的高い。また「大声でどなる」を“したことがある”割合は、男性が女性より14.1ポイント高くなっている。(図表 100)

■図表 99 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・加害(全体)

問21-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)～コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1ずつ選んでください。(SA)

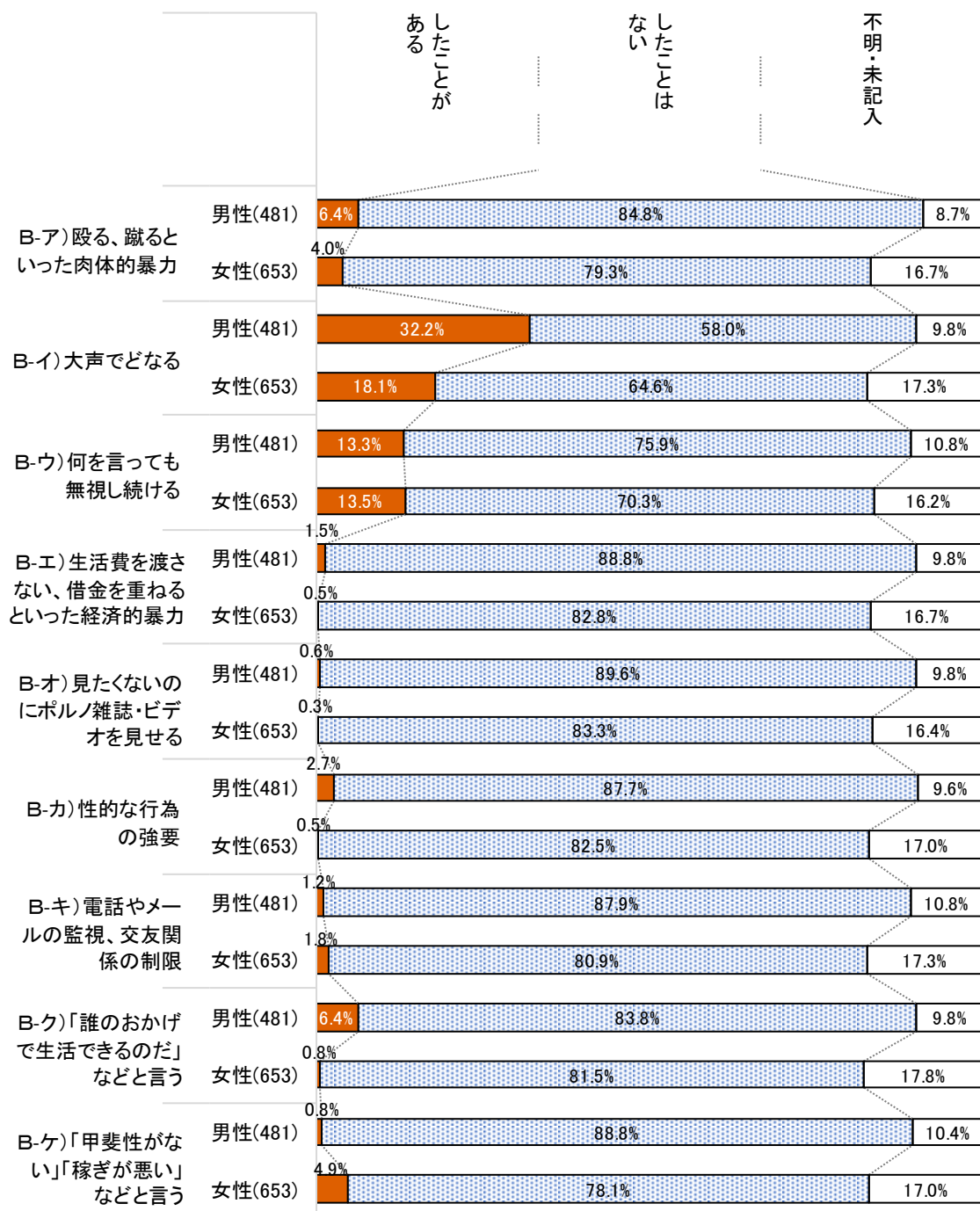


【その他に「したことがある」主なこと】

- ・嫌がる事を強制する／人種差別 など

■図表 100 配偶者やパートナー間での精神的・身体的暴力の経験・加害(性別)

問21-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)～コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。(SA)



(2)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談(問21-2)

- ◎全体では“相談しなかった”が約6割で、相談した“が2割弱。
- ◎性別には、女性の方が男性よりも“相談した”と“相談できなかった”の割合が高い。

<全体・性別>

全体で見ると、“相談しなかった”割合が高く 61.1%で、“相談した”が 18.3%、“相談できなかった”が 6.2%となっている。

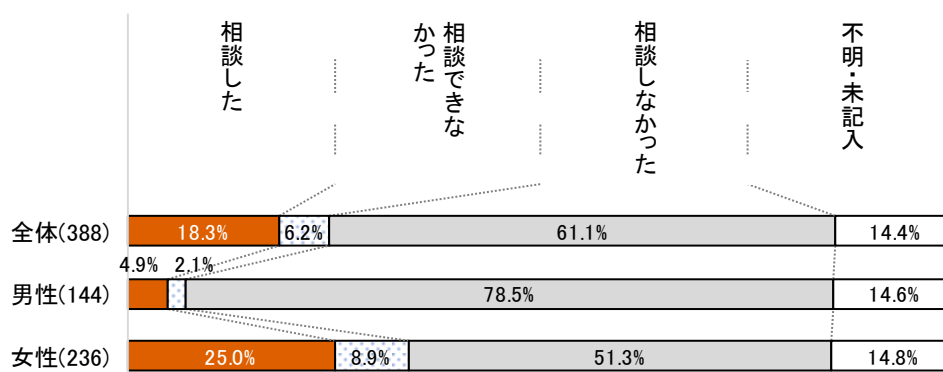
性別にみると、男女ともに全体と同じく“相談しなかった”割合が最も高く、次いで“相談した”が続くが、その割合は男女で異なる。男性では“相談しなかった”が 78.5%で女性を 27.2 ポイント上回り、女性は“相談した”が 25.0%で男性を 20.1 ポイント上回る。また“相談できなかった”は男性 2.1%に対し女性 8.9%で、女性が 6.8 ポイント上回る。(図表 101)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、“相談した”とする割合は、前回調査では 43.1%、今回調査では 18.3%と今回の方が 24.8 ポイント低くなっている。一方“相談できなかった”の割合も、前回調査で 13.8%、今回調査で 6.2%と、今回の方が 7.6 ポイント低下している。² (図表 102)

■図表 101 精神的・身体的暴力に関する相談(全体・性別)

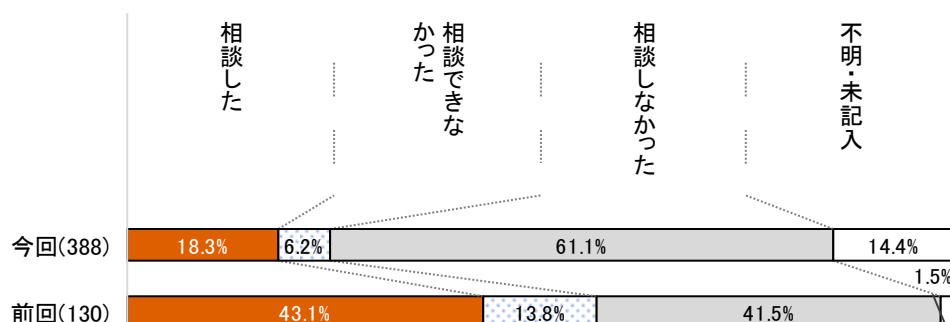
問21-2. 前問で1つでも「受けたことがある」と答えた方にお伺いします。あなたは、そのような暴力を受けたことを誰かに相談しましたか。当てはまるものを1つ選んでください。(SA)



■図表 102 精神的・身体的暴力に関する相談(前回比較)

今回: 問21-2. 前問で1つでも「受けたことがある」と答えた方にお伺いします。あなたは、そのような暴力を受けたことを誰かに相談をしましたか。当てはまるものを1つ選んでください。(SA)

前回: 問23. 問22で「DVを受けた経験がある」と答えた方にお伺いします。あなたは、このような暴力を受けたことを誰かに相談をしましたか。(○は1つ)



※前回調査は「DVを受けた経験がある」人に限る

² 前回調査では「DVを受けた経験がある」と答えた人を対象に相談の有無を尋ねているが、今回調査では「DVを受けた経験」ではなく、問21-1の「大声でどなる」「無視し続ける」といった、DVとは自覚しにくい行為の経験者まで含めて相談の有無を尋ねているため、“相談しなかった”の割合が高く、“相談した”や“相談できなかった”の割合が低かった可能性が考えられる。

(3)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)の相談先(問21-3)

◎全体では、“友人・知人”や“家族”など身近な人への相談が多く6～7割弱。性別にみても、この傾向は男女とも同様。
◎前回調査と比較しても身近な人への相談が多く、公的機関等への相談は少ない傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、相談先として最も多いのは“友人・知人”で67.6%。次いで“家族”が63.4%と身近な人への相談割合が高く、“公的機関(相談窓口・電話相談)”や“家庭裁判所・弁護士・警察など”、“医師・カウンセラーなど”といった公の施設や専門家では11.3%～16.9%、ほか“同じ経験をした人”や“民間の機関など”は1.4～2.8%と少ない状況にある。

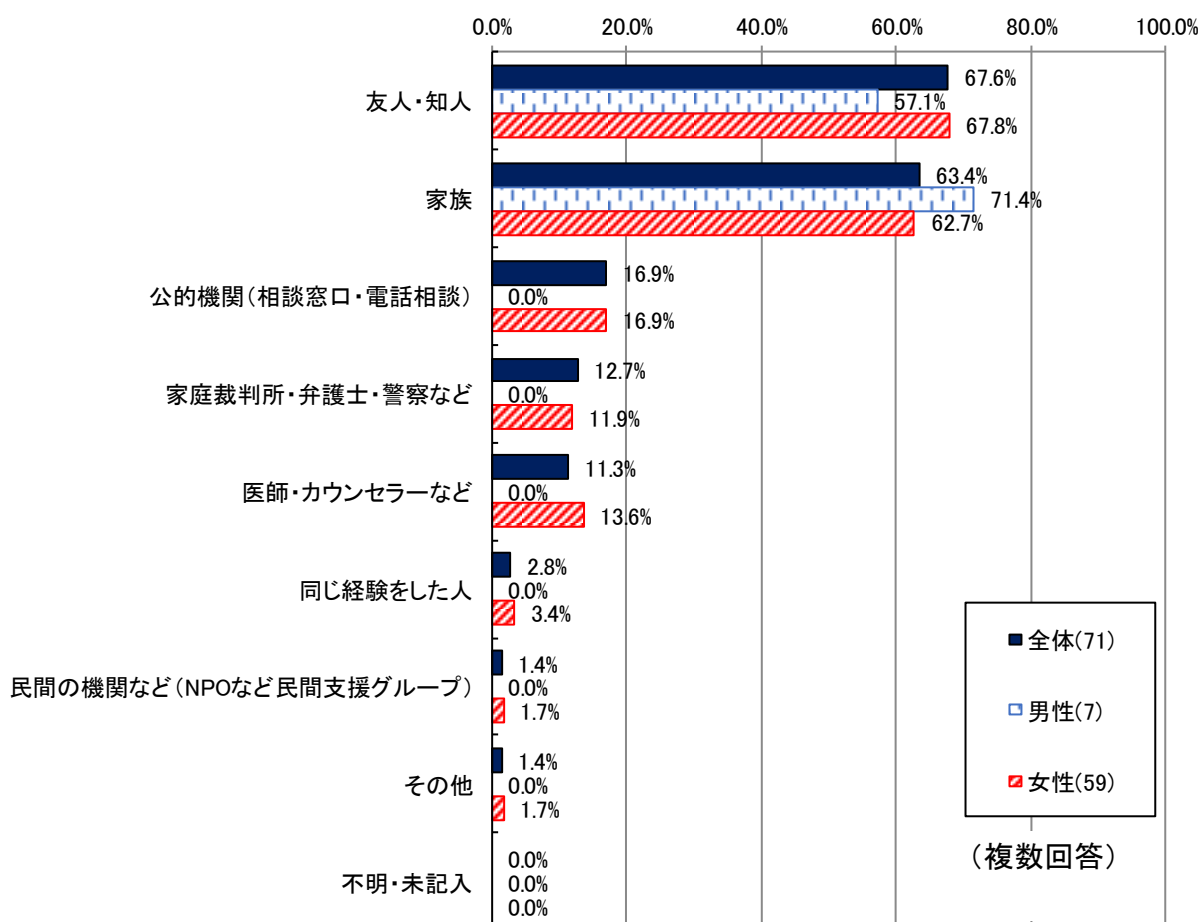
性別にみても、全体と同様、男女ともに“友人・知人”と“家族”の割合が高くなっている。(図表103)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、ともに回答の割合は“友人・知人”と“家族”が過半数と高く、“公的機関(相談窓口、電話相談)”などは低く、同様の傾向がみられる。(図表104)

■図表 103 精神的・身体的暴力の相談先(全体・性別)

問21-3. 前問で「相談した」を選んだ方は、実際に、どこ(誰)に相談しましたか。当てはまるもの全てを選んでください。(MA)



※「男性」は回答者数が少ないため(nが30以下)参考値。

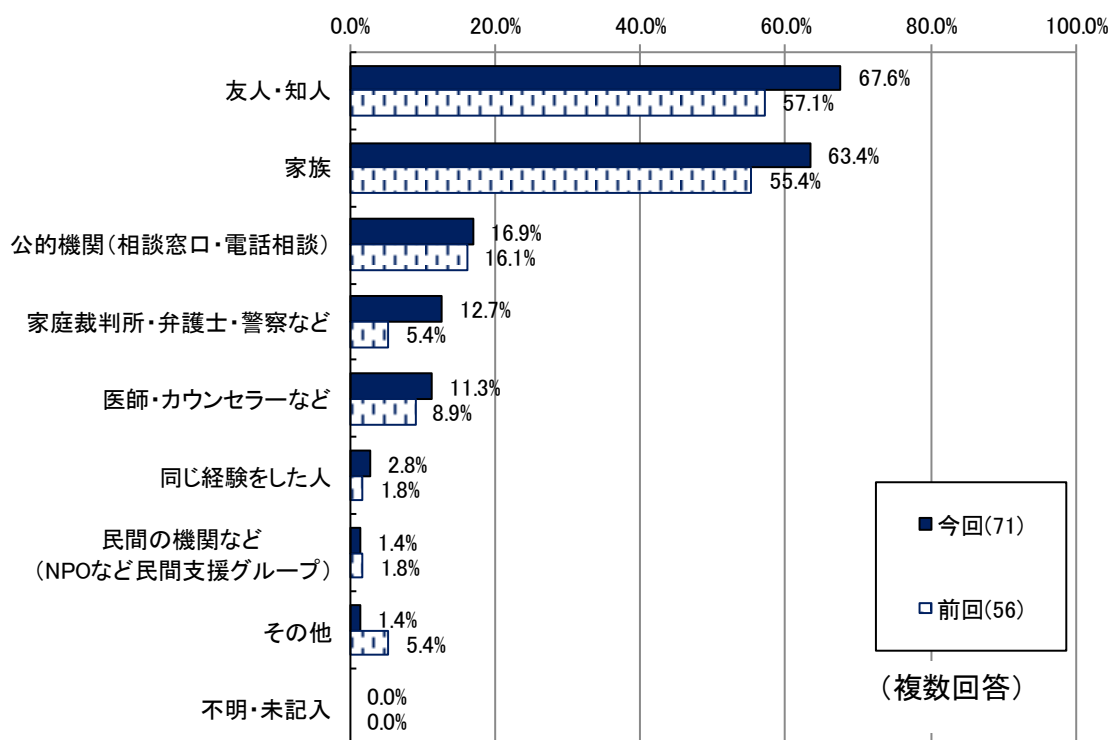
【主なその他回答】

・相手に文句を言った など

■図表 104 精神的・身体的暴力の相談先(前回比較)

今回:問21-3. 前問で「相談した」を選んだ方は、実際に、どこ(誰)に相談しましたか。当てはまるもの全てを選んでください。(MA)

前回:問23-1. 前問で「相談した」方は、実際に、どこ(誰)に相談しましたか。(〇はいくつでも)



※前回調査は「DVを受けた経験がある」人に限る

(4)精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス)を相談できなかった・しなかった理由(問22)

◎全体では、“相談するほどのことではないと思ったから”が過半数で最も多く、次いで“自分にも悪いところがあると思ったから”、“相談しても無駄だと思ったから”が3割前後。

◎性別に見ても、割合の高い項目はこれら3項目。

<全体・性別>

全体で見ると、“相談するほどのことではないと思ったから”の割合が最も高く 56.3%。次いで“自分にも悪いところがあると思ったから”が 34.9%、“相談しても無駄だと思ったから”が 29.9% となっている。

性別にみても割合の高い項目は全体と同様だが、男女の差異の大きい項目に着目すると、男性では“自分にも悪いところがあると思ったから”の割合が女性よりも 12.6 ポイント高く、女性では“はずかしくて誰にも言えなかった、世間体が悪いと思ったから”が男性より 7.1 ポイント高くなっている。(図表 105)

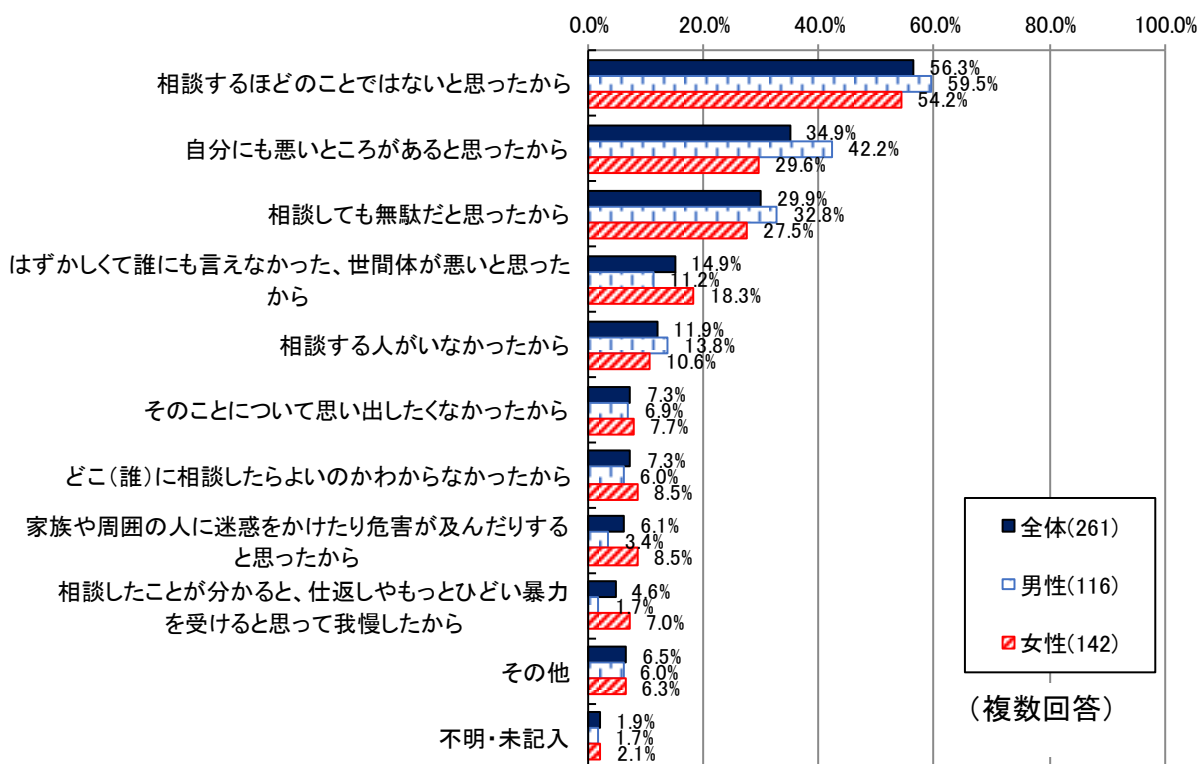
<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、前回調査では“相談しても無駄だと思ったから”の割合が最も高く 40.3%、次いで“はずかしくて誰にも言えなかった、世間体が悪いと思ったから”、“相談するほどのことではないと思ったから”がそれぞれ 31.9%、30.6%と高くなっており、今回調査とは傾向が異なる。³ (図表 106)

³ 図表 102 と同様に、前回調査では「DVを受けた経験がある」と答えた人を対象に、今回調査では問 21-1 の「大声でどなる」「無視し続ける」といった、DV とは自覚しにくい行為の経験者を含めて対象としているため、“相談するほどのことではないと思った”割合が高くなった可能性が考えられる。

■図表 105 精神的・身体的暴力を相談できなかった・しなかった理由(全体・性別)

問22. 問21-2で「相談できなかった」「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。相談できなかった・相談しなかった理由として当てはまるもの全てを選んでください。(MA)



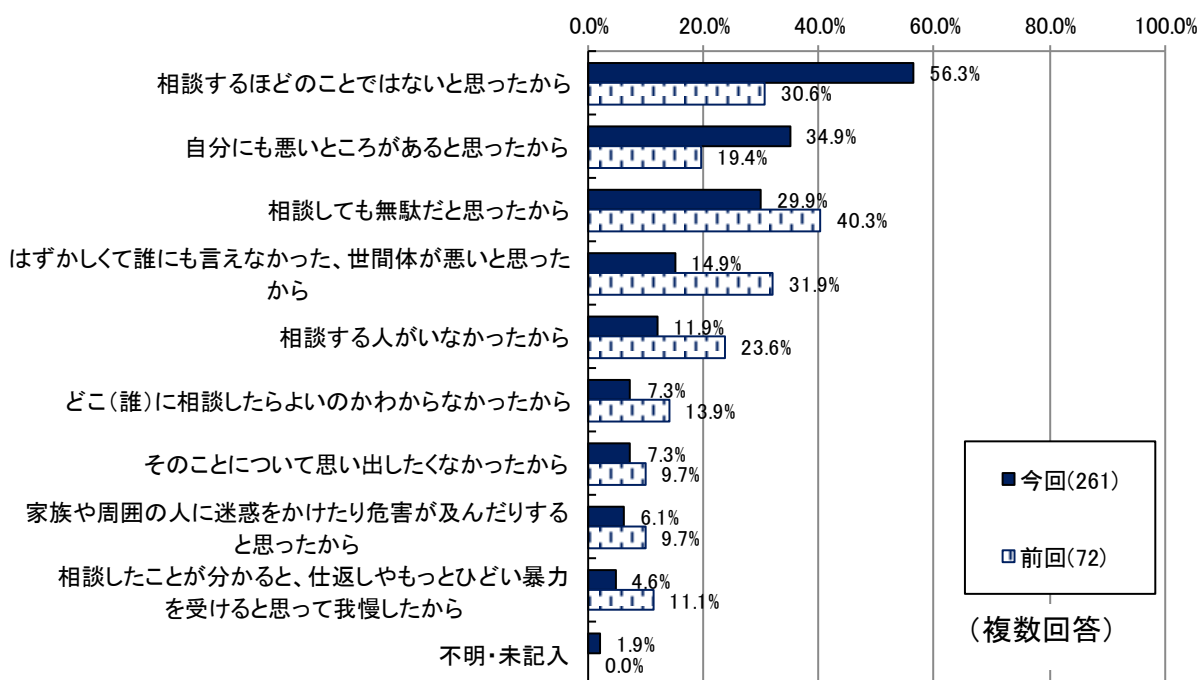
【主なその他回答】

・自分が我慢すれば済む話だと思っていた／お互い様 など

■図表 106 精神的・身体的暴力を相談できなかった・しなかった理由(前回比較)

今回: 問22. 問21-2で「相談できなかった」「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。相談できなかった・相談しなかった理由として当てはまるもの全てを選んでください。(MA)

前回: 問23-2. 問23で相談「できなかった」「しなかった」と答えた方にお伺いします。なぜ「できなかった」「しなかった」のですか。(〇はいくつでも)



※前回調査は「DVを受けた経験がある」人に限る

(5) 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(問23)

- ◎全体では、“被害者の相談窓口がある”、“被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる”、“加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる”を知っている割合が5割弱～6割強と高い。
- ◎性別には、概ね女性の方が知っている割合は高い傾向。
- ◎前回調査との比較では、知っている割合は前回の方が高い傾向。

<全体・性別>

全体で見ると、“被害者の相談窓口がある”の割合が最も高く64.7%、次いで“被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる”が52.8%、“加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる”が47.9%と続く。ほか“一般の人が被害者を発見したときには、通報するよう努めなければならない”は23.5%、“被害者が利用できる生活保護など制度の情報提供を受けられる”は21.6%とともに20%台、“加害者の相談窓口がある”は6.5%と低い状況にある。

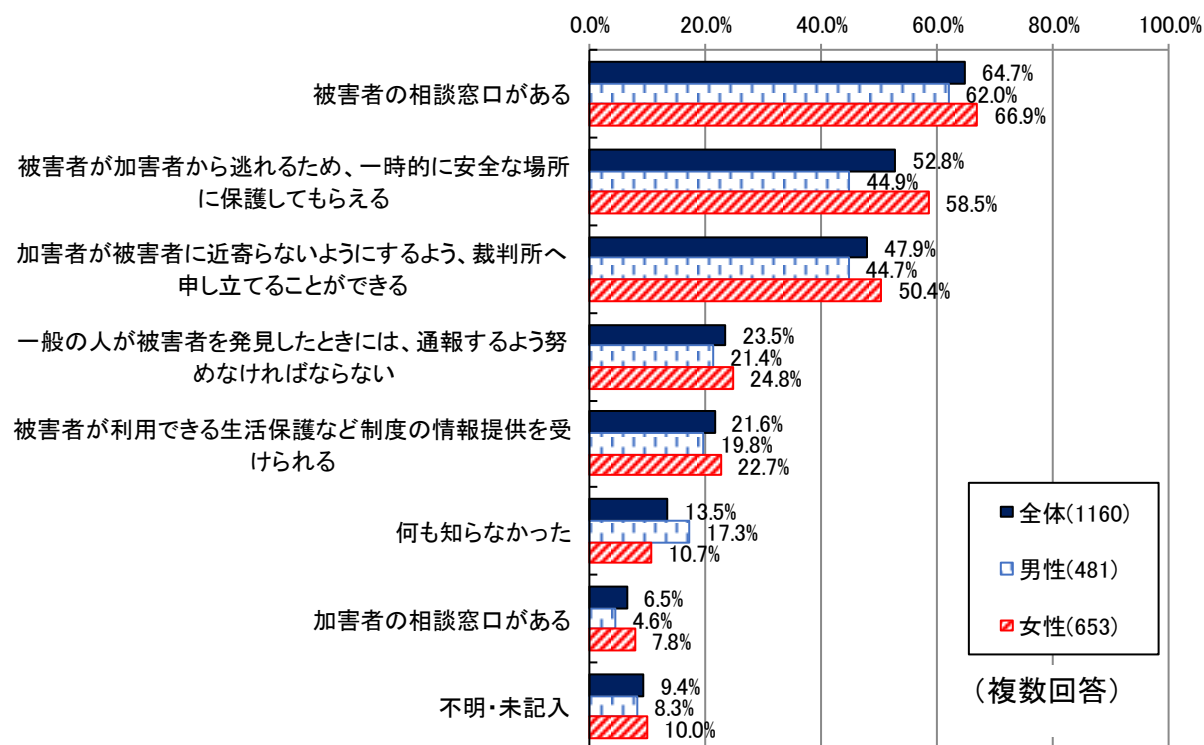
性別にみても割合の高い項目の順位は全体と同様だが、概ね女性の方が知っている割合は高い傾向にある。中でも“被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる”を知っている割合は、女性が男性を13.6ポイント上回る。(図表107)

<前回調査結果との比較>

前回調査結果と比較すると、前回今回ともに“被害者の相談窓口がある”の割合が最も高く、次いで“被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる”、“加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる”と続いており、知っている割合が高い順位は同様であるが、いずれの項目でも今回調査の方が低く、その差は8.1～10.5ポイントとなっている。(図表108)

■図表 107 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(全体・性別)

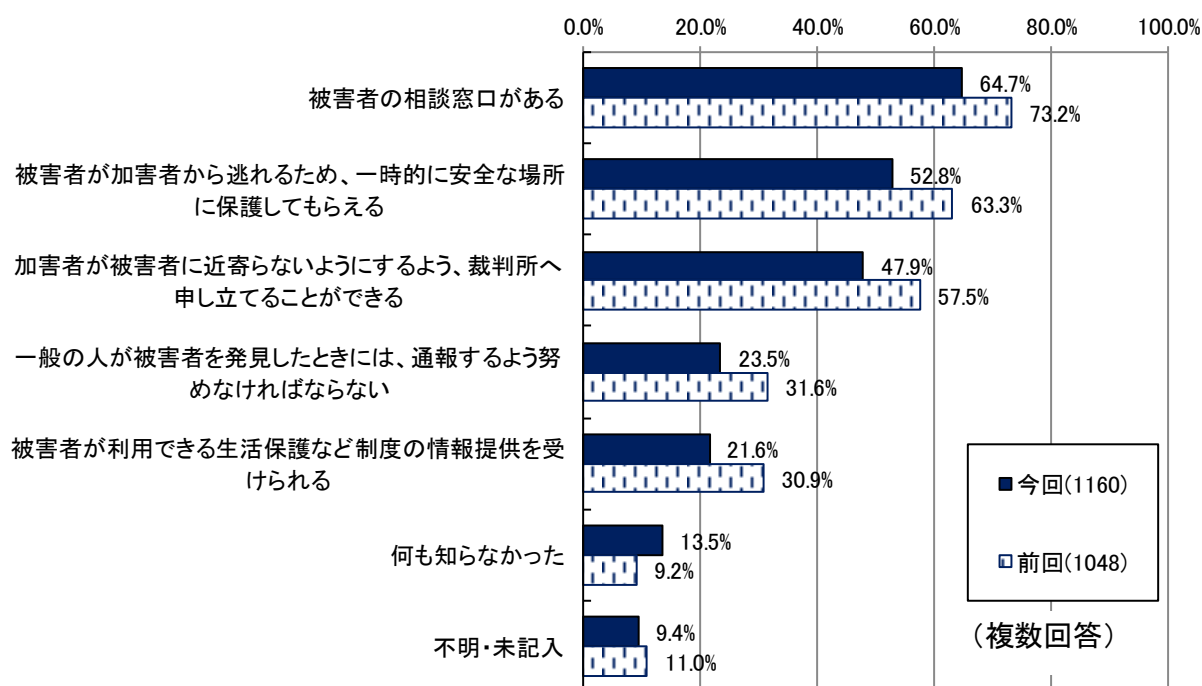
問23. 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して、知っていることを全て選んでください。(MA)



■図表 108 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して知っていること(前回比較)

今回:問23. 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して、知っていることを全て選んでください。(MA)

前回:問24. 配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関して、次のことを知っていますか。(〇はいくつでも)



(6)職場、地域、学校などでのセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)の経験(問24)

◎全体では“「女のくせに…」とか「男なのに…」と性差別的な言い方をされた”と“容姿について傷つくことを言われた”が2割弱。

◎男女ともに“容姿について傷つくことを言われた”や“「女のくせに…」とか「男なのに…」と性差別的な言い方をされた”が最も多くて1割台半ば～約2割。

<全体>

全体で見ると、いずれの項目も“受けたことはない”が7割以上と高いが、“受けたことがある”の割合が高いのは、“「女のくせに…」とか「男なのに…」と性差別的な言い方をされた”と“容姿について傷つくことを言われた”でそれぞれ17.4%、17.1%、ほか「好まない性的な話を聞かされた」が10.4%、「お酒の場でお酌やデュエットを強要された」が9.8%、「不必要に体を触られた」が9.7%と並ぶ。(図表 109)

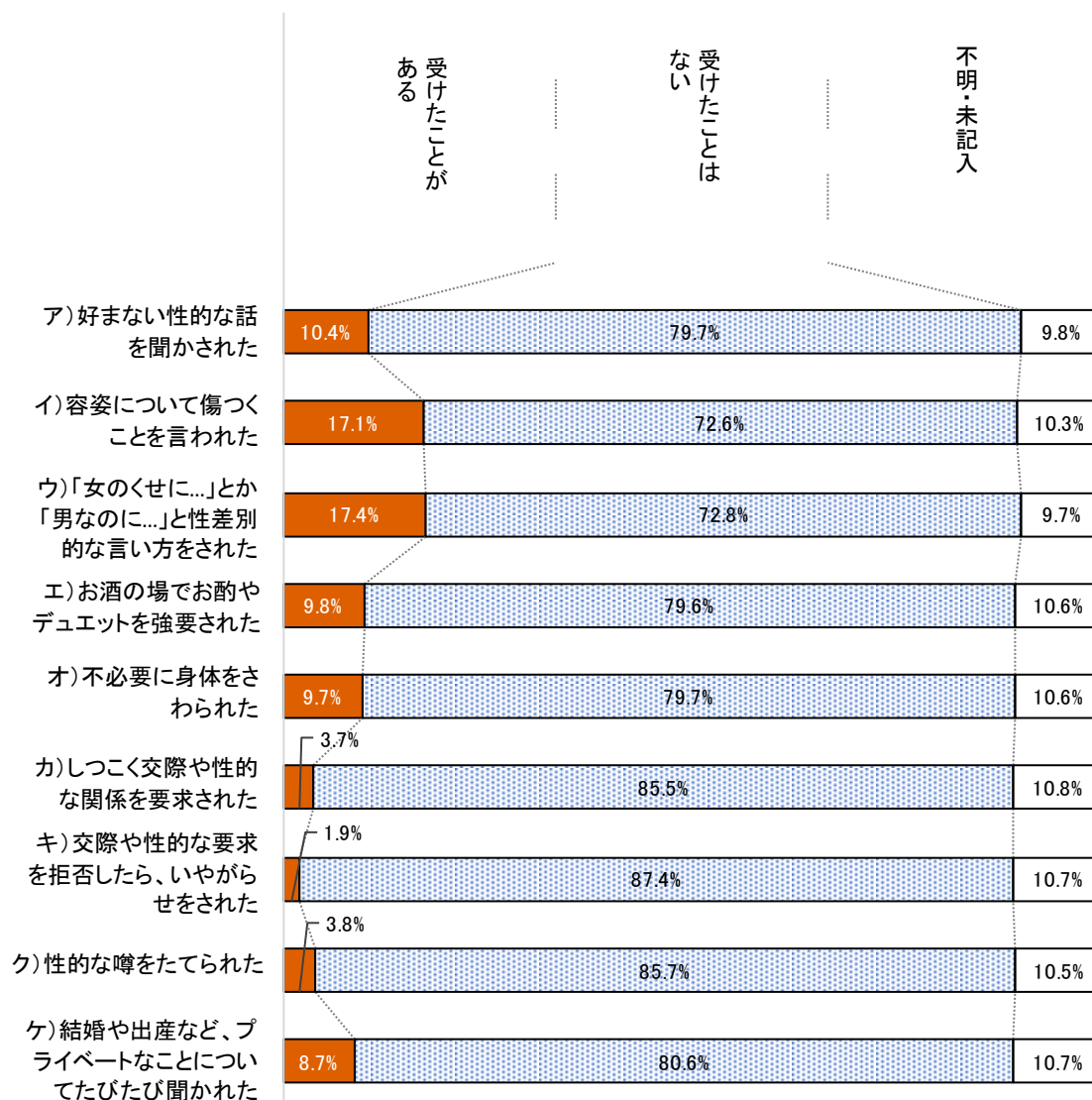
<性別>

性別にみても、“受けたことがない”の割合がいずれの項目でも7割以上と高いが、“受けたことがある”ものの中では、“「女のくせに…」とか「男なのに…」と性差別的な言い方をされた”と“容姿について傷つくことを言われた”が男女ともに高くなっている。

また、「不必要に体を触られた」、「お酒の場でお酌やデュエットを強要された」、「好まない性的な話を聞かされた」は男女で差異が大きく、それぞれ13.0ポイント、10.5ポイント、8.1ポイント女性の方が高くなっている。(図表 110)

■図表 109 職場、地域、学校などでのセクシュアル・ハラスメントの経験(全体)

問24. 職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことがありますか。以下のア)～コ)について、それぞれ当てはまるものを1つずつ選んでください。(SA)

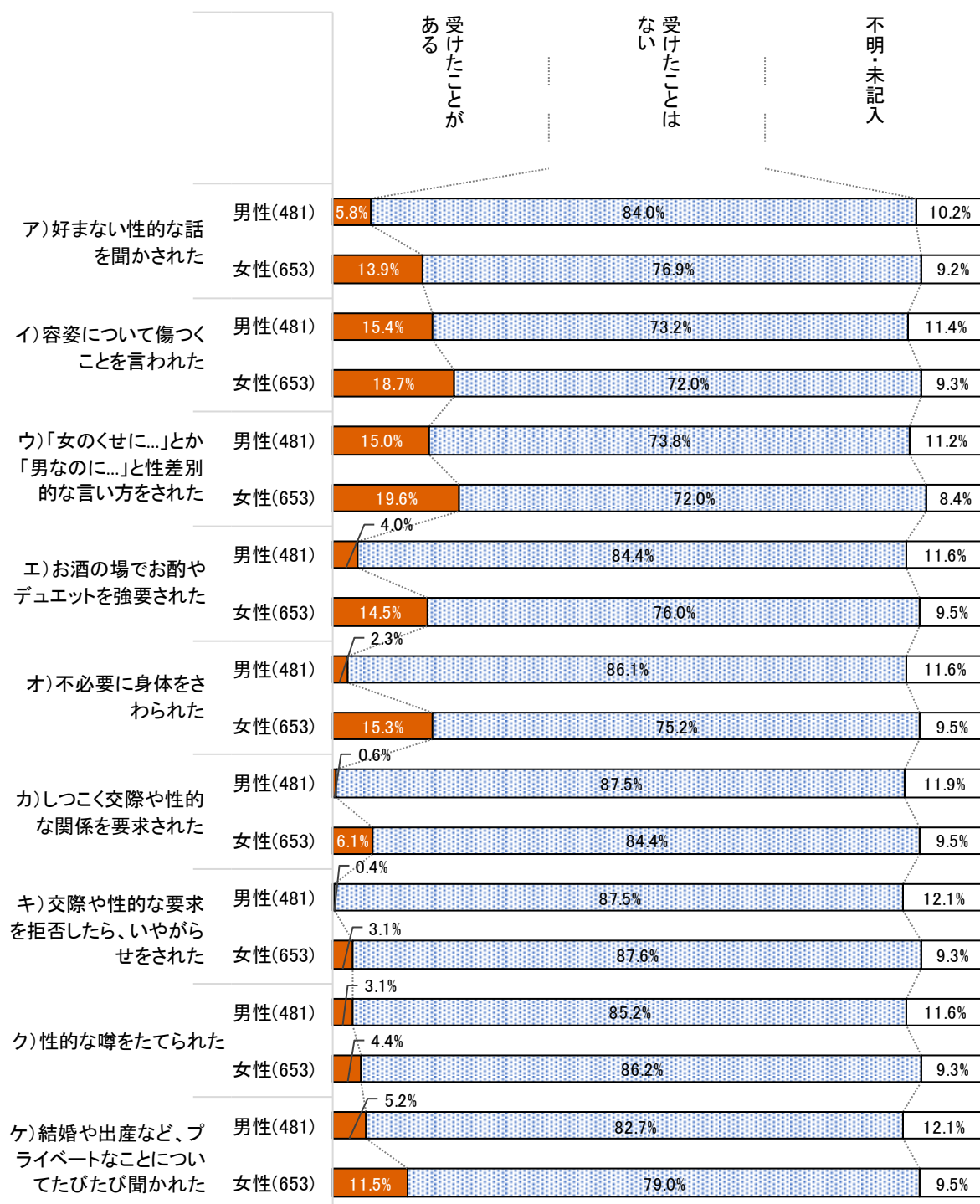


【その他に「受けたことがある」主なこと】

- ・性的な HP を見せられた／丈の短いスカートの制服着用 など

■図表 110 職場、地域、学校などでのセクシュアル・ハラスメントの経験(性別)

問24. 職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことがありますか。以下のア)～コ)について、それぞれ当てはまるものを1つずつ選んでください。(SA)



8. 防災について

(1) 防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なことについて(問25)

- ◎全体では“防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努める”と“避難生活施設の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入る”が多くて6割弱。
- ◎性別にみても、男女ともに必要と考える項目は全体と同傾向。

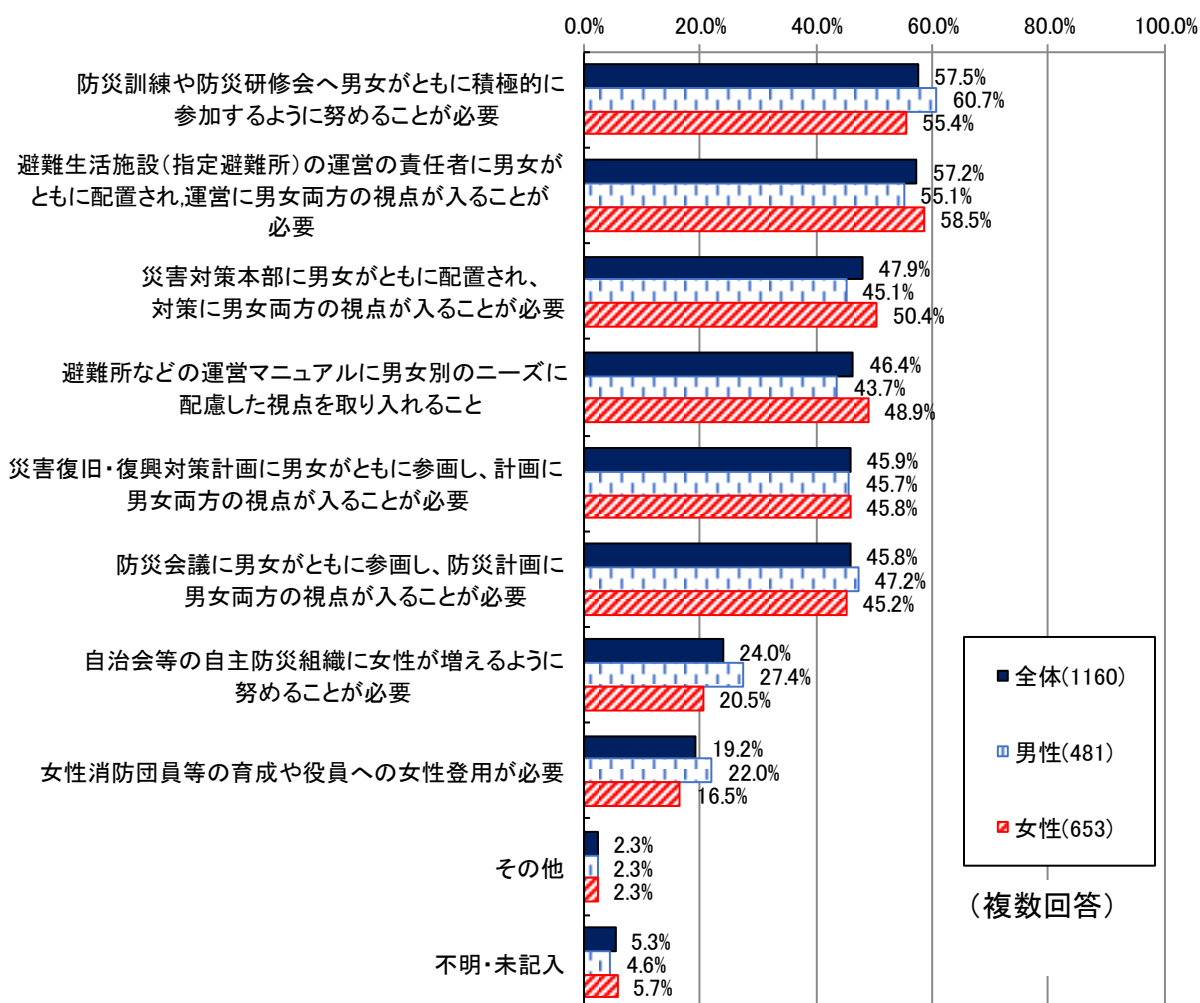
<全体・性別>

全体で見ると、“防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要”と“避難生活施設(指定避難所)の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入ることが必要”がそれぞれ57.5%、57.2%で高くなっている。次いで“災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ることが必要”が47.9%、“避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること”が46.4%、“災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ることが必要”が45.9%、“防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要”が45.8%と概ね5割弱で続く。

性別に見ると、男女ともにいずれの項目も全体と同傾向であり、顕著な差異は見られない。(図表111)

■図表 111 防災・災害対策において、男女共同参画を推進するために必要なこと(全体・性別)

問25. 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

- ・子供をあずかってくれる場が必要／わからない など

(2) 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて(問26)

◎全体では、“日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある”とする意見が多く8割強。次いで“高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つ必要がある”と“子どもを地域で育てるという意識を持つ必要がある”で5～6割程度。
◎性別にみても、必要とされる項目の順位は全体と同じ。

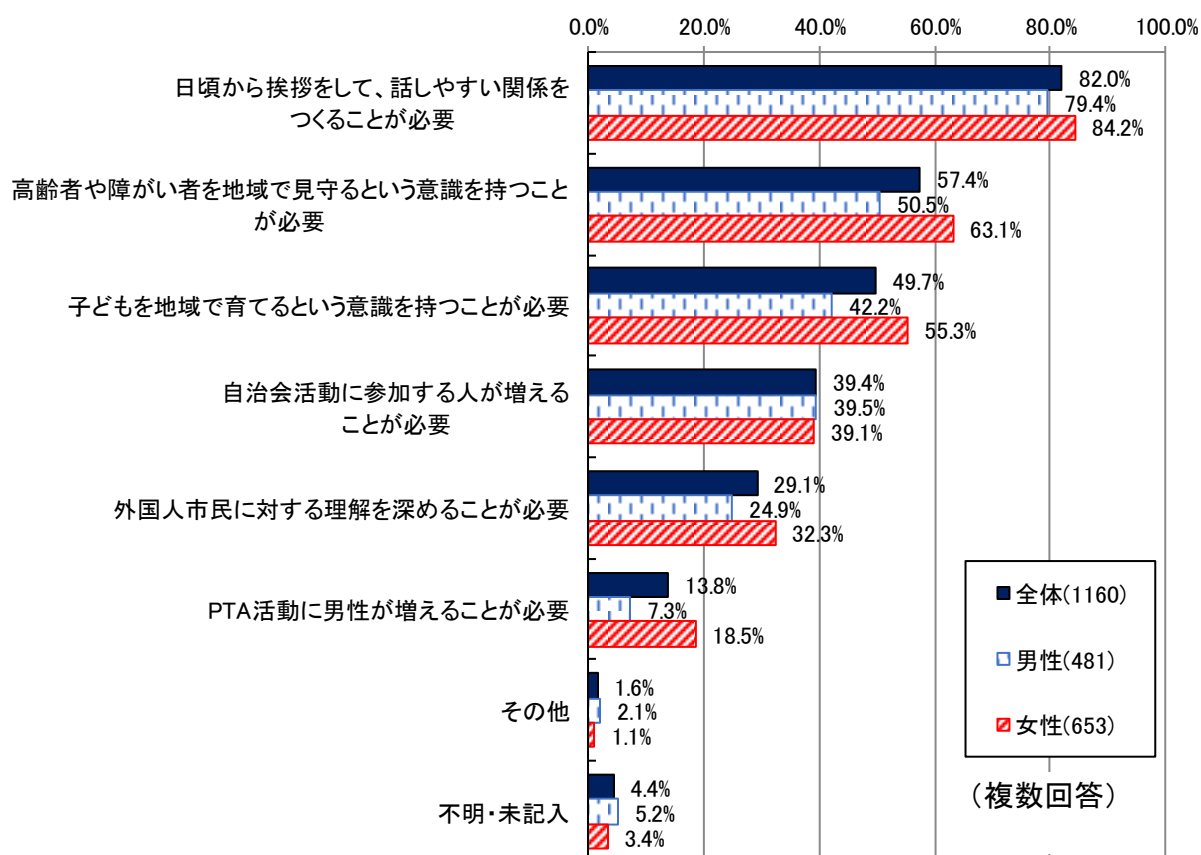
<全体・性別>

全体で見ると、“日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある”の割合が最も高く82.0%。次いで“高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つ必要がある”が57.4%、“子どもを地域で育てるという意識を持つ必要がある”が49.7%、“自治会活動に参加する人が増える必要がある”が39.4%と続く。

性別にみても、“日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある”の割合が最も高く、必要とされる項目の順位は全体と同じだが、その値には男女で差異があり、“子どもを地域で育てるという意識を持つ必要がある”、“高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つ必要がある”、“PTA活動に男性が増える必要がある”などの「地域の支えあい」を必要とする項目では、女性が男性を10ポイント以上上回る。(図表 112)

■図表 112 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なこと(全体・性別)

問26. 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて、あなたの考え方に近いものをすべて選んでください。(MA)



【主なその他回答】

・外国人に日本のマナーやルールを教える／自治会活動をもっと増やし、顔を合わせる場をつくる など

9. 男女共同参画施策について

(1) 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度について(問27)

- ◎全体で認識度が高いのは「男女雇用機会均等法」、「DV 防止法」、低いのは「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」や「男女共同参画情報誌「わくわく」、「第2次やまと男女共同参画プラン」。この傾向は男女とも同様。
- ◎前回と比べると、「ジェンダー」と「ダイバーシティー」で認識度が 10 ポイント以上上昇。

<全体>

全体で見ると、「男女雇用機会均等法」と「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV 防止法)」では、“内容まで知っている”と“名前を聞いたことがある”の割合を足すと(以下“知っている”と記す)、それぞれ 82.4%、79.4%となり認識度は高い状況にある。次いで高いのは「ジェンダー」、「LGBT」で過半数、次いで「ダイバーシティー」、「男女共同参画社会基本法」、「デートDV」などでも 45%前後が“知っている”状況にある。

逆に“知らない”割合が高いのは、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」で 81.2%、また大和市の事業である「男女共同参画情報誌「わくわく」や「第2次やまと男女共同参画プラン」も“知らない”割合は 79.6%、78.0%と、認識度は低い状況にある。(図表 113)

<性別>

性別にみると、全体でも認識度が高かった項目は男女ともに高く、低かったものは同様に低い状況にあり、男女の傾向に大きな差異は見られない。(図表 114)

<前回調査結果との比較>

前回調査の結果を比べると、「ジェンダー」と「ダイバーシティー」で、それぞれ 12.8 ポイント、11.5 ポイント“知っている”の割合が高くなっている。ほかの項目においては、前回と今回で選択肢の文言が全く同じではないことを考慮すれば、ほぼ同様の結果と捉えられる。(図表 115)

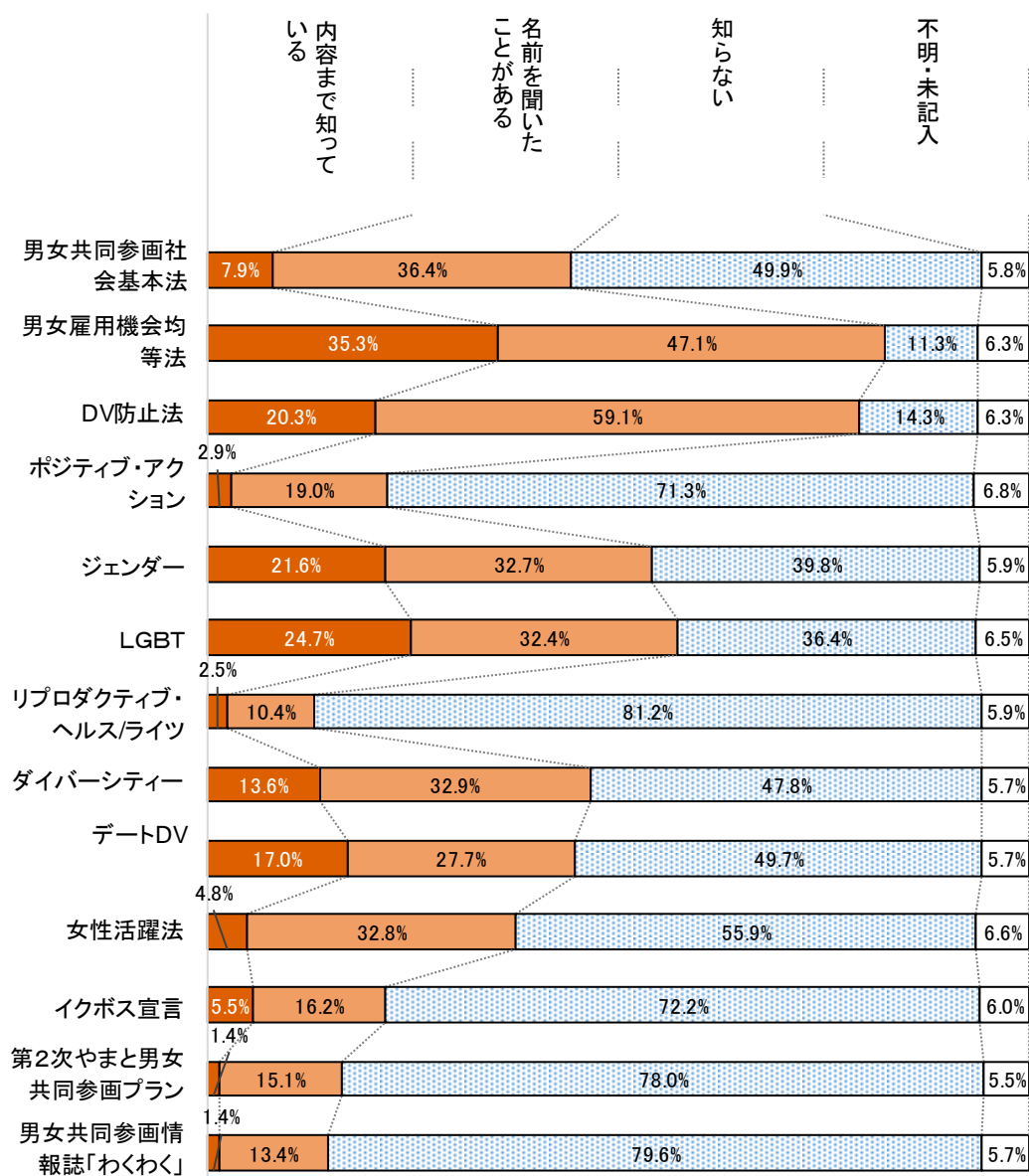
<全国調査結果との較>

内閣府の全国調査の結果と比較すると、「男女雇用機会均等法」や「ポジティブ・アクション」、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍法)」は同水準であるが、「ジェンダー」の認識度が大和市で高くなっている⁴。(図表 116)

4 全国調査は調査年次が平成 28 年と大和市よりも 1 年古いため、前出の前回調査結果との比較で「ジェンダー」の認識度が上昇したと併せて考えれば、調査年次の違いによって差が出ている可能性も考えられる。

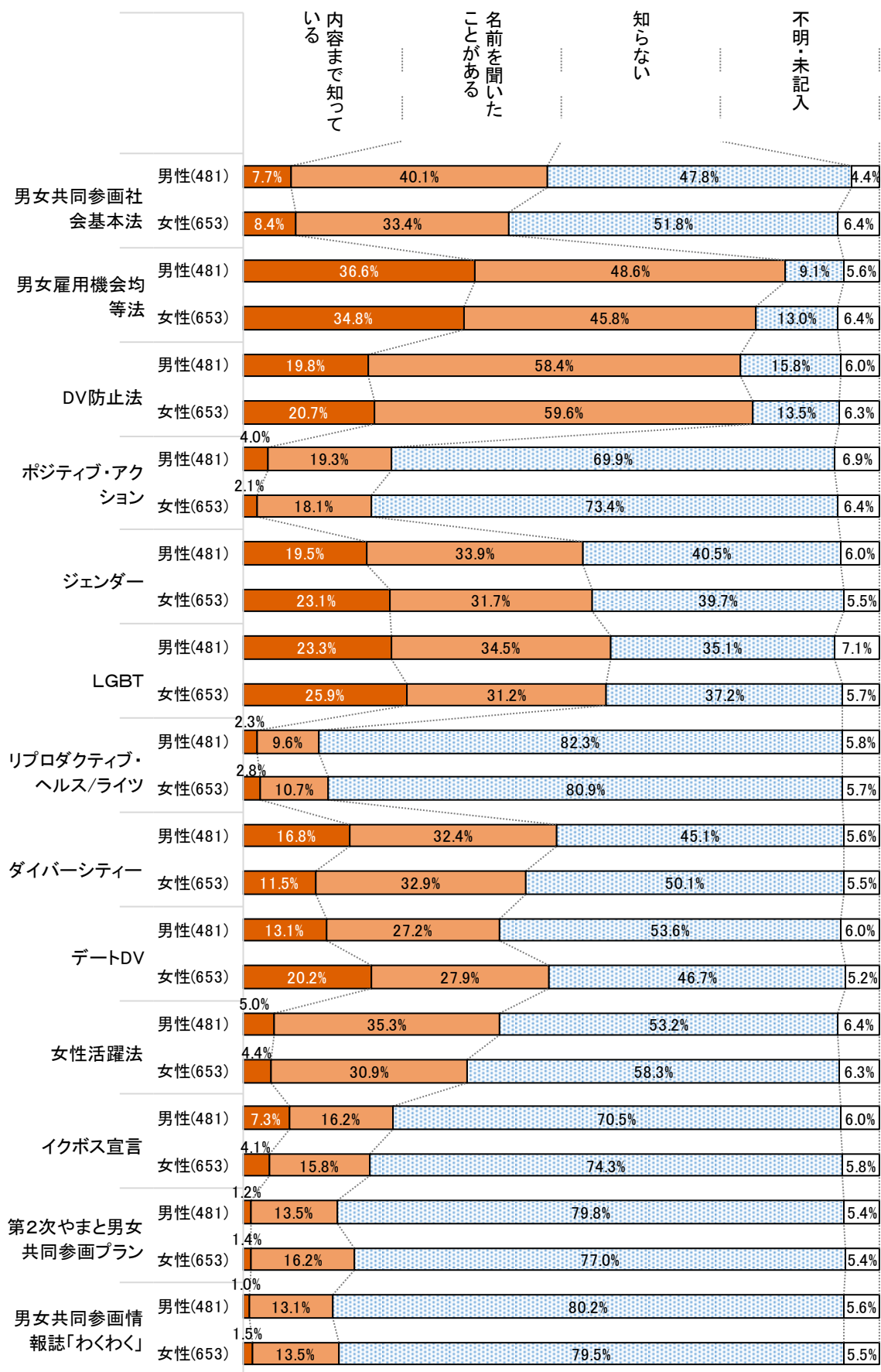
■図表 113 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(全体)

問27. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。(SA)



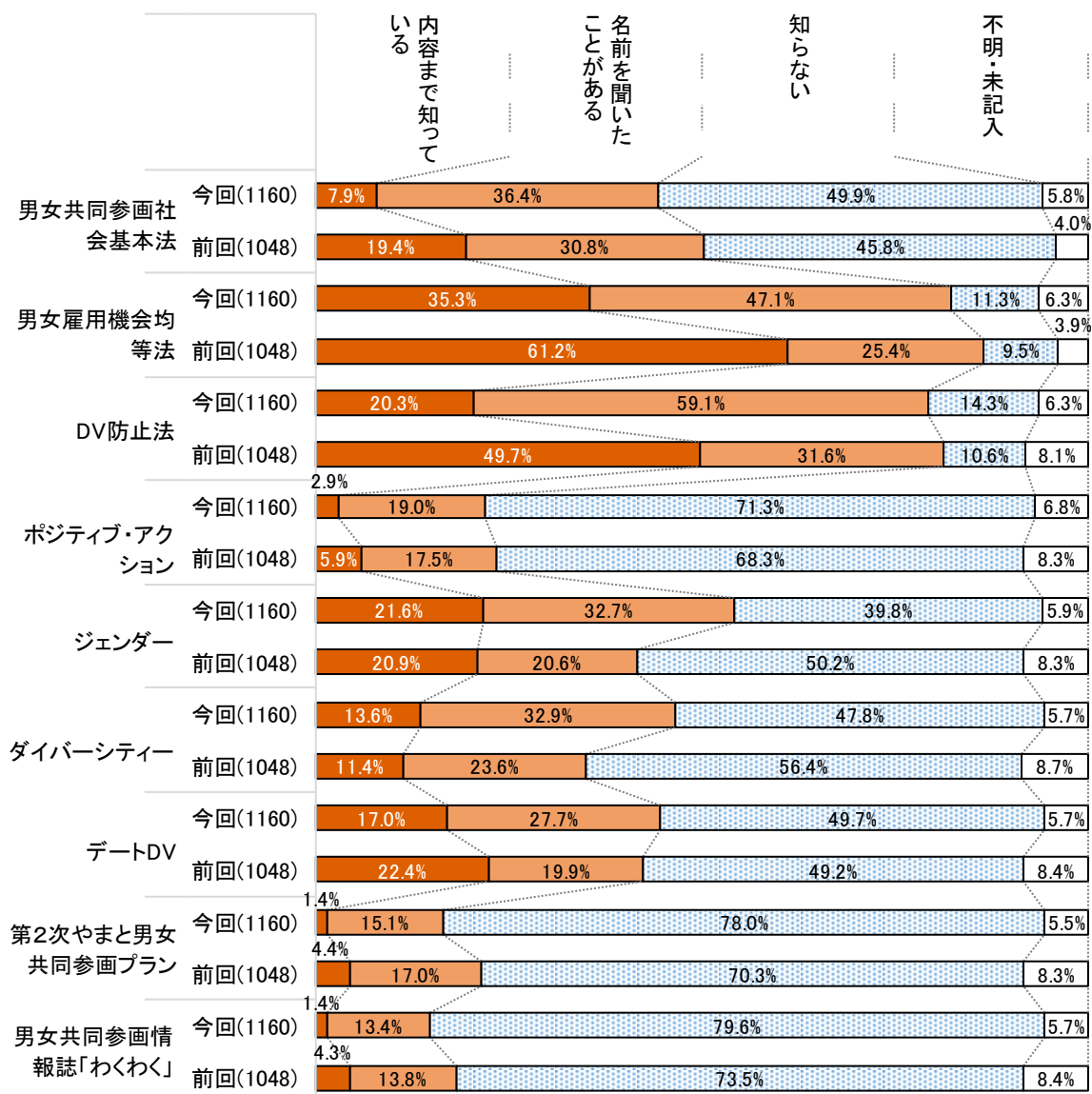
■図表 114 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(性別)

問27. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。(SA)



■図表 115 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(前回比較)

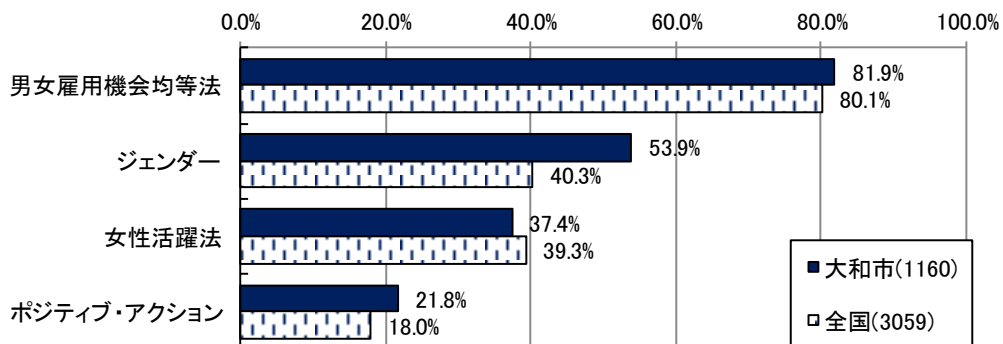
今回:問27. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。(SA)
 前回:問28. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。(○はそれぞれ1つ)



※前回調査時の選択肢は「知っている」/「聞いたことがある」/「知らない」

■図表 116 男女共同参画に関する「ことば」や「事柄」の認識度(全国比較)

大和市:問27. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。(SA)
 全国:Q5[回答票5] これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。(MA)



※全国調査の「見たり聞いたりしたことがあるもの」の選択割合と、本調査の「知っている+聞いたことがある」割合を比較している。なお全国調査に選択肢がある項目のみ比較。

(2) 男女共同参画社会の実現のためにできることについて(問28)

◎全体では“性別に関わらず、一人ひとりの生き方を尊重する”が最も多く 7 割弱、次いで“柔軟な多様な働き方に対する理解を深める”が 5 割強。
 ◎性別には、上位 2 項目は全体と同じだが、男性では次いで“職場の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ”が高く、女性は“家事・育児・介護に取り組んでいる人を理解し支援する”が高い。

<全体・性別>

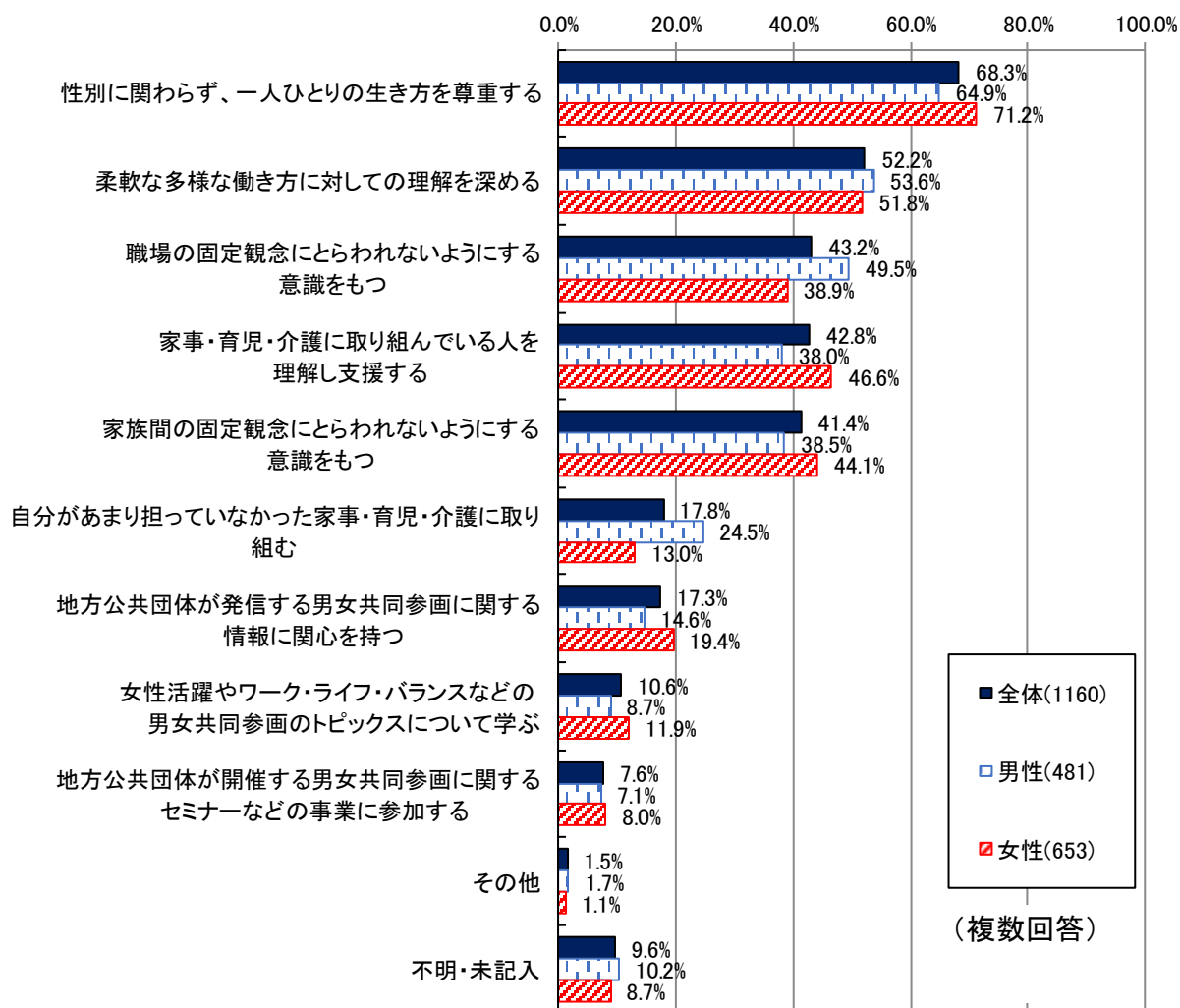
全体で見ると、“性別に関わらず、一人ひとりの生き方を尊重する”の割合が最も高く 68.3%、次いで“柔軟な多様な働き方に対する理解を深める”が 52.2%で過半数であり、ほか“職場の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ”が 43.2%、“家事・育児・介護に取り組んでいる人を理解し支援する”が 42.8%、“家族間の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ”が 41.4%と 40%台で続く。

性別にみると、男女ともに上位 2 項目は全体と同じであるが、男性では次いで“職場の固定観念にとらわれないようにする意識を持つ”が 49.5%と高く女性を 10.6 ポイント上回り、女性では“家事・育児・介護に取り組んでいる人を理解し支援する”が 46.6%で高く男性を 8.6 ポイント上回る。

(図表 117)

■図表 117 男女共同参画社会の実現のためにできること(全体・性別)

問28. 男性・女性を問わずに一人ひとりがそれぞれの個性や能力を活かす社会を実現するために、あなたができると思うことに近いものを全て選んでください。(MA)



【主なその他回答】

・現実的に、主人、義母の理解は得られないので無理／わかりません など

10. 男女共同参画についての意見・要望

(1) 男女共同参画についての意見・要望(問 29)

男女共同参画について、意見や要望を自由回答方式で尋ねたところ、121人(136意見)の記入が得られた。

以下は、自由意見をその主旨によって「意見項目」として整理し、調査項目ごとに分類したものである。

なお、件数は意見の件数を指す。また、一人が複数の意見を記入している場合は意見を分け、1件としてカウントしている。(図表 118)

■図表 118 男女共同参画についての意見・要望

問 29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入下さい。

調査項目	意見項目	件数
男女平等に関する意識について (43件)	性差を認識し、相互理解、役割分担、補完することが重要	15
	男女平等の押しつけは逆効果	4
	思いやり、譲り合いの心を持つべき	4
	国や自治体の主導に期待	3
	男女ではなく「個」を尊重すべき	3
	若い世代に期待	3
	男性の意識改革が必要	2
	アンケートによって差別が根強く残っていることを意識	2
	女性優遇は平等ではない	2
	意識の上での差別はすでにない	2
	差別は根強く残っていると感じる	1
	個人ではなく社会や組織の意識改革が必要	1
一人一人の意識改革が必要	1	
家庭生活について (9件)	女性に負担集中、意識改革が必要	3
	男女平等の推進によって逆に生活の不具合が起きていると感じる	2
	放課後広場を拡充してほしい	1
	性差を認識し、相互理解、役割分担、補完することが重要	1
	核家族は困る	1
	保育時の体調不良へのサポートが必要	1
就労意識について (12件)	子育てを疎かにすべきではない	4
	パートや専業主婦も含めて多様性を認めてほしい	2
	女性優遇は平等ではない	2
	女性負担中心は変わらない	1
	家庭・地域・職場の横断的な施策が必要	1
	休まれると経営が困る	1
	周りの理解・協力が必要	1
ワーク・ライフ・バランスについて (14件)	労働時間の短縮や給与改善が必要	5
	女性に負担集中、意識改革が必要	3
	制度だけではなく、身近な人の支援も必要	2

調査項目	意見項目	件数
	職場の理解・意識改革が必要	2
	介護や保育職員の待遇向上が必要	1
	制度ではなく個別の解決が必要	1
学校教育について (5件)	性差を踏まえた教育をすべき	3
	幼少期からの教育が重要	1
	親の教育が重要	1
社会参画について (9件)	女性優遇は平等ではない	3
	男女ではなく能力で評価される社会に	2
	女性の意見の社会への反映が必要	1
	男女が同等に参画すべき	1
	今なら参加したい	1
	制度や組織が旧態依然	1
男女の人権について (1件)	男性へのハラスメント対策も必要	1
男女共同参画施策について (15件)	もっと認識度の向上、アピール、広報が必要	8
	過度な意識、対策は必要ない	2
	具体的な行動、活動が必要、教えてほしい	2
	現役世代の声を聴く機会が必要	1
	家庭・地域・職場の横断的な施策が必要	1
	男女共同参画は手段と捉えて推進すべき	1
その他 (28件)	今回調査について（設問や用語が難しい）	8
	今回調査について（答えにくい、設問が不適切）	6
	今回調査について（考える良い機会になった）	3
	今回調査について（施策に活かしてほしい）	2
	今回調査について（答えるのが大変、手間がかかる）	2
	男女差別だけでなく、あらゆる差別の撤廃を	2
	わからない	2
	男女平等よりも経済や安全面での安定が必要	1
	時代に合わせたプラン策定をすべき	1
	集える場、話せる場が欲しい	1

卷末資料1 調査票

*****大和市 男女共同参画に関する市民意識調査 調査票*****

《男女平等に関する意識について》

問1. 次にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。ア)～キ)のそれぞれについて、当てはまるものを1つずつ選んでください。

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
ア) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
イ) 職場では	1	2	3	4	5	6
ウ) 教育の場では	1	2	3	4	5	6
エ) 社会参加の場では	1	2	3	4	5	6
オ) 法律・制度上では	1	2	3	4	5	6
カ) しきたりや習慣などでは	1	2	3	4	5	6
キ) 全体として考えると	1	2	3	4	5	6

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 「男は仕事、女は家庭」が望ましい
2. 男女とも仕事をするが、家事や育児は主に女性の役割だ
3. 男女とも仕事をし、家事や育児も分かち合うのがよい
4. 「女は仕事、男は家庭」が望ましい |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問3. 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい
2. 「男らしさ」、「女らしさ」を強調しないが、性差に配慮して育てたほうがよい
3. 「男の子」あるいは「女の子」を意識せず、区別なく育てた方がよい
4. その他 () |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問4. 男女がともに平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて、あなたの考え方に近いものを、全て選んでください。

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1. 職場内の固定観念の意識改革が必要
2. 家族間の固定観念の意識改革が必要
3. 法律や制度上の改正が必要
4. しきたりや慣習の改善が必要 | 5. 子どものころからの男女平等教育の徹底が必要
6. すでに実現しているため必要なことはない
7. その他 () |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|

《家庭生活について》

問5. 家庭内での家事、育児、介護の役割について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

	女性が主に担う	男女が協力し合っている	男性が主に担う	有償外部サービスを利用する	わからない
ア) 家事	1	2	3	4	5
イ) 育児	1	2	3	4	5
ウ) 介護	1	2	3	4	5

問6. 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 子育て世帯に対する経済的支援が必要
2. 長時間保育・病児保育などの支援体制の拡充が必要
3. 保育施設の拡充が必要
4. 育児サークルなど親子の居場所の確保が必要
5. 児童クラブなど放課後に児童が過ごせる場所の整備が必要
6. 育児に対する社会の理解と協力が必須
7. 出産や育児に対する相談体制の充実が必要
8. 長時間労働の解消や育児休業が取得しやすい職場環境づくりが必要
9. 防犯・交通安全など子どもが安心して外に出かけられる安全なまちづくりが必要
10. その他 ()

《就労意識について》

問7-1. 育児や介護のために法律に基づき休業や休暇を取得できる制度があります。次のような制度（社内規定）を活用して休業・休暇を取ったことがありますか。ア）～エ）について当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

	制度を知っている			制度を知らない
	利用した	利用していない		
		必要だった	不必要だった	
ア) 育児休業（育児のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
イ) 子の看護休暇（病気等の子どもの看護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4
ウ) 介護休業（介護のために一定期間休業できる制度）	1	2	3	4
エ) 介護休暇（短期の介護のための年5日程度の休暇）	1	2	3	4

⇒問7-2. 前問で2を1つでも選んだ方にお伺いします。その主な理由に当てはまるものを全て選んでください。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 利用する期間中の収入が保障されていないから | 4. 取得申請が却下されたから |
| 2. 利用すると昇進・昇給などに差し支えるから | 5. 興味・関心がないから |
| 3. 制度を利用しにくい雰囲気職場にあるから | 6. その他 () |

※問8は以前に働いたことがあるが現在無職の方、問9は一度も働いたことのない方に伺います。それ以外の方は問10に進んでください。

問8-1. 以前働いたことがあるが、現在無職の方に伺います。仕事を辞めた理由について当てはまるものを全て選んでください。

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 定年で | 7. 職場でパワハラ・セクハラ等のいやがらせを受けた |
| 2. 勤務先の都合で | 8. 保育園など、子どもの預け先が見つからなかった |
| 3. 健康上の問題等自身の都合で | 9. 仕事と家庭の両立が難しかった |
| 4. 子育てに専念したかった | 10. パートナーや親からの反対があった |
| 5. 転勤・介護など家庭の都合で | 11. その他 () |
| 6. 結婚・出産などで退職するのが慣習だった | |

問8-2. 今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいと考えていますか。当てはまるものを1つ選んでください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1. 常勤（フルタイム） | 5. 家業の手伝い |
| 2. パートタイム・アルバイト | 6. 派遣労働 |
| 3. 在宅勤務 | 7. 働くつもりはない |
| 4. 起業、自営 | 8. その他 () |

問9. 今まで働いたことのない方に伺います。どのようなきっかけがあれば働いてみたいと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 経済的に必要になったら | 4. 家族が家事・育児・介護等を分担してくれたら |
| 2. 保育所に子どもを入れることができた | 5. 働きたい仕事に出会えたら |
| 3. 子どもが大きくなったら | 6. その他 () |

問10. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 働かずに家事に専念する方がよい |
| 2. 結婚するまでは働いた方がよい |
| 3. 子どもができるまでは、働いた方がよい |
| 4. 結婚や出産に関わらず働き続ける方がよい |
| 5. 子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい |
| 6. 結婚せずに仕事に専念する方がよい |
| 7. その他 () |

問 1 1. 男性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

1. 働かずに家事に専念する方がよい
2. 結婚するまでは働いた方がよい
3. 子どもができるまでは、働いた方がよい
4. 結婚や子どもができることに関わらず働き続ける方がよい
5. 子どもができたら仕事はやめ、大きくなったら再び働く方がよい
6. 結婚せずに仕事に専念する方がよい
7. その他 ()

問 1 2. 職場で男女平等ではないと思うこととして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 賃金の金額 | 7. 時間外勤務などの労働時間 |
| 2. 昇進・昇任の速さ | 8. 育児休業・介護休業の取得しやすさ |
| 3. 責任ある仕事の分担 | 9. 指導的地位（注1）の就きやすさ |
| 4. 研修や様々な仕事の機会 | 10. 仕事をしていないのでわからない |
| 5. 転勤や配属転換 | 11. その他 () |
| 6. 結婚や出産時後の職場の対応 | |

（注1）（1）議会議員、（2）法人・団体等における課長相当職以上の者、（3）専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者。

問 1 3. 女性が働き続けるためには職場や社会、家庭等においてどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 職場の上司・同僚が、仕事と子育て・家事等の両立に理解があることが必要
2. 育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気的形成することが必要
3. 職場で規定時間以上の勤務がないことが必要
4. フレックスタイムや在宅勤務など、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方ができることが必要
5. スキルアップに向けた講座やセミナーがあることが必要
6. 自治会などの地域活動参加への職場の理解促進が必要
7. 保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充が必要
8. 家族間で家事・育児・介護の分担が図られることが必要
9. その他 ()

《ワーク・ライフ・バランスについて》

「ワーク・ライフ・バランス」とは、一般的に「仕事と生活の調和」と訳されます。内閣府は平成 19 年に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」を策定しており、その中で、仕事と生活の調和のとれた社会とは次のように定義されています。

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」このように、ワーク・ライフ・バランスとは、個人の価値観や人生の段階に応じて多様な働き方の選択ができることが、充実した人生を送るために大切である、という考え方です。

問14-1. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」のバランスについて伺います。無職の方は、「家庭生活」「地域・個人の生活」の関係についてお答えください。

まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つ選んでください。

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つのすべてを優先したい
8. わからない

問14-2. それでは、あなたの現状に最も近いものをこの中から1つ選んでください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の3つすべてを優先している
8. わからない

問15. あなたは家事・育児・介護に一日のうち、何時間関わっていますか。1時間単位で数字をご記入ください。

	家事	育児	介護
記入例	2 (時間)	2 (時間)	0 (時間)
平日	(時間)	(時間)	(時間)
休日	(時間)	(時間)	(時間)

問16. 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 男性が家事などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすことが必要
2. 夫婦やカップル、家族間でのコミュニケーションをよく図ることが必要
3. 男性が家事などを行うことに対する職場の理解が進むことが必要
4. 労働時間の短縮や休暇を取りやすくすることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすることが必要
5. 講習会や研修等を行い、男性の家事・育児・介護の技能を高めることが必要
6. 男性が育児、介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めることが必要
7. その他（)

問17. ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 仕事中心という社会全体の仕組みを改める
2. 育児休業や介護休暇を取りやすい職場の体制や雰囲気形成
3. 育児や介護のために退職した人を再雇用する
4. 産休・育児休業を取得した人の職場復帰のための環境の整備
5. 保育所などの子育て支援サービスや高齢者等の介護サービスの拡充
6. 労働時間の短縮や各種休暇制度の普及、充実
7. 職業生活を続けていくうえでの相談窓口の整備
8. 家族間で家事・育児・介護の分担をすることに対する社会の評価を高める
9. 働くことに対する家族や周囲の理解と協力
10. その他 ()

《学校教育について》

問18. 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要であると思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 互いの性を尊重しあえる教育の充実が必要
2. 性別役割分担などの固定観念の解消が必要
3. 生活・進路指導における男女平等への配慮が必要
4. 教科書や副読本などの表現における男女平等への配慮が必要
5. 男女平等や相互理解についての学習の充実が必要
6. 教師自身の男女平等教育の意義への理解が必要
7. 校長や教頭など役職のある立場の男女平等教育に対する理解が必要
8. 学校がPTAなどを通じ、保護者等が男女平等教育の理解と協力を深めることが必要
9. その他 ()

《社会参画について》

問19-1. あなたがア)～オ)にあげる役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選んでください。

	そう思う	そうは思わない	わからない
ア) PTA会長	1	2	3
イ) 自治会長	1	2	3
ウ) 職場の管理職	1	2	3
エ) 市の審議会等の委員	1	2	3
オ) 市議会議員	1	2	3

問19-2. あなたがア)～オ)の役職等への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。それぞれ1つ選んでください。

	承諾する	承諾しない	わからない
ア) PTA会長	1	2	3
イ) 自治会長	1	2	3
ウ) 職場の管理職	1	2	3

(問19-2の続き)	承諾する	承諾しない	わからない
エ) 市の審議会等の委員	1	2	3
オ) 市議会議員	1	2	3

⇒問19-3. 問19-2で、役職等への就任や立候補を依頼されたときに、「承諾しない」を選んだ方にお伺いします。その理由についてあなたの考えで近いものを全て選んでください。

1. 自信がないから	6. 男性が就くものだから
2. リーダーシップがないから	7. 女性が就くものだから
3. 責任のある職に就きたくないから	8. 健康上の問題があるから
4. 家事・育児・介護などがあるから	9. その他 ()
5. 仕事しているから	

問19-4. では、あなたのパートナーがア)～オ)の役職等への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。それぞれ1つ選んでください。

	承諾する	承諾しない	わからない
ア) PTA会長	1	2	3
イ) 自治会長	1	2	3
ウ) 職場の管理職	1	2	3
エ) 市の審議会等の委員	1	2	3
オ) 市議会議員	1	2	3

問20. 役職等への就任や立候補を依頼された際に「承諾する」という女性が増えるなど、女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 女性の役職等就任への意識改革	5. 一定の割合で女性を登用する制度の充実
2. 組織の運営体制の改善	6. わからない
3. 能力開発のための研修機会の充実	7. その他 ()
4. 家族の支援や協力	

《男女の人権について》

問21-1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)～コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。

	A (1つに○)		B (1つに○)	
	受けたことがある	受けたことはない	したことがある	したことはない
ア) 殴る、蹴るといった肉体的暴力	1	2	3	4
イ) 大声でどなる	1	2	3	4
ウ) 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
エ) 生活費を渡さない、借金を重ねるといった経済的暴力	1	2	3	4
オ) 見たくないのにポルノ雑誌・ビデオを見せる	1	2	3	4

(問21-1の続き)	A (1つに○)		B (1つに○)	
	受けたことがある	受けたことはない	したことがある	したことはない
カ) 性的な行為の強要	1	2	3	4
キ) 電話やメールの監視、交友関係の制限	1	2	3	4
ク) 「誰のおかげで生活できるのだ」などと言う	1	2	3	4
ケ) 「甲斐性がない」「稼ぎが悪い」などと言う	1	2	3	4
コ) その他 ()	1	2	3	4

⇒問21-2. 前問で1つでも「受けたことがある」と答えた方にお伺いします。
あなたは、そのような暴力を受けたことを誰かに相談をしましたか。
当てはまるものを1つ選んでください。

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| 1. 相談した | 2. 相談できなかった | 3. 相談しなかった |
|---------|-------------|------------|

⇒問21-3. 前問で「相談した」を選んだ方は、実際に、どこ(誰)に相談しましたか。
当てはまるもの全てを選んでください。

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 家族 | 5. 公的機関(相談窓口・電話相談) |
| 2. 友人・知人 | 6. 医師・カウンセラーなど |
| 3. 同じ経験をした人 | 7. 民間の機関など(NPOなど民間支援グループ) |
| 4. 家庭裁判所・弁護士・警察など | 8. その他() |

⇒問22. 問21-2で「相談できなかった」「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。
相談できなかった・相談しなかった理由はとして当てはまるもの全てを選んでください。

- | |
|-------------------------------------------|
| 1. どこ(誰)に相談したらよいのかわからなかったから |
| 2. 相談する人がいなかったから |
| 3. はずかしくて誰にも言えなかった、世間体が悪いと思ったから |
| 4. 相談しても無駄だと思ったから |
| 5. 相談したことが分かると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思って我慢したから |
| 6. 家族や周囲の人に迷惑をかけたかたり危害が及んだりすると思ったから |
| 7. 自分にも悪いところがあると思ったから |
| 8. 相談するほどのことではないと思ったから |
| 9. そのことについて思い出したくなかったから |
| 10. その他() |

問23. 配偶者等からの暴力防止及び被害者の保護に関して、知っていることを全て選んでください。

1. 被害者の相談窓口がある
2. 被害者が加害者から逃れるため、一時的に安全な場所に保護してもらえる
3. 被害者が利用できる生活保護など制度の情報提供を受けられる
4. 加害者が被害者に近寄らないようにするよう、裁判所へ申し立てることができる
5. 一般の人が被害者を発見したときには、通報するよう努めなければならない
6. 加害者の相談窓口がある
7. 何も知らなかった

問24. 職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことがありますか。以下のア）～コ）について、それぞれ当てはまるものを1つずつ選んでください。

	受けたことがある	受けたことはない
ア) 好まない性的な話を聞かされた	1	2
イ) 容姿について傷つくことを言われた	1	2
ウ) 「女のくせに…」とか「男なのに…」と性差別的な言い方をされた	1	2
エ) お酒の場でお酌やデュエットを強要された	1	2
オ) 不必要に身体をさわられた	1	2
カ) しつこく交際や性的な関係を要求された	1	2
キ) 交際や性的な要求を拒否したら、いやがらせをされた	1	2
ク) 性的な噂をたてられた	1	2
ケ) 結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた	1	2
コ) その他（ ）	1	2

《 防災について 》

問25. 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

1. 防災訓練や防災研修会へ男女がともに積極的に参加するように努めることが必要
2. 女性消防団員等の育成や役員への女性登用が必要
3. 自治会等の自主防災組織に女性が増えるように努めることが必要
4. 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ることが必要
5. 避難所などの運営マニュアルに男女別のニーズに配慮した視点を取り入れること
6. 避難生活施設（指定避難所）の運営の責任者に男女がともに配置され、運営に男女両方の視点が入ることが必要
7. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ることが必要
8. 災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ることが必要
9. その他（ ）

問26. 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて、あなたの考え方に近いものをすべて選んでください。

1. 日頃から挨拶をして、話しやすい関係をつくる必要がある
2. 自治会活動に参加する人が増える必要がある
3. PTA 活動に男性が増える必要がある
4. 子どもを地域で育てるという意識を持つ必要がある
5. 高齢者や障がい者を地域で見守るという意識を持つ必要がある
6. 外国人市民に対する理解を深める必要がある
7. その他 ()

《男女共同参画施策について》

問27. 男女共同参画に関する次の「ことば」や「事柄」を知っていますか。それぞれ当てはまるものを1つ選んでください。

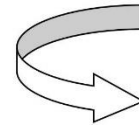
	内容まで知っている	名前を聞いたことがある	知らない
1. 男女共同参画社会基本法	1	2	3
2. 男女雇用機会均等法	1	2	3
3. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV 防止法）	1	2	3
4. ポジティブ・アクション（役職や担当業務が一方の性に偏らないようにするための積極的格差是正措置）	1	2	3
5. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）	1	2	3
6. LGBT（性的マイノリティ）	1	2	3
7. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利。個人、特に女性の健康の自己決定権を保障する考え方）	1	2	3
8. ダイバーシティ（性別、年齢、国籍、価値観、障がい・病気の有無等の多様性を受け入れていこうという考え方）	1	2	3
9. デートDV（配偶者でなく交際関係にある人の中で起こる暴力）	1	2	3
10. 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍法）	1	2	3
11. イクボス宣言（職場でともに働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）であるという宣言）	1	2	3
12. 第2次やまと男女共同参画プラン	1	2	3
13. 男女共同参画情報誌「わくわく」	1	2	3

問28. 男性・女性を問わずに一人ひとりがそれぞれの個性や能力を活かす社会を実現するために、あなたができると思うことに近いものを全て選んでください。

1. 職場の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ
2. 家族間の固定観念にとらわれないようにする意識をもつ
3. 柔軟な多様な働き方に対する理解を深める
4. 性別に関わらず、一人ひとりの生き方を尊重する
5. 自分があまり担っていなかった家事・育児・介護に取り組む
6. 家事・育児・介護に取り組んでいる人を理解し支援する
7. 地方公共団体が開催する男女共同参画に関するセミナーなどの事業に参加する
8. 地方公共団体が発信する男女共同参画に関する情報に関心を持つ
9. 女性活躍やワーク・ライフ・バランスなどの男女共同参画のトピックスについて学ぶ
10. その他 ()

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。

裏面にも設問が続きます。



★ フェイスシート

皆さまからのご回答を統計的に分析するために、ご回答者様ご自身のことについて伺います。

F 1. あなたの性別は次のどちらですか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F 2. あなたの年齢について当てはまるもの1つを選んでください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 16～19歳 | 3. 30～39歳 | 5. 50～59歳 | 7. 70歳～79歳 |
| 2. 20～29歳 | 4. 40～49歳 | 6. 60～69歳 | 8. 80歳以上 |

F 3. あなたの職業について当てはまるものを1つを選んでください。

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1. 農林水産業の自営主、家族従業者 | 6. パート、アルバイト、派遣社員 |
| 2. 商工業・サービス業の自営主、家族従業者 | 7. 家事専業 |
| 3. 自由業（医師、弁護士、作家、画家等） | 8. 学生 |
| 4. 会社員、公務員、団体職員（従業員、事務職、専門職） | 9. 無職 |
| 5. 会社員、公務員、団体職員（管理職、経営者） | 10. その他（ ） |

F 4-1. あなたの現在の状況について当てはまるものを1つを選んでください。

- | | | |
|---------------------------------|--------------|-------|
| 1. 既婚（配偶者・パートナーがいる）
（事実婚を含む） | 2. 既婚（離別・死別） | 3. 未婚 |
|---------------------------------|--------------|-------|

F 4-2. 前問で「1. 既婚（配偶者がいる）」と答えた方に伺います。あなたと配偶者・パートナーの働き方について、当てはまるものを1つを選んでください。

※働くとは、常勤やパートタイム等も含まれます。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 二人とも働いている | 2. 夫のみ働いている | 3. 妻のみ働いている |
| 4. 二人とも働いていない | | |

F 5. 現在のあなたの世帯状況について、当てはまるものを1つを選んでください。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯（一人暮らし） | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） | 5. その他（ ） |
| 3. 二世帯世帯（親と子） | |

**** 以上で質問は終わりです。長時間ご協力ありがとうございました。 ****
同封の返信用封筒に入れて平成29年12月5日（火）までにご返送ください。

卷末資料2 自由意見等

問3. 子どもの育て方について、あなたの考え方に近いものを1つ選んでください。(SA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ TPOによる(女性/不明) ・ その子の性格によりけり(女性/40代) ・ それぞれの個性を見きわめ、それに合った教育をする(男性/60代) ・ わかりません(女性/70代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個性をのばす(女性/40代) ・ 子どもの価値観に合わせたい(女性/30代) ・ 子供がいませんので答えられませんが、どこかに平等という気持ちもあります(女性/70代) ・ 分かりません(女性/30代)

問4. 男女がともに平等な関係を築き、生き生き暮らす社会を実現するために必要なことについて、あなたの考え方に近いものを、全て選んでください。(MA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人1人の生活がもっと豊かになれば、生き方の選択肢が増えて不平等を感じるものが減ると思います(女性/30代) ・ インフラ(保育園等)の整備、拡充が必要(男性/70代) ・ しいていえば①と⑤だが、「男女がともに平等な関係になる」ということは不可能だと思う。(女性/20代) ・ すべて平等が、生き生き暮らす社会に通じるとは思わない。男女別の役割は必要(男性/20代) ・ メディアでそのような内容を伝えてもらう(女性/40代) ・ メンズデー(男性/30代) ・ わかりません(男性/40代) ・ 何をもって平等とするのが、平等に生き生きと暮らせる社会なのかすら分からない。平等を望む女性は一部ではないか。よって、実現していないし必要なこともない。(女性/30代) ・ 家庭内での役割(女性/20代) ・ 改革は必要だがなる様にしかならない(男性/40代) ・ 基本的人権の理解を深める(男性/70代) ・ 希望すれば全ての子供が保育園に入れるようにする(女性/50代) ・ 経済的にもっと豊かにする(男性/70代) ・ 現在無職(女性/80代以上) ・ 古い考えを捨てる(女性/30代) ・ 国家規模の意識改革が必要。(女性/30代) ・ 子育て期間の親の意識(社会のルールを親が理解していない問題)(女性/40代) ・ 実現してないとは思うが必要なことはない(女性/40代) ・ 女子に身の守り方を学校で教育してほしい。たとえば、合気道とか…。(女性/70代) ・ 女性が不利と感じていますが、本当に求めているなら女性が意志を示されると思います、その時に公平と一緒に考えたいと思います。(男性/40代) ・ 女性専用車両(電車)があるのに男性専用がないのは改善されるべきである。(男性/60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心身ともに男女平等はありえない。男性女性、出来ることを分けあって…特に男性の「女性」と思うの意識改革が必要。(女性/40代) ・ 新しい考えの教育と古い考え世代の交替(不明/不明) ・ 性別に関係なく、それぞれの個性を尊重するが良い(男性/70代) ・ 成熟した判断が出来る人が多くなれば!(男性/70代) ・ 正しい男女平等の理解機会の平等、権利の平等(女性/40代) ・ 全て平等はない、個々の(個人の)、企業の柔軟性が必要。(男性/40代) ・ 大正生れの親に育てられたので意識して自分を変えていく。(女性/70代) ・ 男の固定観念の意識改革が必要(女性/60代) ・ 男らしさ女らしさの自覚(男性/60代) ・ 男女間というより、人としての個性を優先して同じ人間として考えるべきだと思います(女性/50代) ・ 男女平等というよりも、男女の身体・発達の違いやその人をその人として見られるような教育・考え方をしていくことが必要。(女性/20代) ・ 男女平等と言う事をやめるべき(男性/40代) ・ 動物としての機能に立脚し、男は男として、女は女としての機能を最大限に活かすことを考え・実施することが肝要。(男性/50代) ・ 特に考えたことがない(女性/50代) ・ 特に男女にこだわらなければよい(男性/30代) ・ 肉体的ではなく精神的な男女が大切(女性/50代) ・ 分かりません(女性/30代) ・ 平等が誇張され、結果として女子優遇が見られる(男性/60代) ・ 平等な関係を実現することは不可能。補い合うためには平等であることではなく対等である。(女性/30代)

問6. 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正社員化による収入の安定、2世代、3世代住居の推進(祖父母に子を見てもらう)(女性/50代) ・ 1~9何1つ欠けてはバランス良く出来ないと思う。(女性/50代) ・ 3人目以降の出産については報奨金を出すなどの経済的支援(男性/30代) ・ TPOによる(女性/不明) ・ お子さんが小さな内(せめて3才)は、女性は働かないでその分男性の給料を上げた方がいいと思う(女性/60代) ・ シングル家庭に対する育児支援(男性/60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女が仕事をせず家庭を守る社会充実を図ることが先決、子育ては、夫妻二人が働きながらできるほど生やさしいものではない。(男性/50代) ・ 女性の職場復帰の支援(女性/30代) ・ 少子化の関連で…マンション等3LDKが標準なの分からない。4LDK以上でないとい3人以上は絶対無理だから。(女性/40代) ・ 障害のある子どもに対する支援が必要。(女性/50代) ・ 親も社会も子供を徹底して守り安全を確保(四六時中)すべき。(女性/60代)

問6. 子どもを産み、育てやすくする環境をつくるために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・すでに拡充されていると思うものもある。(男性/30代) ・わからない(男性/40代) ・移民制度撤廃！不法入国者駆除！(女性/30代) ・育児が後ろめたく感じない職場環境をつくる事が必要(女性/30代) ・一定の年収以下の経済的支援は必要と思うが、全額補助とかはやりすぎ…。(女性/70代) ・何をするのであれ、経済的支援は必要(男性/40代) ・家庭内に居る女性はしっかりと子供を育てる。(男性/80代以上) ・会社側が子供の急病等に対応して、休みやすくすること。(男性/40代) ・基本給与UP(男性/40代) ・近所の人がこの辺りの子どもだ、と知っておくことが必要(女性/20代) ・経済上母親が働かなくては普通の生活ができない現状と国の借金を解決し将来の不安をなくすこと(男性/70代) ・子どもいないので分らない(男性/70代) ・子どもがいまないのでどれを重視したらよいかわかりませんが1~9まで必要ではないかと思えます(女性/70代) ・子どもが居ない人・子育てが終わった高齢者が今どきの子育てに参加できるコミュニティがあると良いかも。子どもと大人の壁みたいなのをなくして0才から100才までごちゃまぜの交流の場(女性/40代) ・子どもを産み、育てていくのも女性。女性に対して精神的サポートが必要だと思う。(女性/30代) ・子育てをする親の自覚が必要(女性/60代) ・子供がいないので考えたことがない(女性/40代) ・子供の突発な病気時にでも柔軟に対応してくれる職場環境や社会全体の協力が必要、核家族への支援等。(女性/30代) ・子供部屋で、1人で過ごす今の家作りが少し気になります。(女性/70代) ・施設を増やすだけでなく、保育士の質を維持。(男性/30代) ・自然を残す。(女性/30代) ・質の高い放課後支援(女性/30代) ・実際に政策を実行する側の人間と、育児をする側の人間との相互理解を深めるアンケートやその機会を増やす。(女性/30代) ・出産、育児の適齢期と仕事の責任が求められる時期が重なるため、サポートする体制が必要。(不明/不明) ・出産までの費用の経済的支援があるといいと思います。(女性/40代) ・出産等にかかる費用の補助(女性/10代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間も生物の1つとして、子孫を残すことが当たり前だという教育。生まない自由もあるという考え方がある以上、6や8は実現しづらいと思う。(男性/30代) ・人的資源(お手伝いさん等)に恵まれていた。(男性/80代以上) ・全て自己責任が基本。不満を口に出す●●と思う(男性/70代) ・大和市は、海外の方達が多くいらっしゃいます。その方達に込め細かく対応することが、少子化の世の中の解消、国際化の将来に繋がっていくと思います。(男性/40代) ・男女共同のための環境整備。(女性/60代) ・男女子育りなしにかかわらず有休などがとりやすい環境(女性/40代) ・地域のご近所での助け合い。子どもが親以外の大人と接する機会を。(男性/20代) ・地域社会が、社会の宝として子供を皆で見守る意識と姿勢(男性/50代) ・通学も含め親は常に子供につきそい1人にしないあるいは小学校等もスクールバスを徹底すべし。☆子供に対する犯罪にもっと真剣に考えるべき。日本はアメリカに見習うべき。(男性/60代) ・定額所得者を対象に(女性/60代) ・日本経済の安定により、安定した雇用体制の確立(女性/50代) ・不妊に対する支援(男性/30代) ・不妊治療の部分でも、助成金等の支援を充実してほしい。(女性/40代) ・父親の意識改革(女性/50代) ・分かりません(女性/30代) ・保育園入所に関する常勤、正社員加点(女性/40代) ・保育士、幼稚園教諭の賃金UP(女性/30代) ・保育士さんの労働環境の見直し等も重要(女性/60代) ・保育士の手当を上げ、人員の確保が必要(不明/不明) ・保育士給料の底上げ(男性/30代) ・保育施設で務める人々の、時間と経済面の充実が必要(男性/10代) ・保育料無料より、保育士待遇改善の方が、費用がかかるが急務(女性/40代) ・娘がアメリカにいて子育て(3人)の時~才(小学生?)までは学校の送迎が義務でした。(女性/70代) ・幼少期より、中学~大学の経済的支援の方が必要(女性/40代)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問7-2. 前問で2を1つでも選んだ方に伺います。その主な理由に当てはまるものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・1~5の中にない(女性/70代) ・その時は、まだ制度がなかった(女性/60代) ・その時自営業だった(女性/60代) ・パート、アルバイトには関係ない(女性/30代) ・まだ学生で制度を知っているが利用していない。(男性/20代) ・まだ子供がいないので。(女性/20代) ・まだ必要でない(男性/30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の時なかった(男性/50代) ・自分の世代ではなかったから。(男性/60代) ・実際に利用はないが、必要だと思う為。(男性/20代) ・社内にその規定ができてなかった(女性/40代) ・就労していない。(女性/60代) ・従来は無かった(男性/80代以上) ・出産した時点で、遠まわしに退職を進められ、従うしかなかった為。(女性/30代)
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問7-2. 前問で2を1つでも選んだ方に伺います。その主な理由に当てはまるものを全て選んでください。

(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児休業以外知らなかった。(男性/30代) ・ 介護は必要としていない無休の制度なので有休でコト足りたから、(必要があれば使用する意思はある)(女性/30代) ・ 介護休暇そのものがなかった(男性/70代) ・ 会社にその制度がなかった為(女性/40代) ・ 休業したから。(男性/50代) ・ 休日、長時間保育の対応施設が少ない(女性/40代) ・ 急に必要という時、利用出来ない(女性/50代) ・ 業務に差し支えが有るので(男性/50代) ・ 結婚後は派遣社員だった為制度なし(女性/40代) ・ 元々育児休業がない(男性/50代) ・ 仕事が変われないから(男性/70代) ・ 仕事が忙しい(男性/50代) ・ 仕事が忙しいから(男性/30代) ・ 仕事の都合(男性/30代) ・ 仕事をしていないので利用をしていないが、仕事をしていたら全て絶対に必要。(女性/40代) ・ 仕事をしている時には制度がなかった(女性/70代) ・ 仕事を同僚に頼められない業種のため。(男性/30代) ・ 子がない(不明/不明) ・ 子どもも介護する親もいない(男性/20代) ・ 子供がない為(男性/20代) ・ 子供が障害者だったので仕事をするのをあきらめた為(女性/50代) ・ 子供に障害があり無職だった。(女性/70代) ・ 子供の病気の看護(男性/60代) ・ 私が働いている時制度がなかった(男性/80代以上) ・ 私の若い頃はなかった(女性/70代) ・ 私の世代では制度がなかったから。(女性/60代) ・ 時代が違った(女性/60代) ・ 時代相応に考えた方が良い。(男性/80代以上) ・ 自営の為(男性/70代) ・ 自分が主の仕事で自分抜きに事業所が成りたないため休めない。(不明/不明) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出産時に会社を退職していたため利用していない。(女性/30代) ・ 出産時の年齢差に関係無く、市がもっと親身になって欲しい。(女性/30代) ・ 職場で制度を教えてもらえなかった(女性/40代) ・ 職場における自身の立場(男性/40代) ・ 職場の人員が常に不足している(女性/60代) ・ 制度がありませんでした。(女性/70代) ・ 制度ができる前だった。(女性/50代) ・ 制度がなかった(男性/60代) ・ 制度がなかった。(男性/40代) ・ 制度がなかった。(男性/60代) ・ 制度が出来ていなかった。(男性/60代) ・ 制度が無かった(女性/50代) ・ 昔はなかった。(女性/70代) ・ 他の人に悪くて休めない。(女性/70代) ・ 体調不良で出産前に退社したため(女性/40代) ・ 単身者(男性/60代) ・ 知っているが、まだ利用していない(女性/20代) ・ 知らなかった。(男性/60代) ・ 中小で制度自体があっても無いようなもの(男性/60代) ・ 働いていないため(女性/30代) ・ 妊娠初期からつわりがひどいと流産の可能性が高く、休みがちだったので、休みを頂こうと思っていたが、出産までの間も油断できなかつたから離職した。(会社には依頼したけども、復帰のめどがなかったため)(女性/20代) ・ 年次休暇を取得(男性/40代) ・ 必要性を感じるため(女性/10代) ・ 有給で休みをとる。(男性/60代) ・ 利用しないでも、今のところ何とか過ごせている為(女性/30代) ・ 利用する必要がなかった(男性/60代) ・ 労働者全員が利用できるわけではない。中小労働者には無縁(女性/70代)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問8-1. 以前働いたことがあるが、現在無職の方に伺います。仕事を辞めた理由について当てはまるものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ ①三交代勤務が、イヤになり。②上司もイヤになった。(女性/70代) ・ 43才まで商売をやっていた(女性/60代) ・ パートタイムが良いが条件が合わない等(女性/40代) ・ 介護(田舎へ)と孫の病気時の世話のため現在パートをやめている。(女性/60代) ・ 会社が、社長が年配で後をつぐ人がいない為、会社を閉社したから(女性/40代) ・ 学業優先の為(男性/20代) ・ 学生のため(女性/20代) ・ 勤務中40年(女性/70代) ・ 結婚(女性/50代) ・ 結婚し、主人の職場が遠く引っこしたため。続けられなかった。(女性/30代) ・ 結婚で遠くなった為(女性/70代) ・ 結婚するにあたり、居住地と夫の仕事を優先し私が仕事をやめるのが無難な選択だった。その後子育てをしてしまったので、無職のまま。(女性/40代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自営業なので自然に息子夫婦にゆずりました。(女性/70代) ・ 自営業のため(男性/60代) ・ 実家の家業引き継ぎの為と、家業廃業の為。(女性/40代) ・ 社会保険に加入できなかった(男性/40代) ・ 若い人に仕事場、賃金が下り若い人に使われる(男性/70代) ・ 主婦業に専念したかった(女性/40代) ・ 上司とあわなくて(男性/20代) ・ 職場と保育園や幼稚園の距離が離れすぎており、送迎の負担が大きかった。(女性/30代) ・ 人間関係(女性/30代) ・ 専業主婦で夫を支える為(女性/60代) ・ 専業主婦の為(女性/60代) ・ 孫が生まれたので(女性/70代) ・ 対人関係をこじらせた(男性/40代) ・ 単身赴任10年で。(男性/70代) ・ 倒産(男性/70代)
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 8 - 1. 以前働いたことがあるが、現在無職の方に伺います。仕事を辞めた理由について当てはまるものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在仕事をしている。(女性/60代) ・ 厚生年金の「長期加入者の特例」の権利を有したから。(男性/60代) ・ 高齢なので(女性/80代以上) ・ 子供が社会人になったから(女性/70代) ・ 子供が出来た為(女性/70代) ・ 資格とるため就学(女性/30代) ・ 自営業(男性/60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠7ヶ月で派遣契約がきれ、次の更新が困難だったため。(女性/30代) ・ 妊娠初期から流産の可能性が強く又、つわりもひどく安定せず、やむをえなかった。(女性/20代) ・ 年令的(男性/80代以上) ・ 夫の仕事の都合で引っ越したから！(女性/60代) ・ 夫の転勤と自身の妊娠が重った為(女性/20代)
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 8 - 2. 今後適当な仕事があった場合、どのような働き方をしたいと考えていますか。当てはまるものを1つ選んでください。(SA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 83才一寸無理だね(女性/80代以上) ・ 89歳の高齢者です(男性/80代以上) ・ どういう働き方がしたいのかわからない(女性/40代) ・ ボランティア(女性/60代) ・ ボランティアは考え中(女性/70代) ・ もうすぐ70才になるので(女性/60代) ・ 介護中(女性/60代) ・ 季節・気温差等で体調の調整出来ず。(女性/70代) ・ 考えていません(女性/80代以上) ・ 高齢のため(女性/70代) ・ 高齢者で働けない(女性/70代) ・ 持病が出た為、無理できなくなった。(女性/40代) ・ 身体的(女性/70代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体が悪く難しい(男性/40代) ・ 地域活動に従事(男性/60代) ・ 働くつもりなし(男性/70代) ・ 働く意志ナシ、年令的に(女性/80代以上) ・ 働ける年令ではない(女性/80代以上) ・ 認知症の為(男性/70代) ・ 年だから(女性/80代以上) ・ 年金(男性/70代) ・ 年金の為(女性/70代) ・ 年金生活してるから(男性/70代) ・ 年令が高い為働けない(女性/70代) ・ 未来は未定(女性/不明) ・ 来年1月に84才です(女性/80代以上)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 9. 今まで働いたことのない方に伺います。どのようなきっかけがあれば働いてみたいと思いますか。あなたの考え方に近いものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ ?(男性/80代以上) ・ すぐに働きたい。(女性/10代) ・ 学校を卒業したら(女性/10代) ・ 健康が回復したら(女性/30代) ・ 自営業(男性/60代) ・ 社員になるが送ってる。(男性/10代) ・ 卒業したら(女性/10代) ・ 卒業したら(女性/20代) ・ 大学のための資金のため(女性/10代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学を卒業したら。(男性/20代) ・ 託児付の勤務先があれば(不明/不明) ・ 働くことは考えていない。(女性/60代) ・ 働く気はない(女性/40代) ・ 年令の為。(女性/70代) ・ 年令的に無理(女性/60代) ・ 年令的に無理(女性/80代以上) ・ 病が無かったら、介護等も～(女性/70代) ・ 勉強が終わったら(女性/20代)
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 10. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ?(男性/80代以上) ・ ～方がよい、ではなく個人の好きにしてよい、と思う(女性/40代) ・ 1が理想だが、1人の収入では、現実的に高校、大学を考えると働かざるを得ない仕方がない。小さい頃(小学生まで)は育児に専念したいのは皆同じ。働かざるを得ないから。(女性/40代) ・ 1に近いが経済的に出来ない(女性/40代) ・ 4、5に当てはまるが、経済的なもの、仕事による。(女性/40代) ・ ④の働き続ける方がよいが現状制度では⑤項を選択せざるをえない(女性/70代) ・ 5が○ですがその時の家庭の経済状況によると思います。(女性/60代) ・ 5-に近いが現実・生活していく事に困難があると思う(女性/40代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自営業(男性/60代) ・ 自分にあった働き方が良い(女性/40代) ・ 自分の意見は持たず、妻の意思を尊重する(男性/20代) ・ 自由で良い(女性/70代) ・ 自由にすればいい(男性/20代) ・ 質問が古くさい。(女性が社会で働くことについてという問)(女性/30代) ・ 収入によらず、子を自立/自律させることを見据え、必要なくなるまでは働いた方がよい。ただし、収入の多少よりも、子を自立/自律させる方が優先。(男性/30代) ・ 収入による。(女性/30代) ・ 出産を終えて体調が整ったら再度働くのがよい(男性/20代) ・ 出産後の育児休業後も元の職に戻りやすい環境下で出産前も後も働いた方がよい。(男性/10代)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問10. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- ・ ⑤だが経済的にどうか、一度辞めると同じ場所に戻れないとか、核家族の問題、ご近所に協力者が居る居ないでも状況がかなり違ってくる、また主婦でも主夫でも向く方がやってもよいし、両方で分けるのもいいと思うしケースバイケースで。(女性/50代)
- ・ ある程度は、仕事が出来ればいい(女性/40代)
- ・ ケース by ケース(男性/50代)
- ・ ケースバイケースで行う(男性/60代)
- ・ その場や状況によって変わると思う、子供が病気がちだったり障害があったら考えも変わると思う。全ての人が自分で選択できるといいと思います(女性/50代)
- ・ その人のキャパシティや境地で出来る人と出来ない人がいると思う。(女性/30代)
- ・ その人の考えが尊重されるべき(男性/50代)
- ・ その人の事情によりさまざま(男性/40代)
- ・ それぞれに家族の事情があるので決められない、家族と話し合って決める(女性/50代)
- ・ それぞれの家庭ごとに決めれば良い(不明/不明)
- ・ それぞれの家庭の事情による(男性/40代)
- ・ それぞれ本人の意思に任せるものとする(男性/40代)
- ・ どんな選択をしても悩みはつきないので。(女性/不明)
- ・ パートナーや家族の人たちと相談、調整して働き方を考えるのがよい。(女性/20代)
- ・ ひとつの考えにこだわらず、いろいろな働き方があっていいと思う。(女性/70代)
- ・ よくわからない(男性/60代)
- ・ 育児休暇というよりも男性と役割分担をして働く日数を加減すべき(男性/10代)
- ・ 一人一人の考え方、ライフスタイルによると思います(女性/50代)
- ・ 一律に決める必要はない(女性/30代)
- ・ 家事・育事も、仕事である(これも社会の)(男性/60代)
- ・ 家庭の事情によって違うので、どれが良いとは言えない(女性/50代)
- ・ 家庭環境や収入等で変わると思うが…家庭内で決める。(男性/40代)
- ・ 各々が希望する通りにすれば良い(女性/50代)
- ・ 基本的には子供は小さい時は育児には母親が責任を持つべきだが？だからと言って父親が何もしなくて良いというわけではない。父親は仕事第一にして家では手伝うべきである(男性/80代以上)
- ・ 経済的余裕があれば5、なければ4(男性/30代)
- ・ 結婚にも出産にも柔軟な対応で。(女性/30代)
- ・ 結婚や出産に関わらず、働きたいと思った時に働きやすいとよい(女性/40代)
- ・ 結婚や出産に関わらず本人が決めれば良い(女性/30代)
- ・ 個々で仕事・育児に対する比重が異なるので、一概には言えない。(女性/30代)
- ・ 個人によって異なる為、何れも考えられる(男性/30代)
- ・ 個人の自由(女性/50代)
- ・ 個人の自由(男性/50代)
- ・ 個人の都合による(男性/60代)
- ・ 個人営業でしたので子供をみながら店を手伝っていました(女性/70代)
- ・ 個人個人が好きにすればよい。(女性/30代)
- ・ 好きにすればよい(男性/30代)
- ・ 好きにすればよい(女性/20代)
- ・ 仕事が好きなら働いてもいいけど、無理しないでやりたい事をした方がいい(女性/10代)

- ・ 女性が働く事が特別なこととは思わない、その人が満足できるまで働けばよいと思う。(男性/30代)
- ・ 女性の負担が大きすぎる、子供の学校での役員や病気の時など会社の理解も、なかなか難しい。経済面で女性が働く事も多く、家事・育児に給料のように国から出れば助かる。PTA 役員決めも難しい。やる事が嫌ではなく会社が休めない、会社でも、まだ男性社会が強く、女性の立場は低い。(女性/40代)
- ・ 女性自身が決めること、まわりで枠組、ルールはひかない。(男性/50代)
- ・ 上記にこだわらずに働くなりやめたり出来る方がよい。(女性/40代)
- ・ 状況にならないとわからない、夫婦で相談し決める。(女性/20代)
- ・ 人それぞれだと思ふ(女性/50代)
- ・ 人それぞれなので、どれが良いとかなない。(女性/30代)
- ・ 人それぞれなのでわかりません(女性/40代)
- ・ 人口を増やしたいなら、専業主婦の収入も考えた方がよい。(男性/40代)
- ・ 人生の転機に仕事から離れる選択をしたとしてもすぐに社会復帰できる環境が整っていればよいと思う。家事か、仕事か、子育てかを1つしか選べないのではなく、その時に Best な選択肢をいくつかの中から選べる世の中になって欲しい。仕事合っている人、専業主婦合っている人など女性でもいろいろなタイプの方がいる。(女性/40代)
- ・ 生活していけるならば⑤(女性/70代)
- ・ 生活スタイルや子供の状況によって、働いたりやめたりした方がよい。どうすべきかは個人差が大きいと考える(女性/30代)
- ・ 専業主婦でも働くでも、その人の好きな生き方を選択したいです(女性/50代)
- ・ 相手の意志を尊重(男性/30代)
- ・ 相手の方に理解して頂け、お互いに支え合えるなら、共に働きたい。(女性/70代)
- ・ 男性の真似をしても無理がでる。その是非はともかく、女性が家庭に入り、●っていた役割に対する代替がしっかりしないと。(男性/30代)
- ・ 賃金を得るだけが“働く”ではないことを知ってほしい(女性/50代)
- ・ 程度はあるが、個人の自由でよい(男性/10代)
- ・ 働いてもいいと思う(子供できて) (女性/20代)
- ・ 働きたいと思う人が働く(女性/10代)
- ・ 働きたい時に働く方がよい(女性/10代)
- ・ 働きたい時に働けばよい(女性/40代)
- ・ 働きたい人は働くのが良いと思います(男性/40代)
- ・ 働きたければ働けばよい(男性/20代)
- ・ 働く、働かない、家事に専念するは、個人の自由である。(男性/10代)
- ・ 働くか働かないかは個人の自由意志(男性/60代)
- ・ 働く意志と結婚相手の協力があれば続けたい。(女性/70代)
- ・ 働く意欲と機会があれば働いた方がよい(男性/40代)
- ・ 必要であれば働き、不必要であれば家事に専念(男性/10代)
- ・ 夫婦間で決めればよいことで、どれでもよい(男性/50代)
- ・ 保育施設等を利用したり、夫婦等で協力して働いても良い(不明/不明)
- ・ 本人が選べば良いと思う(女性/50代)
- ・ 本人の意志で働きたい時に働ける(男性/40代)

問 1 0. 女性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てにも専念し、自らの手で育てあげたい思いもあるが社会にも出ていたいと思った場合にどちらも叶えられるように働くことができる環境があれば働く方がよい。(女性/30代) ・ 子供による。働いても大丈夫な子供なら→?心配な子供なら→⑤(女性/40代) ・ 子供に負担がかからない様にできれば、働き続ける方がよい。1度仕事をやめてしまうと、同じような収入の仕事に就けないので。(女性/50代) ・ 私は誰でもできる仕事についていたので子育ては他の人まかせにしたくなかった。でも、重要なやりがいのある場合はわからない。手がかからなくなったら長寿社会なので、経済的に少しでも蓄えを持っていたいので働くのがよいと思っている。働く大変さを知ることは、重要なことだと思う。家にいたら、夫の大変さが解らない。失敗もするし、思いやりができてくるので、女性の社会進出はするほうがよい。(女性/70代) ・ 時期によって仕事をしたり(育児)場合によっては介護にかかわり働けない場合になる時により変わっていく働き方。(女性/50代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人が体力的、精神的に可能であれば、理由に関わらず仕事をすればよい(女性/30代) ・ 本人の意志や環境によるので、本人の好きにすべきだと思う。(男性/20代) ・ 本人の意志を尊重するのがよい(男性/50代) ・ 本人の意思で決めるべき(男性/30代) ・ 本人の意思や取り巻く環境に応じて決めてみては?(男性/30代) ・ 本人の考えしだい(男性/70代) ・ 本人の自由意志、働きたい方は働けば良いし、家事に専念したい方は専念すれば良い。(男性/30代) ・ 本人次第ですが、子供が寂しい思いをしなければいいと思う。(男性/40代) ・ 問6が充実している場合は希望としては④ですかね(女性/70代) ・ 問6の部分が充実していれば女性も社会で働くことは良いことである(女性/70代) ・ 理想は4だが、実際育児をしていると、経済的に何とかなるものなら、5の方がよいと思う。(女性/30代)

問 1 1. 男性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(SA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ~方がよい、ではなく個人の好きにしてよい、と思う(女性/40代) ・ 1~6 問に関係なく社会に出て働く事が望しい(女性/70代) ・ ケース by ケース(男性/50代) ・ この世の中が働かなくとも生活できるなら無職でも良い。(男性/40代) ・ その人の考えが尊重されるべき(男性/50代) ・ その人の事情によりさまざま(男性/40代) ・ それぞれの家庭で決めれば良い。(不明/不明) ・ それぞれの事情にあったものでよい(女性/50代) ・ どうしても女性より男性の方が収入面で高額になっていると思えます。(女性/70代) ・ パートナーと話し合った上で決めるべき。(女性/30代) ・ ライフスタイル・ライフワークより異なる(女性/70代) ・ 育児休暇というよりも、男性と役割分担をして働く日数を加減すべき(男性/10代) ・ 育児休業制度の充実(日数増加)、会社における時間単位休暇の取得などの制度、法律の整備とその実施展開(男性/60代) ・ 一人一人の考え方、ライフスタイルによると思います(女性/50代) ・ 奥さんとのバランスで、どちらかが家庭にいるべきです。(女性/60代) ・ 家事を分担した方がよい(男性/50代) ・ 家事をやりたい人はやればよいし、仕事をしたい人はすればいい、伴侶と相談の上。(女性/30代) ・ 家庭のスタイルによって異なる、女性が主に働けるなら家庭で家事をするのもありだし、共働きをしてもよいと思う(女性/30代) ・ 家庭のために働いて欲しい(女性/70代) ・ 家庭を養えればよいと思う。(女性/20代) ・ 家庭環境や収入等で変わると思うが…家庭内で決める。(男性/40代) ・ 家庭内で困った事があれば会社で休めればよいと思う(女性/40代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妻がいたら2人で話して決めたら良いと思う。(女性/10代) ・ 子どもができるまでは働いて、子どもができたら休みを増やしてほしい(女性/10代) ・ 自分で決めること。(男性/50代) ・ 自分にあった仕事のしかたが良い(女性/40代) ・ 自由(女性/不明) ・ 自由で良い(女性/70代) ・ 自由にすればいい(男性/20代) ・ 社会で働くことと家事を両立して続けることが良い(女性/30代) ・ 収入によらず、子を自立/自律させることを見据え、必要なくなるまでは働いた方がよい。ただし、収入の多少よりも、子を自立/自律させる方が優先。(男性/30代) ・ 収入による(女性/30代) ・ 出産など物理的に強制的に休む事がないので、働きやすさはあるが、子どもの学校行事、風邪などの病気、親の通院介護など、もっと休みを取りやすい世の中になってほしい。(女性/40代) ・ 女性に限らずパートナーを支えつつ、協力しながら働く(男性/50代) ・ 状況に応じて柔軟に。(女性/30代) ・ 食べるため、老後のため(不明/不明) ・ 生活スタイルや子供の状況によって、働いたりやめたりした方がよい。どうするべきかは個人差が大きいと考える(女性/30代) ・ 設問がおかしい。(女性/30代) ・ 多様性があるより(女性/30代) ・ 誰にも迷惑かけてなければ自由だが誰かに迷惑かけているなら、働くべき(男性/10代) ・ 男の人も、専業主夫でも会社員でも本人の好きな生き方を選べればよい(女性/50代) ・ 男の役割としてまず働いて収入を得ることが本分であると思う(女性/70代) ・ 賃金を得るだけが“働く”ではないことを知ったうえで働いてほしい(女性/50代)

問 1 1. 男性が社会で働くことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください。(SA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各個人の好みや判断で働くか、家事に専念するか決めた方が良いと思う(男性/40代) ・ 基本は4だが、状況に応じてだと思う。(女性/40代) ・ 基本的に働き、必要であれば家事や育児に専念する。(男性/20代) ・ 共に働き、生きがいを共有し、安心して暮らしてゆくのが良い。(女性/40代) ・ 共働きの場合以外でも、出来る限り、家事・育児は協力すべき。(女性/40代) ・ 経済的な問題が大きく左右されると思います。(女性/30代) ・ 経済面においてその家庭によると思う(男性/40代) ・ 結婚や子どものことで働かないということはどこかおかしい(女性/70代) ・ 個人の自由(男性/30代) ・ 個人の自由(男性/50代) ・ 個人の都合による(男性/60代) ・ 固定観念をもち、臨機応変に対応できるような柔軟な考えをもっていただければどちらでもよい。(女性/30代) ・ 好きにすればいい(女性/20代) ・ 好きにすればよい。(男性/30代) ・ 考えた事ありません(女性/30代) ・ 今は色々な選択肢がある。もっと自由で良いと思う。(男性/30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定年まで働いた方がよい(不明/不明) ・ 働きたい時に働く方がよい(女性/10代) ・ 働きたければ働けばよい(男性/20代) ・ 働く、働かない、家事に専念するは個人の自由である。(男性/10代) ・ 働く＝自分の場所は人にとって大事なことなので外で働く、主夫、いろんな状況でそれぞれが考え協力して決めるものと思う。(女性/50代) ・ 働くべきだし、家事や育児も積極的にやるべき。(男性/30代) ・ 働く意志と健康であれば働く(女性/70代) ・ 肉体が許すまでは、頑張してほしい。無理せず。(女性/60代) ・ 夫婦で相談し決めるべきと思う(女性/20代) ・ 夫婦間で決めればよいことで、どれでもよい(男性/50代) ・ 副収入があれば働きたくない(男性/50代) ・ 本人しだい(男性/70代) ・ 本人の意志で働きたい時に働ける(男性/40代) ・ 本人の意志を尊重するのがよい(男性/50代) ・ 問10のその他に書いたものと同様。(女性/20代) ・ 恋だけでなく結婚しよう！親は子に結婚生活の良き姿を見せよう！(女性/70代) ・ 労働の●利(男性/80代以上)

問 1 2. 職場で男女平等ではないと思うこととして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 43才まで商売をやっていた(女性/60代) ・ 77才である。最近の事情わからず。(男性/70代) ・ お茶くみ、そうじなどの雑務(女性/30代) ・ デザイナーと言う仕事は個人の實力による所が多いと認識している(男性/40代) ・ トイレが少ない等の環境(男性/30代) ・ どれも当てはまらない職場だと思う(男性/30代) ・ むずかしい質問なのですみません(女性/50代) ・ わかりません(女性/20代) ・ 学校なのであまり、不平等は感じません(女性/60代) ・ 基本的に平等だと思う。本人のやる気次第(男性/40代) ・ 個人事務所に勤めているため、私は平等でないと思うことがない(女性/30代) ・ 今の職場では感じない(女性/40代) ・ 子供の病や行事で休むのは女性が当然なのに、職場では気持ち良く休めない●ばさ●(女性/40代) ・ 今の職場では当てはまる事なく女性も働きやすいが、社会全体としては1、2、3、6、8、9が平等でないと思われる。(女性/40代) ・ 今の職場では特にない(女性/60代) ・ 社会的に女性が働き続ける環境にない又その為人生感が浮かばない(女性/50代) ・ 若い世代の働く事への意識の低下による、すぐ退職する現実がある。(女性/40代) ・ 取り引き先からの依頼内容に男女の差が見受けられる。(男性/40代) ・ 周りが女性ばかりなので分からない(女性/30代) ・ 女は当然の様に育児休業を取得し、職場や、会社への配慮欠け、会社籍にしがみついている点。会社にとっても本人や子にとっても仕事を離れ育児に専念すべき。女だけが取得しやすい(男性/50代) ・ 女性に甘く、女性は甘える。(男性/30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の方が丁寧に接してもらえ(女性/50代) ・ 女性は、家庭の事情で休みを取りやすいが、男はそうはいかない。(男性/40代) ・ 職種によっては性差があるので、それを拒否せず理解して協働(男性/40代) ・ 職場ではすべて平等である(男性/50代) ・ 職場に男性がほとんどいない(女性/40代) ・ 性別に限らず人それぞれ適性が異なる(男性/30代) ・ 正社員への雇用、男性の方が有利。(女性/30代) ・ 専門職で不平等がなかったのではわからない(女性/50代) ・ 全員女性(女性/50代) ・ 組織によっては女性の方が昇進しやすいケースも点在(男性/50代) ・ 体力(女性/60代) ・ 大企業中小企業等によって異なるので選びにくい(女性/80代以上) ・ 男女では特にない。人による(男性/50代) ・ 男女にかかわらず能力評価に応じた地位(男性/60代) ・ 男女は役割が違うので一律平等にする必要はないと考える。(男性/50代) ・ 男性のいる職場で働いた事がない為わからない。(女性/30代) ・ 男性のプライドをキズつけないように仕事をしなければいけない。面倒。(女性/50代) ・ 電話をとる、机をふくのは女の仕事(女性/50代) ・ 特にないが現職場の環境、トイレ etc は改善してほしい(女性/40代) ・ 能力に対しては平等になっている。(男性/70代) ・ 能力以上に女子が優遇されている(男性/60代) ・ 不平等を感じたことはない(女性/30代) ・ 分からない(女性/10代)

問 1 2. 職場で男女平等ではないと思うこととして、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の平等ばかり言う人は、役割が解っていない。体力の差も大きいし、私は同じく求められるほうがもっと大変だ。(女性/70代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平等であるべきとして職場でも意見は述べますが女性ではできないことは身を引きます(女性/70代)

問 1 3. 女性が働き続けるためには職場や社会、家庭等においてどのような取り組みや支援が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 突然、当日の朝などに休暇をとることになっても対応可能な職場環境づくりが必要。仕事内容が余裕を持てる程度になるような職場環境づくりが必要 必要(女性/20代) ・ 1〜8 ほとんどが男性の意識を変えなければ実現不可能だと思う(女性/50代) ・ ②③④についてはそうしたくてもできない会社、ギリギリの職場やサービス業など小会社、その時間に必要な人数の確保をどうするか、国が支援する？などの問題(女性/50代) ・ TPO(女性/不明) ・ キャリア、年齢によらずあらゆる人に教育の機会が得られること(男性/30代) ・ この様な考え(質問)が平等ではないと思う。(男性/40代) ・ そもそも女性全員が働き続けたいと思っていないとは限らないので答えられない。(女性/30代) ・ わからない、でも長期休暇とらずに自己の成長のためにノンストップで働き続けられたら良いな(女性/40代) ・ 家庭の事情で休みを取りやすくする。(男性/40代) ・ 学校(のPTA)活動が一番働く母への配慮が欠けていると思います。専業主婦中心の学校活動は苦痛でしかなかった。父親も含めた、夜や休日の活動を中心にすべき(女性/50代) ・ 経済的理由がなければ、働き続けることは必要ではないのではないか。(男性/50代) ・ 現在、職場では女性の方が優先されていると思う。(男性/80代以上) ・ 言葉が先行している為、周囲と話し合い各人の意思決定が重要(男性/30代) ・ 国で決めるべきです。(女性/70代) ・ 今無職だからわからない(女性/70代) ・ 仕事してないのでわからない(男性/60代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事上で急な休みに対応できるシフト作りや、仕事の仲間とコミュニケーションをとっていく必要がある。(女性/40代) ・ 子供を預けてまでなぜ働きたいのか解らない。それはやはり男性の給料の問題と思ってしまう(女性/60代) ・ 私は育児に専念したい(女性/30代) ・ 自分が介護される側になった時、支払い金が払えない様な、立派な建物に疑問(女性/70代) ・ 女性は、基本は家庭家事に専念(男性/70代) ・ 女性は優遇されていると思う、女性の男性に対する意識改革は必要である。(男性/40代) ・ 職場だけでなく会社や社会の意識改革が必要と思う(女性/40代) ・ 全体のバランスが必要(男性/50代) ・ 短時間勤務でも可である職場の拡充。(女性/30代) ・ 男性に十分な経済力を持たせれば。女性が働き続ける必要がないと思う。(女性/50代) ・ 男性の中にある『女は家庭』の意識と、女性の中にある『男はこんなもの』という意識をなくす。子育てをしている上で、女性の男の子を育てる感覚が、世の中を作っていると思う。男の子だから仕方ない、男の子だからというくくりで、甘やかす、自立させる親が多い。(女性/40代) ・ 働き続けなくても普通の生活ができる方が良い(男性/70代) ・ 同居(女性/50代) ・ 分かりません(女性/30代) ・ 本人の意識。本人が育児や介護があるからと、会社と同僚に甘えない事が必要。当然のような顔をしているのは問題です。頑張れば助けたくなるが、それに甘えるのはどうかと思います(女性/50代)

問 1 6. 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ TPO(女性/不明) ・ その価値や有り難み、おもしろさが理解できれば誰でもやると思う、なんでも(女性/40代) ・ その人しだい(男性/10代) ・ そもそも、男性が家事・育児(小学生まで)を行う必要はないと思います(男性/50代) ・ まだまだ遅れていると思う。(男性/70代) ・ わからない(女性/40代) ・ 一人一人の考え方によると思います(女性/50代) ・ 既に主夫業をやっている。(男性/70代) ・ 教育(男性/40代) ・ 個々に受け入れられる思考を取り入れる。(男性/30代) ・ 個々の考え方で行える様な制度を造る事。1〜6は自主性なし(男性/70代) ・ 高齢者なのであてはまるものがない(女性/80代以上) ・ 子育ての時点から男の子でも、家の手伝い、自分自身の身の回りの事をやらせて、『男の子だから』を取り扱う事が大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者達にはすでに男女差の意識はない。問題なのは中高年以上の意識、考え方である。年寄りの意識改革が重要。(女性/50代) ・ 上記に内容が合わない。(男性/60代) ・ 職場の理解(女性/40代) ・ 性別にかかわらず、できる人ができることをすればよい(女性/50代) ・ 全体のバランスが必要(男性/50代) ・ 退職するまでは、時間がとれない。(女性/70代) ・ 男性自身の意識改革。(女性/40代) ・ 男性用トイレにも赤ちゃん用ベッドが、より多く設置されるなど、一増えてきてはいますがまだまだ少ない、男性が育児をしやすく抵抗感をなくすことが必要(女性/40代) ・ 転勤、単身赴任(男性/40代) ・ 必要に迫られれば自然にそうなる(男性/80代以上) ・ 必要性が社会で認められなければいけないと思う。(女性/50代)

問 16. 男性が家事・育児・介護・地域活動を行うために必要だと思うことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> 事(長男だから)。母親、女性の中の意識の変化が無くならないとずっと今のまま。(女性/40代) 子育て世帯に対する経済的支援(男性/40代) 自分の事はそれなりに出来るが、経済的な出費などにより、通院もままならない。(男性/40代) 実行済み(男性/70代) 	<ul style="list-style-type: none"> 夫婦で決めること、決めたらやる。(男性/50代) 分からない(不明/不明) 分かりません(女性/30代) 本人の強い意志(女性/50代) 本人次第(男性/20代) 幼少期からの教育が必要(女性/40代)
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 17. ワーク・ライフ・バランスを進めるためにはどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> 「バランスの良さ」は各家庭で多くの種類があるので、それらを柔軟にサポートできる体制が公私ともにあれば良いと思います(男性/40代) AIを広める。(女性/30代) PTA改革。学校改革(女性/50代) どういった豊かな生活をしたのか具体的なイメージを持たせる。(女性/30代) ワーク・ライフ・バランスがわからない(女性/10代) ワーク・ライフ・バランスを無理に押し付ける必要はない(男性/50代) わからない(女性/70代) わからない(男性/10代) 安定した雇用体系の拡充。非正規雇用でないといろいろ差がでてくる(保険、休暇 etc 厚生施設利用など)(女性/40代) 該当なし(男性/50代) 各人の意志(不明/不明) 休日出勤、通常残業、サービス無給労働をなくす(男性/50代) 急な疾病に対しての対策が必要(女性/60代) 経済力のup(女性/40代) 個人の希望に近い対応をする(女性/40代) 個人事業主としての働き方を誰もが理解している状況(女性/40代) 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用主や会社に向けた、政府による労働賃金管理に対する意識改善、教育の徹底。(女性/30代) 効率良い仕事をする(女性/40代) 国が富む。“生活のために働く”という構図がある間は進まない。(男性/30代) 今現在を見る限り、男も女も仕事と家事を両立させる事を強要されているように思う。各家庭、個人の気持ちを大切にすべき。(女性/30代) 仕事への評価方法の変更(男性/50代) 子育て世帯に対する経済的支援(男性/40代) 子育て世帯への経済的援助(女性/30代) 自分は親の介護、2人の娘の子育てを女房と共にやったので、本音は当人の自覚と実行が最重要と思う(男性/70代) 賃金の問題(男性/40代) 難しく考えないこと(男性/30代) 年金だけでは無理がある。何より経済支援が必要である(男性/40代) 年金の改善、年金だけでは不安で働き続ける必要があると考えている。(男性/60代) 分からない(不明/不明) 分かりません(女性/30代) 保育所がなくても暮せること。介護サービスは介護しやすいように生きた法律にすること(男性/70代) 良く分からない(男性/40代)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 18. 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要であると思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

<ul style="list-style-type: none"> “平等、のもつ正しい意味理解。ディベート授業(女性/40代) TPO(女性/不明) きちんと性教育をして欲しい。「男女平等の前に」(女性/60代) これ以上学校に期待して負担を負わせてもムリだと思う。(男性/50代) それぞれの親のしつけと教育が必要である(男性/40代) とても難しいのですみません(女性/50代) ゆとりをなくし、前みたいにした方がいい(男性/40代) 何でも男女平等と言わない(男性/40代) 該当なし(男性/50代) 学校で意識の推進を図る必要はないと思う(女性/40代) 学校教育の場では男女の平等意識が浸透していると思う(男性/60代) 学校教育の場は良く分かりません(男性/40代) 基本的にこの問題を教育することが平等では無い気がします(男性/30代) 経験したこと、理解できている事を、大人子ども関係なく 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校のときは女性が優遇されすぎているように感じたが、大和市はそういう教育方針なのでしょうか？(男性/10代) 性というよりも個を尊重すれば自ずと男女平等につながるのでは？(女性/50代) 性差があるのは当然という考えを踏まえての教育(男性/30代) 男女で体力差などはあるものの、人としては皆変わりないことを理解させることが必要(女性/30代) 男女は動物として機能が異なる以上、人権尊重以外あえて男・女を区別する必要はないと思います。(男性/50代) 男女間で異なる身体的発達段階の要素を理解していることが必要(女性/20代) 男女共同(平等)の調査をしている内は定着していないと思う。私も●も高齢者ですが、若かったらということで回答(女性/60代) 男女平等という言葉より人間としての知識、人との関わり(歴史の異なる人との関わり)を理解していけたらと思います(女性/40代)
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問18. 学校教育の場で男女平等意識の推進を図るためには、どのようなことが重要であると思いますか。あなたの考えに近いものを全て選んでください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝える(女性/40代) ・ 今の学校は親か、教師に対して、口を出し過ぎ。昔は、先生も立派な人、家族もあるし。(女性/70代) ・ 現実、教師に子供の、しつけなども押しつけ、何かあれば教師の事をせめる。違うと思う(教師の負担は、並ではない、教師の人権も、考えるべき)(女性/40代) ・ 現状どう男女平等でないのかが判らない(男性/70代) ・ 子供がいないので答えはむずかしい(女性/70代) ・ 小中学校では不要。(男性/80代以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女平等意識の推進を図る必要はない(男性/50代) ・ 分からない(不明/不明) ・ 分かりません(女性/30代) ・ 平等=必ずしも同一ではないことへの理解、男と女の構造は異なり、全てにおいて完全に同一にはなりえないことへの理解。(男性/30代) ・ 本当の意味での男女同権を教育する(子供、大人共)(男性/70代)
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問19-3. 前問で、役職等への就任や立候補を依頼されたときに、「承諾しない」を選んだ方にお伺いします。その理由についてあなたの考えで近いものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ “女性だから”で任命するのは逆に不平等なのでは?(女性/20代) ・ 年齢が若く、まだ仕事をはじめてから経験も少ないため。仕事内容が分からず、何をどうしていくのかわからず不安なため。(女性/20代) ・ 78才という年齢を考慮すると無理。(男性/70代) ・ 89歳の高齢者です(男性/80代以上) ・ PTA、保護者会等々、義務教育以後は不必要と考えている為。(女性/40代) ・ PTAは本当に必要か?遠回しに子供の差別などにつながるか?(男性/40代) ・ PTA会長の仕事に意義を感じないから(男性/20代) ・ ケースバイケース(男性/70代) ・ その気にならない(男性/60代) ・ その事に興味がないから。(女性/60代) ・ その組織内のメンバーに対しての権力がないから(男性/50代) ・ その役職に興味がない(女性/50代) ・ どんな事をするのか詳しく知らないから。(男性/10代) ・ プライベートの時間が著しく減少すると思われる為(男性/40代) ・ まかせられる議員がいるため考えられない(女性/50代) ・ メリットがない(男性/30代) ・ めんどくさいから(女性/30代) ・ めんど臭そうだから(女性/20代) ・ めんどくさい、嫌い(女性/20代) ・ やりたいと思う役職ではないから(男性/40代) ・ やりたい事が決まっているから。(女性/10代) ・ やる気がある人がやるべき。男女関係なく(女性/40代) ・ 学生だから(女性/20代) ・ 活動にあまり魅力を感じないので(男性/60代) ・ 興味がない(女性/20代) ・ 興味がない(女性/20代) ・ 興味がない(女性/40代) ・ 興味がない(男性/50代) ・ 興味ない(男性/50代) ・ やり甲斐がないから(男性/60代) ・ 現在の勤務先では断ります(男性/40代) ・ 個人の時間を大切にしたいから(男性/20代) ・ 個人を優先したい。(男性/60代) ・ 個人生活を重視したい(男性/60代) ・ 高年齢だから(女性/80代以上) ・ 高齢のため、81才(男性/80代以上) ・ 高齢である(男性/80代以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を割くことが出来ない(男性/50代) ・ 自治に興味がない。(男性/30代) ・ 自分がその職に向いていないと思うから。男だろうが、女だろうが、その職をするのに適切な人がやれば良いと思う(男性/40代) ・ 自分がやるべきことではないと思っているから。(男性/30代) ・ 自分が動くので精一杯83才(女性/80代以上) ・ 自分の時間が優先(男性/30代) ・ 自分の時間を優先したい(男性/50代) ・ 自分の自由を大切にしたい(男性/60代) ・ 自分の目指すものではないから(男性/50代) ・ 自分自身の生活を優先したい(女性/50代) ・ 周囲の理解が得られないから(女性/50代) ・ 将来大人になったら、仕事や家事などあると出来ないと思ったから。(女性/10代) ・ 人間関係が面倒くさいから(女性/60代) ・ 全てにおいて、女性が就く事で上手くまわる事と、男性が就く方が上手くまわる事があるから。(女性/40代) ・ 他にやりたいことがあるから(女性/20代) ・ 他にやりたいことがあるから(女性/40代) ・ 他にやりたい事がある(男性/50代) ・ 男女平等でない以上、女性の負担が多くなると考えます。(女性/40代) ・ 男性が就かれた方が、物事が円滑にいくように思う。(女性/70代) ・ 男性の方が上手く回せる事もあるので。(女性/40代) ・ 男性の方が適していると思う。(女性/70代) ・ 知識がないから。(男性/10代) ・ 地域で長になると、ご近所とうまくやっていけなくなるから(女性/50代) ・ 中立(女性/50代) ・ 賃金が有か無か(男性/30代) ・ 独身であるため。(男性/30代) ・ 独立を考えているため。今の会社の役職はすでにあるため。(男性/30代) ・ 年だから(女性/80代以上) ・ 年令、(高齢である)(女性/60代) ・ 年令から(男性/80代以上) ・ 年令です(女性/70代) ・ 年令的に(女性/70代) ・ 年令的にむり。高れい(不明/不明) ・ 年令的に無理(女性/60代) ・ 年令的に無理(女性/70代)
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 19 - 3. 前問で、役職等への就任や立候補を依頼されたときに、「承諾しない」を選んだ方にお伺いします。その理由についてあなたの考えで近いものを全て選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢の為(女性/70代) ・ 高齢者(女性/80代以上) ・ 今の仕事と家庭以外に時間を費いやしたくない(余裕がない)(男性/30代) ・ 今の生活を変えたくない(女性/70代) ・ 今は、個人の生活を大切にしたいので(女性/60代) ・ 市議会の内容を知らない方が依頼されても、できないと思う。(女性/40代) ・ 市議会議員になりたくないから(女性/50代) ・ 私のやりたい事ではないから(女性/40代) ・ 時間が制限される(男性/70代) ・ 時間が足りないから(女性/40代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年令的に無理です、後期高齢者。(女性/70代) ・ 年齢を考えると…(男性/70代) ・ 能力と余裕の問題(男性/70代) ・ 費用がかかるから(男性/50代) ・ 忙しい(女性/50代) ・ 面倒だから(男性/20代) ・ 役職についたことで残業業務量が増えたり、やらない人が文句だけ言ったりとしている現状ではやりたいとは思えない。(女性/20代) ・ 老人だから(女性/80代以上) ・ 老齡の為(女性/70代) ・ 高年令だから(女性/80代以上)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 20. 役職等への就任や立候補を依頼された際に「承諾する」という女性が増えるなど、女性が指導的地位に占める割合を増やすために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全て選んでください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ ただ割合を増やせば良い訳ではない、実力も必要。(女性/40代) ・ やりたい人かやれば良い(女性/60代) ・ 意図的に増やす意味がわからない(男性/30代) ・ 押し付ける必要はない(男性/50代) ・ 何故女性が必要かの説明、ピーアール訴え(男性/50代) ・ 家族以外で家事や育児をしてくれる人がいるかどうか。(女性/50代) ・ 家庭と両立するための保育サービスなどのサポート体制の充実。(女性/30代) ・ 管理職の負担軽減(男性/30代) ・ 簡単に内容をまとめて理解しやすくして頂ければ考えも変わると思う。(女性/10代) ・ 向いていないと思うため。(男性/40代) ・ 高齢者(女性/80代以上) ・ 仕事内容とその報酬を提示すること(女性/20代) ・ 子供や孫を持っている女性が戦争反対の意志を強く持っていると思うので議員は女性が多いと思う。(男性/70代) ・ 社会福祉サービスの充実化(女性/20代) ・ 女・男という意識を失くす、人という概念で行っていく(女性/40代) ・ 女性の社会性の向上のためのプログラムが必要(不明/不明) ・ 女性を優遇するのではなく、女性自身の意識改革が必要。(男性/30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性自身が責任感を持つべき、都知事みたいにうそくさいのが多い。このハゲーとか……(男性/50代) ・ 女性自身も女性を武器にしない人が少ないので、男性だけでなく女性の意識改革も必要かと。(女性/40代) ・ 女性脳で物を判断する事なく出来るのであれば…(男性/40代) ・ 女性役職者の部下、周囲の方の意識改革に「妬み、嫉みもたれない」ようにする内容を含んで欲しい(女性/40代) ・ 性別関係なくできる人がするべきなので能力主義の制度が必要(女性/20代) ・ 男女ではなく、性格の問題では?(女性/40代) ・ 男性・女性ではなく高い能力を示せば指導的地位につくべき(男性/30代) ・ 中立(女性/50代) ・ 能力に欠ける者が指導的な地位に就くのは問題がある(男性/60代) ・ 能力主義の徹底(不明/不明) ・ 費用がかかるから(男性/50代) ・ 保育、課外学習等の社会支援(男性/40代) ・ 報酬の底上げ(男性/20代) ・ 本人の意志で決定すること(男性/50代) ・ 本人次第(男性/30代)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問 21 - 1. あなたは、配偶者やパートナーなどから(などに)、次のような精神的・身体的暴力(ドメスティック・バイオレンス:DV)を受けたり、行ったりした経験はありますか。以下のア)～コ)について、当てはまるものをAとBそれぞれ1つずつ選んでください。(FA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ ケンカで大声を出した(女性/30代) ・ こずかいをへらされる。こどものこずかいの方が多かった。1日500円。(男性/30代) ・ すべてにおいてレディファースト(男性/40代) ・ 外出の規制(女性/70代) ・ 義両親の私生活への介入(女性/40代) ・ 嫌がる事を強制する(男性/50代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妻は飾り、子供は荷物と言われた。公共の乗物に乗ると言われ続けた。(女性/40代) ・ 従っていれば良いと言われた。(女性/40代) ・ 人種差別(不明/不明) ・ 態度が気に入らないと出ていけと言われた。(女性/70代) ・ 平凡すぎて(男性/80代以上)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問2 1 - 3. 前問で「相談した」を選んだ方は、実際に、どこ（誰）に相談しましたか。当てはまるものを全てを選んでください。(MA)

- ・ TPO(女性/不明)
- ・ 相手に文句を言った。(女性/70代)

問2 2. 問2 1 - 2で「相談できなかった」「相談しなかった」と答えた方にお伺いします。相談できなかった・相談しなかった理由はとして当てはまるものを全てを選んでください。(MA)

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ お互い様(女性/30代) ・ すぐに離婚した(不明/不明) ・ ちょっとした夫婦ゲンカ位、皆、したことがあるでしょう？この質問も含め何か変ですね。(男性/60代) ・ 何とも思わなかったから(男性/20代) ・ 家庭内の事は自己が責任を持って解決してきた。(女性/70代) ・ 結局、別居状態：意味不明。。。(男性/50代) ・ 時間がたてば直ることがわかっていたから。過去の経験から(男性/50代) ・ 自分が我慢すれば済む話だと思っていた。(女性/20代) ・ 自分の事しか考えられない人間なので話し合う余地がない。(男性/30代) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手にしない(女性/60代) ・ 相手をわかってがまんした(女性/60代) ・ 相談という感じではなく周りの人には話していました(女性/40代) ・ 大声でけんかすることはよくあること(男性/30代) ・ 断わったから、ただ友人にグチを言うだけの事だった(女性/40代) ・ 長年生活していく中で、こうゆうやりとり言い合いはあってあたりまえ。自己主張もお互い必要。(女性/40代) ・ 普通の家族の会話です。(男性/60代) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問2 4. 職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことがありますか。以下のア)～コ)について、それぞれ当てはまるものを1つずつを選んでください。(FA)

- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ ア～ケを(女性/80代以上) ・ 会社ぐるみでいじめて来た(女性/40代) ・ 学生の頃に、よく「いくら？」とか、いきなり見せつけられたりした中高生の女の子は、目をつけられやすい。(女性/20代) ・ 今までの人生においてあまり関係ありませんでした。(男性/70代) ・ 女性は、丈の短いスカートの制服着用(女性/40代) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性は集団になるとやっかいである(男性/40代) ・ 小学校の●●●●んがいたずらをしてきた(女性/50代) ・ 上池のことについて(女性/80代以上) ・ 性的なHPを見せられた。(女性/40代) ・ 昔のことなので分らない(女性/80代以上) ・ 男より(女性/40代) ・ 裸体を想像すると言われた(女性/40代) |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問2 5. 防災・災害対策において、男女共同参画を推進していくために必要なことについて、あなたの考えに近いものを全てを選んでください。(MA)

- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ WAKARANAI(女性/不明) ・ そもそも男とか女とか、そんなに区別が必要なのかよくわからない(女性/40代) ・ そもそも地域活動が活発でない、無関心の人が多い(女性/40代) ・ わからない(女性/20代) ・ わからない(男性/40代) ・ わからない。(男性/70代) ・ 記入箇所については、同感ではあるが、家族の協力が必要不可欠であるのでそのフォローアップを充実して欲しい。(女性/50代) ・ 考えたことがなかった。(女性/40代) ・ 考えた事ありません(女性/30代) ・ 高齢者である(女性/80代以上) ・ 子供をあずかってくれる場が必要(男性/40代) ・ 女性が働く様になって、ますます男女共同参画が難しいのでは、問6-10が解決しないと共同参画の推進は大変な気がする。(男性/70代) ・ 小学校から防災について教育が必要！！(男性/60代) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共に異性への生活や配慮が理解できる教育が受けられれば、男女どちらがかたよっても、配慮し合えるのではないか。(女性/30代) ・ 男女平等といっても体力的には違いがあり、又、家庭内(家族内)での平等意識がないうちに「男女共同参画」を推進しても無理があると思います。(子育て、介護問題)(女性/40代) ・ 頭が良い人でないと出来ない職業多い。心から、なりたくても、お金と頭の良さが必要って変。本当にその人の、やる気の仕事なら、必死で、覚え、心より優しさがあると考えてる。(女性/70代) ・ 同題において、発想自体が不要。(男性/80代以上) ・ 分からない(女性/40代) ・ 分からない(男性/10代) ・ 分からない(男性/30代) ・ 分からない(不明/不明) ・ 本当にこの様な企画に女性が参加したいと思うのか？(男性/40代) ・ 良く分からない(男性/40代) |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問26. 災害時にも助け合えるような地域社会をつくるために必要なことについて、あなたの考え方に近いものすべてを選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ アパート、マンション（個人の）の自治会会入の協力が必要。(女性/40代) ・ ルールを守らない外国人の方に教育するべきである(男性/40代) ・ わかんない(女性/20代) ・ 外国人に日本のマナーやルールを教える。(男性/40代) ・ 外国人市民が日本について理解を深めることがとても必要(男性/40代) ・ 犬、猫のペットの避難についても理解が欲しい(女性/40代) ・ 現在は個人情報の保護もあり、表札→郵便箱に名前が出ていない時代になっていることを考慮すべき。となりの人の顔（あいさつはするが）はわかるが、名前は知らない(男性/50代) ・ 困っている人に手を差し伸べる人間性を育てることが必要。(男性/50代) ・ 参加しなくても共有できる仕組みづくりが必要。(男性/30代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私が他人にもっと興味を持つことが必要(女性/40代) ・ 自治会活動をもっと増やし、顔を合わせる場をつくる。(女性/30代) ・ 自治会居住者そのものが高齢化していることの深刻さを認識(男性/60代) ・ 若い人が自治会に入らないと聞いた。2を達成している自治会があれば参考にさせて貰ったらどうか。(男性/70代) ・ 設問のような地域社会づくりはハードルが高すぎる。まずは個人の対応力を少しでも上げるのが優先されてもいいのではないのでしょうか。(男性/60代) ・ 地域活動に女子が前面に出ようになり、派閥やグループ化が生じて排他的になり問題が生じている(男性/60代) ・ 分からない(女性/40代) ・ 分からない(不明/不明)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問28. 男性・女性を問わずに一人ひとりがそれぞれの個性や能力を活かす社会を実現するために、あなたができると思うことに近いものを全てを選んでください。(MA)

<ul style="list-style-type: none"> ・ ?(女性/60代) ・ ?(男性/60代) ・ ?(男性/70代) ・ シニアの活用。年齢が高いほど性差がなくなっている気がする(女性/40代) ・ どうでも良い、個人の問題。(男性/50代) ・ わからない(女性/70代) ・ わからない。(不明/不明) ・ わかりません(女性/60代) ・ 現実的に、主人、義母の理解は得られないので無理と考えます(女性/40代) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会活動やイベントへの積極的な参加→母親・高齢者・子ども会など全世代的な交流の活性化(男性/60代) ・ 男、女、共同参画に対する関心はあっても、障害の身である私には無理(女性/70代) ・ 男女共同参画に違和感を感じる(男性/50代) ・ 年金(男性/70代) ・ 夫婦別性(女性/50代) ・ 分からない(不明/不明)
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)

分類	意見項目	意見
男女平等に関する意識について	性差を認識し、相互理解、役割分担、補完することが重要	男と女が自然的に備えた性差を肯定的にとらえて、互いに補完し合う、助け合う関係であることを認識し、行動すべきである。野島の子育て参考。(男性/60代)
		このアンケートの“平等”と言う言葉が何を指しているのか良く分からない。そもそも、男と女は、体の作りも違い、生活も行動も違ってくる、平等と言うものは無く不平等だから、色々な事を決める必要があって「なるべく同じ様な環境」にするだけであって、“平等”ではない。問25、26、28が唯一同じ考えの質問でした。男女の差別（不平等）を前提として男性、女性のそれぞれの目線で考えて行く必要が有ると思います。(男性/40代)
		「らしさ」「らしく」は生物生態の基本であり、そこから自然に決まる役割もあります。“男女共同参画”というと何か前記のことを否定する意見が多く、それが異性に対する憧れや尊敬の念を失わせ、結婚率の低下の根本的原因に結びついている様に思います。(男性/70代)
		男女は役割が違うので、お互いが競い合うのではなく、協力し合って活動できる環境を整えられれば良いと思います。(男性/50代)
		男と女には性差があるのは当然、性差を前提に男と女が役割を夫々で担うのも当然。男と女とを、一人の人間として同質に扱うのは無理。育児休業の前には産休があり、産休は男は取得できない、これは性差ゆえあたりまえのこと。人権として男と女の平等を図るのは当然だが、性差ゆえにおこりうることを度外視した平等・同質化は無理がある。(男性/50代)
		男女全てを平等にしようとするのが気持ち悪い。男女別の能力の違いはある。(男性/20代)
		男女それぞれの特徴を生かした役割を考えるべきと思う。同じ事が出来なければ、同じ価

問 2 9. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(F A)		
分類	意見項目	意見
		<p>値が無いとするのは違うと思う。(男性/50代)</p> <p>男性と女性との異なる視点があることに着目し、どのようにすれば双方ともに問題を解決できるか議論(話し合い)することが望ましいと思われる。(男性/40代)</p> <p>男女平等、とは言うが、全て平等になるとは思わない、男には男の女には女の得意分野があるのだから、それを生かして欲しい。社会で平等だなんだと言っている人に限って、自分の晩酌の後片付けも出来ない人が多いのでは、家庭での女性の負担が減る事は無いし、減らない限り女性の社会進出も進まない。(女性/30代)</p> <p>男女共同参画について理解を深めようと何度か講演会や講習会に足をはこびましたが、個人的には、男女は平等である事よりも共存性(お互いを理解し合い協力して行く姿勢)が大切だと感じました。現在の『男女共同参画』という言葉には、男女平等が好ましいという様な意味合いがあるように感じられます。そして共同参画の意味が若年層には伝わりにくく感じます。まず大前提として、男性と女性は違う生き物なんだという事を理解する事がお互いを尊重する第一歩になるのでは、と強く感じます。そういった種の勉強会や講習などがあれば是非夫婦で参加したいと思います。乱文失礼致しました。(女性/40代)</p> <p>男女平等にとはいえ、やはり相方に得意な部分、苦手な部分はあると思います。体力的な面でも、身のづくりも、物事の考え方もどうしても違う部分は出てきてしまうでしょう。なので、お互いを尊重し、違う部分を受け入れられる人間社会であれば良いと思っています。(女性/30代)</p> <p>正直、まだまだ時間のかかる問題だと思います。ですが、男の人が女性の事を理解し、女性が男性を理解しあうことで、一人一人が思い合う事で少しでも平等になっていけばいいなと思います。こういった活動がある事を知って、私はとてもうれしく感じました。(女性/20代)</p> <p>母の訪問入浴をお願いしているが、やはり男性スタッフの方に洗ってもらうのは、家族としても抵抗がある、でも抱きあげてベッドへ移動してもらう時、大きいバスタブを家内へ出し入れする時は、やはり男性の力が頼もしい。そう考えると、全く平等に働くのは難しい気もするので、適材適所で補いながら男女共に頑張ってもらいたい!(女性/60代)</p> <p>基本的に、男女の差は多々あります。働くことにおいては、男性の方が女性よりも体力があったりするし、そういう部分を鑑みて、社会、仕事、生活が良くなり、お互いのメリットを生かせるような、人として働くことは何なのか、より良い人生を送れるように、世の中が変わったらいいなと思います。(女性/30代)</p> <p>私は男性ですが、今の社会は圧倒的に男性有利の社会であると思います。このことは徐々に変えるべきことと思いますが、完全に平等にはならない性差による役割もあると思います。(男性/40代)</p>
	男女平等の押しつけは逆効果	<p>男女平等と言う言葉が、少し先走りしている感が否めない世の中だと思っています。「お互いを」という事は当たり前であるという事を前提に考えれば、このような問題は無くなると思います。(男性/40代)</p> <p>制度による過度な干渉は、一方の反感を買い、不調和を招くと思います。(男性/20代)</p> <p>私は働くより育児と家事がしたいので、あまり男女雇用機会均等をおしていきたくはないけれど、働きたい女の人がいるならば頑張ってね、という気持ち。私はエンリョさせてね。でも男女平等を叫ぶ女の人に限って、ちょっとしたことに怒っているイメージがあって、女の人の嫌な所(ヒステリーぽいとか)が更にアピールされていると思うことがよくある。あれはいやだな(女性/30代)</p> <p>男女平等とか男女共同参画など言う事により逆に意識をしていなかった人に「男尊女卑」と言う意識を持たせてしまうのではないかと感じる時がある。(女性/40代)</p>
	思いやり、譲り合いの心を持つべき	<p>ストレスレス。“笑顔の挨拶”の出来る世の中。裏表のない人間関係。(男性/50代)</p> <p>高齢になった今となっては、手助けしてあげたいと常に思う事があります。でも自分の体が思っている程、お手伝い出来ない事が、情けないです。バス停で、次に乗られる方が杖や私の方が、少し立っていられるからと、先に立ち席を空けてあげておく位が、せめてもの気持位です。でも、時には、若い方が、席を、ゆずって下さるうと立って下さるのに、頑固に、断わり、立たれた方も、困って移動されている様なもの見掛けている。素直な年令、時を考えて欲しいと思った。今、自分が介護して頂くのが近づいて来ている年令になり、もし年金で入れる住まいが、あったらと考えている。建物が立派で入居金が高く、とても払えない。早く、介護して頂かない内に向えが来てくれたらと考える時があります。迷惑掛けず、出来るだけ1人でと常に心掛けていますが、こればかりわ〜笑(女性/70代)</p> <p>お互いに思いやりがあればいいのです。孫夫婦の生活を見ているといい方向に向かっていると思いました。(女性/80代以上)</p> <p>思いやりは皆で考えなければいけないと思う、人は一人では生きて行けない、人と人が助け合って生きて行かなければ幸せにはなれないと思います。(女性/60代)</p>
	国や自治体の主導に期待	<p>時限立法で affirmative action の様なものも必要かと思う、もし本当に男女共同参画を数字で示そうとするのなら。(男性/50代)</p> <p>問 28 の [1] [2] に対しては意識を持って、負担になってしまったり、無駄になってしまふ場合が高いと思う。そのために、国や市で「男性が強い」という理念を無くす必要があ</p>

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)		
分類	意見項目	意見
		<p>と思う。子育てや家事に対しても、やはり女性が負担の多い所がある。今の毎日で「男女平等」とはとても言えない。と、思います。(女性/30代)</p> <p>先ず法律の整備からです(男性/50代)</p>
	男女ではなく「個」を尊重すべき	<p>男女というくりにとらわれず、1人1人が自身の考えに基づき、「やりたいようにやる」人生を送れるようは環境になれば、もっと充実した世の中になると思います。「こうあるべき」という固定概念を排除し、男も女も「私はこうしたい」という思いを自由に発信でき、そして社会がそれを応援できるようにになれば…。(男性/30代)</p> <p>性別によってこうなるべき、こうするべき、にするのではなく個人の生き方を尊重すべきだと思います。(女性/20代)</p> <p>意識調査ありがとうございます！男女が同じことをするのが平等だとは思いませんが、(もちろんそれぞれの役割があります、)男性も女性も(特に女性の方が多いと思いますが)自分の意見を言える社会(夫婦間も含め)になればいいなと思います。(女性/70代)</p>
	若い世代に期待	<p>自分の世代(現在76才)では男女共同参画等の言語は全くなかった。古い時代を生き抜いた世代を説得、納得させることは無用と思い切って現世代(30才~50才)が推進していく必要があります。老兵は死なずただ消えさるのみにしたら上手くいくのでは！(男性/70代)</p> <p>まだまだ若い世代と年寄世代で考えの格差があり過ぎると思います。各々考えはあると思いますが、先の事を考えれば若い世代の意見を積極的に取り入れて頃きたいと思います。昔はこうだったではなく、今とこれからのために世代を問わず歩調を合わせるのが大事だと思います。今は今の考え、流れがありますので。(男性/30代)</p> <p>自分の年齢を考えると、思うようなこともできなくなってきてしまいました。若い人に男女共同参画について興味をもってもらい活動してってもらいたいと思います、若さは体力も発展途上なのでから(女性/70代)</p>
	男性の意識改革が必要	<p>男尊女卑の意識がまだまだ根強い世の中、早く、そういう考えを持つ人が「恥ずかしい」と感じて、そういう態度を控える時代になってほしいものです。国会でオヤジが野次を飛ばしている間は無理ですね。醜い。(女性/40代)</p> <p>私は、通常男性がやっている仕事についていますが、わりと、「女なのに…」と言われるコトが多いです。やっぱり、まだ男女の仕事の偏見がある人が多いな…と感じる。あと、男の人は、自分の子供も『面倒を見てあげている』意識が強い気がします。どこかで、育児は女の仕事だと思っているんだなあと感じます。(女性/20代)</p>
	アンケートによって差別が根強く残っていることを意識	<p>あとやはりこういうアンケートが有る段階で、まだまだ不平等であると尚認識もする。(女性/50代)</p> <p>就業していた頃も度々思っはいたが、こういうアンケートがある事自体、まだまだ男女は平等ではないのだと実感させられました。(女性/30代)</p>
	女性優遇は平等ではない	<p>一方を持ち上げなければ「平等」が実現しないのであれば、平等を目指すべきではない。(男性/30代)</p> <p>男女共同参画社会と称して女性を優遇しすぎるのは結局平等や共同参画という言葉から縁遠いものになるのではないかと危惧しています。自分は男ですが、例えばミスの多い女性社員に対してくり返し注意をした場合、それがパワハラ、セクハラと言われるのであれば、それは就労意識の低下を招くのではないかと思います。(男性/10代)</p>
	意識の上での差別はすでにない	<p>性差による育児や体力差を除けば、自治会も含め生活上男女差を感じる事はあまりありません。(男性/40代)</p> <p>よくわからない。仕事で差別を感じたことはなかったし会社の女性差別の制度があっても気にならなかった。「女」を理由にできないと思った事はなかったし言われた事もなかった。(女性/40代)</p>
	差別は根強く残っていると感じる	<p>質問が極端で答えづらいところがあった。昭和30年代生まれの自分の目線でみると、女の人に対する世間の見方はかなり理解してもらえるようになってきていると思う。男子たるもの台所に立つべからず一、というのなくなっていますよね。よく分からないですが政治や大企業の上層部では「女ごときが……」の考えがまだ濃いような気がします。(女性/50代)</p>
	個人ではなく社会や組織の意識改革が必要	<p>社会、会社が変わらなければ個人が何を思い戦っても何も変わらない(女性/40代)</p>
	一人一人の意識改革が必要	<p>小さな差別は色々な場所で見られるから、どのような人でも男女問わず偏見をしないことを1人1人が心がけないと、男女平等はいつになっても平等にはならないと思う。(女性/10代)</p>
家庭生活について	女性に負担集中、意識改革が必要	<p>今はシングルですがパートナーがいた時は、休日は、家のことすべてをやっていた。パートナーが友人と旅行に行く時は、いやがらずにいつかと言った。ローンを組み、家をたて、保育園にもおっくっていったし、フトンカバーもかけた。1日500円のやりくりもした。今は、パートナーは家をでて、子供は家にいる。ケンカばかりしていたが、1人暮らしの母をよんで楽しく生活をはじめたところだ。パートナーとは、子供も食事にいつている。パートナーとは、子供のことでtelはしている。パートナーは、独立して、会社ができたら</p>

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)		
分類	意見項目	意見
		<p>よりをもどそうと言うが、それはないと思う。(男性/30代)</p> <p>大人が男女の役割を勝手に思い込み中、子育てが始まって介護がある状況に対して生活の内容が変わらない(女性負担中心)。今、現在から介護に対して、育児で行動を変えていく必要があると思います。(女性/50代)</p> <p>パート勤務…といっても朝は7時前から夕方まで働く事が多いが、家事、学校行事、自治会行事、介護、何においても家庭での“女性”の仕事が…負担が…大きい様思う。家族間での話し合い、理解、協力がより必要だと思う。(女性/40代)</p>
	男女平等の推進によって逆に生活の不具合が起きていると感じる	<p>仕事・家事・育児・介護を全部経験して、どれ一つ片手間でできる事ではありませんでした。主人の収入で生活が出来たので、家事・育児は私がやってきました。主人に手伝ってもらおうと思っても、仕事で疲れて帰ってくるので無理でした。私たちの時代は夫婦で分担してそれがあたりまえだったのですが、今は“男女平等”にかえて大変になっているように思います。全部をうまくこなせる訳がありません。どこに重点を置くか、何が大切か、それぞれの人、個人個人でちがうので、まとめるのは難しいのではないのでしょうか。(女性/60代)</p> <p>子育てに対しては、男女共同とは思えない、お互いに押しつけているの?と思われるような様子が多く見られるのは、とても残念です!(女性/60代)</p>
	放課後広場を拡充してほしい	大和市は小学校の放課後広場がまだ週に3日です。(横浜市は毎日あり、学校の都合で休みになる事もほとんどありません。)3年生位になると留守番も出来るようになりますが、1、2年生の頃は、下の子の用事や、その他の用事でとても困ることが多々あるので、毎日開催されると良いと思います。(女性/40代)
	性差を認識し、相互理解、役割分担、補完することが重要	“男女共同参画”と云う言葉じたいを、知りませんでした。基本的には、男と女の差はついて廻るもの。その地点に立脚した上で、それぞれのマイナスの部分プラスに埋め合いながら、生活して行くのが理想だと思っています。(不明/不明)
	核家族は困る	核家族の場合。(女性/30代)
	保育時の体調不良へのサポートが必要	保育の充実(特に保育時の体調不良へのサポート)(男性/30代)
就労意識について	子育てを疎かにすべきではない	<p>小学生までの子がいるなら女は家庭・育児に専念すべき。子がいるのに働けば子の育児に支障がある子がいる。(小学生までの)女が働かないですむような学校・地域・制度の支援は必要と思う。男は精一杯働き、女が小学生までの子の育児と家庭として専念できるよう頑張らなければならない。子が2人以上いて、スポーツや習い事をするのに、食事・洗濯・そうじ学校行事の準備・弁当・土日の部活の支援など、やる事がとても沢山あり、それらを、男も女も働きながら行うのはとても大変、ましてや働き手確保のための“女も働ける環境を”ということは日本の将来・子育てに鑑みれば、本末転倒ではないかと思う。(男性/50代)</p> <p>「男女平等」という言葉は色々な捉え方によって意味をなすと思いますが、私は、子供がいるので、今の保育園を増やす等には反対です。やはり子供を育てるというのは親の責任であり、赤ちゃんのうちから人に預けて育児をせず仕事につくなら、子供を産むタイミングではないのでは?と思うからです。もちろん母子家庭や父子家庭などは生活の為に仕方ない部分はありますが、父母共に居る家庭で片方の収入で最低限の生活が出来ないわけではないのに自分の子供を預けてまで得なければいけない物が何なのか全く理解できません。そんな人たちの為に税金を投入して受け皿を用意する意味が分からないし、本当にやめて欲しいです。企業が本当に必要な人材なら企業が各々託児所を用意すればいい事なのではないでしょうか?意見交換として男女色々な方が参加をし話す事は良いと思いますが、「男女平等」を簡単に型にはめて一つの方向にだけ話すのは違うと思います。(女性/40代)</p> <p>税的にも女性が働いて納税することで国税も市、県の税も増えるかもしれないが、今の忙しい社会で育った子供達がどう育つのかはとても心配でもある。(女性/50代)</p> <p>男女共に一生をかけて仕事をする大切さはわかりますが、それと同じくらい、自分の手で「子育て」をすることの大切さを感じています。特に乳幼児期、朝早くから子供を預けてフルタイムで働く親が増えましたが、ひとりの人間を育てること以上に価値のある仕事が存在するとは思えません。保育園まかせの子育てが、最近のいろいろな事件の一因のような気がしてなりません。小学校、あるいは幼稚園に通う年代まで、親が愛情をもって毎日共に生活することが必要なのではないのでしょうか。そのためにも、休業後のポストを確保するとか、休業中のスキルアップシステム等、職場が改善すべき点は多くあると思います。それと経済的支援です。そのあたりがクリアされれば、男性でも女性でもいずれかがじっくり「子育て」をすべきです。「子育て」から「仕事」に逃げてはいませんか?「子育て」をすることによって、親も育つのです。最近、親になりきれていない親の何と多いこと!社会に目をむける前に、我が子に目をむけてほしいものです。(女性/60代)</p>

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)		
分類	意見項目	意見
	パートや専業主婦も含めて多様性を認めてほしい	女性が働きやすく参加しやすい社会になるのは素晴らしい事だけど、働かず家事育児に専念し夫のサポートを好きで頑張っている女性もいるという事を忘れないで欲しいです。(女性/30代) 男女共に、働きたい人はどんどん働けばいいと思いますが、こどもがいじめにあっていたり、自殺を考えるような悩みを持っている時に、きちんと気付けるように、私はこどもが成人するまでパート程度の働き方をするつもりです。あらゆる意味で、多様な働き方を認めて欲しいです。(女性/40代)
	女性優遇は平等ではない	女性の方が昇進しやすく、男女逆差別が起きている。男性の家事、育児と言われるが、残業で夜遅くに帰り、朝も早く起きて出勤しているのに、これ以上どうすればとの思いがある。男女共同参画という、とにかく女性にばかり目を向けられるが、男性にも平等に目を向けて欲しい。女性も家庭の事情で会社を休み難いが、男性はそれ以上に家庭の事情で休み難い事を理解して欲しい(男性/40代) 正直、日本の女性は仕事をやる気がない人が多過ぎます。扶養内でいいとか将来はパートでいいとかお嫁さんとか、女性自身の意識が変わっていかない限り、意味はないし効果はでない。女性でも1人の社会人として適切に能力を発揮すべきだと思わなければならない。(男性/30代)
	女性負担中心は変わらない	昭和の時代よりも今の時代は女性が働きやすい社会になってとても良くなったと思う。が、未だに女性よりは男性優遇の社会(賃金面で特に)であることは変わらないし、働きやすくなったとはいえ、仕事(フルタイム)、家事、地域社会、子育てと、女性の負担は増したのではないかとも思える。(女性/50代)
	家庭・地域・職場の横断的な施策が必要	男性の育休について、企業では配偶者の出産まで育休をすすめているところが多いが、産後3ヶ月、出産したものが最も体調が不安定でストレスがたまりやすい時期に育休をあてるべき。育休のとり方が理にかなっていない。これを啓発すべき。また地域のサポートも必要。(産まれてきた子どもは親族や保育園の先生以外の大人を知らないまま育つため)(男性/20代)
	休まれると経営が困る	男女共同参画は大切なことではあります。しかし小規模事業所を運営している立場で言うと法律通りに産休育休、介護のための休みなど実施すると、小規模事業所では人件費がアップし、倒産しかねません。(不明/不明)
	周りの理解・協力が必要	普段、あまり考えた事がなかったので、いろいろ考えさせられました。仕事を持つという事は、社会や家族の理解などが必要です。誰もが、安心して暮らせる社会を望みます。(女性/50代)
	ワーク・ライフ・バランスについて	労働時間の短縮や給与改善が必要
女性に負担集中、意識改革が必要		まだまだ不平等だと感じます、これだけ女性が仕事に出ている、家事やPTA活動、学校行事などは、男性はほぼ行わず、女性だけが行っていると思います。仕事も休めない、休まないといった男性社会になっていると感じます。女性も社会にこれだけでいて、子供の事で休みも月1回など取るのも大変なのに、協力し合えるような働きかけをしていかないと、産めばかりでも育てていく方が難しいです。(女性/40代) 家事・育児・介護についての支援や制度が充実していないと、共同参画は難しいと思う。(女性/40代) 男性(夫)の長時間労働、長時間通勤、転勤による単身赴任等が女性(妻)側にすべてしわ寄せとして負担になっているのが実態です。社会全体が男性の家庭生活参加を保障し、応援する意識や制度の改革が急務だと感じています。(女性/30代)
制度だけではなく、身近な人の支援も必要		おもいっきり仕事に専念したい時に、すぐ近くで無償のサポートが必要だと感じる。(女性/40代) 娘夫婦が正社員で働いているため、同居はしていないが毎日小学生の孫の生活支援に協力しているので勤務が遅くなる時も安心と言うが、私達のような祖父母の協力がある事も事実です。(女性/70代)
職場の理解・意識改革が必要		私は公立病院で働いていますが、育児休暇への理解が乏しく、女性が多いにも関わらず、仕事への早期のフルタイムでの復帰をせがまれる場面をよく目にする。家庭と仕事の両立を図るためには、職場から変えていく必要があると思う。(女性/20代)

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)		
分類	意見項目	意見
		現在、育児中の為、短時間勤務で働いているが、同僚(年上)から「来年はフルで働いてね。」と度々言われ、困ることがある。職場では、育児中というプライベートな条件を考慮、気づかうような対応をしてくれない人がいる為、言われた言葉に傷つき、仕事を辞めようかと悩む場面も多い。(女性/30代)
	介護や保育職員の待遇向上が必要	働きやすくなる為に、介護、保育施設の充実をよく言われていますが、介護、保育の現場で働く人にも家庭や生活があるので、その人達の生活や手当ての保障もきちんと考えるべきだと思う。利用時間や施設を増やしたりのばしたり、利用している人が仕事と両立するには、とても良いと思うけど、そこで働いている人の子どもは？家庭は？そこに負担が増える＝その仕事にはつきたくない。＝人手不足…と悪循環になると思う。「男女共同参画」から話しができてしまいます。…が、男女共に、今後積極的に関わった方が良いと思われる、家事育児、介護があてはまる仕事なので、今の現状はもったいないと常々思っています。(女性/40代)
	制度ではなく個別の解決が必要	男性は外で働き、女性は家庭を守るという、古来からの慣習のようなものがあって、それを法律ができたからといって、一気に変わるものではないように思います。それぞれの家庭の中、あるいは職場での話し合いで、方向を決めていけば、今の時代に合ったものになっていけるのではないかと思います。(女性/60代)
学校教育について	性差を踏まえた教育をすべき	やはり出産は女性にしか出来ない。そうすると、全くの男女平等は難しくなります。なので、違いを認め、尊ぶ/敬う意識について教師から教育していくのが、まあ、いいのでは？と思いました(子供は大人を見て学ぶでしょうから)。セミナーやら研修は、知識を得るには有用でしょうが、意識改革に直結するかというと「？」ですね。(女性/40代)
		人権は平等であるべきと思いますが、全く同じではないのですから、男らしく、女らしく育てる事は大事だと思います。言葉づかいも、ふるまいもそれらしく育てることは大事です。各々が、特性を生かして魅力的な大人になることで平等な結婚生活ができると思います。(女性/70代)
		男女平等と言えども、男の人にしかできないことや、女の人にしかできないことそれぞれあると思います。例えば、力はどうしたって男の人の方があるのではないかと…(体のつくりの事)そういう事をふまえて、子供達にも教育して欲しいと思っています。(女性/40代)
	幼少期からの教育が重要	目指すならば、幼少期からの教育が重要だと考える。(男性/30代)
	親の教育が重要	子供の頃からの男女平等の教え、親の考えが大切だと思います。小さい頃に親から教われば、考え方が変わると思います。家庭環境が将来の男女平等に関わると思います。親の喧嘩で男女平等ではないと思う事が分かります。大人になってからの考えは変えるのが大変なので。(女性/40代)
社会参画について	女性優遇は平等ではない	このアンケート自体がすでに女性寄りの作りをしている。工作上、女性管理職の方々とは何度も仕事をしてきたが、このアンケートを制作した方は、一般会社における女性の立場を本当に知っているだろうか？通勤電車である様な女性優遇は、そのまま社会の仕組みに組み込まれているぞ。男性の立場が弱いとかいつの話だ？集団化した女性はそれだけで暴力になりえる事を認識してほしい。(男性/40代)
		男女の職場での昇進は、試験(点数)によって決める(平等)。モデルケースとして、あまり実績のない女性をかつがない。(女性を社会的地位に置くという潮流の中)(男性/50代)
		どのような場であっても「男性だから」「女性だから」が理由となっているのは歪みの原因になると思います。「女性だから」が理由で登用する、というのは少し違うのではないかと…という印象です。性別ではなく個人々々から目をそらさずに、それぞれの能力を判定基準にできる世になればと思います。(女性/20代)
	男女ではなく能力で評価される社会に	仕事等でその人の能力が発揮されるのが良いと考えています。(男性/40代) 男女共に意欲と能力が生かされた働き方社会になるような成長を、国民全体で考え行動しなければなりません。(女性/60代)
	女性の意見の社会への反映が必要	女性の意見を社会に反映させていかなければ、この国の未来はないものと感じます。(男性/40代)
	男女が同等に参画すべき	世の中、男と女の、くらしなので、同等に参画するのが良いと思う。そして良い智恵をしぼってほしい。(女性/80代以上)
	今なら参加したい	私がもう少し若かったら(せめて40代)いろいろ参加したいと思っています。子育ても働くことも苦労しましたから(女性/60代)
	制度や組織が旧態依然	なんだかんだ言っても、男・女の役割分担の様なもの昔から決まっている。学校の役員など、母親がやらなければいけない。父子家庭は免除…など変な決まり事がある。女性もほとんどの方が仕事をしているので、学校のPTAなどは、無理してやっている現状である。PTAは、やりたい方がやり、いない場合は第三者のそういう機関を作ってやっていただけないものか…。(女性/40代)

問29. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(FA)			
分類	意見項目	意見	
男女の人権について	男性へのハラスメント対策も必要	・電車で女性専用列車(車両)を指定しているが、男性専用車両も設けるべき。(セクハラチカン対策として)(男性/50代)	
男女共同参画施策について	もっと認識度の向上、アピール、広報が必要	個人的に名称の意味を知らないだけで、周辺で浸透しているのかさえ不明です。活動の幅を増やしてもらい、多くの人に認知してもらえると良いと思います。(男性/30代)	
		大和市は、一般の方の男女共同参画についての組織の具体的な内容、年間計画、どんな人が、どんな割合で組まれているのか?人数的に明確にわかるよう広報すべきだと思っています。知る人ぞ知る、知ろうとしない人への宣伝努力が不足していると思います。一方通行的な所があるのではないのでしょうか?(男性/70代)	
		市の公報でアナウンスする回数が少ないのでは。(男性/70代)	
		認知度UPが必須(男性/30代)	
		今回、初めて男女共同参画という言葉を知りました。まず、「一体何?」という疑問がわきました。無知ですいません。日頃、子育て、家事、仕事、介護に追われ、一日一日が精一杯という状態で、言い訳するつもりはありませんが、余裕がありませんでした。ようやく介護について認定を受け、デイサービスに行かせることが出来ました。自分が実際、介護に直面しないと、真剣に取り組めないし、又、制度自体も分かりづらかったです。同様に男女共同参画にしてもしかりだと思っています。もっと底辺にいる私達にも分かりやすい言葉で、公報にでも少しずつ毎回、特集を組んで欲しいと思います。(女性/50代)	
		日々生活して、夫婦共働きが多い中、なかなか自ら表題のセミナー参加をすることが、又きっかけをみつけることが、難しく思います。とても費用はかかるかもしれませんが、1枚のチラシだけでも各世帯ポストに入っていると、目が通せて、関心をもつきっかけになると感じました。(女性/30代)	
		市が男女共同参画の取組みをしている事は理解しているが、もっと市として、市民にアピールしたほうが良いのでは――現実、男女共同参画の取組みをしている事を知っている人がどれほどいるかですね。(女性/60代)	
		私は視覚障害のため情報誌わくわくを読んだことがありません。出来れば、ボランティアセンターに依頼してCD化してもらいたいと思っています。今回のアンケートでこのことを知ることができて良かったです。(女性/50代)	
		過度な意識、対策は必要ない	国や県、市町村の文書に上記事由以外の男女差が明記されている場合は改訂が必要と思います。個人レベルでは男女差の意識があまり無いと思うので、行政側で上記事由以外の過度の意識はあまり必要ないと思います。(男性/40代)
			この件について、達成率や目標等を数字・パーセントで示したり、必要以上に問題を提起する必要はないと思う。(男性/80代以上)
具体的な行動、活動が必要、教えてほしい	具体的な活動が必要。(男性/60代)		
	まずは考え方、行動の仕方を変えていく事から始めるべきです。その為に共感を得る為にどう行動するかについて参考となるお話が聞きたいです。講演など。(女性/50代)		
現役世代の声を聴く機会が必要	現役世代の声を聞く機会が少ないんだと思います。現役世代ゆえに仕事や子育てで忙しく、意見交換会等に参加する時間がとれず、結局、時間に余裕のあるリタイア世代の意見が、くみとられる事が多くなると思う。性差間、世代間など幅広い人達をまとめるのは難しいと思うが、もっと若い世代の人達ももっと自分達の声をあげて、自分の意見を言えば良いと思う。昔と違って聞いてくれる人、行政があるのだから。いずれその世代が中心の世代、リタイア世代になる頃には世の中の意識が変わると思う。(女性/40代)		
家庭・地域・職場の横断的な施策が必要	家庭・地域・職場を横断的に負荷管制して、個々人が持つ多様な問題解決に取り組んでいただきたいと思っています。よろしくお願いします。(男性/30代)		
男女共同参画は手段と捉えて推進すべき	男女共同参画それ自体は目的ではないはず。人口減少、超高齢社会に歯止めをかけ、“身の丈に合った社会”への変化を遂げるうえでの一手段だと考えます。が、重要な手段です。(男性/30代)		
その他	今回調査について(設問や用語が難しい)	私80才代の者では、次の言葉が理解困難でした。ドメスティックバイオレンス(DV)、ポジティブアクション、ジェンダー、LGBT、ダイバーシティ、ワークライフバランス(男性/80代以上)	
		大切なアンケートと理解しましたが、私は、年令76才ですので、時代がかなり前なので、適切な答えが出しづらかったです。(女性/70代)	
		すべての質問が簡単の様で難しい質問でした。(女性/70代)	
		83才で、1級の障害者かかえて、このアンケートには、ちゃんと答える事ができません 申し分けありません(不明/不明)	
		私は、今、70代です。今回のアンケート、私にはよくわかりません。もっと若人の方がいいのでは!(女性/70代)	
		高齢のため、間に、答えが出来ない。(女性/80代以上)	
	80才以上の老人に出す手紙ではないのでは。難しいです。(女性/80代以上)		

問 2 9. 男女共同参画についてのご意見やご要望があれば、自由にご記入ください。(F A)		
分類	意見項目	意見
		世代的に質問の内容、聞きなれない言葉、あまり私自身意味を解さず、うまく解答できませんでした。(女性/70代)
	今回調査について(答えにくい、設問が不適切)	<p>全ての問に?です。「意見」○1人、1人が意識していればいいのでは?無理に理論づけるのはレベルを?(男性/60代)</p> <p>このペーパーを作成した方々へ、程度が低すぎる。回答者を試めすような設問と感じ、とても不快!!これもなんとかハラスメントか?(男性/50代)</p> <p>問19-4、問21は未婚なので答えようがありません。この質問の前に「既婚の方」のこことわり書きが必要だと思います。(男性/40代)</p> <p>設問の設定が適切とはいえない。論理的矛盾を感じる。設問者の一方的な結果誘導?あまり結果のまとめに意味が感じられないのでは(男性/60代)</p> <p>障害者(児)に対する記載が少ない(ほとんどない)。広げすぎて男女共同参画に対する回答が多いのでは。(男性/70代)</p> <p>申し訳ございませんが回答に抵抗のある問いについては、無記入とさせていただきます。(女性/不明)</p>
	今回調査について(考える良い機会になった)	<p>このような意識調査が行なわれることで、新ためて自己の意識について考える機会になり良い事だと感じました。(女性/50代)</p> <p>日頃はあまり気にも止めないで生活をしているので、今回の様に男女共同参画のアンケートに対して、大和市の市民として周りを気にかけて、勉強をして行く事を思いました。(女性/60代)</p> <p>今後共、男女共同参画につきまして、注意深く意識を持ち接し自分の意見をしっかりした形にして行きたいと思いました。(女性/70代)</p>
	今回調査について(施策に活かしてほしい)	<p>このアンケートがどのように使用されるのか楽しみです。(男性/50代)</p> <p>このようなアンケートがあるのはとても良いと思う。アンケートの結果を今後に生かしてくれと回答して良かったと思うが、何も変わらなかったらムダだと思う。アンケートに答えるくらいしやすくて出来ないのどうかお願いします!(女性/20代)</p>
	今回調査について(答えるのが大変、手間がかかる)	<p>アンケート自体は大変でした。(男性/60代)</p> <p>関係ありませんが、忙しいのにこんなアンケートをボランティアでするのは正直しんどいです。忙しい時間と手間をかけているので、べ切りをもうけてはやめてほしい。べ切りをもうけるのならお礼の品やお金が発生すべきだと思います。(女性/40代)</p>
	男女差別だけでなく、あらゆる差別の撤廃を	<p>学歴社会が強い所もあるので、(高卒中卒)でも充分家庭をもち、子育てでき、再就職が出来る大和市であってほしい。まだまだ、学歴の為に教育費がかかるので大変だと思う。子どもの人数分もかかるし、悩みも多いので大変です。ママ友同志助け合っています。(女性/40代)</p> <p>素敵な社会になったらいいと思います!!LGBT に対する理解も深まる事を願います。(女性/20代)</p>
	わからない	<p>良く解らないです。(女性/不明)</p> <p>何もわからずにごめんなさい。(女性/60代)</p>
	男女平等よりも経済や安全面での安定が必要	<p>質問に育児、介護と度々出てきたが、そんなものは経済的支援があればどうにでもなる。それが出来ない以上、この国は子供の数はふえないであろう。近所にも外国の言葉、生活する人間がふえて来た。治安の面でも不安である。(男性/40代)</p>
	時代に合わせたプラン策定をすべき	<p>男女共同参画とは云うが自分自身あまり良く判らないことが多い。労働に関しては雇用機会均等法施行以来30年以上経過し、組織内にも男女平等は少なからず浸透していると思われる。家庭内について云えば、世の中の考え方がかなり変化しており、「家事は女性、仕事は男性」と云う意識もだいぶ減っているのではないか。だからそれなりに男女共同参画は具現化出来ているのではと思う。教育は学校内でどの様に行われているか判らないが、市の方針に従ってそれなりの教育は施されているのだろう。その世代が社会に出てゆく時にはまた違った世の中になっているのではないだろうか。個人的には男女の性差はそれなりにあると思っており、それを認知した上での施策をしなければと考える。ただむやみに男女共同参画としてプランを策定しても、結果的に社会の為にならない事象が発生する可能性がある。かつての社会観念や慣習はかなり変わっているので、それに応じたプランの策定が望まれる。(男性/30代)</p>
	集える場、話せる場が欲しい	<p>息子が出勤すると帰って来るまで一人ぼっち。英会話やカラオケの会にも行きますがもっとみんなで話し合えるところがあれば楽しいのといつも思っています。(女性/70代)</p>

平成29年度 大和市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

平成30年3月

編集・発行：大和市国際・男女共同参画課

〒242-8601 神奈川県大和市下鶴間1-1-1

電話：046-260-5164

FAX：046-263-2080